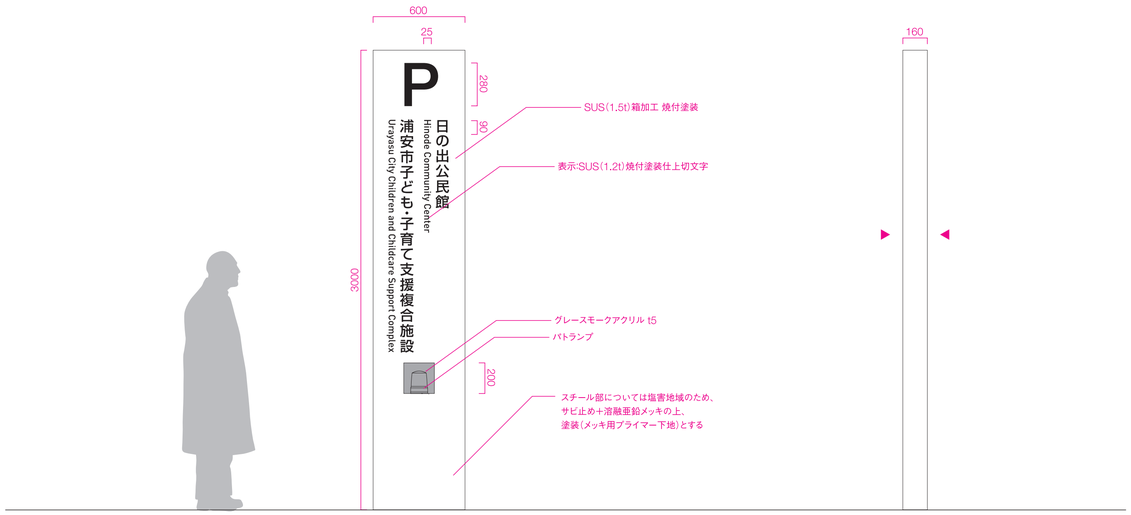
Sign_A

館名サイン＿自立　　S=1/20(A1)

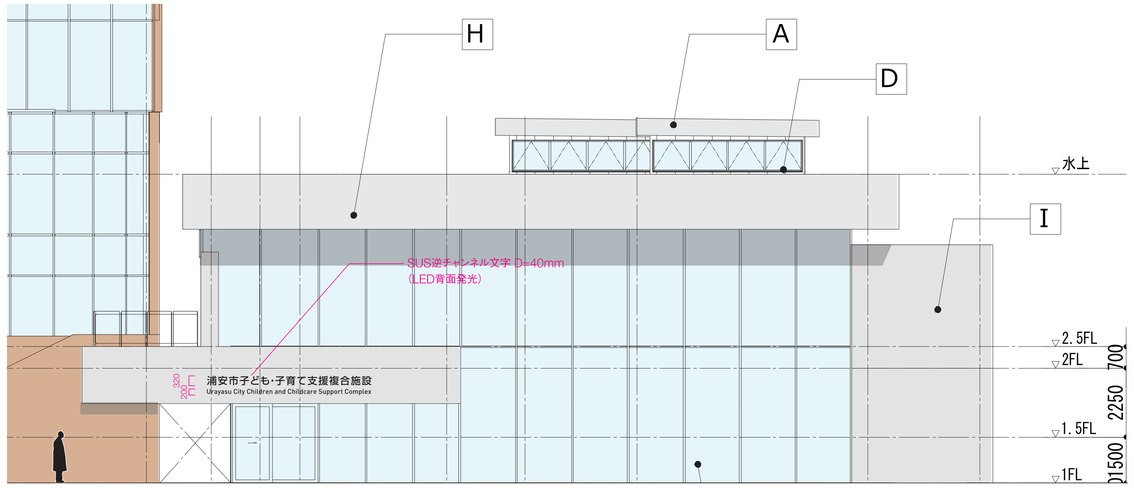
※両面表示
※バトランプ
※要基礎



Sign_B

館名サイン＿壁面　　S=1/100(A1)

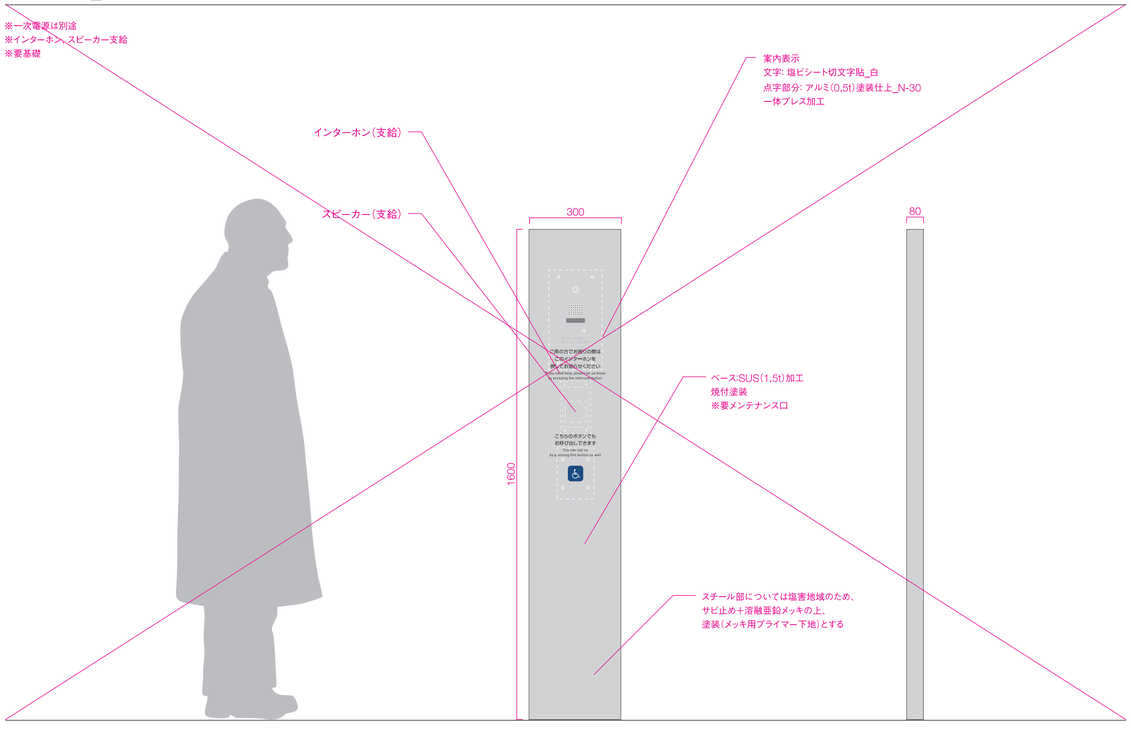
※一次電源は別途
※要下地



Sign_C

インターホンサイン＿自立　　S=1/10(A1)

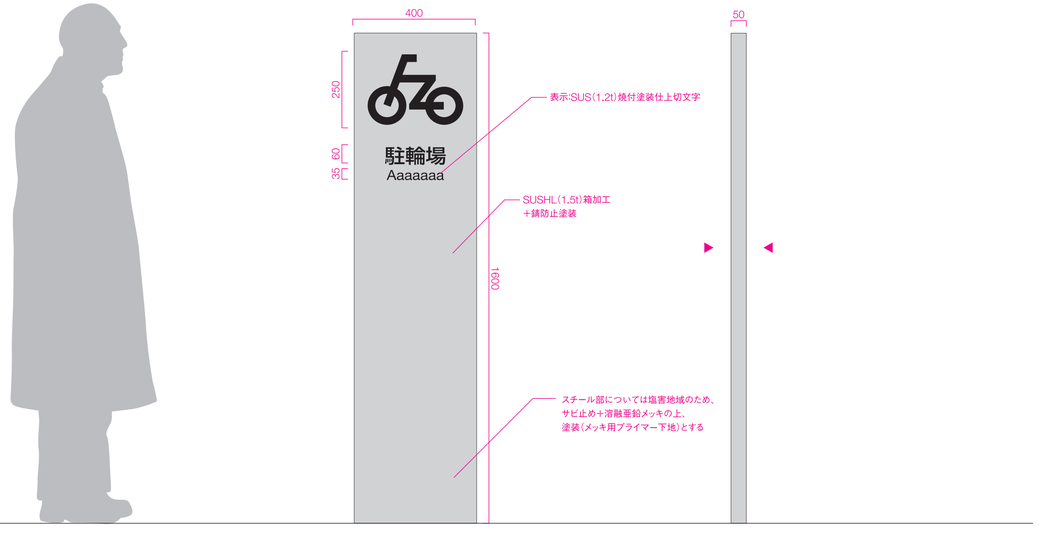
※一次電源は別途
※インターホン、スピーカー支給
※要基礎



Sign_D

駐輪場サイン＿自立　　S=1/10(A1)

※両面表示
※要基礎

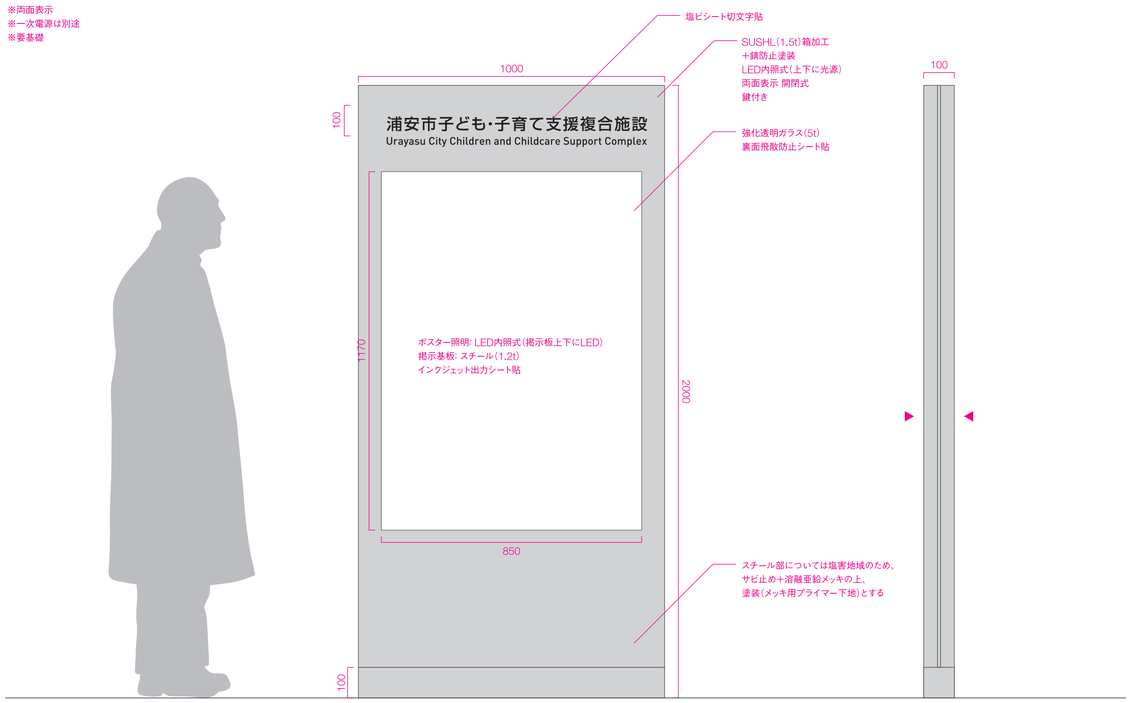


外部照明にて照射

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-713
図面名称	サイン詳細図（10）	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 121
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

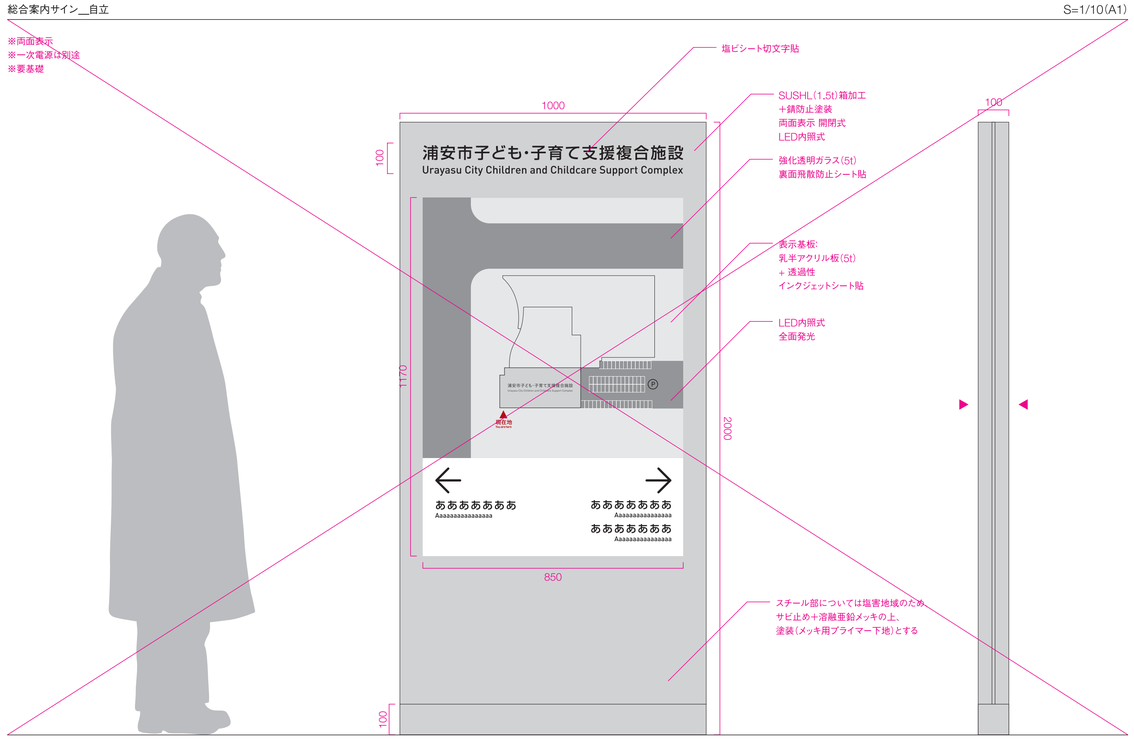
Sign_E

ポスターケース＿自立　　S=1/10(A1)



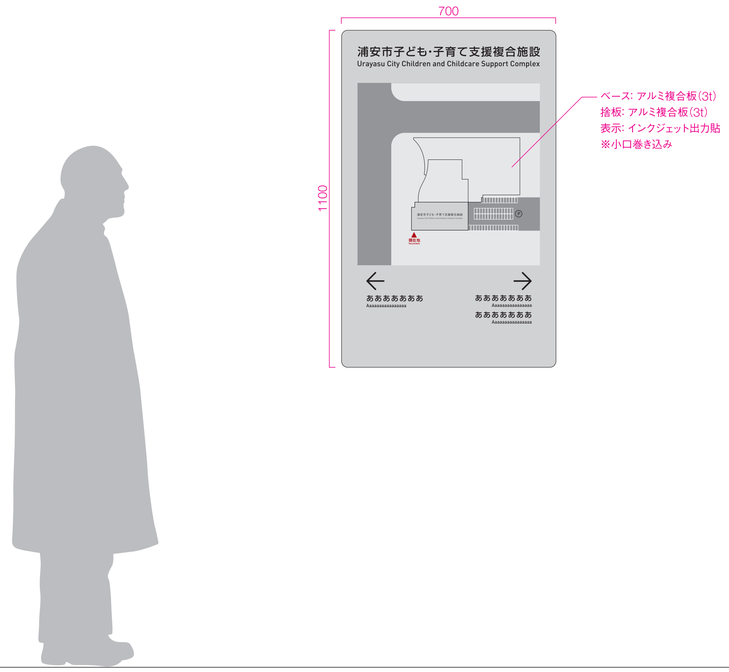
Sign_F

総合案内サイン＿自立　　S=1/10(A1)



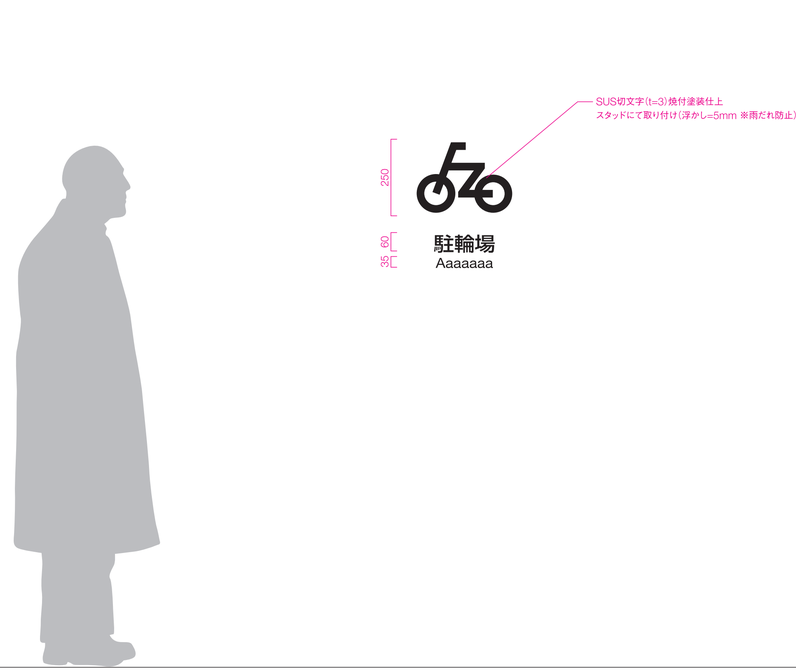
Sign_G

総合案内サイン＿壁面　　S=1/10(A1)



Sign_H

駐輪場サイン＿壁面　　S=1/10(A1)



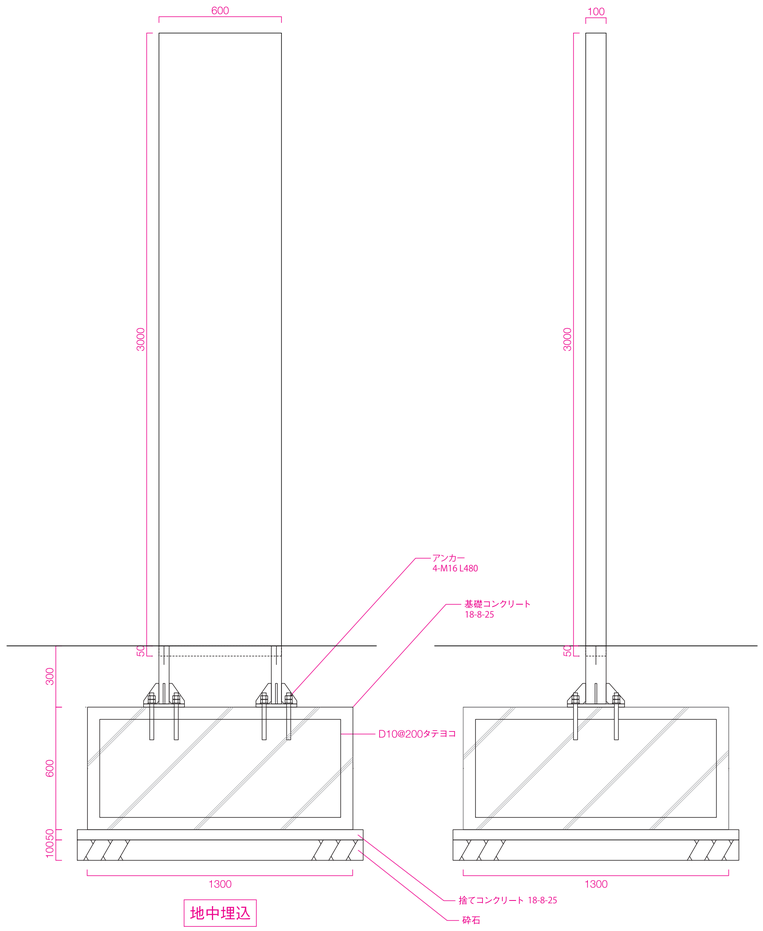
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-714
図面名称	サイン詳細図（11）	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 122
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

基礎

S=1/15(A1)

スチール部については塩害地域のため、サビ止めだけではなく、
溶融亜鉛メッキの上、塗装（メッキ用プライマー下地）とする。

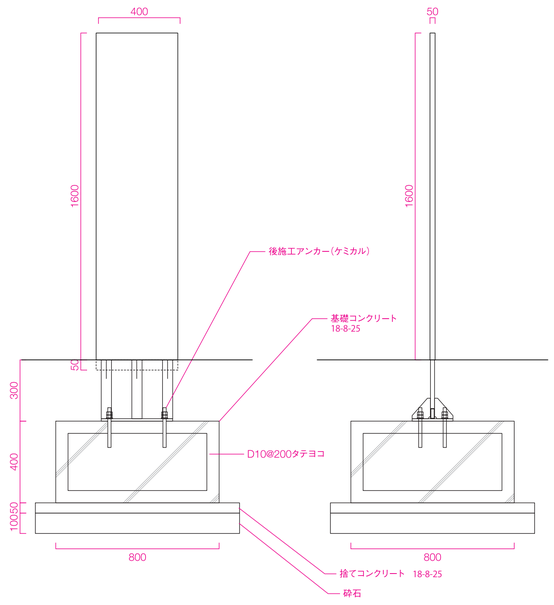
sign__A



地中埋込

※根巻き不可

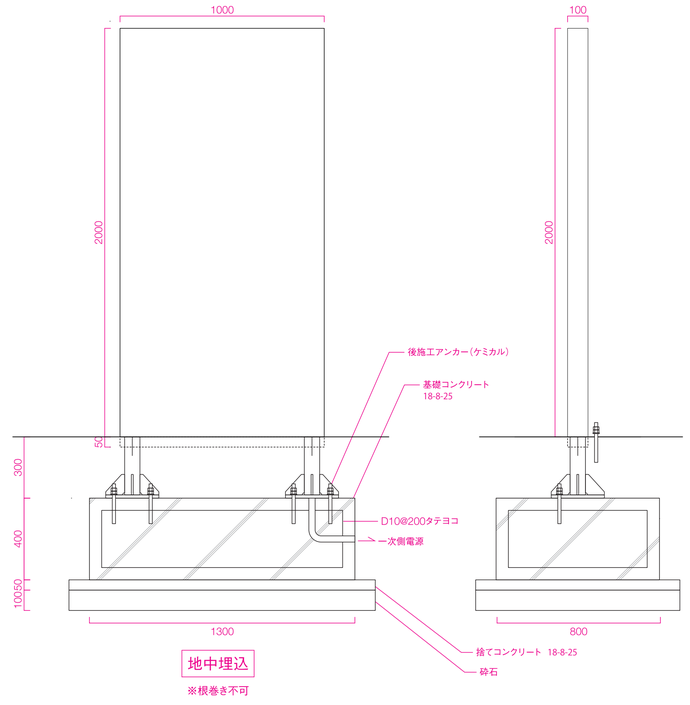
sign__D



地中埋込

※根巻き不可

sign__E



地中埋込

※根巻き不可

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-715
図面名称	サイン詳細図（12）	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 123
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

注 意 事 項

1	躯体と昇降機承諾図に相違がある場合はエレベーター着工までに躯体を是正すること
2	(1)昇降路の壁又は囲いは隙間無きものとすること (2)昇降路の壁又は囲いは難燃材料(不燃材料・準不燃材料含む)とすること (3)昇降路の壁又は囲いは5cm²辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること (4)コンクリート厚さは150mm以上とすること (5)コンクリート基準圧縮強度は21N/mm²以上48N/mm²以下とし、48N/mmを超える場合は都度対応協議のこと (6)昇降路壁は後施工アンカーが可能な構造とすること
3	昇降路内にはエレベーターに関係のない配管・配線・ダクト・その他の機器を設置しないこと
4	昇降路壁には配管・消火栓等を埋め込まないこと
5	昇降路内には建築金物(ALCクリップ等)が突出しないこと
6	昇降路内に断熱材(ウレタン・スタイロフォーム等)を施工する場合は溶接火花による火災のおそれがあるため難燃材料とすること
7	断熱材はガイドレール支持用ファスナー及び乗場出入口廻りの取付材を避けて施工すること
8	断熱材の施工時期は協議すること
9	昇降路内の温度は5℃以上40℃以下、湿度は月平均90%以下、日平均95%以下とし、氷結・結露しないこと
10	昇降路内及び乗場には風雨・塵埃・塩分・有害ガス等が入らないこと
11	昇降路内に換気設備を設置する場合は外部より点検可能な配置とし、雨水対策を実施すること
12	昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しない配置及び躯体構造(防音・防振工事等)とすること
13	エレベーターホールと風除室が近い場合はドラフトによりエレベーターの戸が開閉できなくなるおそれがあるため建物側で気密性を上げること
14	保守・点検・緊急対応のため、外部より最上階のエレベーターホールへアクセスできる通路を設けること また、個人宅や占有部、鍵が必要な場所を経由する必要がないこと
15	電源電圧の変動は動力用±10%以内、照明用±5%以内とし、動力用の電圧不平衡率を5%以内とすること
16	高調波障害回避のため、以下の対応を推奨します (1)弱電機器の電源線・通信線はエレベーター動力線から1m以上分離すること (2)エレベーター動力用電源トランスは弱電機器のトランスと独立して設けること (3)弱電機器とのアース線共用は避けること (4)エレベーター動力線は弱電機器近くの床下や天井に設置しないこと (5)漏電遮断器・漏電継電器を設置する場合、不要動作防止のためインバータ対応のものを使用すること
17	搬入に支障のない経路を確保すること
18	据付工事用現場詰所及びエレベーター材料・据付工事用機材の保管場所を無償提供願います
19	仮設揚重機・重機(ラフタークレーン、タワークレーン等)搬入運搬用台車を無償貸与願います
20	据付工事用電源及び試運転調整時の動力電源を無償提供願います(容量は別途打ち合わせ)
21	必要に応じてモルタルを無償提供願います
22	エレベーターを工事用として使用する場合はこの使用に伴う検査費用・復旧(オーバーホール・消耗部品の交換等)費用・定期保守費用・コールバック対応費用等が生じます
23	エレベーターを工事用として使用する場合、電力会社から供給される電源を使用願います 工事用発電機による工事用使用は電源電圧が不安定なため、内部基板への悪影響を引き起こす可能性が高いことから使用しないこと
24	かご内へ一度に搬入可能な積載は4輪台車で積込み荷重制限(台車含む)以下とすること

工 事 区 分

		建築	電気	機械	昇降機
1	昇降路の築造、防火区画工事 (コンクリート強度は21N／mm²以上とする。)	○			
2	昇降路の建築構造梁の耐火被覆工事	○			
3	各階乗場開口工事及び補強工事	○			
4	三方枠取付後の裏詰め工事並びに耐火処理工事	○			
5	三方枠取付用アングル設置工事	○			
6	乗場ﾄﾞｱ取付用アングル設置工事	○			
7	乗場表示装置等の取付用下地鋼材の設置工事	○			
8	機器搬入用仮設開口及び搬入後の復旧工事	○			
9	乗場敷居受け用床持出し工事	○			
10	乗場敷居受け用アングルまたはH鋼設置工事	○			
11	レール取付用プレート又はレール支持柱設置工事及び錆止塗装	○			
12	レール取付用ビーム設置工事	○			
13	乗場関係機器取付後の壁、床仕上げ工事	○			
14	ピット防水仕上げ工事	○			
15	かご敷居～壁を125mm以内にする鋼板設置下地工事	○			
16	停止階間が10mを超える場合、昇降路救出口の設置工事 (W750×H1200)	○			
17	ピットが法定又は必要寸法より深い場合の埋め戻し工事	○			
18	ピット点検用タラップの設置工事				○
19	ピットに段差がある場合、転落防止柵又は壁の設置工事	○			
20	ピット下利用がある場合、二重スラブ又はつり合いおもり側の直下部厚壁工事	○			
21	屋上、開放廊下等外気と接する乗場雨水よけ対策工事	○			
22	最大42m以内で速度に応じて30秒以内で停止できる距離にて地震時非常着床階の設置工事	○			
23	その他建築に関する工事	○			
24	動力、照明電源及び接地線引込工事		○		
25	ピットコンセント設置工事(点検用:必要により防水形)		○		
26	煙感知器設置工事		○		
27	インターホン用及び監視用配管配線工事 (昇降路制御盤から外部取付位置まで)		○		
28	館内放送(スピーカー)付の場合の信号線引込工事		○		
29	エレベーター遠隔監視用電話回線工事		○		
30	その他信号線の昇降路外配管配線工事		○		
31	地震時非常着床階の避難通路照明及び非常灯設置工事		○		
32	乗場戸に近接して設ける防火シャッター等の防火区画工事 (建設省告示第1111号の廃止による)	○			
33	エレベーターと防火シャッター等の連動用接点信号の配管・配線の引込工事		○		
34	昇降路の壁または囲いは隙間無きものとする	○			
35	昇降路内法の内部に建築金物等が突出しないよう施工下さい (突出する場合は、エレベーター機器と干渉する恐れがあるためエレベーター側と協議して下さい)	○			

No. 1

遮煙のりばドア(Smokeproof)		
適用階	1FL,M3FL	認定番号 CAS－1074(2)

【エレベーター遠隔監視メンテナンス】
※ このエレベーターは、遠隔監視メンテナンス契約可能対応機種です。
※ 遠隔監視メンテナンスでは、エレベーターの遠隔診断・遠隔監視が可能です。
※ 上記サービスに必要な機器は、保守会社との遠隔監視メンテナンス契約時に貸与されます。

(1台1回線)

電源設備 (低圧)

号機名		No. 1		
電源設備容量	動力	200 V 4 kVA		
	照明	100 V 1. 5 kVA		
最大電流		21. 1 A		
動力線サイズ(mm²)		5. 5	8	14
最大引込み距離(m)		77	119	207
建屋側MCCB		30 A		
接地線最小サイズ		2 mm²		
インターホン用配線		φ 0. 9 × 10 本		
電話用配管・配線		φ 19 配管 ・電話線 1 P		
ピットコンセント容量		1 kVA／台		

エレベーター仕様

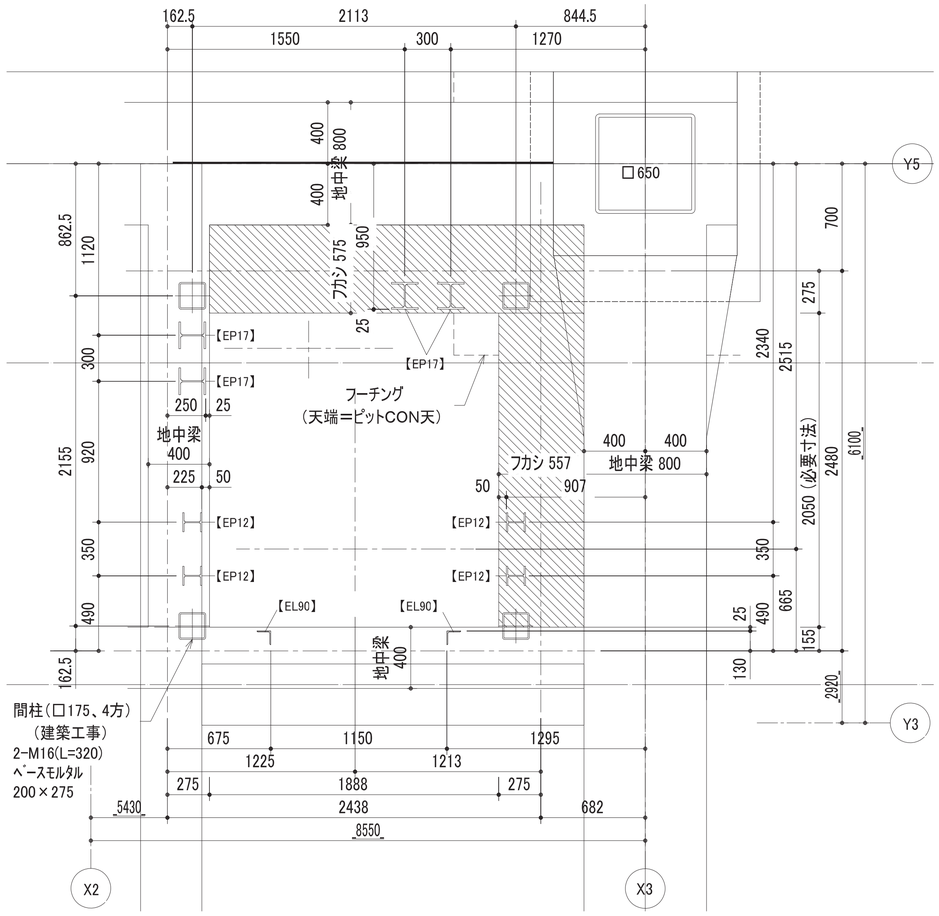
概略仕様	号機名(台数)		No. 1 (1台)	
	用途(形式)		乗用 (SP11－CO45) 車いす仕様	
	積載量(定員)		750 kg (11 人)	
	速度		45 m／min	
	制御方式		交流インバータ制御方式(回生無)	
	操作方式		乗合全自動方式	
	停止ヶ所・出入口方向		(1FL,M3FL) 2 ヶ所 1 方向	
	かご内法(WxDxH)		1400 mm X 1350 mm X 2250 mm	
	出入口寸法(WxH)		800 mm X 2100 mm	
	ドア方式		2枚戸中央開き(電動式)	
	電動機出力		AC－ 3. 5 kW (ギヤレス)	
	電源	動力	三相3線 200 V 50 Hz	
		照明	単相 100 V 50 Hz	
	管制運転	地震時	有(P波＋S波感知器(3段検知)リスタート機能付)	
		火災時	有	
		自家発時	無	
		ピット浸水時	有 全自動形(ピット冠水時(指定階))	
	停電時自動着床装置		有	
	耐震クラス		A14	
	かご内連絡装置		24V同時通話インターホン	
	基本仕様及び標準装備仕様		ローラーガイド(かご、おもり) 照明・換気装置自動休止機能 2D多光軸(マルチビーム)ドアセフティ 反転時呼びー括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りアナウンス機能(非常時4ヶ国語対応) イオン発生装置 故障時最寄階自動着床運転 しきい間すきまレス 広角ミラー付操作盤	
乗場仕様	三方枠		全階	大枠・直線 ステンレス製バイブレーション仕上
	ドア		全階	ステンレス製バイブレーション仕上
		遮煙	全階	有
	敷居		全階	硬質アルミ製
	乗場ボタン	ボタン	全階	クリックタッチボタン (D－11)
		フェースプレート	全階	平板 ステンレス製バイブレーション仕上 (三方枠組込)
	ホールランタン	到着灯	全階	拡散アクリル (LED)
		フェースプレート	全階	平板 ステンレス製バイブレーション仕上 (三方枠組込)
かご仕様	天井照明		デラックスLED天井(DLX－12)	
	換気装置		ファン	
	リターンパネル		ステンレス製バイブレーション仕上	
	出入口柱		ステンレス製バイブレーション仕上	
	ドア		鋼板製単色塗装仕上 ・5分ツヤ(t1. 6)	
	幕板		鋼板製単色塗装仕上 ・5分ツヤ	
	側板		鋼板製単色塗装仕上 ・5分ツヤ	
	幅木		ステンレス製ヘアライン仕上	
	床		KT	
	敷居		硬質アルミ製	
	操作盤	ボタン	クリックタッチボタン (D－11)	
		インジケータ	液晶(カラーユニバーサルデザイン認証)	
		フェースプレート	標準(広角ミラー付) ステンレス製バイブレーション仕上	

特記事項
・デラックス天井照明(DLX－12)
・非常呼ボタンガード(ステンレス製、スイング式)
・非常呼ボタン応答灯
・非常放送スピーカー
・音声案内装置
・車いす兼用エレベーター仕様
かご内鏡:フルハイトミラー
かご手摺:建築支給品(3方)
・点字銘板
・故障接点支給
・到着チャイム(かご電子チャイム)
・防犯カメラ (0206511－3) V.22.05 (FC)

積込み荷重制限	荷重条件	250kg (4輪台車を使用するものとし、台車の重量を含む)	
	重量物の積込みは、一回当り荷重条件以下で積込み下さい。 ※フォークリフトの使用はできません。		
コンクリート強度	最小 FC21N/mm²	最大 FCOON/mm²	

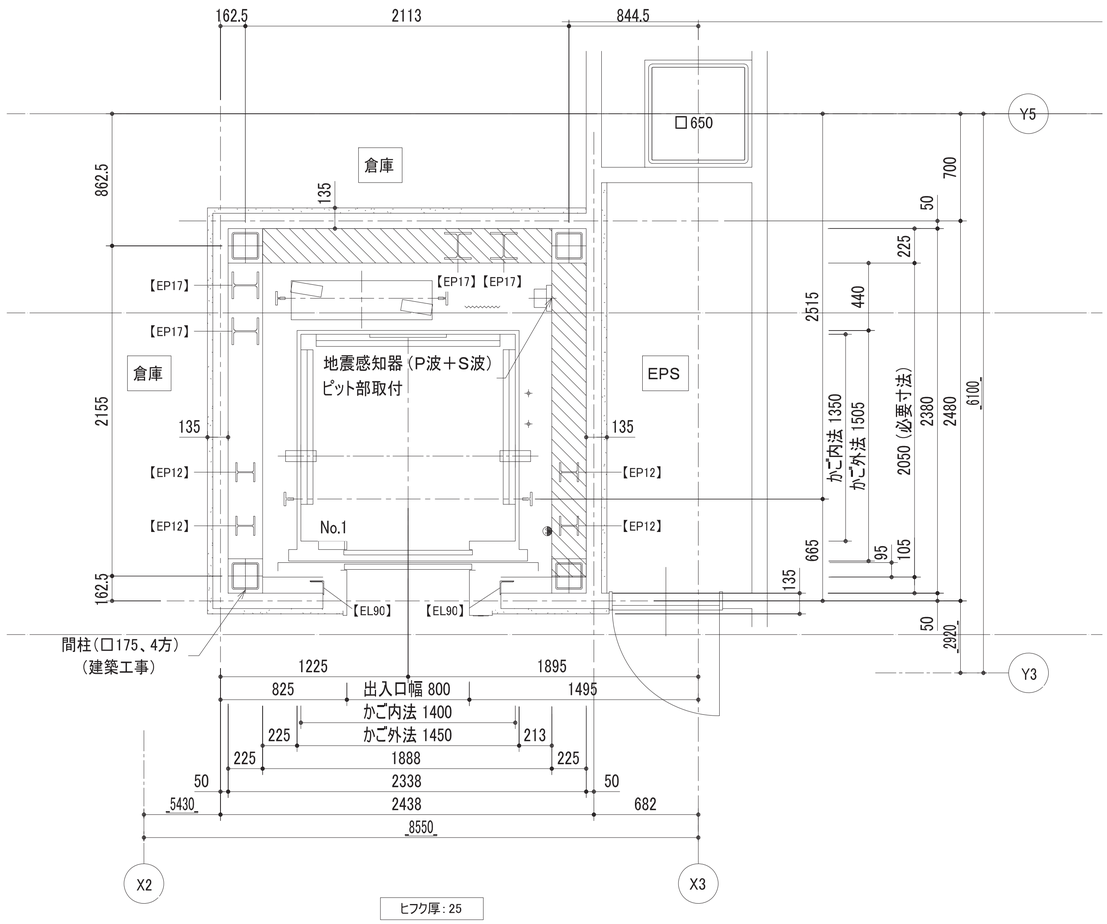
※コンクリート強度Fc48を超える場合はEV支持部材としてインサートPL(建築工事)の施工願います

工事名称	(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-801
図面名称	EV (1) 詳細図 (1)	縮尺(A1) –	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 124
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全 226 葉



ピット平面図(1FL)

1 : 20



昇降路平面図(1FL)

1 : 20

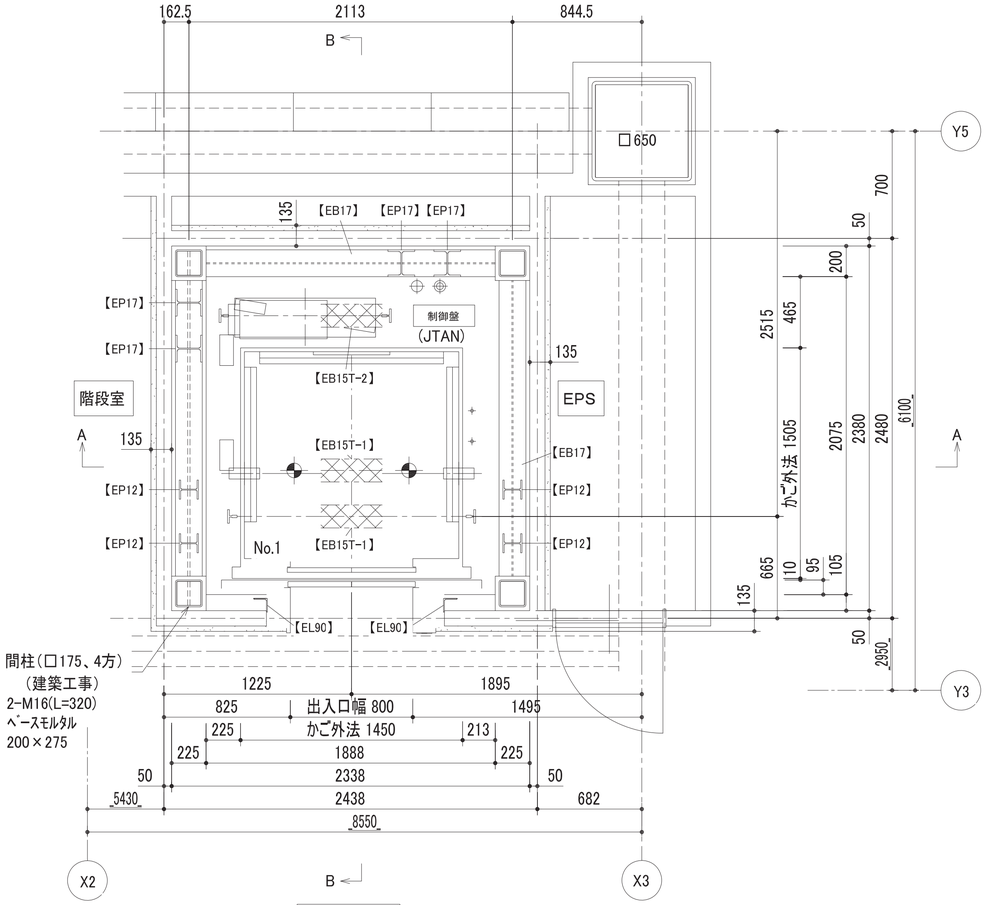
鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP17	レール支持柱	H-175x175x7.5x11 2-M16(L=320) ベースモルタル200×200
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9 2-M16(L=320) ベースモルタル150×150
EL90	三方枠取付材	L-90x90x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
EB17	レール支持柱受梁	H-175x175x7.5x11
EB15T-2	トロリービーム(荷重9.8kN)	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム(荷重19.6kN)	H-150x150x7x10

レール反力リスト(地震時作用荷重)			No. 1
	かご側	Px	4. 20 kN
	一般階	Py	2. 10 kN
	かご側	Px	4. 60 kN
	最上階	Py	3. 20 kN
	おもり側	Px	6. 50 kN
	一般階	Py	3. 30 kN
	おもり側	Px	9. 80 kN
	最上階	Py	6. 60 kN

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

◒	ピット点検用コンセント	(電気工事)
⦚	T. C保護金網	(エレベーター工事)

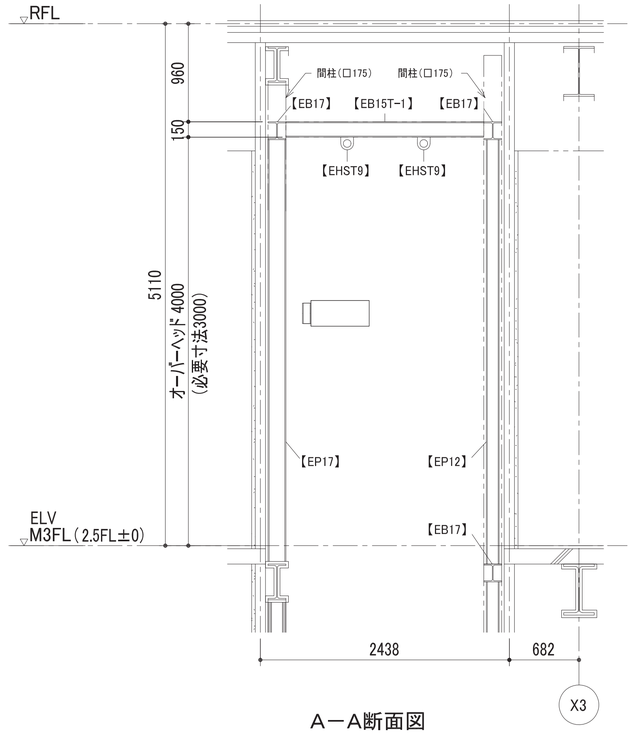
工事名称	(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-802
図面名称	EV (1) 詳細図 (2)	縮尺(A1) 1:20	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 125
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全 226 葉



ヒフク厚：25

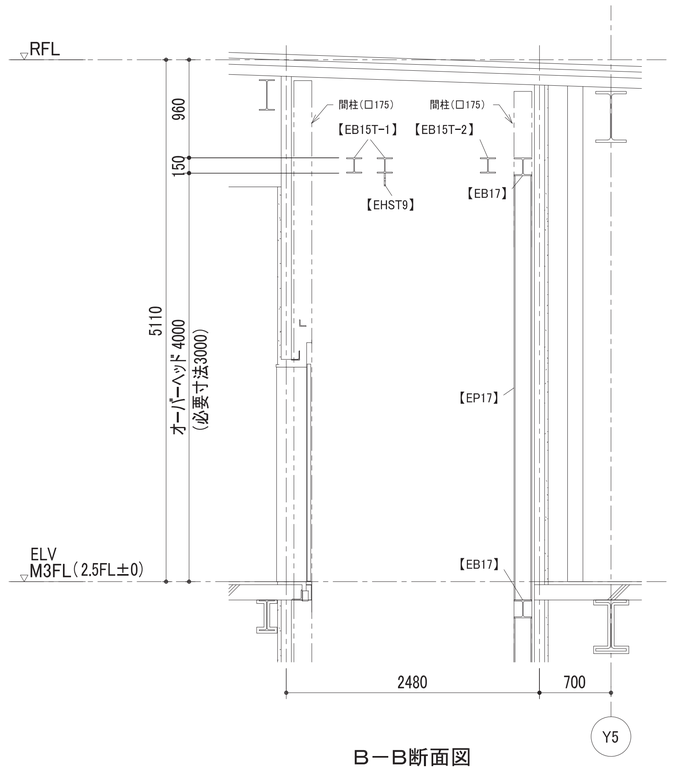
昇降路平面図(2FL)

1：20



A－A断面図

1：30



B－B断面図

1：30

◆	吊元ﾌｯｸ ・荷重:　9．8 kN	(建築工事)
⊕	電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明、接地線 最上停止階FL− 1350 mm　引出長さ 3 m	(電気工事)
⊕	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階FL− 650 mm　引出長さ 3 m	(電気工事)

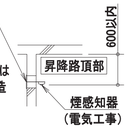
鉄骨部材記号表 (建築工事)

部材記号	部材用途	部材サイズ
EP17	レール支持柱	H-175x175x7.5x11 2-M16(L=320) ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ200×200
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9 2-M16(L=320) ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ150×150
EL90	三方枠取付材	L-90x90x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
EB17	レール支持柱受梁	H-175x175x7.5x11
EB15T-2	トロリービーム(荷重9.8kN)	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム(荷重19.6kN)	H-150x150x7x10

工事名称	(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-803
図面名称	EV (1) 詳細図 (3)	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 126
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

煙感知器詳細（点検口設置する場合の例示）

施錠装置付点検扉
1.5mm以上の鋼板製（電気工事）



昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。

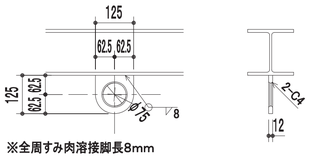
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品として下さい。

- ・ホーチキ　（KUS-1C（W））
- ・能美防災　（FXS J001A-HU）
- ・ニッタン　（NID-T-G）
- ・パナソニック　（BV95351+BV95381H）

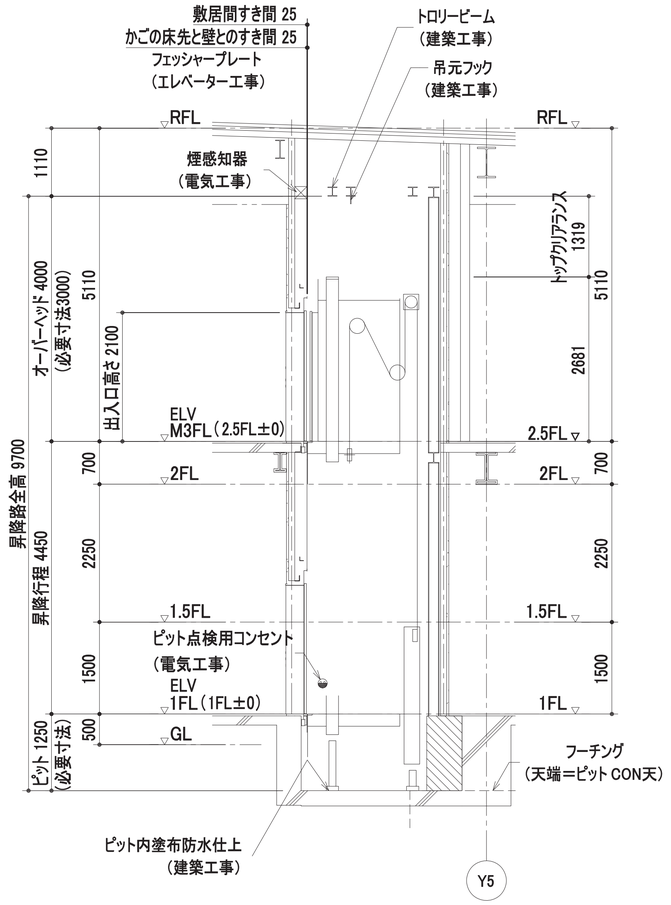
製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細

吊元フック荷重：9.8kN



※全周すみ肉溶接脚長8mm

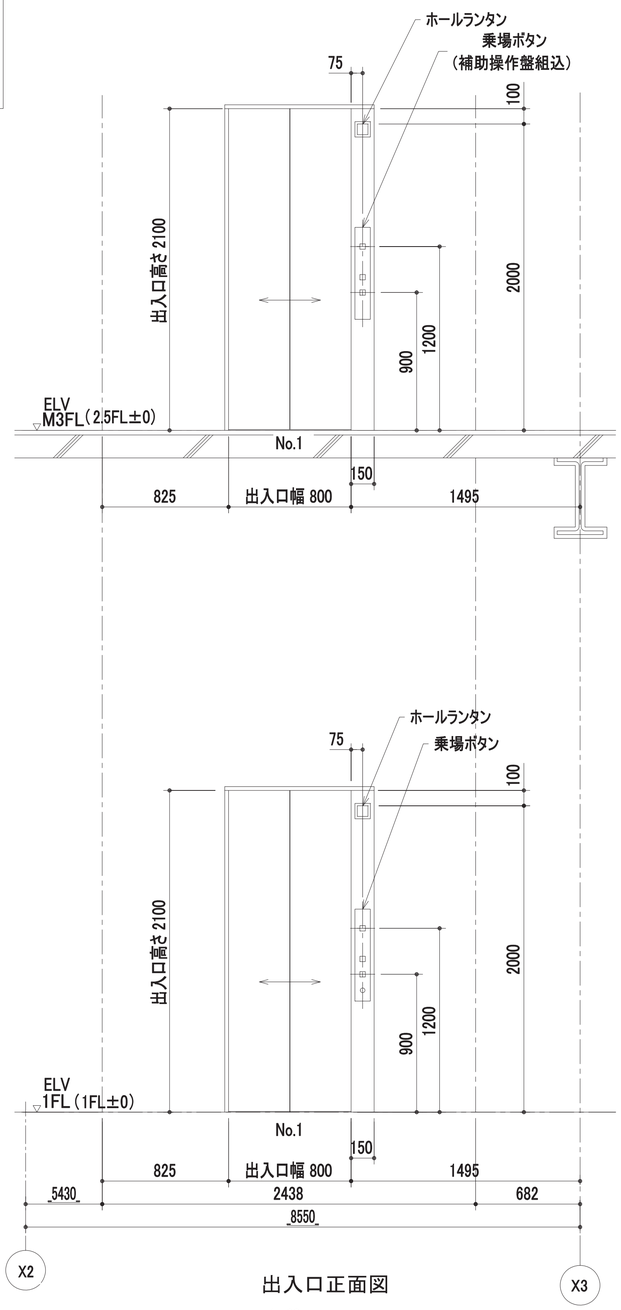


※点検用タラップはピットに保管

昇降路縦断面図

1：50

鉄骨部材記号表（建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP17	レール支持柱	H-175x175x7.5x11
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL90	三方枠取付材	L-90x90x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB17	レール支持柱受梁	H-175x175x7.5x11
EB15T-2	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10

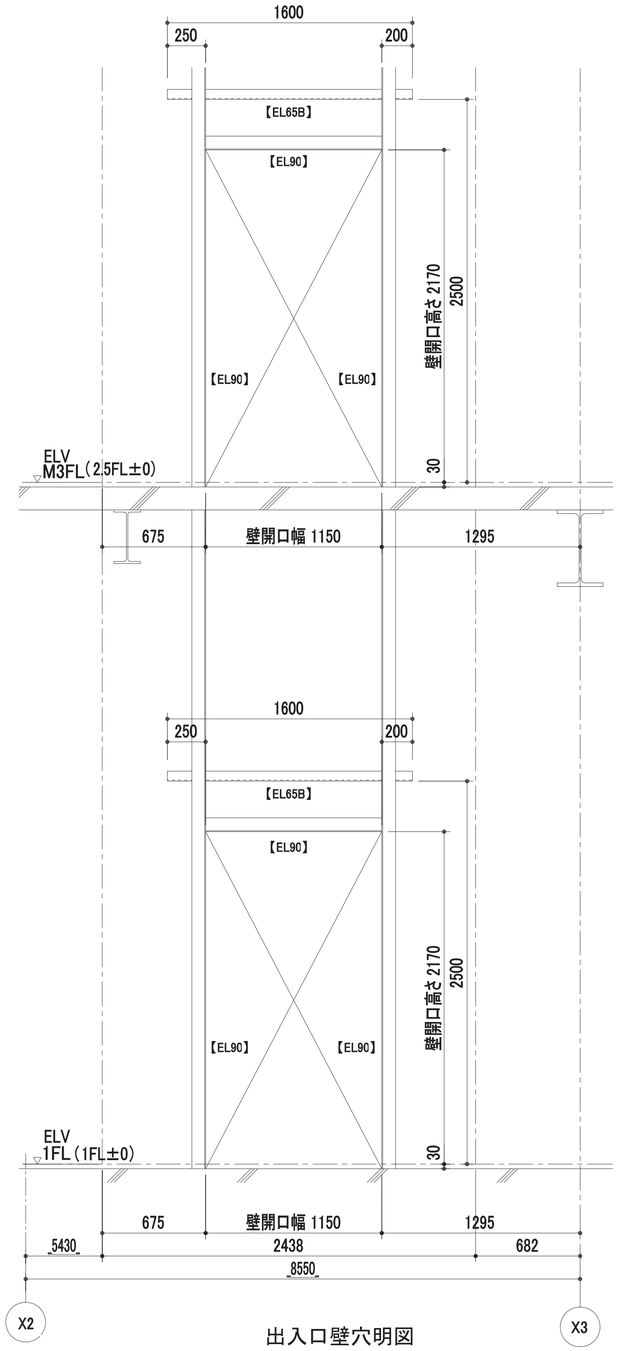


出入口正面図

1：20

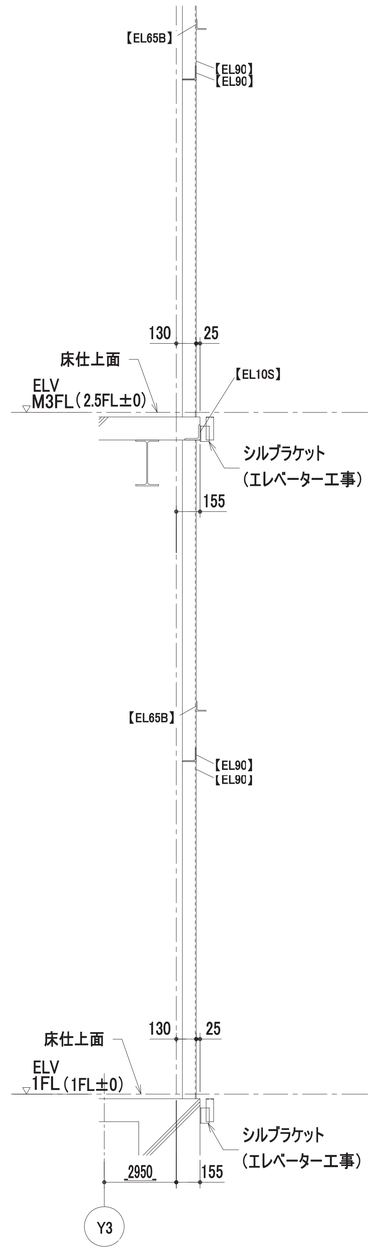
No. 1

ピット反力		74. 00 kN
ピット衝撃荷重	かご側	62. 20 kN
	C／W側	49. 20 kN



出入口壁穴明図

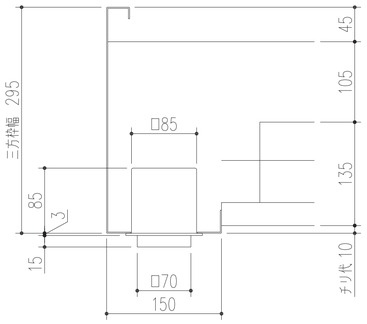
1：20



断面図

1：20

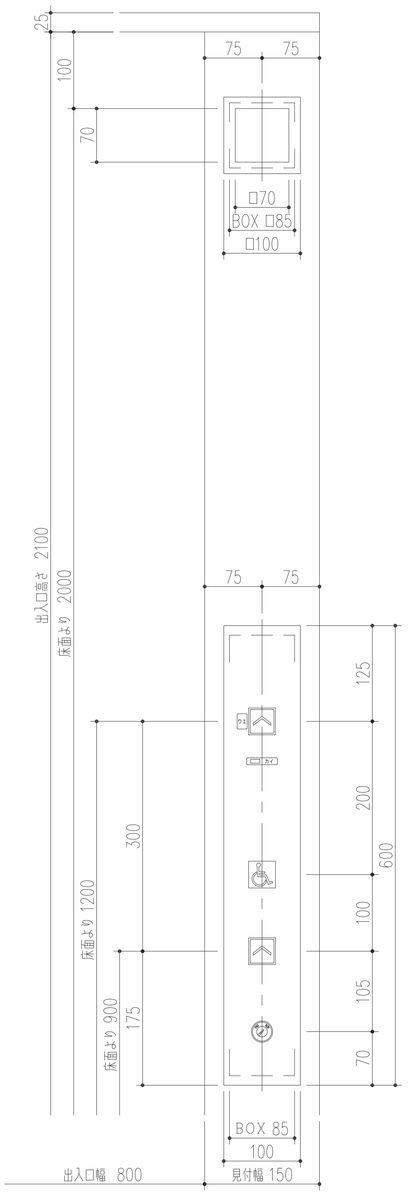
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 A-804
図面名称	EV（1）詳細図（4）	縮尺（A1） 図示
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部　こども課	通し番号 127
	財務部　営繕課	全 226 葉

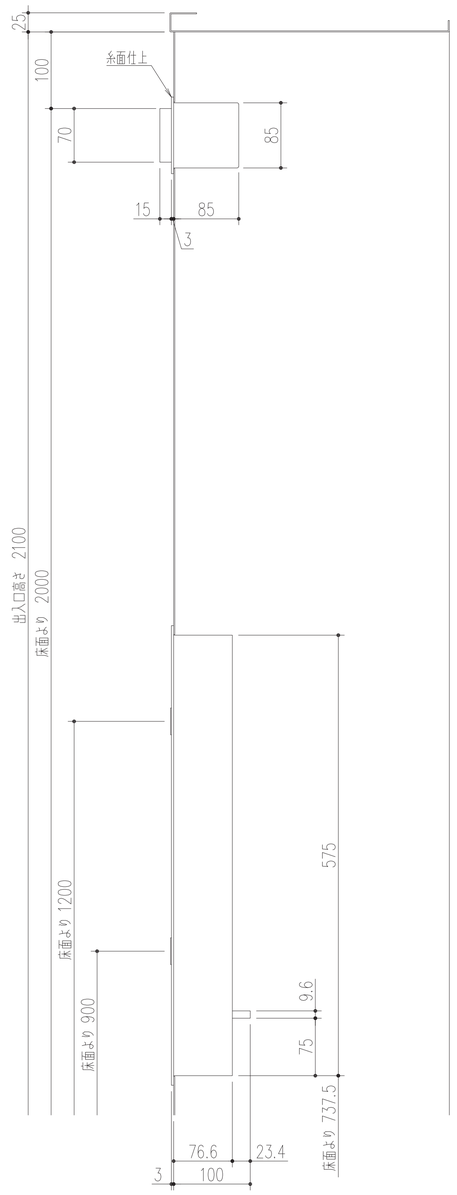


乗場ボタン	
プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
呼ボタン	乳白色樹脂，矢印、周囲（乳白色） プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、矢印、周囲点灯］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
パーキング スイッチ	キースイッチ
点字銘板	ステンレス製

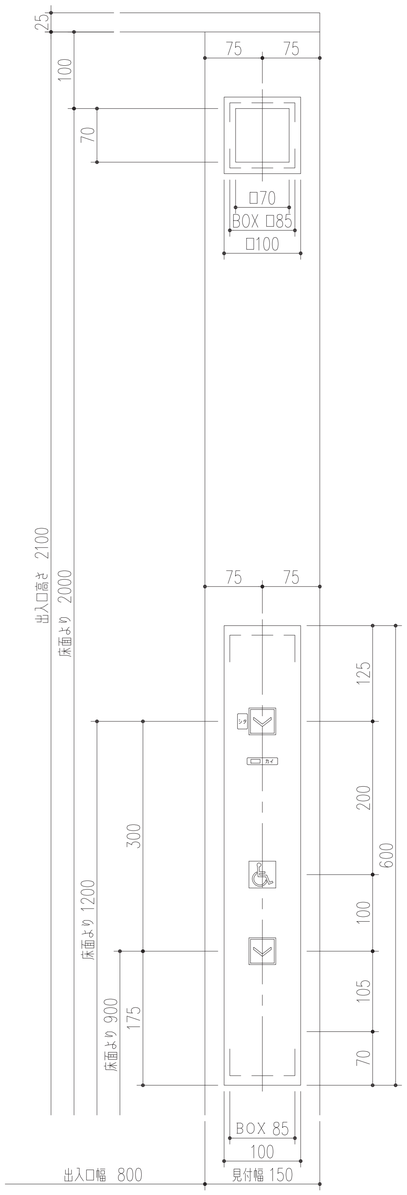
ホールランタン	
到着灯	拡散樹脂，地色（乳白色），ＬＥＤ 点灯時　淡黄色

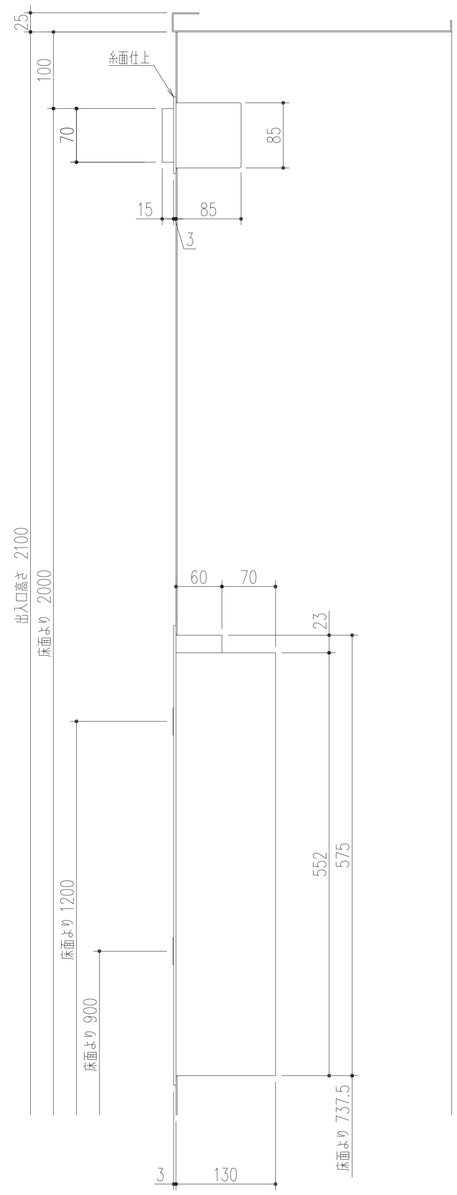
1Ｆ
（パーキング付）



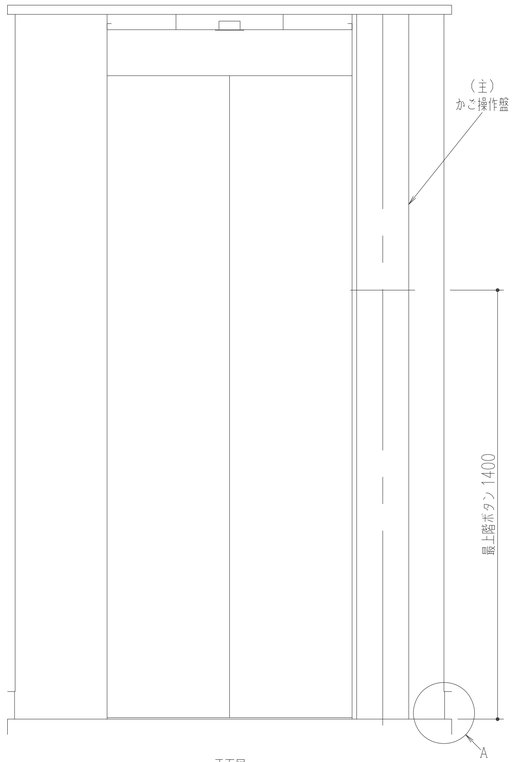


M3Ｆ
（メンテナンス階）

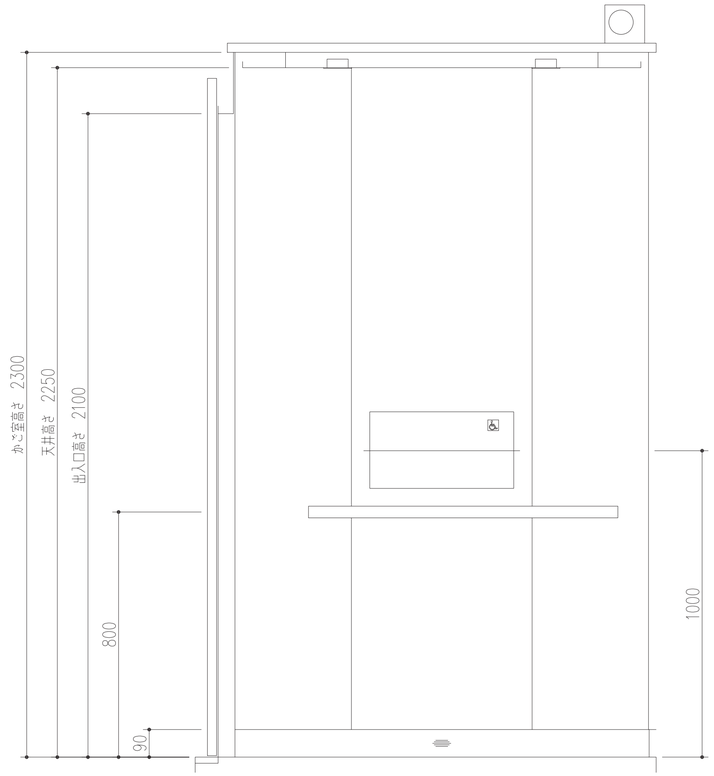




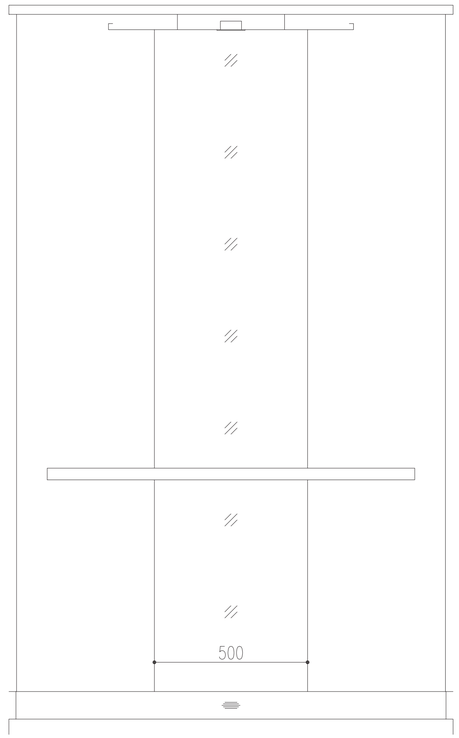
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-805
図面名称	EV（１）詳細図（５）	縮尺(A1) 1:4	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 128
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



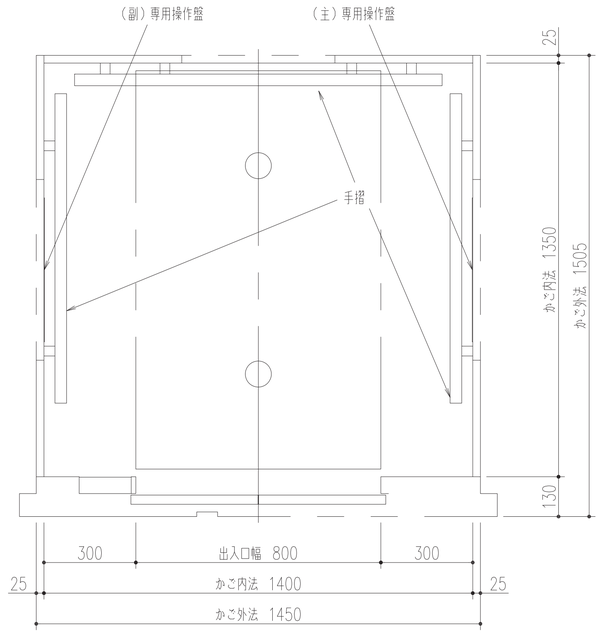
正面図



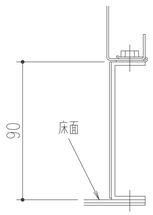
側面図



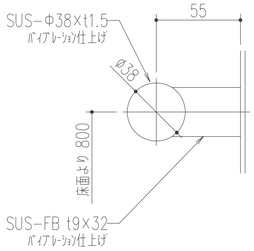
背面図



平面図



A部詳細
(1/2)[1/4]



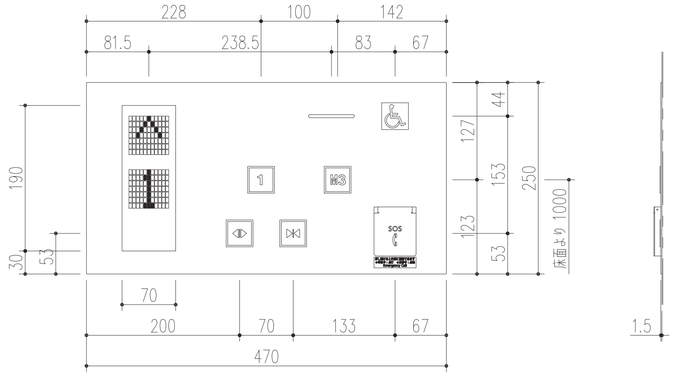
手摺詳細
(1/2)[1/4]

天井	[照明部]LED間接昼光色照明、LEDダウンライト昼光色照明 [中央部]化粧鋼板 [天井面]化粧鋼板(TK-C221)
照明	LED
停電灯	LED(兼用)
出入口柱	ステンレス製バイブレーション仕上
リターンパネル	ステンレス製バイブレーション仕上
かご扉	鋼板製塗装仕上・5分ツヤ(t1.6)
側板	鋼板製塗装仕上・5分ツヤ
幕板	鋼板製塗装仕上・5分ツヤ
幅木	ステンレス製ヘアライン仕上
床	タイル(材料・貼付別途工事)
敷居	硬質アルミ製
換気方式	横流ファン
鏡	フルハイトミラー
手摺	建築支給品
備考	イオン発生器付，多光軸ドアセフティー付(2D)，音声案内装置付 非常放送スピーカー付

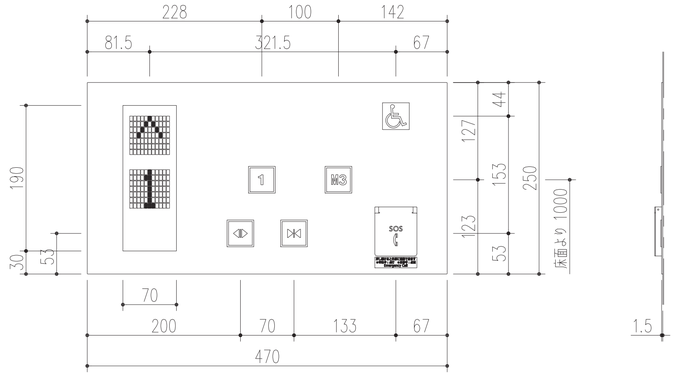
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-806
図面名称	EV（1）詳細図（6）	縮尺(A1) 1:10	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 129
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

（主）かご操作盤	
表示部	樹脂製（スモーク）、液晶式
定格文字	文字（白色）
連絡装置	インターホン（同時通話式）
非常呼ボタン	樹脂製（赤色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点滅］ 呼出中［絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
非常呼ボタンガード	ステンレス製バイブレーション仕上，絵文字（赤色）
非常呼ボタン銘板	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
行先階ボタン	乳白色樹脂，文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、文字、周囲点灯］
戸開ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
戸閉ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
点字銘板	ステンレス製
上部プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
ハーフミラープレート	広角ミラー　樹脂鏡面仕上
操作プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
スイッチボックスプレート	ステンレス製バイブレーション仕上
説明文	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
下部プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
（主・副）専用操作盤	
表示部	樹脂製（スモーク）
方向灯	点灯時（白色），［ＬＥＤ、ドット式］
位置灯	点灯時（白色），［ＬＥＤデジタル、ドット式］
連絡装置	インターホン（同時通話式）
非常呼ボタン	樹脂製（赤色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点滅］ 呼出中［絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
非常呼ボタンガード	ステンレス製バイブレーション仕上，絵文字（赤色）
非常呼ボタン銘板	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
戸開ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
戸閉ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
行先階ボタン	乳白色樹脂，文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、文字、周囲点灯］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
フェースプレート	ステンレス製バイブレーション仕上

1。実際の版下文字とは、図形文字の為若干異なる。
2。文字詳細は、文字書体集での確認による。



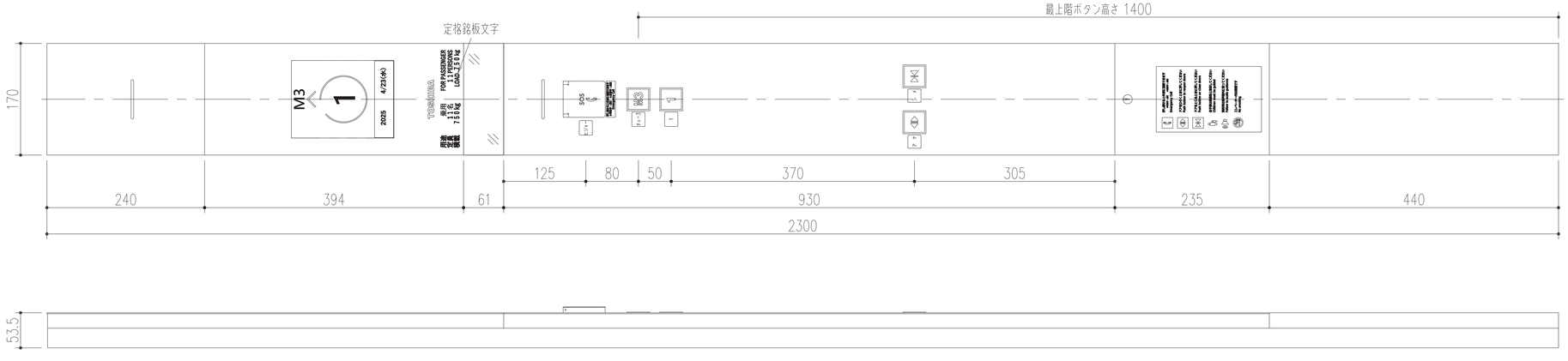
（主）専用操作盤



（副）専用操作盤

用途　　乗用　　FOR PASSENGER
定員　　１１名　　１１PERSONS
積載　　７５０kg　　LOAD ７５０kg

定格銘板文字



（主）かご操作盤

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-807
図面名称	EV（１）詳細図（７）	縮尺(A1) 1:4	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 130
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

注 意 事 項

1	躯体と昇降機承諾図に相違がある場合はエレベーター着工までに躯体を是正すること
2	(1)昇降路の壁又は囲いは隙間無きものとすること (2)昇降路の壁又は囲いは難燃材料(不燃材料・準不燃材料含む)とすること (3)昇降路の壁又は囲いは5cm角辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること (4)コンクリート厚さは150mm以上とすること (5)コンクリート基準圧縮強度は21N/mm²以上30N/mm²以下とし、30N/mm²を超える場合は都度対応協議のこと (6)昇降路壁は後施工アンカーが可能な構造とすること
3	昇降路内にはエレベーターに関係のない配管・配線・ダクト・その他の機器を設置しないこと
4	昇降路壁には配管・消火栓等を埋め込まないこと
5	昇降路内には建築金物(ALCクリップ等)が突出しないこと
6	昇降路内に断熱材(ウレタン・スタイロフォーム等)を施工する場合は溶接火花による火災のおそれがあるため難燃材料とすること
7	断熱材はガイドレール支持用ファスナー及び乗場出入口廻りの取付材を避けて施工すること
8	断熱材の施工時期は協議すること
9	昇降路内の温度は5℃以上40℃以下、湿度は月平均90%以下、日平均95%以下とし、氷結・結露しないこと
10	昇降路内及び乗場には風雨・塵埃・塩分・有害ガス等が入らないこと
11	昇降路内に換気設備を設置する場合は外部より点検可能な配置とし、雨水対策を実施すること
12	昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しない配置及び躯体構造(防音・防振工事等)とすること
13	エレベーターホールと風除室が近い場合はドラフトによりエレベーターの戸が開閉できなくなるおそれがあるため建物側で気密性を上げること
14	保守・点検・緊急対応のため、外部より最上階のエレベーターホールへアクセスできる通路を設けること また、個人宅や占有部、鍵が必要な場所を経由する必要がないこと
15	電源電圧の変動は動力用±10%以内、照明用±5%以内とし、動力用の電圧不平衡率を5%以内とすること
16	高調波障害回避のため、以下の対応を推奨します (1)弱電機器の電源線・通信線はエレベーター動力線から1m以上分離すること (2)エレベーター動力用電源トランスは弱電機器のトランスと独立して設けること (3)弱電機器とのアース線共用は避けること (4)エレベーター動力線は弱電機器近くの床下や天井に設置しないこと (5)漏電遮断器・漏電継電器を設置する場合、不要動作防止のためインバータ対応のものを使用すること
17	搬入に支障のない経路を確保すること
18	据付工事用現場詰所及びエレベーター材料・据付工事用機材の保管場所を無償提供願います
19	仮設揚重機・重機(ラフタークレーン、タワークレーン等)・搬入運搬用台車を無償貸与願います
20	据付工事用電源及び試運転調整時の動力電源を無償提供願います(容量は別途打ち合わせ)
21	必要に応じてモルタルを無償提供願います
22	エレベーターを工事用として使用する場合はこの使用に伴う検査費用・復旧(オーバーホール・消耗部品の交換等)費用・定期保守費用・コールバック対応費用等が生じます
23	エレベーターを工事用として使用する場合、電力会社から供給される電源を使用願います 工事用発電機によるエ事用使用は電源電圧が不安定なため、内部基板への悪影響を引き起こす可能性が高いことから使用しないこと
24	かご内へ一度に搬入可能な積載は4輪台車で積込み荷重制限(台車含む)以下とすること

特記事項

- ・デラックス天井照明(DLX－12)
- ・非常呼ボタンガード(ステンレス製、スイング式)
- ・非常呼ボ応答灯
- ・非常放送スピーカー
- ・音声案内装置
- ・車いす兼用エレベーター仕様
  - かご内鏡:フルハイトミラー
  - かご手摺:建築支給品(3方)
- ・点字銘板
- ・故障接点支給
- ・到着チャイム(かご電子チャイム)
- ・サービス階切離し運転(接点支給式、タイマー無、切離しスイッチ数:1)
  (1F乗場ボタンにキーリーダー付)
- ・防犯カメラ　　(　0206511－3　)　V.22.05(　FC　)

積込み荷重制限	荷重条件	250kg　(4輪台車を使用するものとし、台車の重量を含む)
	重量物の積込みは、一回当り荷重条件以下で積込み下さい。 ※フォークリフトの使用はできません。	
コンクリート強度	最小　FC21N/mm²	最大　FC○○N/mm²

※コンクリート強度Fc48を超える場合はEV支持部材としてインサートナット(建築工事)の施工願います

工 事 区 分

		建築	電気	機械	昇降機
1	昇降路の築造、防火区画工事 (コンクリート強度は21N／mm² 以上とする。)	○			
2	昇降路の建築構造梁の耐火被覆工事	○			
3	各階乗場開口工事及び補強工事	○			
4	三方枠取付後の裏詰め工事並びに耐火処理工事	○			
5	三方枠取付用アングル設置工事	○			
6	乗場ドア取付用アングル設置工事	○			
7	乗場表示装置等の取付用下地鋼材の設置工事	○			
8	機器搬入用仮設開口及び搬入後の復旧工事	○			
9	乗場敷居受け用床持出し工事	○			
10	乗場敷居受け用アングルまたはH鋼設置工事	○			
11	レール取付用ブレート又はレール支持柱設置工事及び錆止塗装	○			
12	レール取付用ビーム設置工事	○			
13	乗場関係機器取付後の壁、床仕上げ工事	○			
14	ピット防水仕上げ工事	○			
15	かご敷居～壁を125mm以内にする鋼板設置下地工事	○			
16	停止階間が10mを超える場合、昇降路救出口の設置工事 (W750×H1200)	○			
17	ピットが法定又は必要寸法より深い場合の埋め戻し工事	○			
18	ピット点検用タラップの設置工事				○
19	ピットに段差がある場合、転落防止柵又は壁の設置工事	○			
20	ピット下利用がある場合、二重スラブ又はつり合いおもり側の直下部厚壁工事	○			
21	屋上、開放廊下等外気と接する乗場雨水よけ対策工事	○			
22	最大42m以内で速度に応じて30秒以内で停止できる距離にて地震時非常着床階の設置工事	○			
23	その他建築に関する工事	○			
24	動力、照明電源及び接地線引込工事		○		
25	ピットコンセント設置工事(点検用:必要により防水形)		○		
26	煙感知器設置工事		○		
27	インターホン用及び監視用配管配線工事 (昇降路制御盤から外部取付位置まで)		○		
28	館内放送(スピーカー)付の場合の信号線引込工事		○		
29	エレベーター遠隔監視用電話回線工事		○		
30	その他信号線の昇降路外配管配線工事		○		
31	地震時非常着床階の避難通路照明及び非常灯設置工事		○		
32	乗場戸に近接して設ける防火シャッター等の防火区画工事 (建設省告示第1111号の廃止による)	○			
33	エレベーターと防火シャッター等の連動用接点信号の配管・配線の引込工事		○		
34	昇降路の壁または囲いは隙間無きものとする	○			
35	昇降路内法の内部に建築金物等が突出しないよう施工下さい (突出する場合は、エレベーター機器と干渉する恐れがあるためエレベーター側と協議して下さい)	○			

No. 2

遮煙のりばドア(Smokeproof)		
適用階	1FL,M3FL	認定番号　CAS－1074(2)

【エレベーター遠隔監視メンテナンス】

※ このエレベーターは、遠隔監視メンテナンス契約可能対応機種です。
※ 遠隔監視メンテナンスでは、エレベーターの遠隔診断・遠隔監視が可能です。
※ 上記サービスに必要な機器は、保守会社との遠隔監視メンテナンス契約時に貸与されます。

(1台1回線)

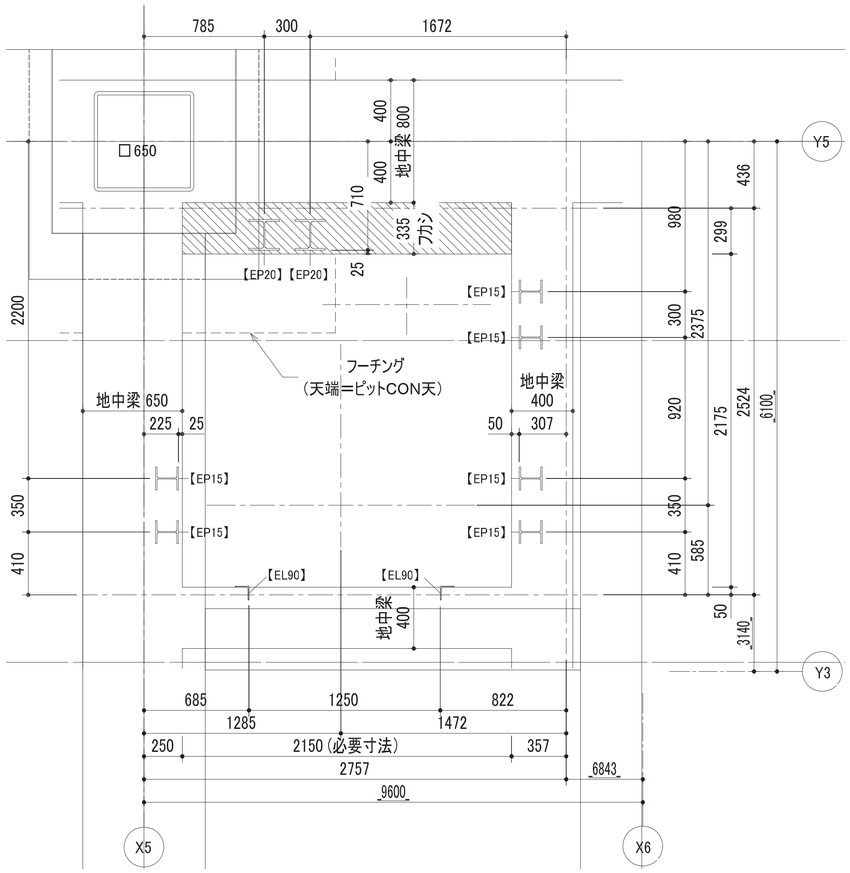
電源設備　(低圧)

号機名		No. 2		
電源設備容量	動力	200 V　4 kVA		
	照明	100 V　1. 5 kVA		
最大電流		24. 4 A		
動力線サイズ(mm²)		5. 5	8	14
最大引込み距離(m)		67	103	179
建屋側MCCB		40 A		
接地線最小サイズ		3. 5　mm²		
インターホン用配線		φ 0. 9 × 10 本		
電話用配管・配線		φ 19 配管・電話線 1 P		
ピットコンセント容量		1 kVA／台		

エレベーター仕様

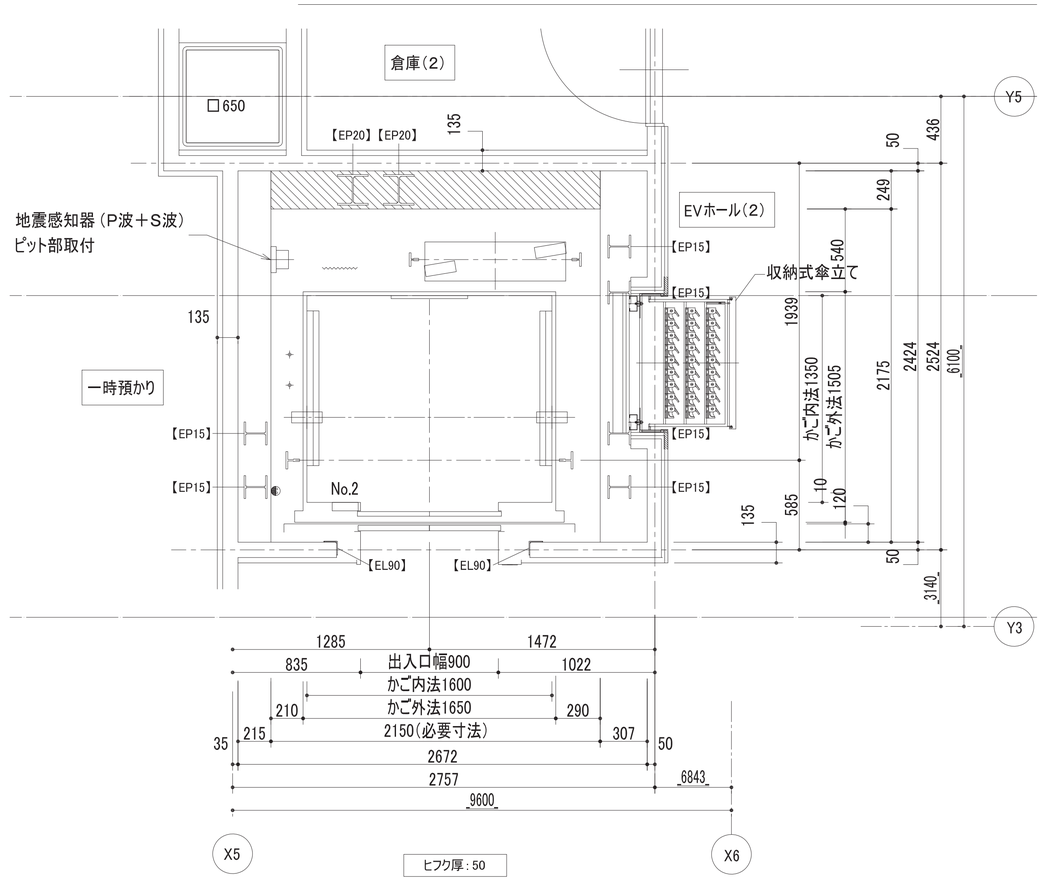
概略仕様	号機名(台数)		No. 2　(1台)
	用途(形式)		乗用　(SP13－CO45)　車いす仕様
	積載量(定員)		900 kg　(13 人)
	速度		45 m／min
	制御方式		交流インバータ制御方式(回生無)
	操作方式		乗合全自動方式
	停止ヶ所・出入口方向		(1FL,M3FL)　2ヶ所　1方向
	かご内法(WxDxH)		1600 mm X1350 mmX2250 mm
	出入口寸法(WxH)		900 mm　X2100 mm
	ドア方式		2枚戸中央開き(電動式)
	電動機出力		AC－4. 5 kW　(ギヤレス)
	電源	動力	三相3線　200 V 50 Hz
		照明	単相　100 V 50 Hz
	管制運転	地震時	有(P波＋S波感知器(3段検知)リスタート機能付)
		火災時	有
		自家発時	無
		ピット浸水時	有　全自動形(ピット冠水時(指定階))
	停電時自動着床装置		有
	耐震クラス		A14
	かご内連絡装置		24V同時通話インターホン
	基本仕様及び標準装備仕様		ローラーガイド(かご、おもり) 照明・換気装置自動休止機能 2D多光軸(マルチビーム)ドアセフティ 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りアナウンス機能(非常時4ヶ国語対応) イオン発生装置 故障時最寄階自動着床運転 しきい間すきまレス 広角ミラー付操作盤
乗場仕様	三方枠		全階　大枠・直線　ステンレス製バイブレーション仕上
	ドア		全階　ステンレス製バイブレーション仕上
		遮煙	全階　有
	敷居		全階　硬質アルミ製
	乗場ボタン	ボタン	全階　クリックタッチボタン(D－11)
		フェースプレート	全階　平板　ステンレス製バイブレーション仕上(三方枠組込)
	ホールランタン	到着灯	全階　拡散アクリル(LED)
		フェースプレート	全階　平板　ステンレス製バイブレーション仕上(三方枠組込)
かご仕様	天井照明		デラックスLED天井(DLX－12)
	換気装置		ファン
	リターンパネル		ステンレス製バイブレーション仕上
	出入口柱		ステンレス製バイブレーション仕上
	ドア		鋼板製単色塗装仕上・5分ツヤ(t1. 6)
	幕板		鋼板製単色塗装仕上・5分ツヤ
	側板		鋼板製単色塗装仕上・5分ツヤ
	幅木		ステンレス製ヘアライン仕上
	床		KT
	敷居		硬質アルミ製
	操作盤	ボタン	クリックタッチボタン(D－11)
		インジケータ	液晶(カラーユニバーサルデザイン認証)
		フェースプレート	標準(広角ミラー付)　ステンレス製バイブレーション仕上

工事名称	(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-808
図面名称	EV (2) 詳細図 (1)	縮尺(A1)	－
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号	08-01
	健康こども部　こども課		通し番号 131
	財務部　営繕課		全 226 葉



ピット平面図（1FL）

1：20



ヒフク厚：50

昇降路平面図（1FL）

1：20

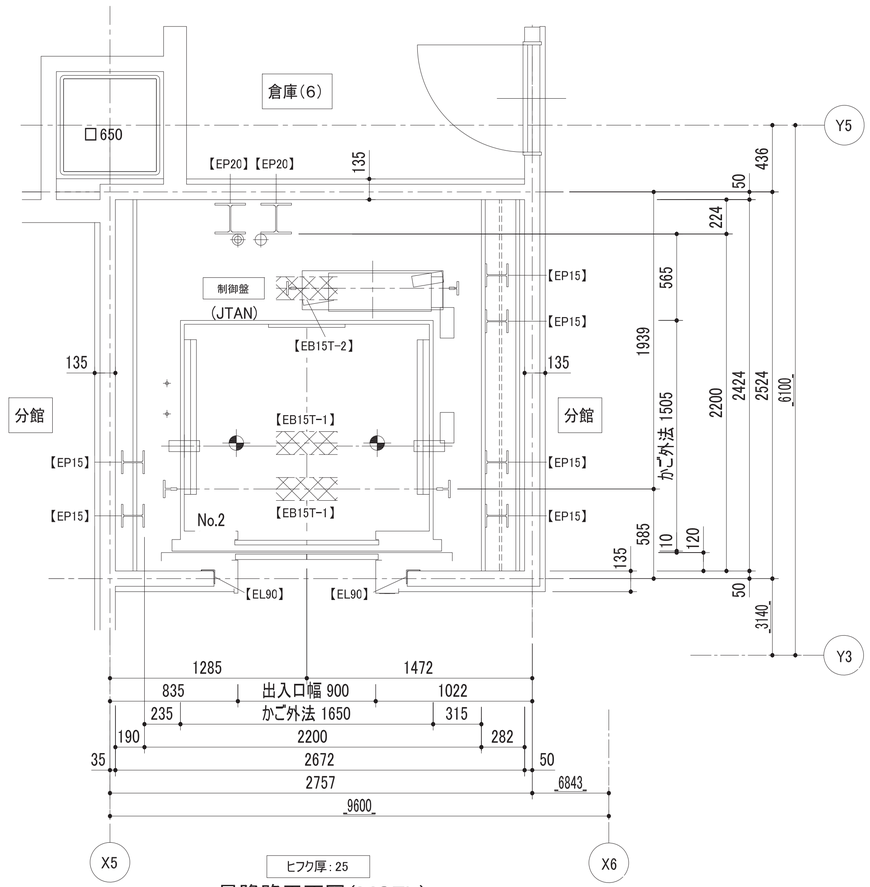
鉄骨部材記号表 （建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12 2-M16(L=320) ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ225×225
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10 2-M16(L=320) ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ150×150
EL90	三方枠取付材	L-90x90x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB15T-2	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10

レール反力リスト（地震時作用荷重）			No. 2
Py Px	かご側	Px	4. 50 kN
	一般階	Py	2. 30 kN
	かご側	Px	5. 10 kN
	最上階	Py	3. 60 kN
	おもり側	Px	7. 10 kN
	一般階	Py	3. 60 kN
	おもり側	Px	10. 60 kN
	最上階	Py	7. 10 kN

上記　荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

◒	ピット点検用コンセント	（電気工事）
≀≀	T. C保護金網	（エレベーター工事）

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-809
図面名称	EV（2）詳細図（2）	縮尺(A1) 1:20	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 132
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



ヒフク厚：25

昇降路平面図（M3FL）

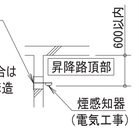
1：20

⊕	吊元フック ・荷重：　9．8 kN	（建築工事）
⊕	電源引込み（受電盤への接続） ・動力・照明、接地線 最上停止階FL− 1350 mm　引出長さ 3 m	（電気工事）
⊕	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階FL− 650 mm　引出長さ 3 m	（電気工事）

煙感知器詳細（点検口設置する場合の例示）

施錠装置付点検扉
1.5mm以上の鋼板製（電気工事）

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。



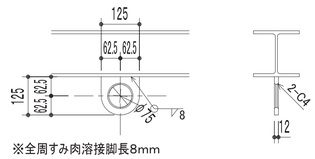
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品として下さい。

- ・ホーチキ　（KUS-1C（W））
- ・能美防災　（FXS J001A-HU）
- ・ニッタン　（NID-T-G）
- ・パナソニック　（BV95351+BV95381H）

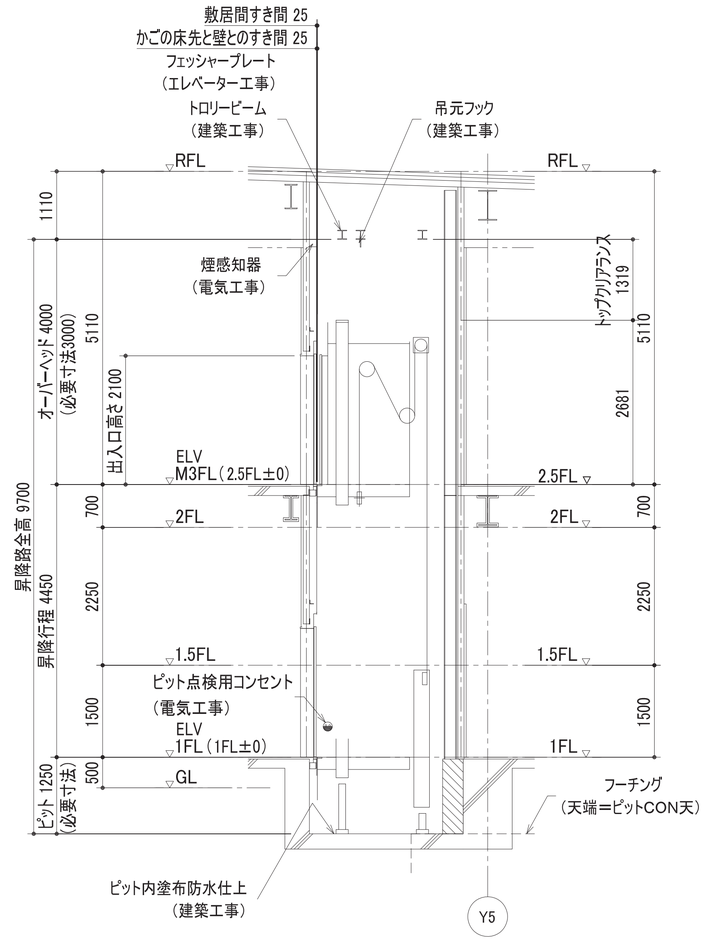
製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細

吊元フック荷重：9.8kN



※全周すみ肉溶接脚長8mm



※点検用タラップはピットに保管

昇降路縦断面図

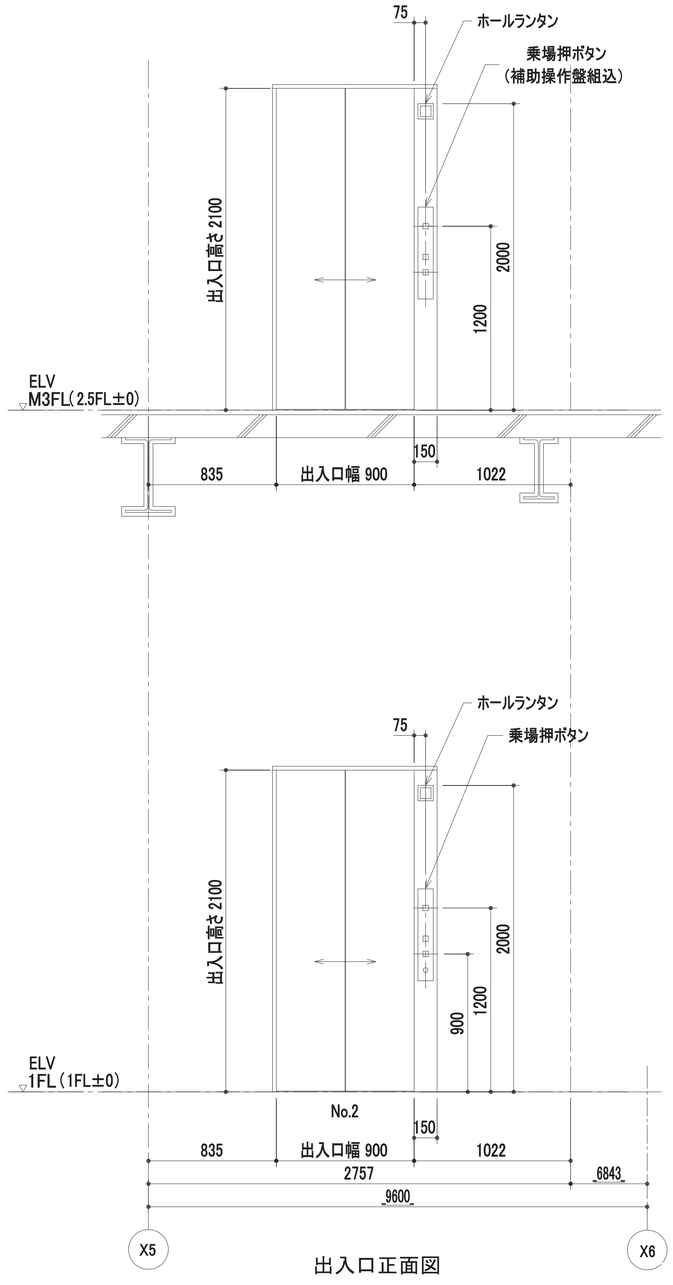
1：50

No. 2

ピット反力		81．40 kN
ピット衝撃荷重	かご側	69．20 kN
	C／W側	53．50 kN

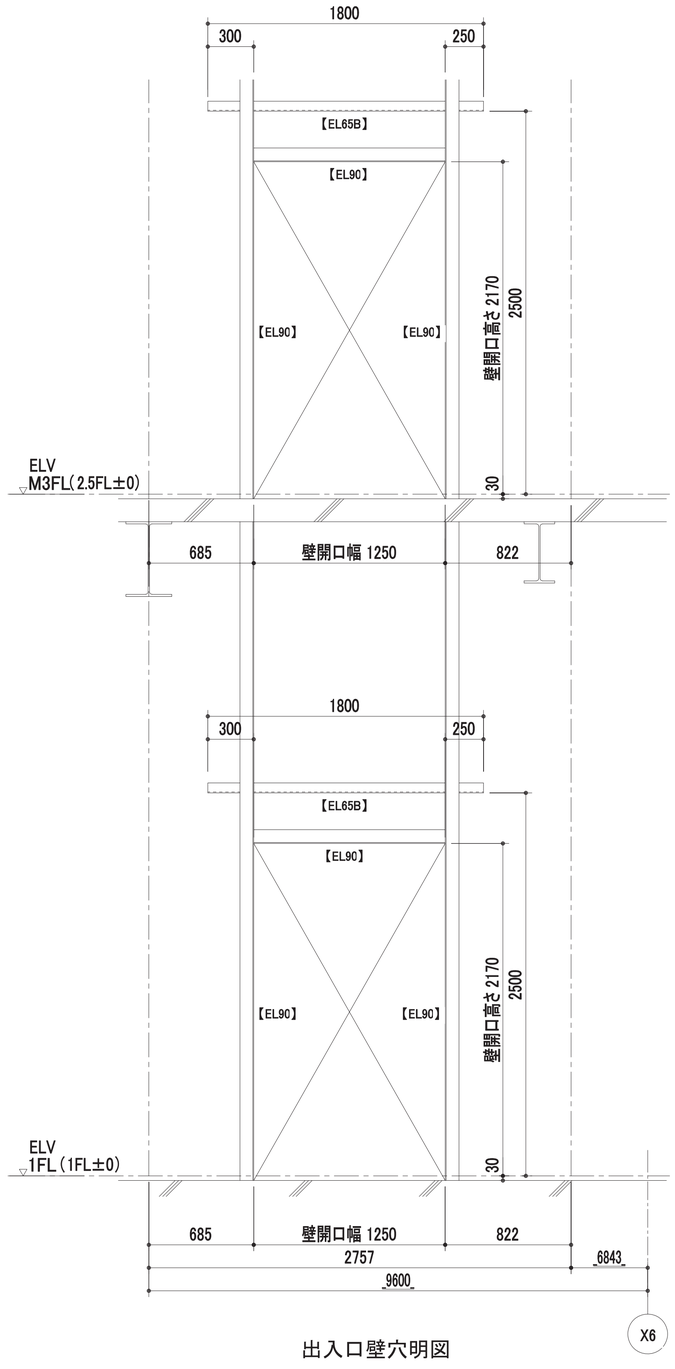
鉄骨部材記号表 （建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12 2-M16(L=320) ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ225×225
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10 2-M16(L=320) ﾍﾞｰｽﾓﾙﾀﾙ150×150
EL90	三方枠取付材	L-90x90x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB15T-2	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-810
図面名称	EV（2）詳細図（3）	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 133
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



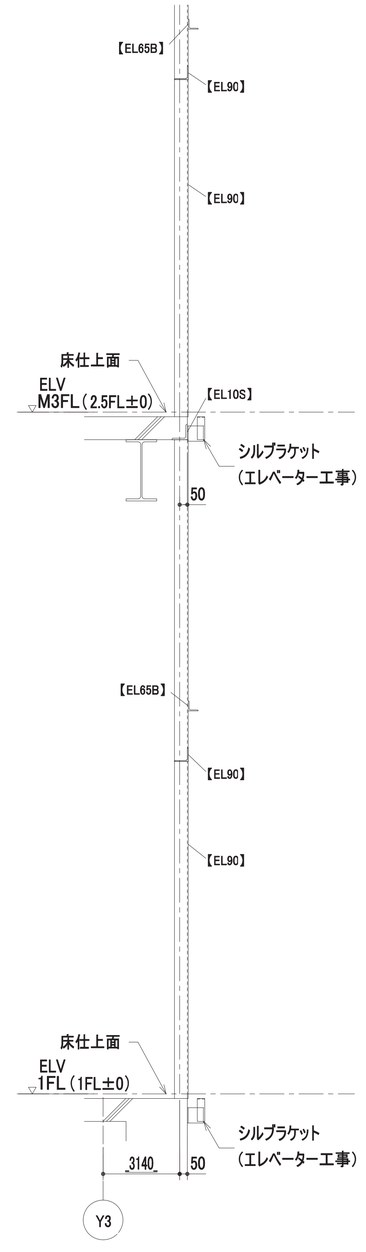
出入口正面図

1：20



出入口壁穴明図

1：20

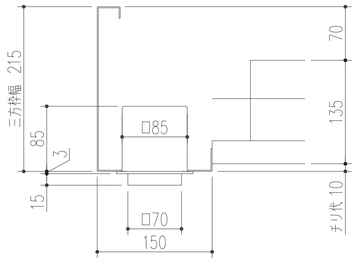


断面図

1：20

鉄骨部材記号表 （建築工事）意匠図用		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EL90	三方枠取付材	L-90x90x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10

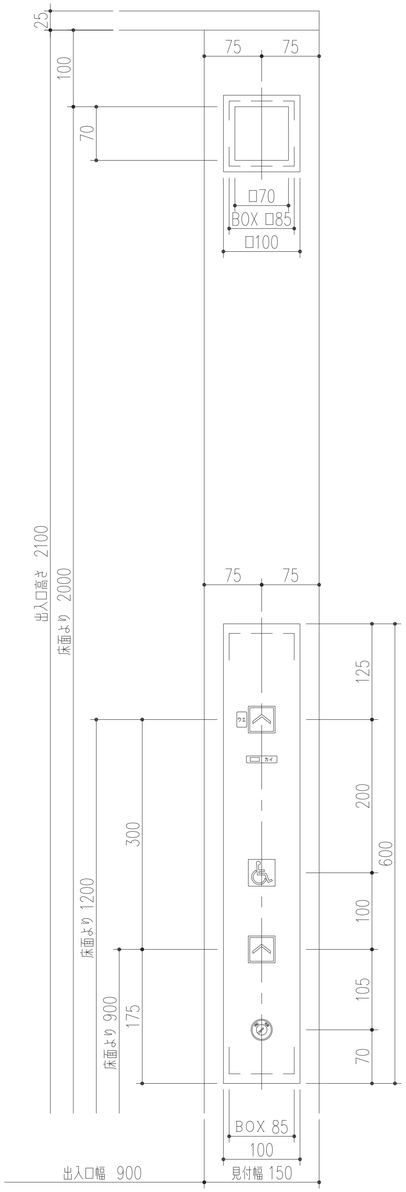
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 A-811
図面名称	EV（2）詳細図（4）	縮尺(A1) 1:20
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部　こども課	通し番号 134
	財務部　営繕課	全 226 葉

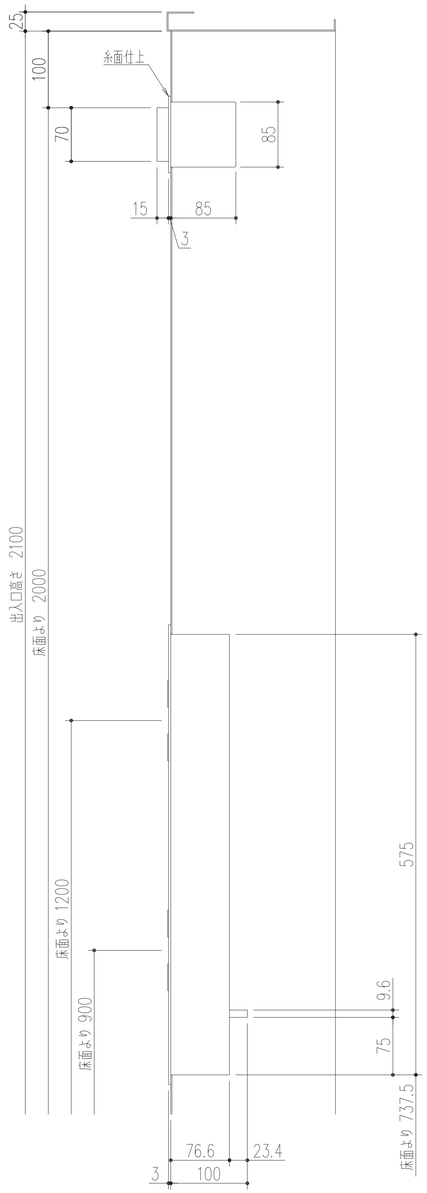


乗場ボタン	
プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
呼ボタン	乳白色樹脂，矢印、周囲（乳白色） プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、矢印、周囲点灯］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
パーキング スイッチ	キースイッチ
点字銘板	ステンレス製

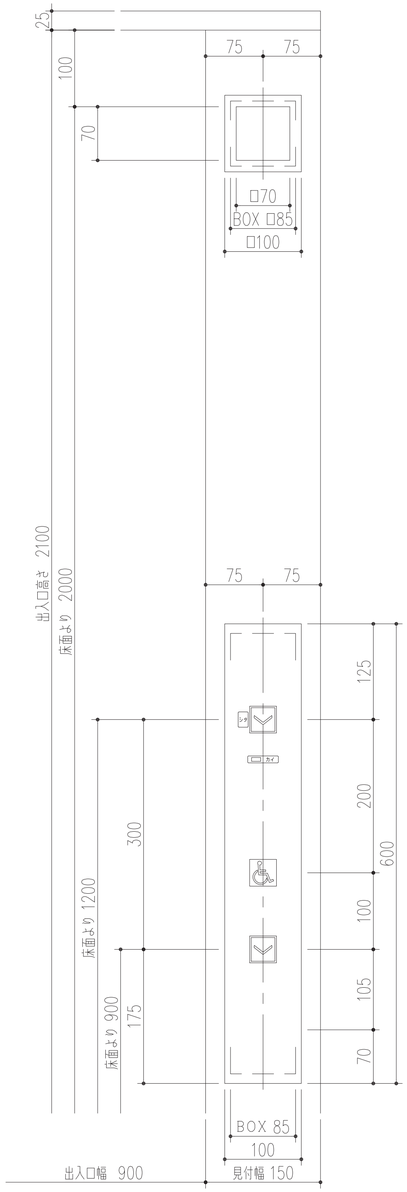
ホールランタン	
到着灯	拡散樹脂，地色（乳白色），ＬＥＤ 点灯時　昇方向：淡黄色，降方向：淡黄色

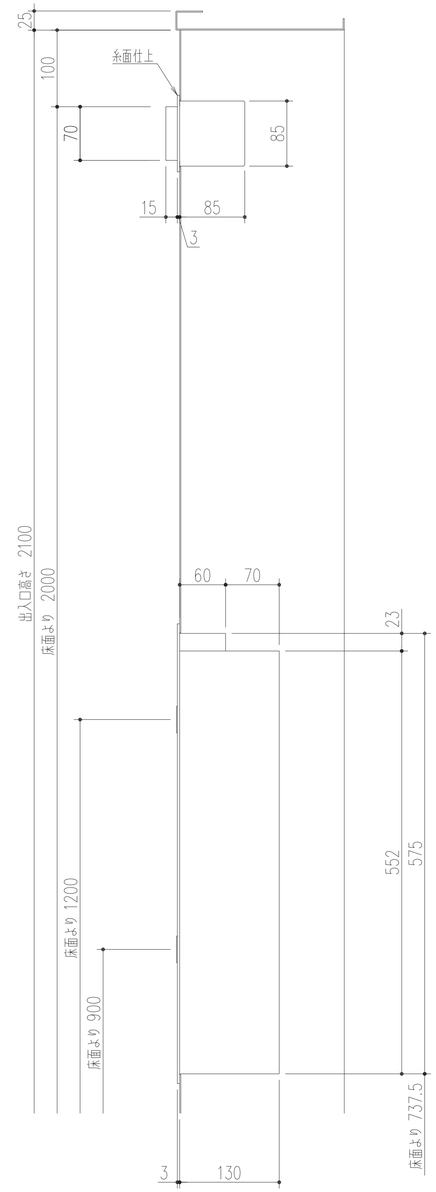
1F
（パーキング付）



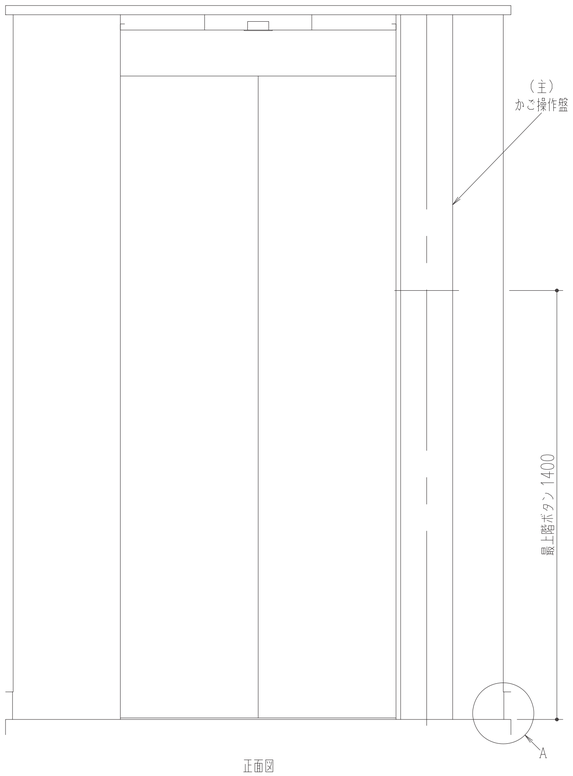


M3F
（メンテナンス階）

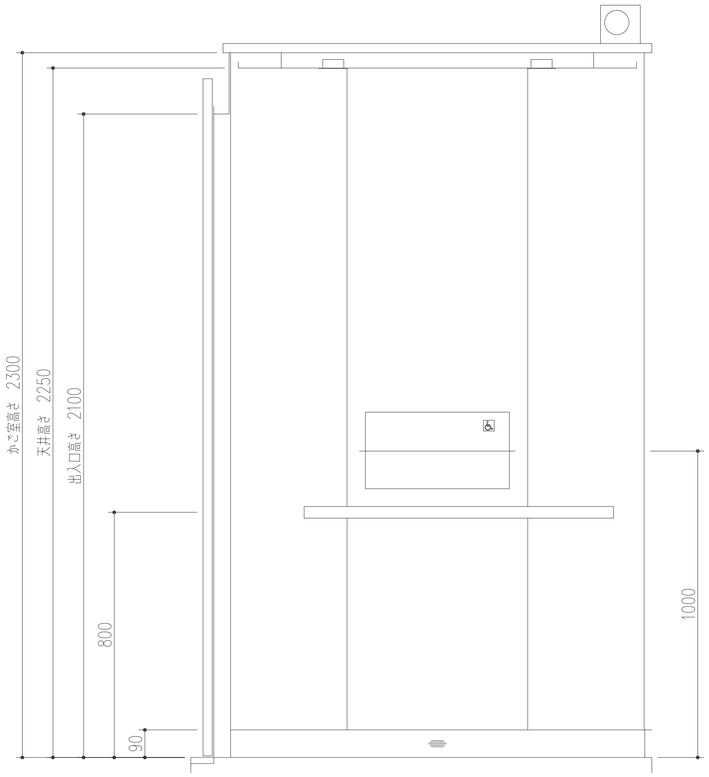




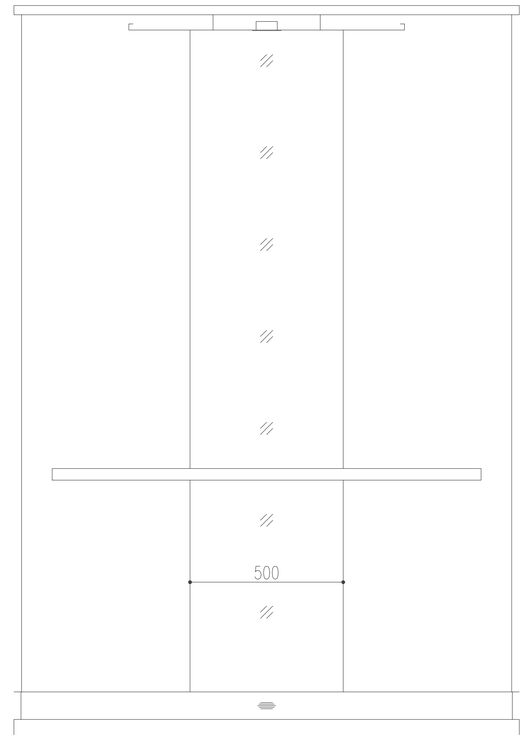
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-812
図面名称	EV（２）詳細図（５）	縮尺(A1) 1:4	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 135
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



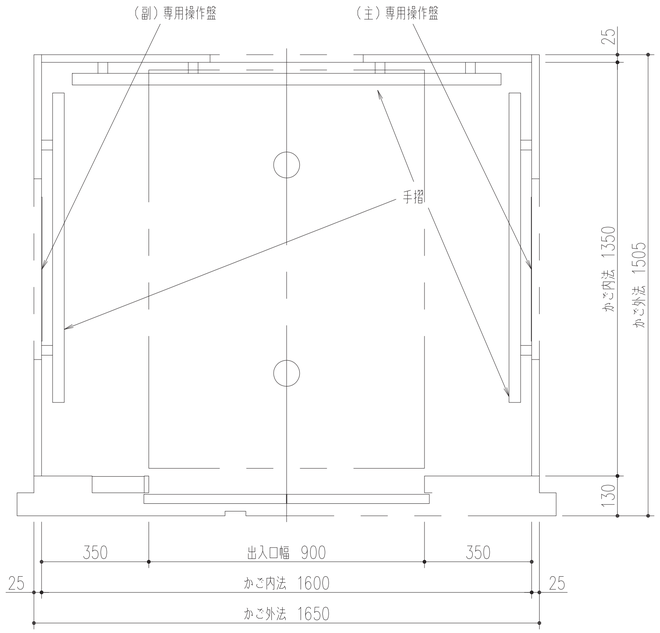
正面図



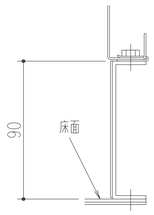
側面図



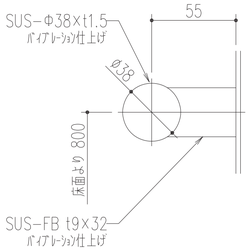
背面図



平面図



A部詳細
(1/2)[1/4]



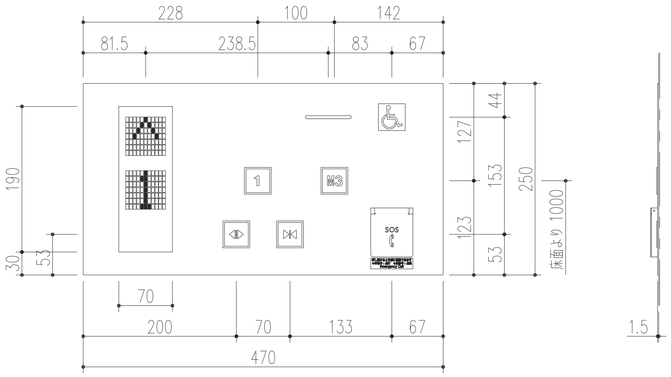
手摺詳細
(1/2)[1/4]

天井	[照明部] LED間接昼光色照明、LEDダウンライト昼光色照明 [中央部] 化粧鋼板 [天井面] 化粧鋼板(TK-C221)
照明	LED
停電灯	LED(兼用)
出入口柱	ステンレス製バイブレーション仕上
リターンパネル	ステンレス製バイブレーション仕上
かご扉	鋼板製塗装仕上・5分ツヤ(t1.6)
側板	鋼板製塗装仕上・5分ツヤ
幕板	鋼板製塗装仕上・5分ツヤ
幅木	ステンレス製ヘアライン仕上
床	タイル(材料・貼付別途工事)
敷居	硬質アルミ製
換気方式	横流ファン
鏡	フルハイトミラー
手摺	建築支給品
備考	イオン発生器付, 多光軸ドアセフティー付(2D), 音声案内装置付 非常放送スピーカー付

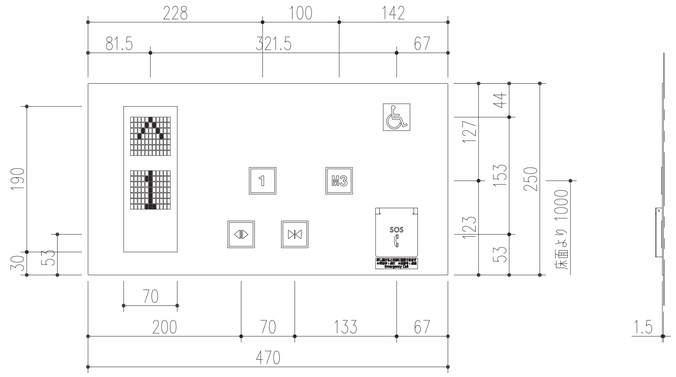
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-813
図面名称	EV（2）詳細図（6）	縮尺(A1) 1:10	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 136
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

（主・副）かご操作盤	
表示部	樹脂製（スモーク）、液晶式
定格文字	文字（白色）
連絡装置	インターホン（同時通話式）
非常呼ボタン	樹脂製（赤色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点滅］ 呼出中［絵文字点灯］，［LED］
非常呼ボタンガード	ステンレス製バイブレーション仕上，絵文字（赤色）
非常呼ボタン銘板	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
行先階ボタン	乳白色樹脂，文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、文字、周囲点灯］
戸開ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
戸閉ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
点字銘板	ステンレス製
上部プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
ハーフミラープレート	広角ミラー　樹脂鏡面仕上
操作プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽﾌﾟﾚｰﾄ	ステンレス製バイブレーション仕上
説明文	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
下部プレート	ステンレス製バイブレーション仕上
（主・副）専用操作盤	
表示部	樹脂製（スモーク）
方向灯	点灯時（白色），［LED、ドット式］
位置灯	点灯時（白色），［LEDデジタル、ドット式］
連絡装置	インターホン（同時通話式）
非常呼ボタン	樹脂製（赤色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点滅］ 呼出中［絵文字点灯］，［LED］
非常呼ボタンガード	ステンレス製バイブレーション仕上，絵文字（赤色）
非常呼ボタン銘板	SUS調アルマイト印刷（貼付銘板）文字（黒色）
戸開ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
戸閉ボタン	乳白色樹脂，絵文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、絵文字、周囲点灯］
行先階ボタン	乳白色樹脂，文字、周囲（乳白色），プレート［ステンレス製（ビーズブラスト）］ 応答時［白色、文字、周囲点灯］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
フェースプレート	ステンレス製バイブレーション仕上

1。実際の版下文字とは、図形文字の為若干異なる。
2。文字詳細は、文字書体集での確認による。



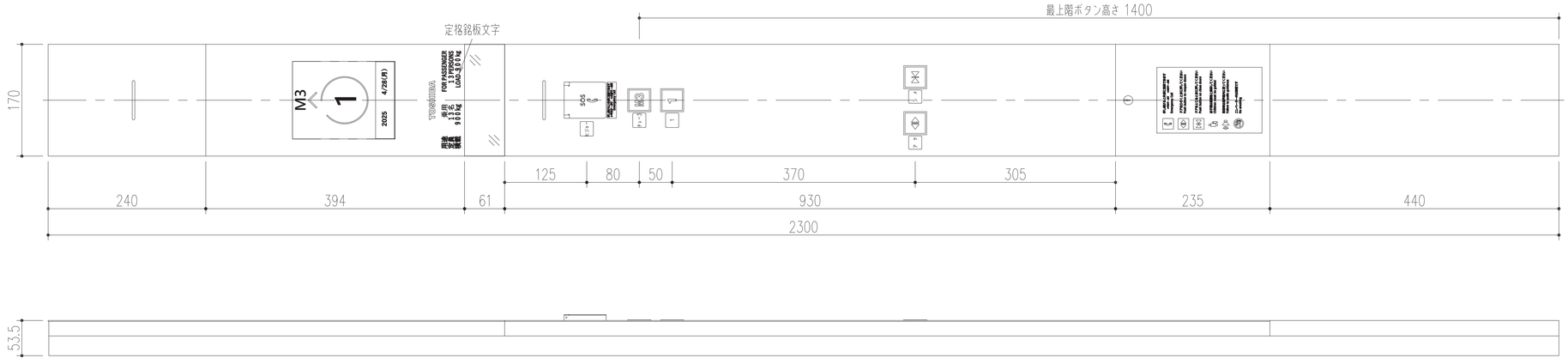
（主）専用操作盤



（副）専用操作盤

用途　乗用　FOR PASSENGER
定員　13名　13 PERSONS
積載　900kg　LOAD 900kg

定格銘板文字



（主）かご操作盤

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-814
図面名称	EV（2）詳細図（7）	縮尺(A1) 1:4	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 137
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

前面道路 3・3・12号線
幅 25m

歩 道

6,000

歩道切下げ

99,265

4,000

BM=TP+4.237 = 設計GL

10,000

駐輪場壁 P 1C-1

32,399

R 40

FL-100

375

P 2C-2

31,77

FL-40

排水口 P 3C-3

FL-100

3,75

1,800

グリストラップ P 4C-2

4,200

6,000

21,000

36,000

清掃員控室

管理人室

相談室

印刷室

打合室

ラウンジ

工作工芸室

1/100

1/100勾配

駐輪場 20台

DS

D

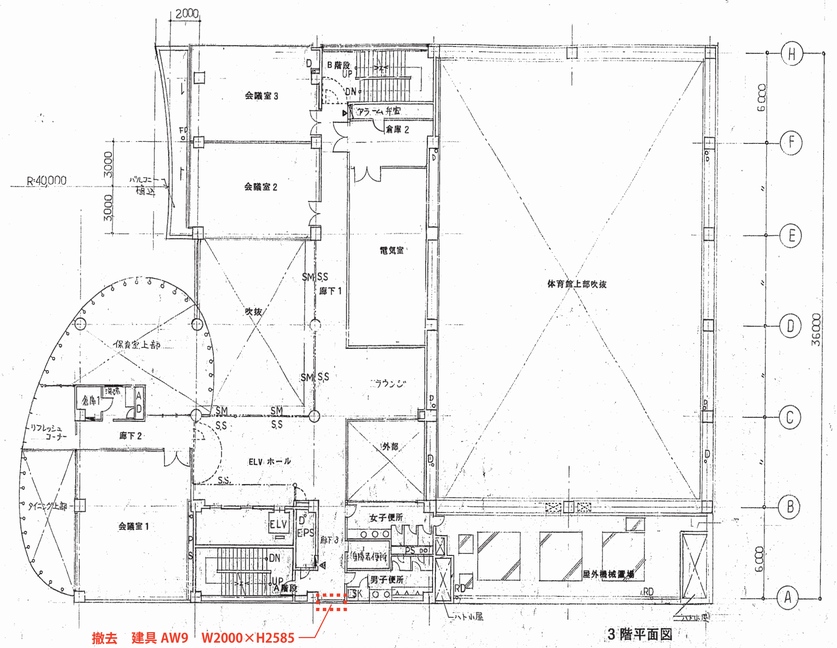
UP

SS

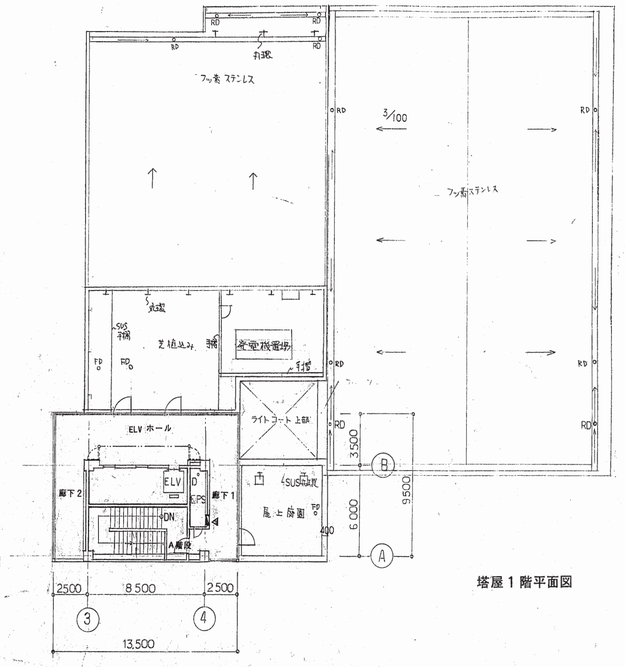
ガラス

ガラス

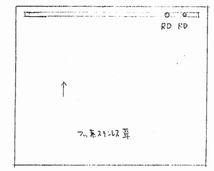
ガラス



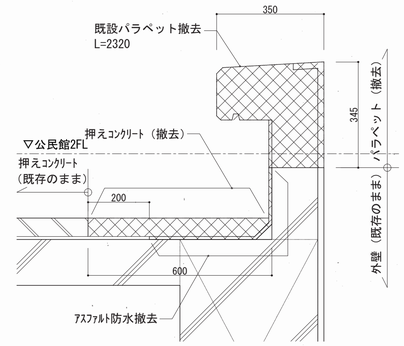
3 階平面図



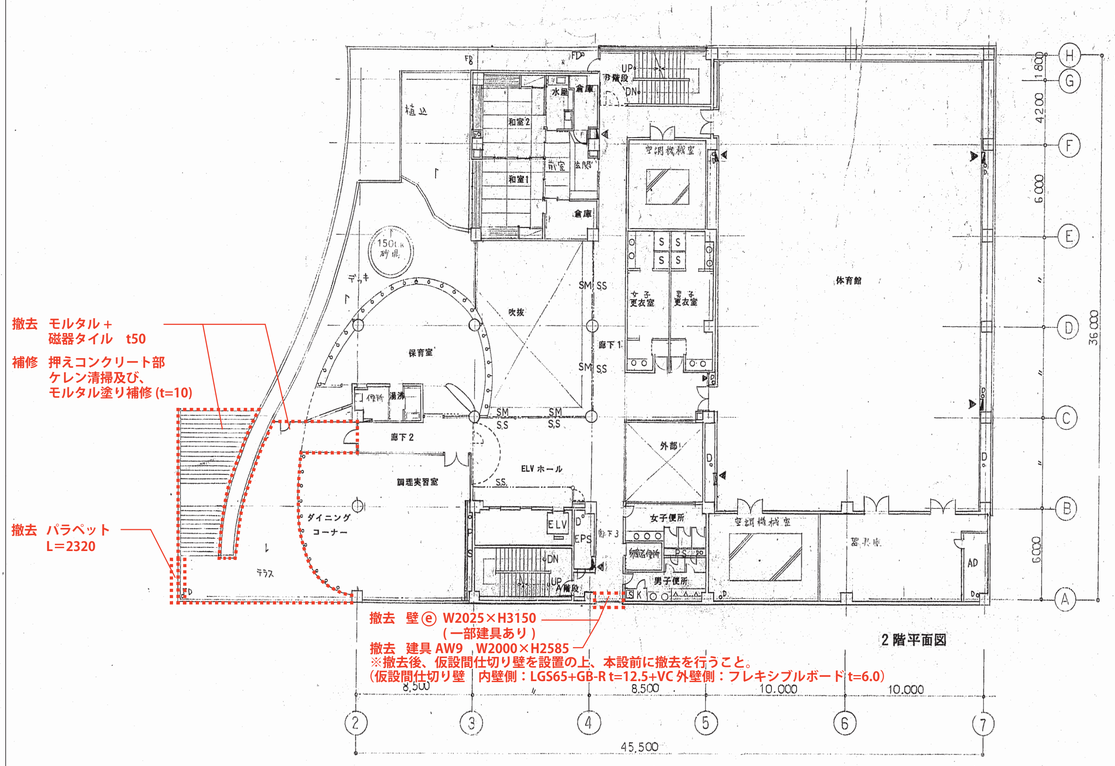
塔屋 1 階平面図



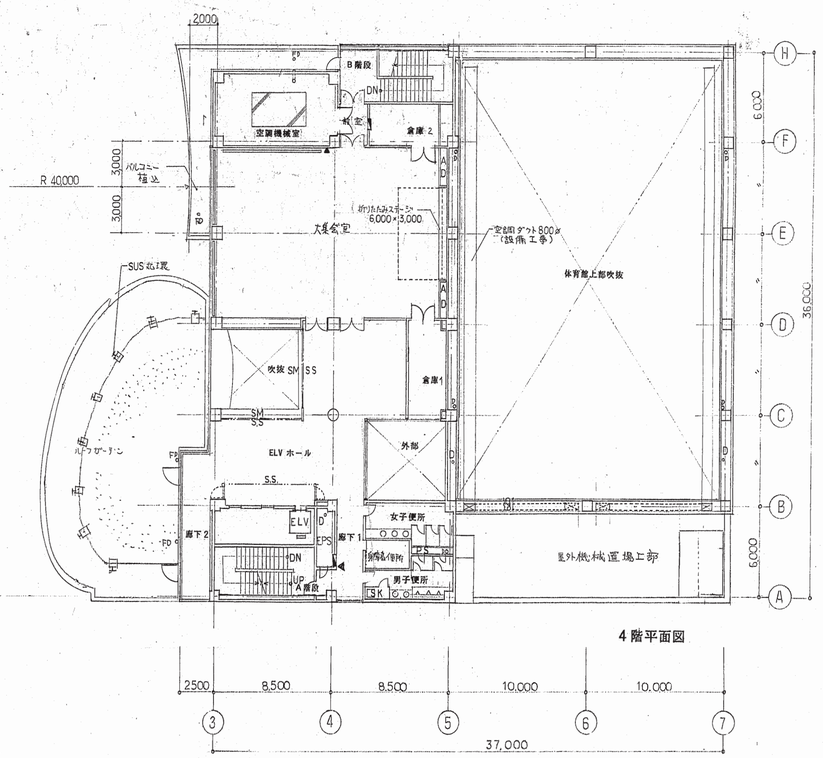
塔屋屋根伏図



既設パラペット 撤去図　1/10

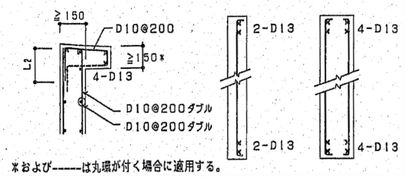


2 階平面図



4 階平面図

4）パラペット，腰壁，たれ壁の自由端の補強
壁の厚さおよび配筋は壁リストによる
• パラペットの配筋　　• 外部に面する腰壁，たれ壁の配筋



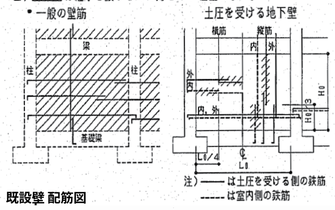
※および------は丸環が付く場合に適用する。

既設パラペット 配筋図

3．7　壁

1）壁の配筋は設計図または 4．11 壁の標準配筋による。
2）▨は壁手を設けるのに好ましい位置を示す。

• 一般の壁筋　　土圧を受ける地下壁

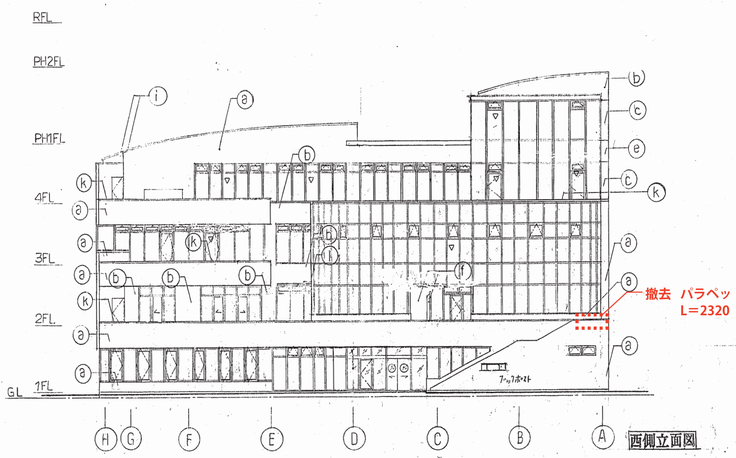


既設壁 配筋図

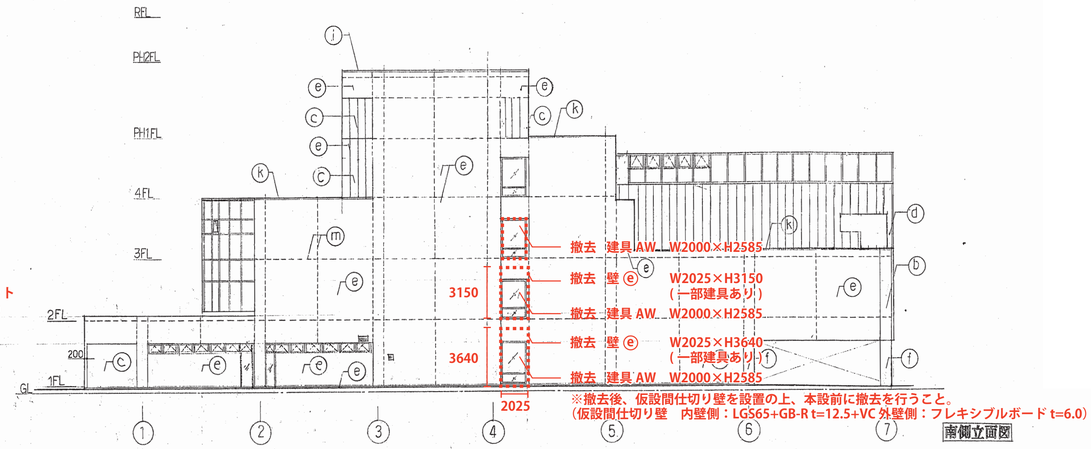


撤去部、足場期間は 1 カ月を想定する。
足場については、防音パネル貼りとする。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-902
図面名称	日の出公民館撤去図 (2)	縮尺(A1) 1/200	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 139
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



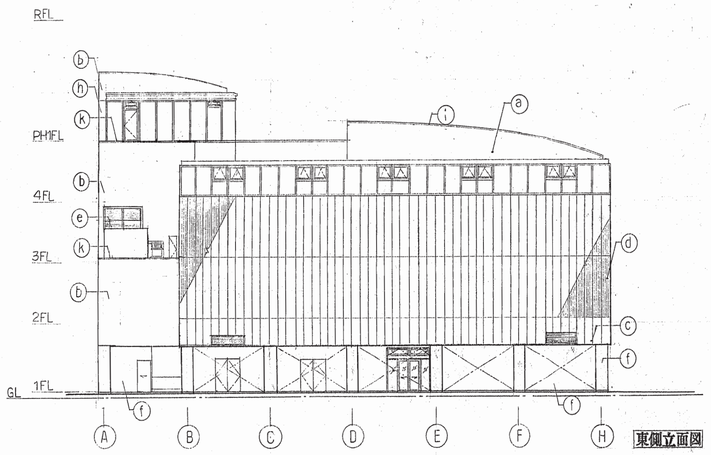
西側立面図



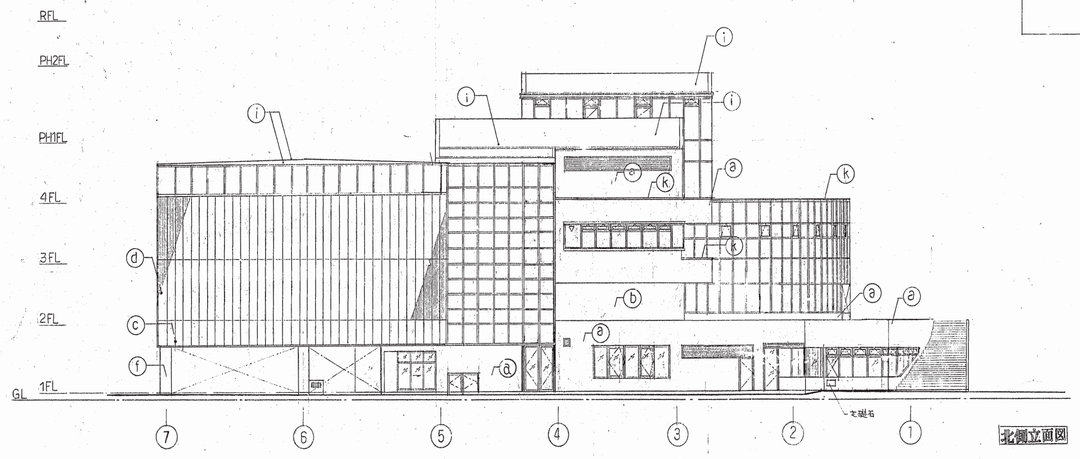
南側立面図

	仕上凡例
a	磁器タイル 18t 密着張り(ウィブラート工法)
b	ライムコートビジョン仕上 淡注色
c	押出成型セメント板 60t の上 フッ素メタリック塗装
d	押出成型セメント板 70t (リブ付)の上 フッ素メタリック塗装
e	アクリルゴム系 吹付タイル
f	化粧打放しコンクリートの上 フッ素クリアー塗装
	)
h	フレキシブルボード 6t+5t VP(外部用)
i	フッ素ステンレス 0.8t 手摺 笠木等 二重トレンチ工法
j	アルミパネル 2.0t (アルマイト・アクリルクリアー)
k	アルミ複合笠木 A-BE
l	金属屋根
m	伸縮目地

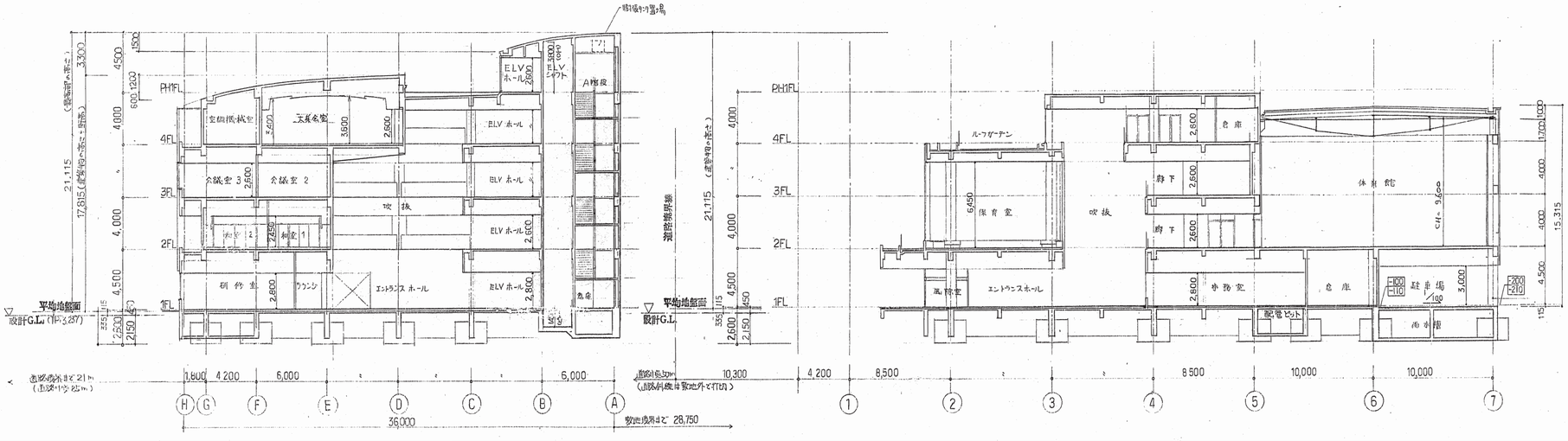
主材・下地調整材共
アスベスト含有



東側立面図



北側立面図



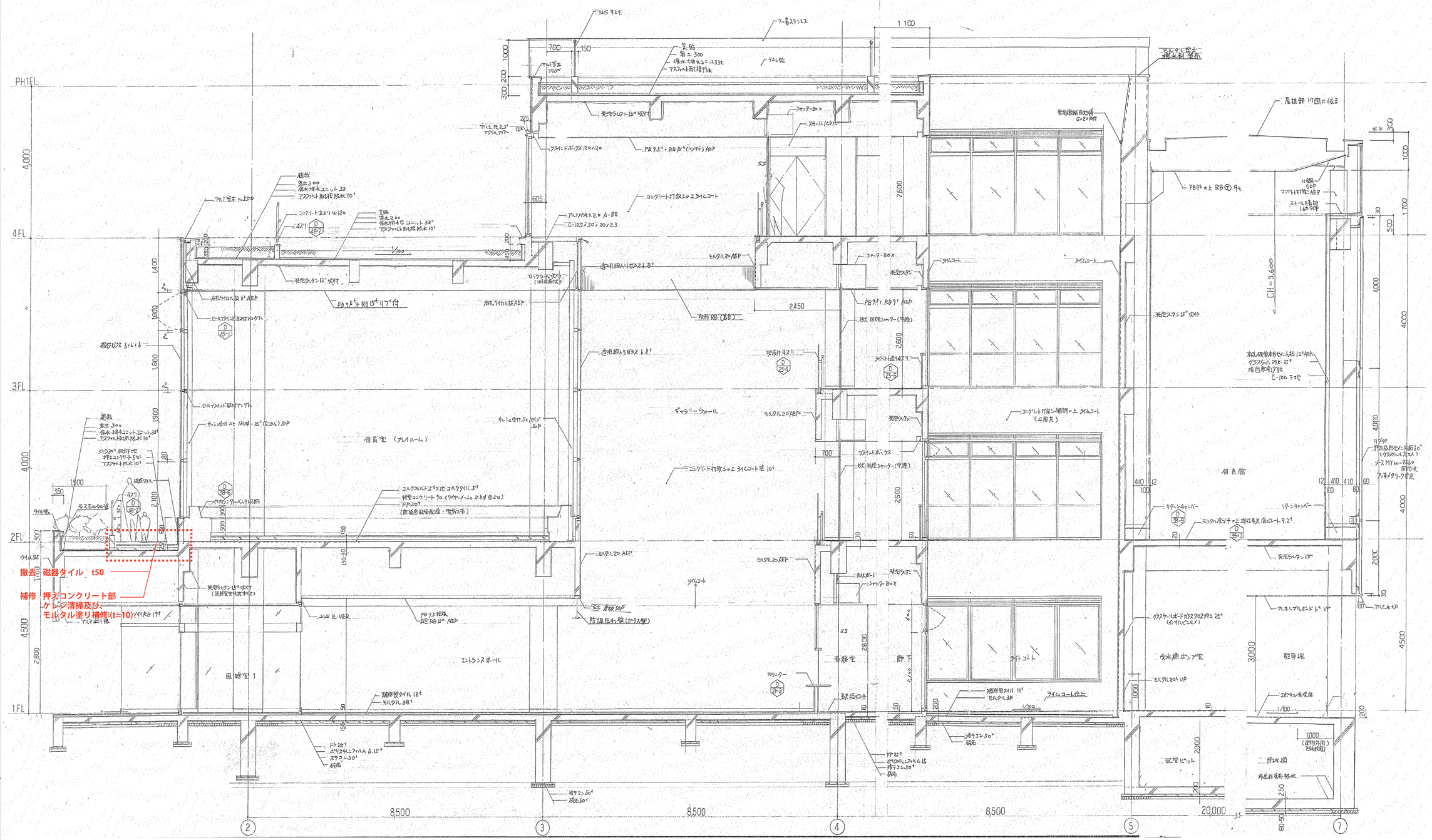
撤去部、足場期間は１カ月を想定する。
足場については、防音パネル貼りとする。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-903
図面名称	日の出公民館撤去図 (3)	縮尺(A1) 1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 140
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全 226 葉

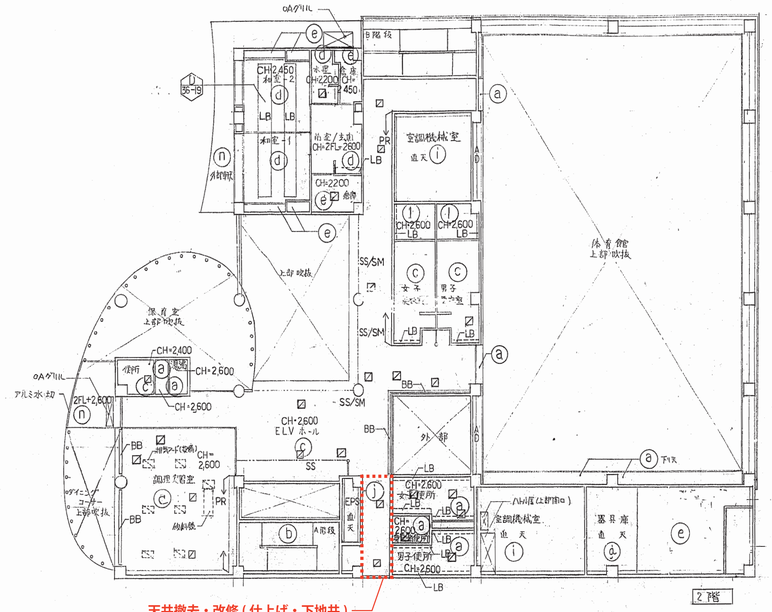
撤去　モルタル＋
磁器タイル　t50
補修　押えコンクリート部
ケレン清掃及び、
モルタル塗り補修 (t=10)

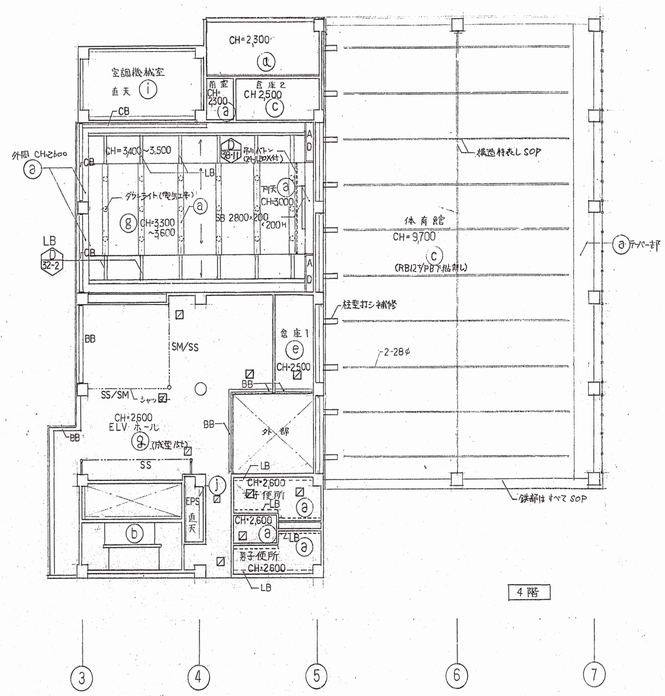
撤去部、足場期間は１カ月を想定する。
足場については、防音パネル貼りとする。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-904
図面名称	日の出公民館撤去図 (4)	縮尺(A1) 1/50	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 141
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-905
図面名称	日の出公民館撤去図 (5)	縮尺(A1) 1/200	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 142
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉





(a)	PB 12.5t　AEP	BB	ブラインドボックス
(b)	コンクリート打放しAEP	CB	カーテンボックス
(c)	着色岩綿吸音板 9.5t　（PB9.5下地）	LB	照明ボックス（冷却具相当品）
(d)	杉柾練付不燃ボード	PR	ピクチャーレール
(e)	化粧石膏ボード	SB	スクリーンボックス
(f)	PB 12.5t ＋ Vクロス	SM	防煙垂壁 設置位置
(g)	着色岩綿吸音板（ヤマド付）	SS	シャッターガイドレール
(h)	アルミスパンドレル A-BE	☐	天井点検口　450×450
(i)	クロスウールボード25t ガラスクロス押え		
(j)	躯体断熱材のみ		
(k)	ケイカル板t6 P		
(l)	パスリア		
(m)	モルタル 20t AEP		
(n)	外部用着色岩綿吸音板 9.5t（掛け落し注入）		
(o)	小波ストレート ガラス貼 ALE AEP		

天井開口補強（空調）

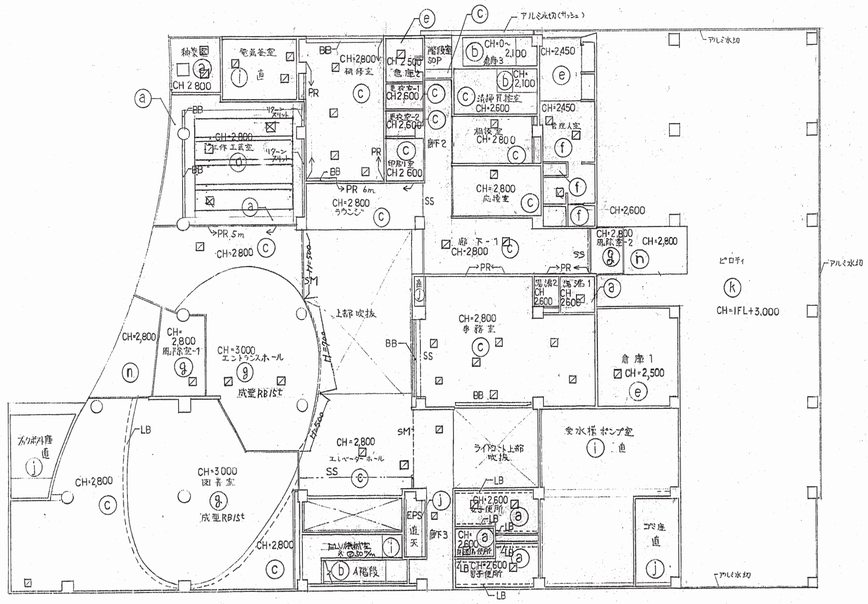
形式	寸法	個数
BLC	84X4,400L	7
	84X3,400L	1
	84X1,800L	1
	84X5,000L	2
	84X1,200L	2
	84X2,400L	2
	84X2,500L	1
	84X4,500L	1
	84X2,000L	1
	84X1,600L	7
BLS	46X2,000L	16
	46X1,500L	17
	46X2,800L	1
	46X3,000L	1
	46X3,500L	1
	46X5,000L	3
SN	200X1,800L	15

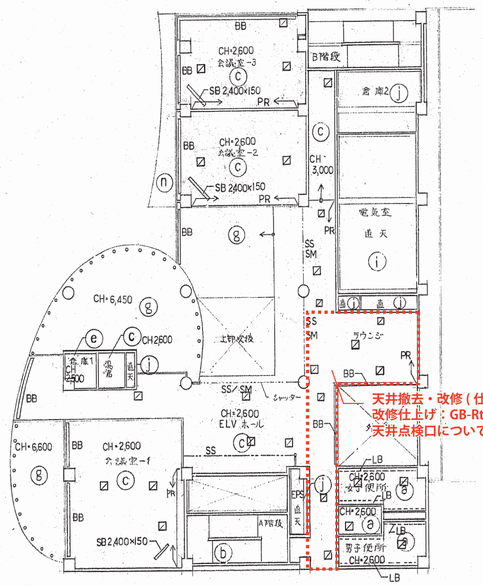
寸法	個数
100X100	2
150X150	7
200X200	15
200X150	1
250X250	10
300X300	12
350X350	4
450X200	3
450X450	1
500X500	13
600X600	2
600X100	4
650X150	2
550X250	6
700X700	2
900X900	2
900X100	1
980X520	2
1,080X520	2
1,280X100	1
1,480X520	3
1,680X520	

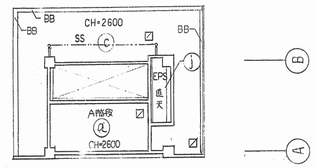
天井開口補強（電気）

寸法	個数
1,200X100	1
1,500X1000	1
1,400X100	3
1,600X100	2
1,700X150	2
2,000X200	1
1,800X100	4

寸法	個数
400X400	33
1,250X300	70
1,250X200	19
1,000X1,000	9
300Ø	10



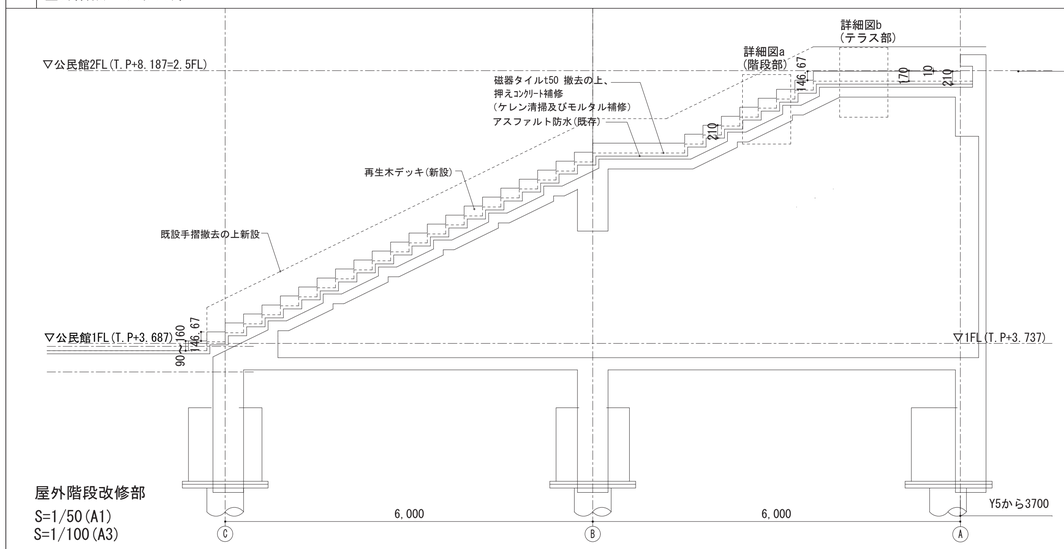




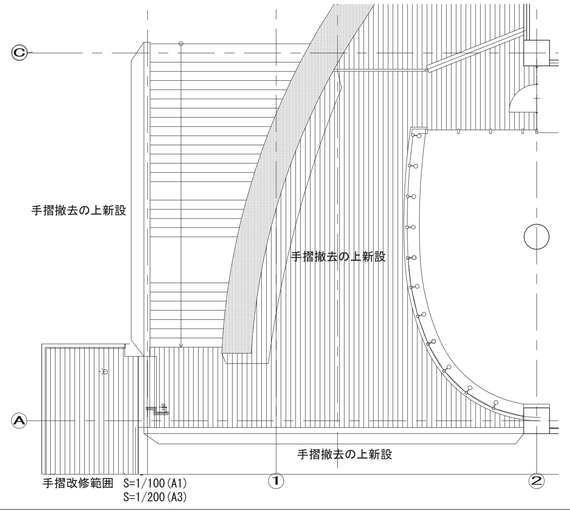
撤去部、足場期間は１カ月を想定する。
足場については、防音パネル貼りとする。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-906
図面名称	日の出公民館撤去図（6）	縮尺(A1) 1/200	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 143
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

1 屋外階段・テラス部 1/50

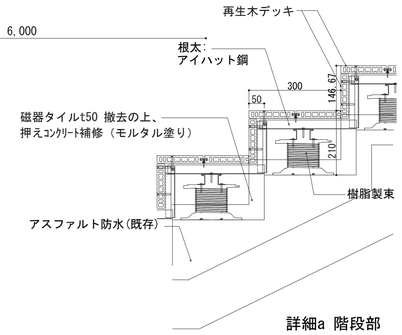


屋外階段改修部
S=1/50(A1)
S=1/100(A3)

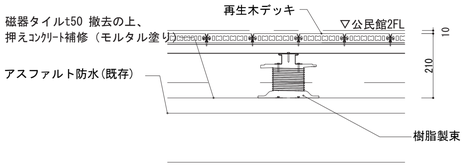


手摺改修範囲 S=1/100(A1) S=1/200(A3)

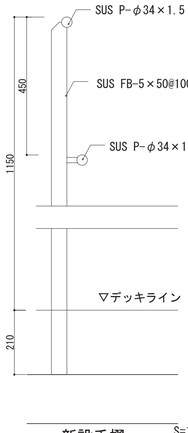
※改修範囲 A902参照



詳細a 階段部 S=1/10(A1) S=1/20(A3)

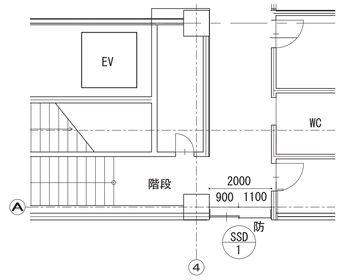


詳細b テラス部 S=1/10(A1) S=1/20(A3)



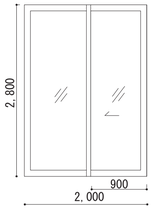
新設手摺 S=1/10(A1) S=1/20(A3)

2 建具表

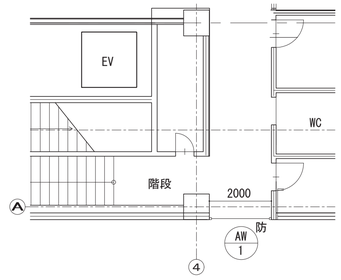


1F平面キープラン 1/100

SSD 1 防火設備

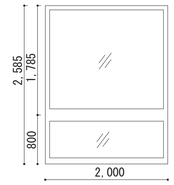


W :2000
H :2800
仕上げ:パイプレーション仕上げ
錠前:電気錠 引戸鍵(鎌錠サムターン付き)
取手:掘込引手
その他:付属金物一式
ｶﾞﾗｽ種別:強化ガラス t=8
備考:扉有効W:900、衝突防止機、自動ドア機器一式、
パニックオープン、横ボックス型、内臓センサー、
無目振込型センサー、
ドアエンジン装置一式、点検口、補助光線



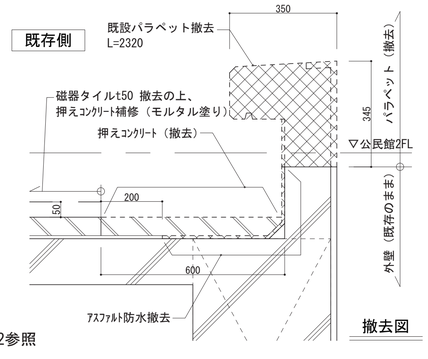
3F平面キープラン 1/100

AW 1 防火設備 FIX

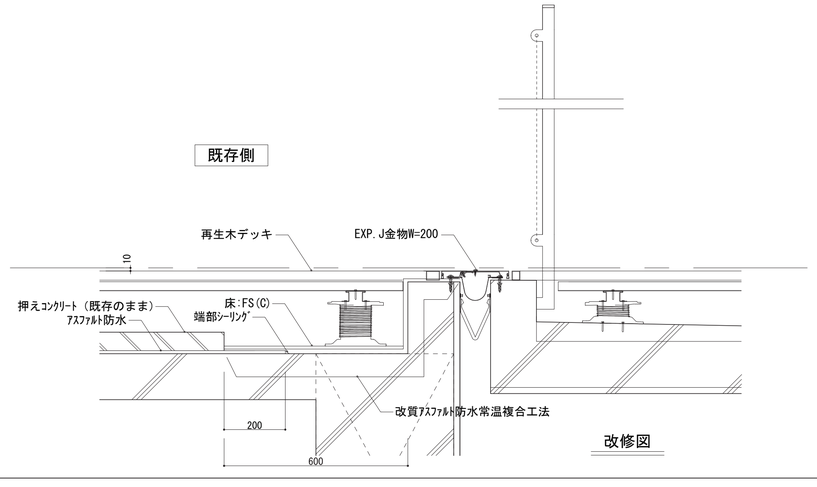


W :2000
H :2585
仕上げ:アクリル樹脂クリア塗装 (マット)
その他:付属金物一式
ｶﾞﾗｽ種別:熱吸収網入磨板ｶﾞﾗｽ t=6.8

3 テラス パラペット・防水改修 S=1/10(A1) S=1/20(A3)



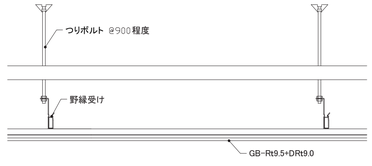
撤去図



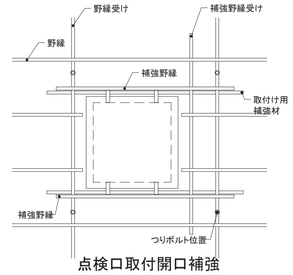
改修図

※改修範囲 A902参照

4 天井詳細 S=1/10(A1) S=1/20(A3)



改修天井部

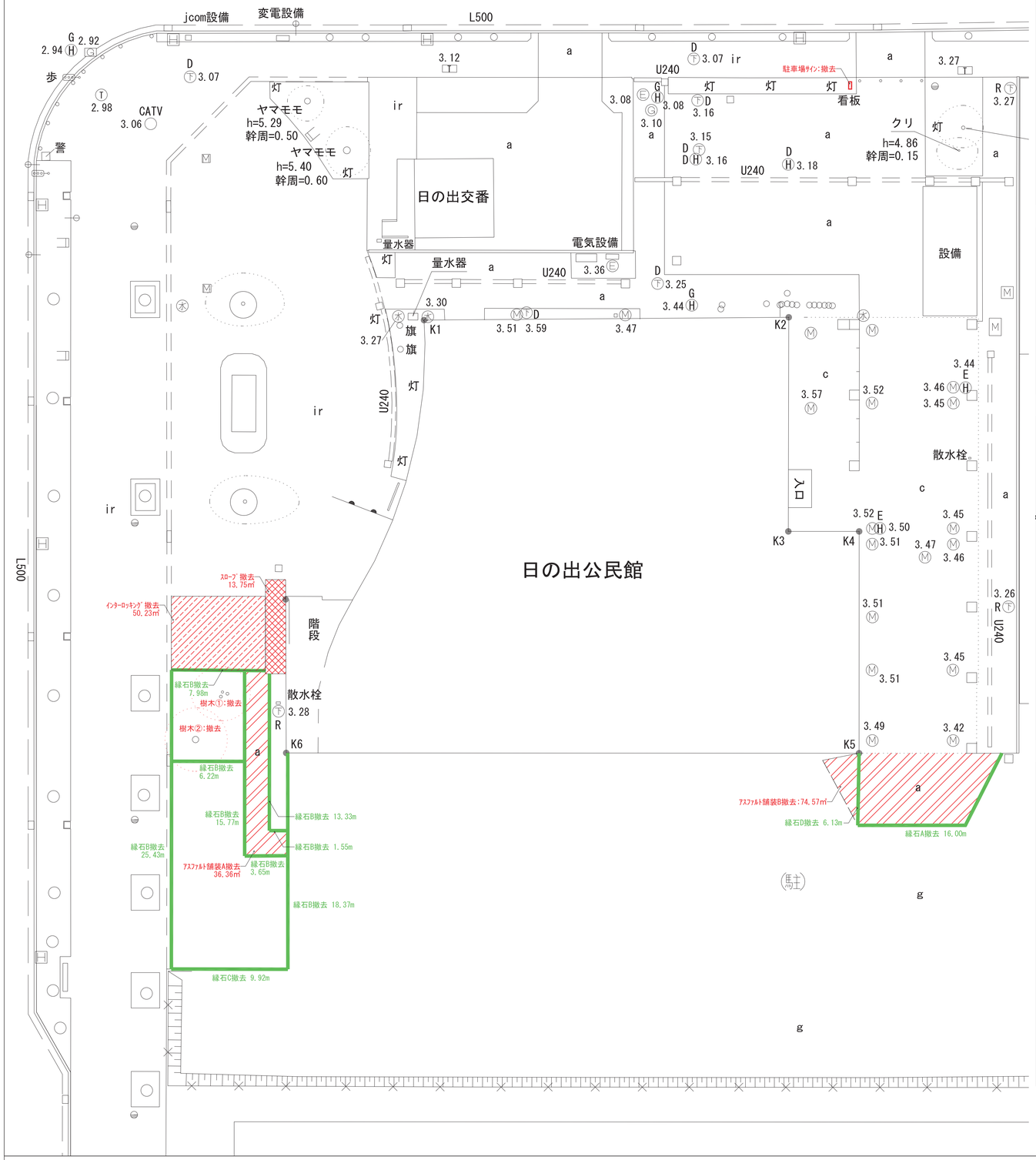


点検口取付開口補強

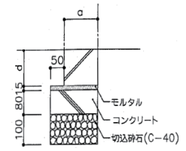
※改修範囲 A906参照

工事名称	(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-907
図面名称	日の出公民館改修図	縮尺(A1)	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 144
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全 226 葉

1 外構舗装等撤去図 1/200



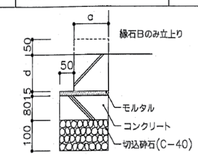
D-6 縁石 A 1:10



型式	a	d
A	120	120

注記
・目地はモルタル7mmとする。
・縁石Aの形式はAとする。
・縁石Bは形式Bとし横断部すべてに4周設ける。製品は
アサノピーシー工業『地先A錆ミカゲ2面仕上げ』同等品とする

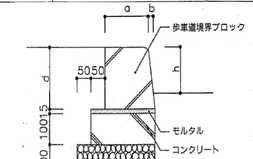
D-6 縁石 B 1:10



型式	a	d
B	150	120

注記
・目地はモルタル7mmとする。
・縁石Aの形式はAとする。
・縁石Bは形式Bとし横断部すべてに4周設ける。製品は
アサノピーシー工業『地先A錆ミカゲ2面仕上げ』同等品とする

D-7 縁石 C・D 1:10



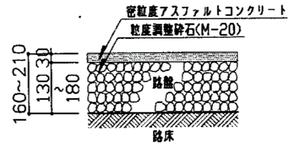
型式	a	b	d	h
A	150	20	200	150
B	180	25	250	200

注記
・形式は 縁石CはA、縁石DはBとする。
・曲線部は曲線半径に合わせたブロックを使用する。
・目地はモルタル7mmとする。

撤去樹木リスト

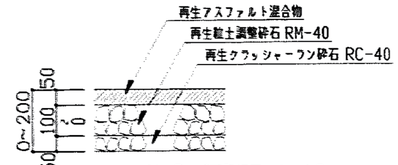
樹木リスト	樹木①	樹木②
樹種	ヤマモモ	ヤマモモ
樹高(m)	5.34	6.75
幹周(m)	0.20、0.25、0.25	0.55
備考	3本株立ち	

アスファルト舗装 A 詳細図 1：10



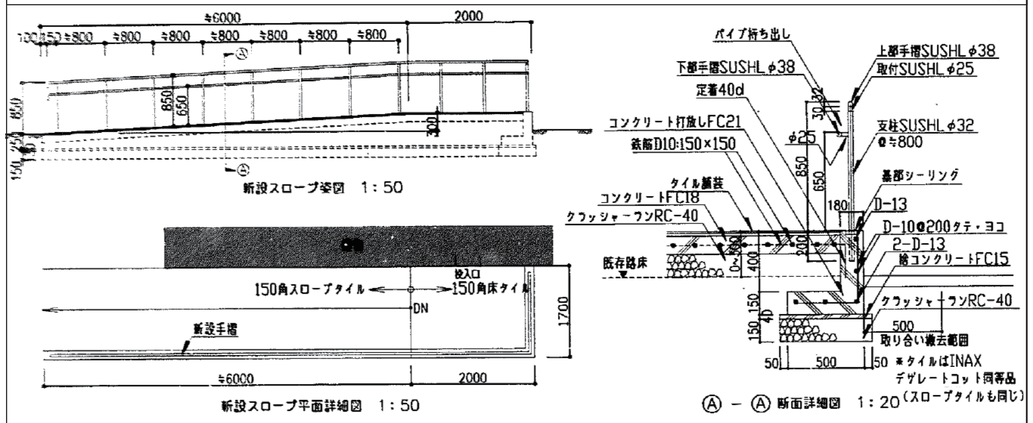
アスファルト舗装 A 断面詳細図 1：10

アスファルト舗装 B 詳細図 1：10



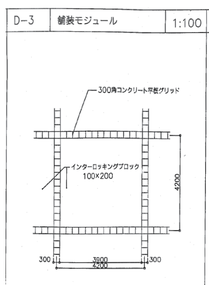
アスファルト舗装B 断面詳細図 1：10

スロープ詳細図 図示



インターロッキング詳細図 図示

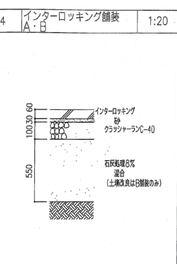
D-3 舗装モジュール 1:100



注記
新設構成は D-4,5参照

D:ES:D1:2-2	芳部	外構	SD1	2-2

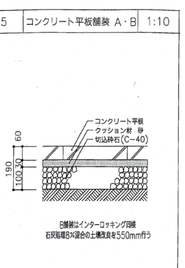
D-4 インターロッキング舗装 A・B 1:20



注記
・改良土CBR 20%以上とする。
・設計CBR（改良後）4%以上とする。
・インターロッキングブロックは
（株）日本興業『ミニアンティーク 100×200』とする

D:ES:D1:2-2	芳部	外構	SD1	2-2

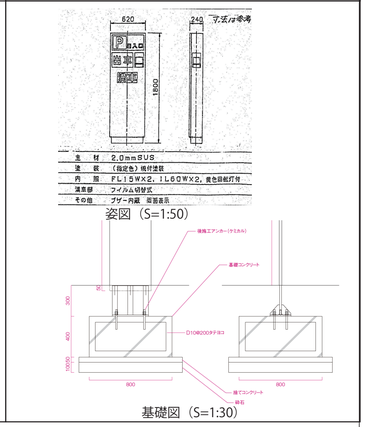
D-5 コンクリート平板舗装 A・B 1:10



注記
・コンクリート平板の種類及び形状は以下とする。
アサノピーシー工業製 『浜路』『美浜』同等品
形状（縦×横 ×厚 ＝300×300×60 ）

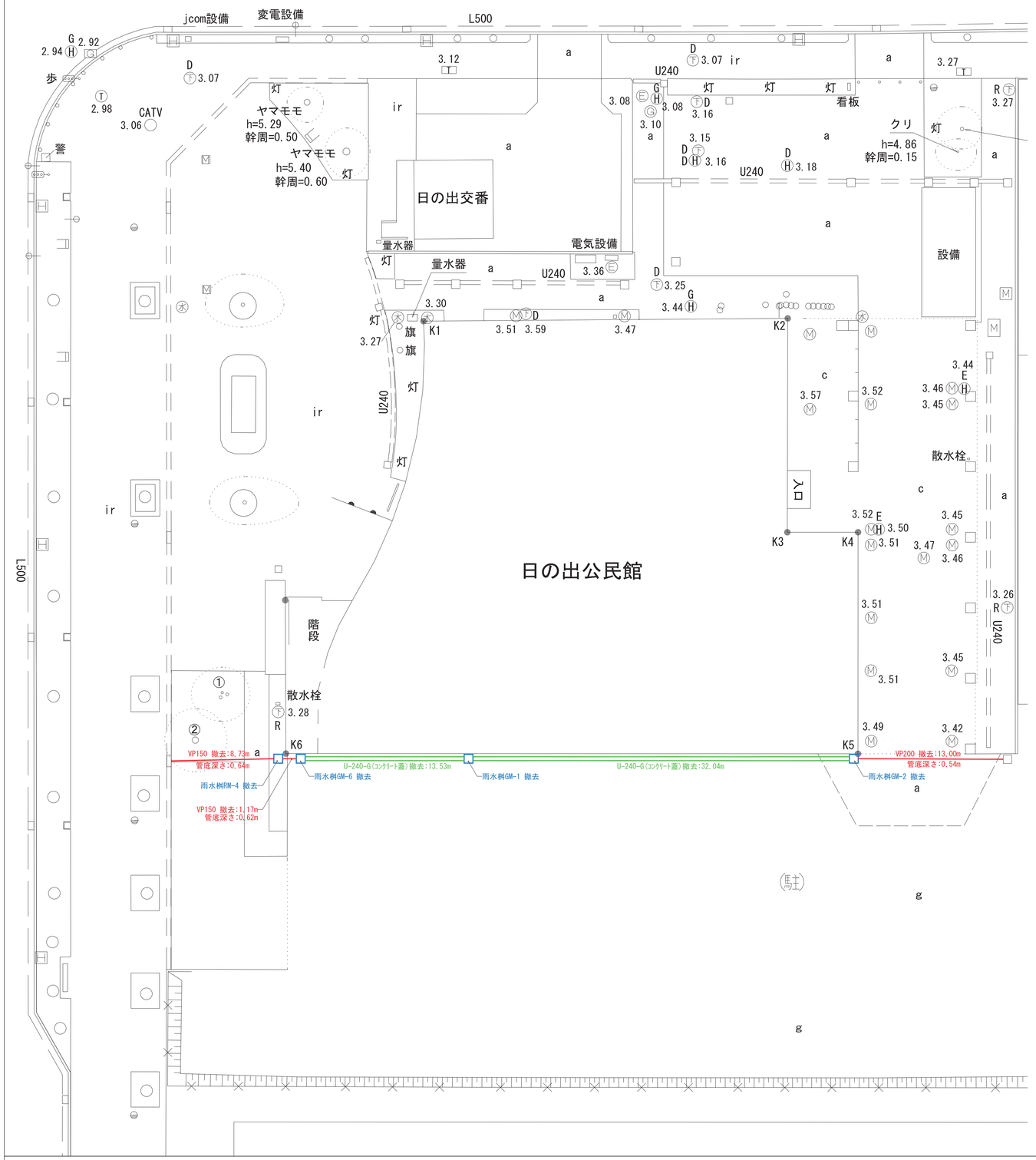
OE103	芳部	外構	SD1	3

駐車場ｻｲﾝ詳細図 ※基礎共撤去とする。 図示



工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-908
図面名称	外構舗装等撤去図	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 145
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全 226 葉

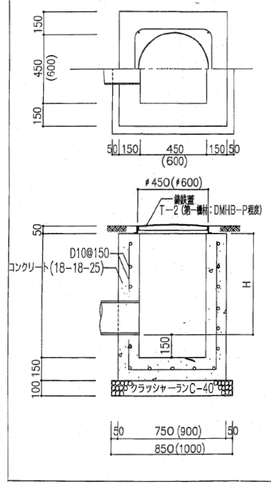
1	外構排水施設撤去図	1/200



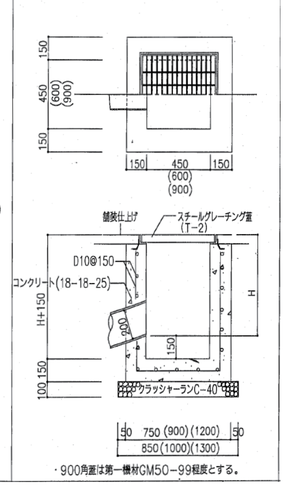
雨水桝リスト

桝タイプ	記号	地盤高	流出管底	桝深(h)	桝形状	蓋仕様	
雨水桝	RM-1	3.64	3.00	640	450 □	インターロッキング用化粧蓋	
	RM-2	3.60	2.91	690	450 □	鋳鉄製	
	RM-3	3.60	2.90	700	450 □	鋳鉄製	
	RM-4	3.59	2.89	700	450 □	鋳鉄製	撤去
	RM-5	3.49	2.90	590	600 □	鋳鉄製	
	RM-6	3.49	2.76	730	600 □	鋳鉄製	
	RM-7	3.64	2.81	830	600 □	鋳鉄製	
	RM-8	3.64	2.77	870	600 □	鋳鉄製	
	RM-9	3.64	2.69	950	600 □	鋳鉄製	
	RM-10	3.64	2.63	1010	600 □	鋳鉄製	
	RM-11	3.54	2.32	1220	900φ	鋳鉄製	
	RM-12	3.43	2.79	640	450 □	鋳鉄製	
集水桝	GM-1	3.59	3.08	510	450 □	スチールグレーチング T-2	撤去
	GM-2	3.59	3.08	510	450 □	スチールグレーチング T-2	撤去
	GM-3	3.64	2.84	800	600 □	スチールグレーチング T-2	
	GM-4	3.49	2.50	990	900 □	スチールグレーチング T-2	
	GM-5	3.48	3.03	450	450 □	スチールグレーチング T-2	
	GM-6	3.59		510	450 □	スチールグレーチング T-2	撤去

D-10 雨水桝構造図(RM-4) 1:20

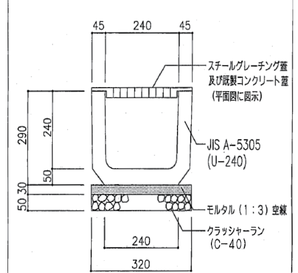


D-11 集水桝構造図 (GM-1,2,6) 1:20



・900角蓋は第一種材GM50-99程度とする。

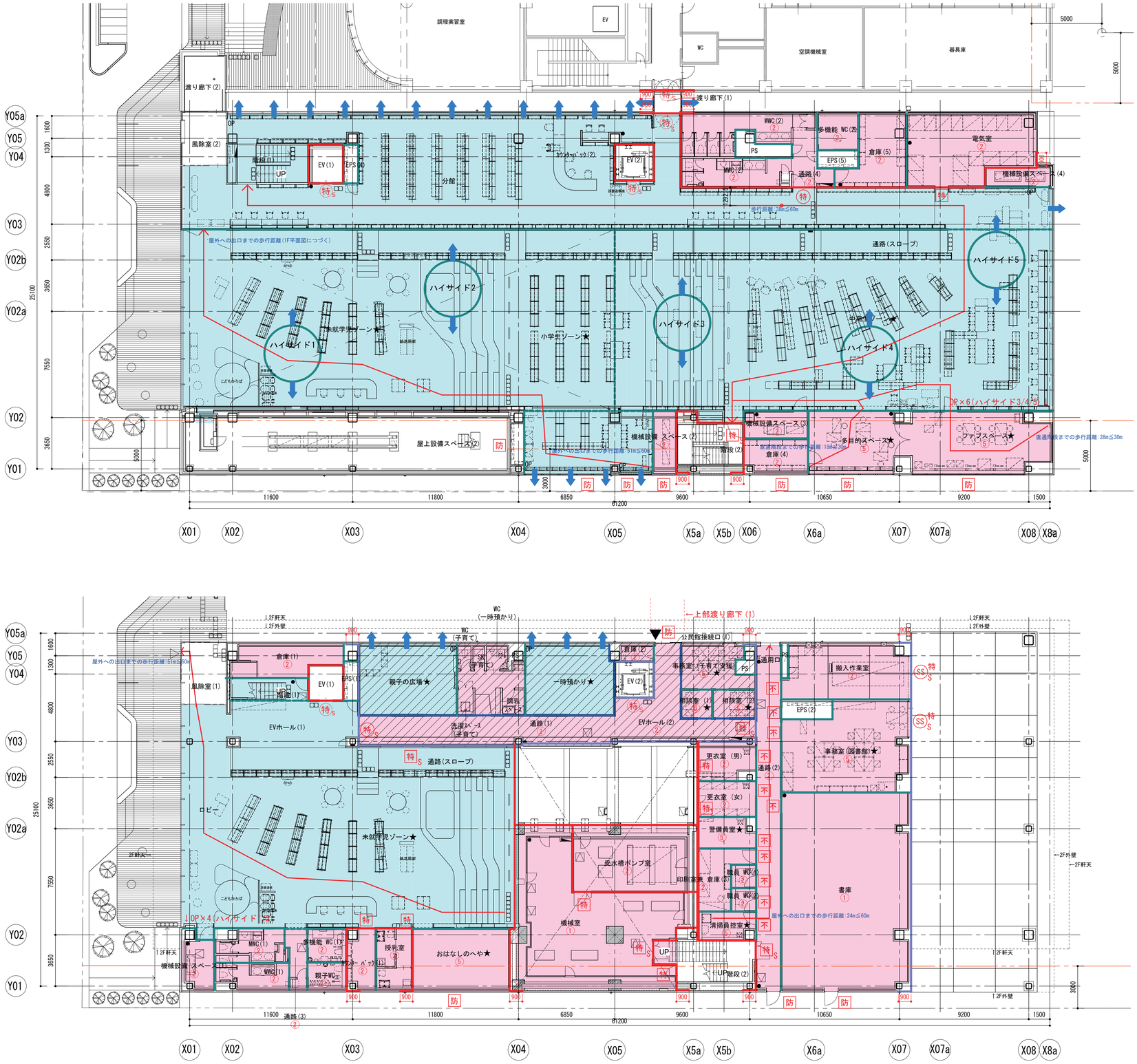
D-8 U型溝構造図(U-240-G) 1:10



注記

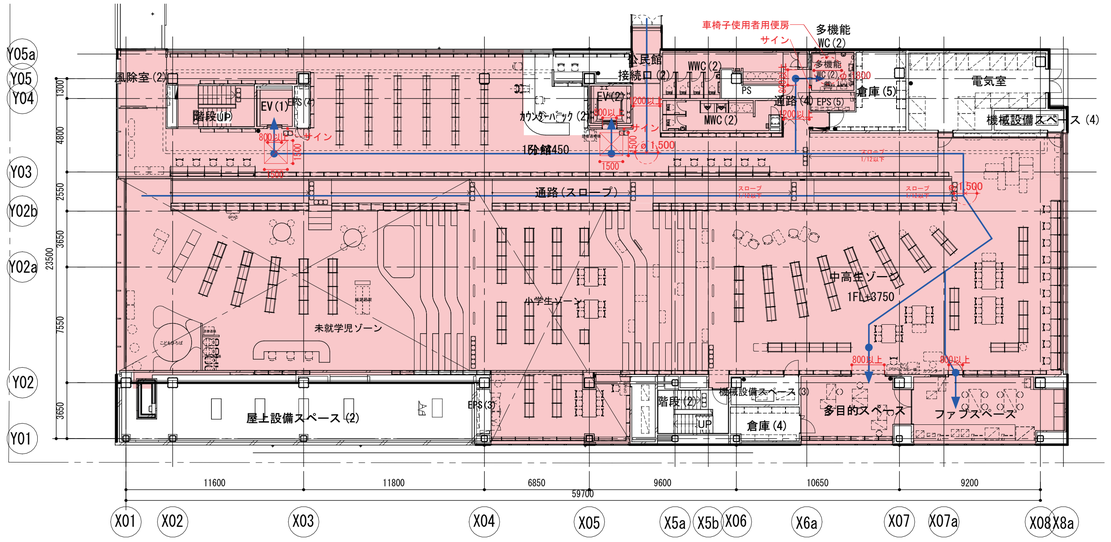
O:E:SD1:2-2	外部	外構	SD1	2-2

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 A-909
図面名称	外構排水施設撤去図	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 146
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

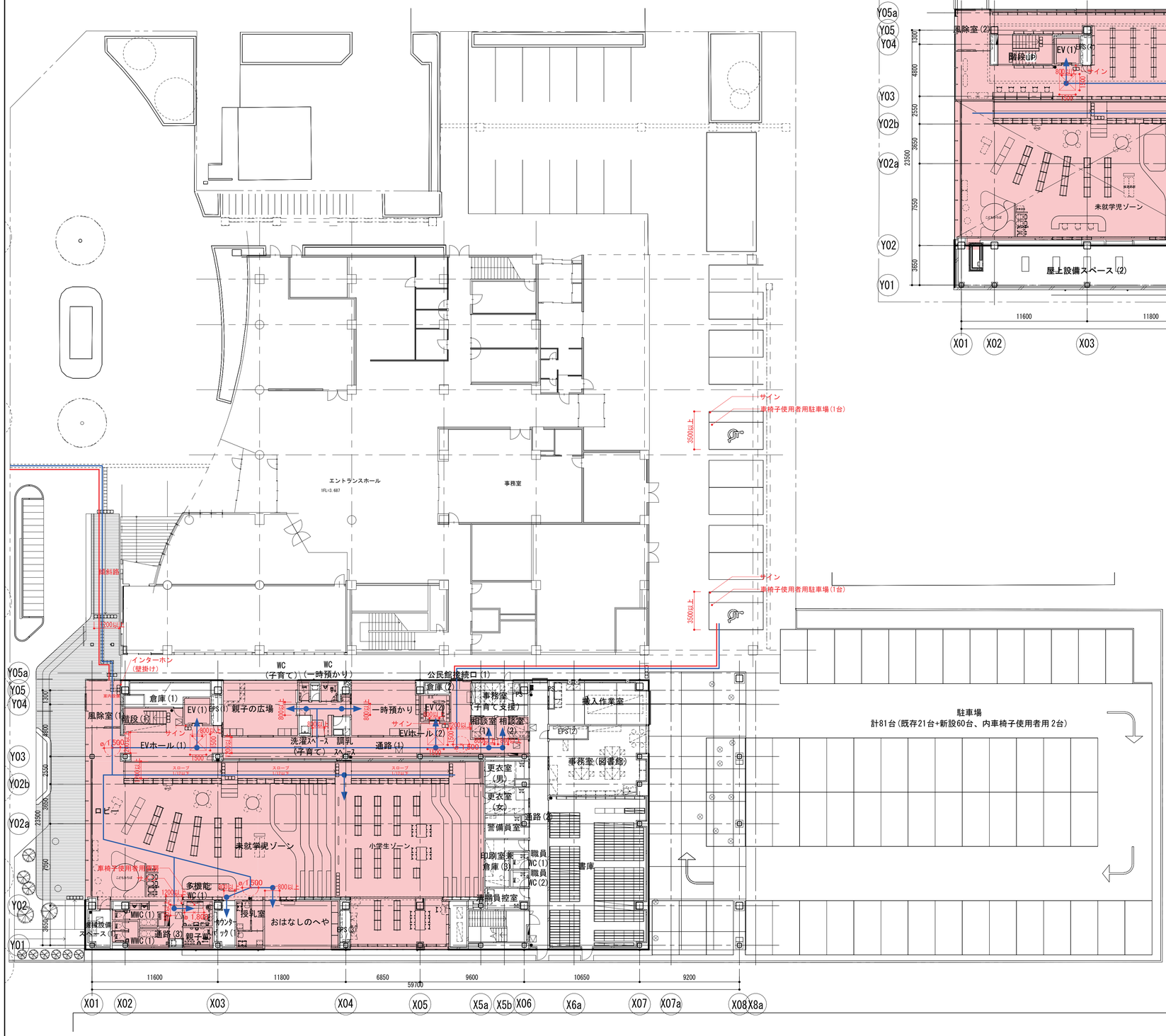


	防火区画（面積区画）（耐火1時間） ※兼防煙区画
	防火区画（竪穴区画）（耐火1時間） ※兼面積区画・防煙区画
	防火区画（水平区画等の自主防火区画）（耐火1時間） ※兼防煙区画
	防火区画（令126条の2第1項第1号）（耐火1時間） ※兼防煙区画
	異種用途区画（法27条）（1H耐火、特定防火設備、遮煙） ※兼面積区画・防煙区画
	令114条区画（耐火1時間）
	自然排煙口
	自然排煙口（ハイサイド）
	防煙区画（間仕切壁）
	防煙区画（垂れ壁）
	延焼のおそれのある範囲
	排煙免除
	自然排煙
①	告示1436-4への(1)による、排煙免除部分 非居室 準不燃+防火設備
②	告示1436-4への(2)による、排煙免除部分 非居室 100㎡以下防煙区画
③	告示1436-4への(3)による、排煙免除部分 居室 50㎡（天井高3m以上の場合100㎡）以下防火区画
④	告示1436-4への(4)による、排煙免除部分 居室 100㎡以下 防火区画 準不燃
⑤	告示1436-4への(5)による、排煙免除部分 居室 100㎡以下 下地共不燃
特	特定防火設備（常時閉鎖式）（告1369号） 令112条19項一号（2563号）
特S	特定防火設備（常時閉鎖式遮煙扉）(告1369号) 令112条19項二号（2564号）
防	防火設備（常時閉鎖式）（告1360号） 令112条19項一号（2563号）
防S	防火設備（常時閉鎖式遮煙扉）（告1360号） 令112条19項二号（2564号）
特	特定防火設備（煙感連動・随時閉鎖式）（告1369号） 112条19項一号（2563号）
特S	特定防火設備（煙感連動・随時閉鎖式遮煙扉） （告1369号）112条19項二号（2564号）
防	防火設備（煙感連動・随時閉鎖式）（告1360号） 令112条19項一号（2563号）
防S	防火設備（煙感連動・随時閉鎖式遮煙扉）(告1360号) 令112条19項二号（2564号）
SS特	特定防火設備（煙感連動・随時閉鎖式）（告1369号） 防火防煙ｼｬｯﾀｰ　令112条19項二号（2564号）
SS防	防火設備（煙感連動・随時閉鎖式）（告1369号） 防火防煙ｼｬｯﾀｰ　令112条19項二号（2564号）
不	常時閉鎖式不燃扉
不	煙感連動随時閉鎖式不燃扉
OP	排煙オペレーター （設置高さは、床面から0.8m以上1.5m以下）
▼	主要な出入口
★	令第116条の2第1項第1号に規定する採光無窓の居室 （非常用照明および直通階段までの歩行距離の措置を講じる。）
←	歩行距離
←-	重複距離
	敷地内通路（令128条）
	区分8220 児童福祉施設等

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-001
図面名称	1階/2階 防火区画図	縮尺(A1) 1:150	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 147
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉



2FL バリアフリーチェック



1FL バリアフリーチェック

経路
・移動等円滑化経路を1以上敷設する
　・道等から利用居室までの経路
　・利用居室から車椅子使用者用便房までの経路
　・車椅子使用者用駐車施設から利用居室までの経路
　・公共用歩廊の一方の道から他方の道等までの経路

廊下等
・幅120cm以上
・表面は粗面とし、または滑りにくい材料で仕上げとする
・階段または傾斜路の上端廊下部分に点状ブロックを敷設
・廊下の末端及び50m以内ごとに車椅子の転回に支障がない場所を設ける
・戸を設ける場合は容易に開閉し車椅子使用者が容易に通過可能な構造かつ前後に段差を設けない

階段
・表面は粗面とし、または滑りにくい材料で仕上げとする
・踊り場を除き手すりを設ける
・踏面端部とその周囲の明度差をつける
・段鼻等につまずきの原因になるものを設けない
・段上段に近接する踊り場部分に点状ブロックを敷設
・主たる階段は、回り階段でない

傾斜路
・表面は粗面とし、または滑りにくい材料で仕上げること
・勾配1/12を超えまたは高さ16cmを超える傾斜部には手すりを設置
・高さ75cmを超えるものは、高さ75cm以内に踊場（踏幅150cm以上）
・前後の廊下と明度差をつける
・傾斜部上端に近接する踊り場部分に点状ブロックを敷設
・すべての傾斜路のスロープを設置

出入口
・幅80cm以上
・戸を設ける場合は容易に開閉し車椅子使用者が容易に通過可能な構造かつ前後に段差を設けない

駐車場
・車椅子使用者用駐車場を設置する
　（設置台数：81台（内新設60台）≦100→2台以上）
・車椅子使用者用駐車場施設は幅350cm以上である
・車椅子使用者用駐車場施設は利用居室までの経路が短い位置に設置する

EV
・停止階　各階（1～2F）
・籠、昇降路の出入口幅80cm以上
・籠の奥行135cm以上
・乗降ロビーは高低差なく幅及び奥行 150cm以上
・車椅子利用者が使いやすい位置に制御装置を設置
・籠内に停止予定階、現在位置表示を設置
・乗降ロビーに昇降方向表示を設置
・籠内に到着階、戸の開閉、昇降方向を音声により知らせる装置を設置
・籠内、乗降ロビーの制御装置に点字表示を設置

便所
・出入口幅80cm以上
・車椅子使用者用便房を1以上設置
・車いす使用者用便房　非常ベルの設置
・オストメイトを1以上設置
・オストメイト対応サインの設置
・低リップ型小便器を1以上設置
（床置き式小便器、壁掛け式小便器等）

標識
・バリアフリー法の対象となるエレベーター、便所、駐車場の見やすい位置に設置する
・標識の内容がJIS8210（案内用図記号の規格）に適合する

敷地内通路
・幅120cm以上とする
・区間50m以内毎に転回可能な場所を設ける
・戸は車椅子使用者が通過しやすいものとし、前後に水平部分を設ける
・傾斜路は幅120cm以上とし、勾配は1/12以下とする
・表面は滑りにくい仕上げとする
・傾斜路は前後の通路と識別しやすい色の明度差とする

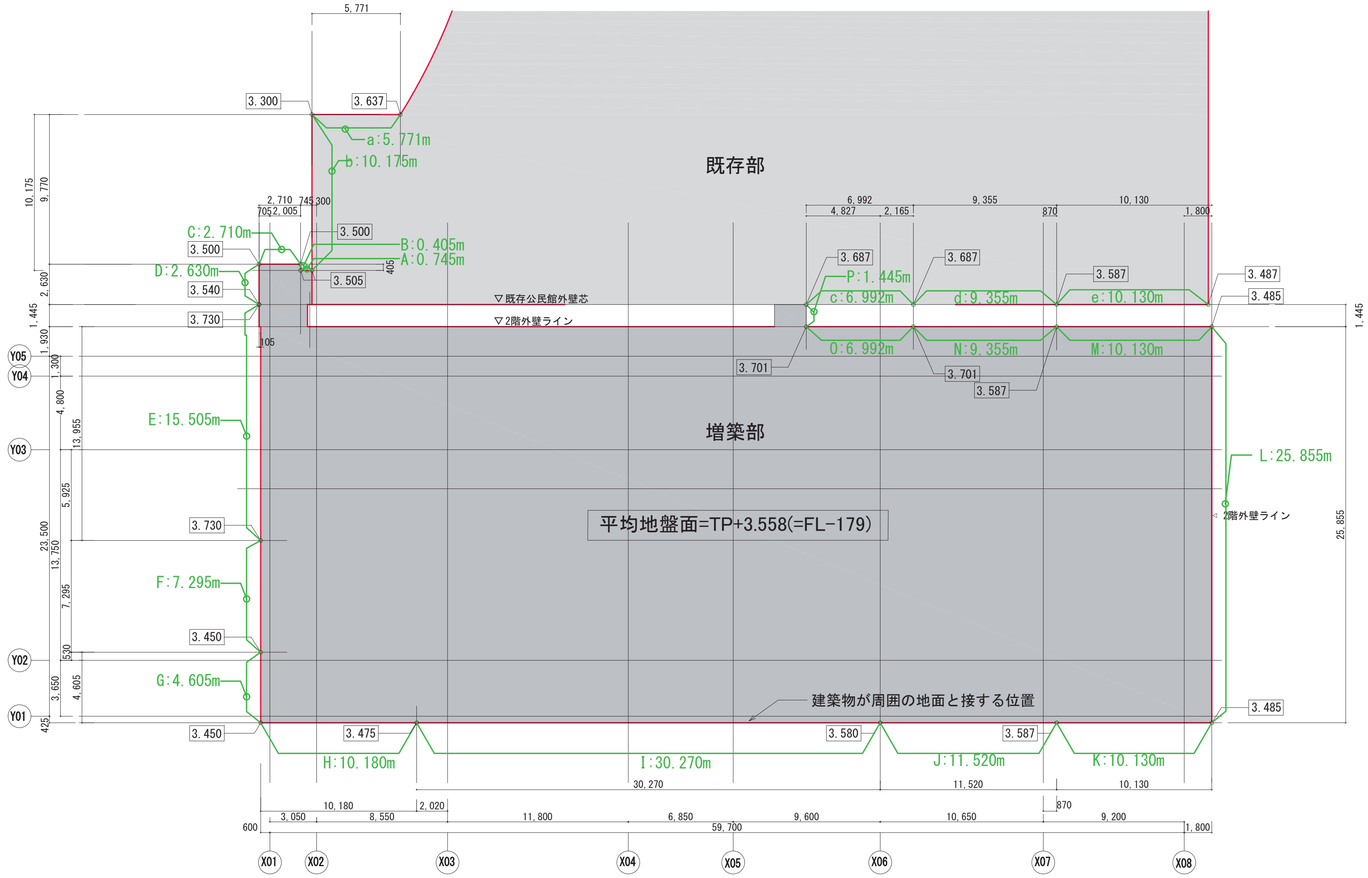
案内設備
・便所/昇降機/駐車施設等の位置を表示した案内設備を設置する
・案内設備は点字又は音による案内等視覚障害者が円滑に利用することができる

案内設備までの経路
・視覚障碍者移動等円滑化経路を1以上敷設する
・線状ブロック及び点状ブロック等の敷設又は音声等により誘導する設備を設置する
・車路に近接する部分に点状ブロック等を敷設する
・段又は傾斜がある部分の上段に点状ブロック等を敷設する

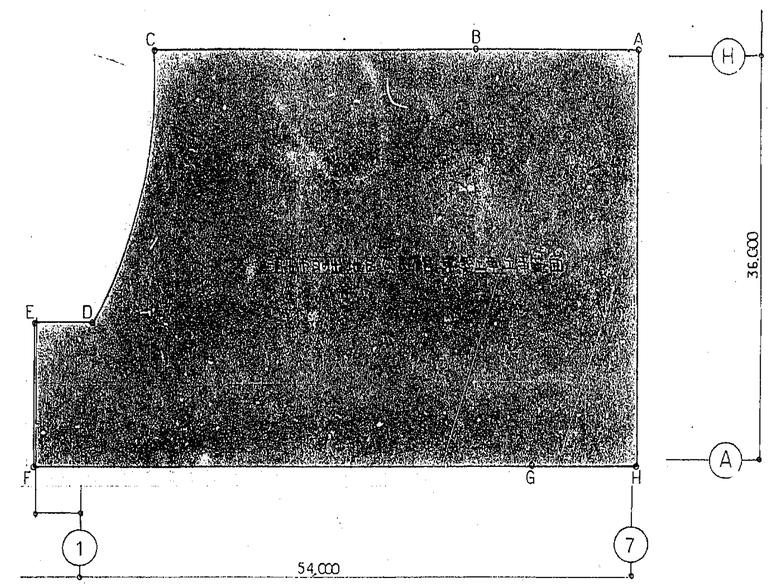
1.000 数値以上の幅が確保されていることを示す
敷地内通路
レベル
移動等円滑化経路
利用居室
視覚障害者誘導床材
視覚障害者注意喚起床材

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事
図面名称	1階/2階 バリアフリーチェック図
縮尺 (A1)	1:200
図面番号	EX-002
担当課	生涯学習部　生涯学習課
工事番号	08-01
通し番号	148
	健康こども部　こども課
	財務部　営繕課
	全 226 葉

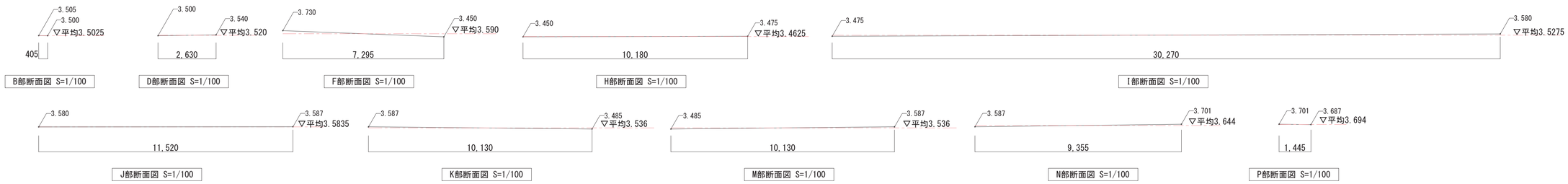
1 平均地盤面算出平面図(増築部) 1/150



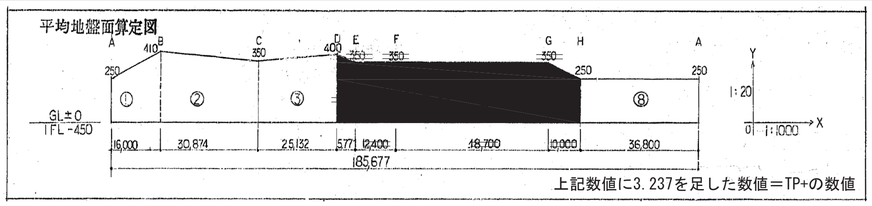
2 平均地盤面算出平面図(既存部) 1/150



3 増築部部分断面図 1/100



4 既存部部分断面図



①:TP=3.237+(0.25+0.41)/2=3.5670
②:TP=3.237+(0.41+0.35)/2=3.6170
③:TP=3.237+(0.35+0.40)/2=3.6120
a :TP=(3.637+3.300)/2=3.4685
b :TP=(3.300+3.505)/2=3.4025
c :TP=3.6870
d :TP=(3.687+3.587)/2=3.6370
e :TP=(3.587+3.487)/2=3.5370
⑧:TP=3.237+0.25=3.3.487

5 平均地盤面算出表

増築部平均地盤面算出表

	TP+	長さ	(TP+)×(長さ)
A	3.5050	0.745	2.611225
B	3.5025	0.405	1.418513
C	3.5000	2.710	9.485000
D	3.5200	2.630	9.257600
E	3.7300	15.505	57.833650
F	3.5900	7.295	26.189050
G	3.4500	4.605	15.887250
H	3.4625	10.180	35.248250
I	3.5275	30.270	106.777425
J	3.5835	11.520	41.281920
K	3.5360	10.130	35.819680
L	3.4850	25.855	90.104675
M	3.5360	10.130	35.819680
N	3.6440	9.355	34.089620
O	3.7010	6.992	25.877392
P	3.6940	1.445	5.337830
合計		149.772	533.039

既存部平均地盤面算出表

	TP+	長さ	(TP+)×(長さ)
①	3.5670	16.000	57.072000
②	3.6170	30.874	111.671258
③	3.6120	25.132	90.776784
a	3.4685	5.771	20.016714
b	3.4025	10.175	34.620438
c	3.6870	6.992	25.779504
d	3.6370	9.355	34.024135
e	3.5370	10.130	35.829810
⑧	3.4870	36.8	128.3216
合計		151.229	538.112

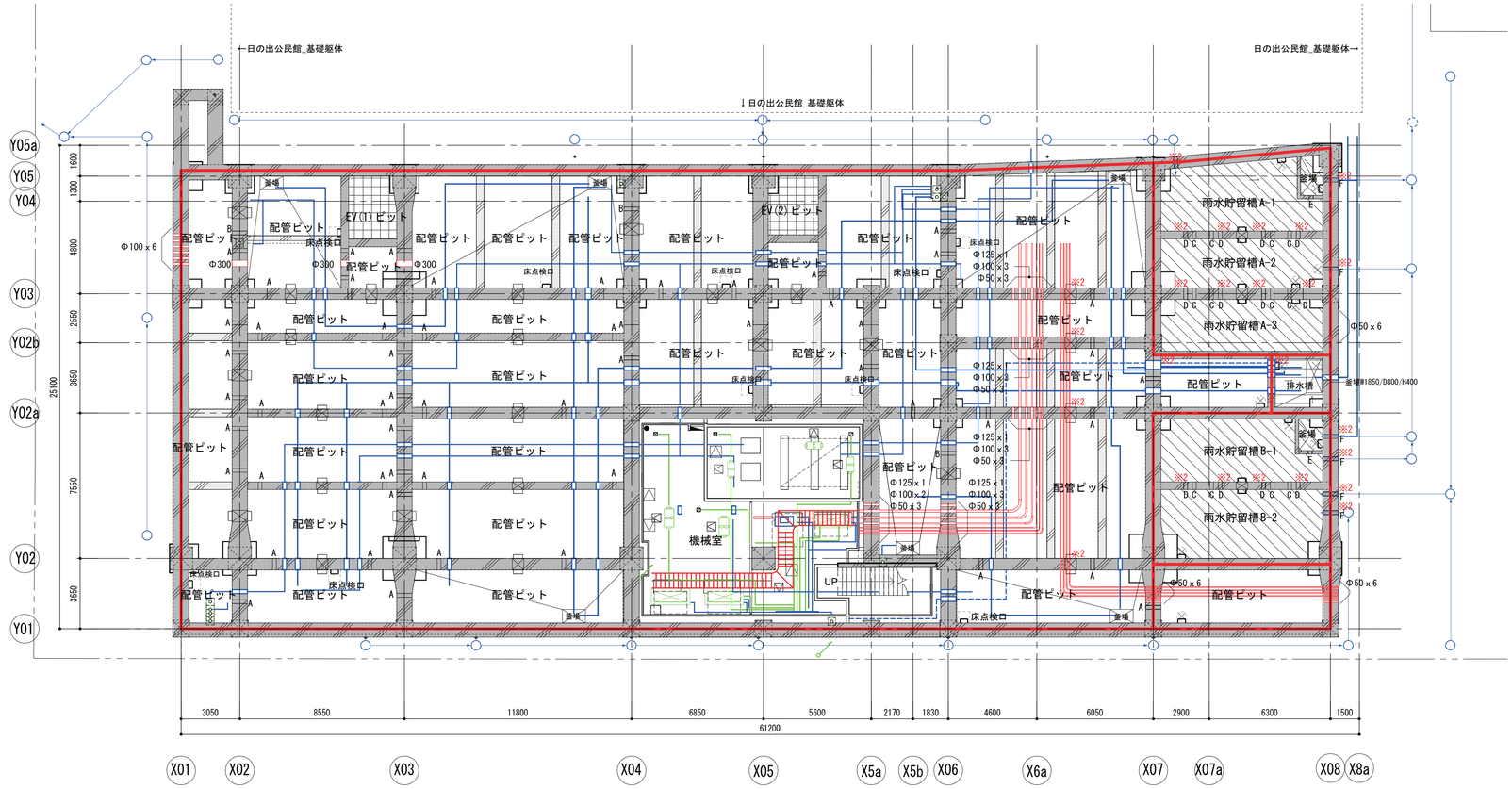
増築部＋既存部平均地盤面算出表

合計	301.001	1071.151
{Σ (TP+)×(長さ)}/全長=		3.558629378

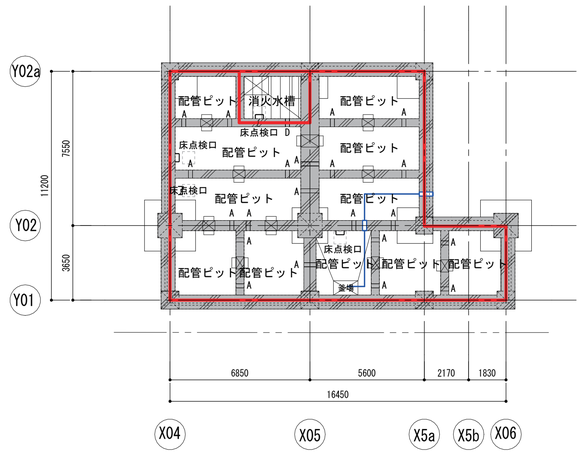
平均地盤面≒3.558 (=1FL-179mm)

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-003
図面名称	平均地盤面算定図	縮尺(A1) 図示	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 149
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

1 ピット階



2 ピット階（機械室下）



	SUSフック(22φ) 人通孔 V0600φ	Ⓒ	通水孔 150φ(半割) ※孔径特記なき限り150	Ⓕ	流出入管 ※径及びﾚﾍﾞﾙは詳細図参照		釜場 (特記以外 W1200×D700×H600)		防水範囲		埋め戻し		地中梁下げ 上フカシ範囲		
Ⓐ	通気孔100φ 通水孔 150φ(半割)	Ⓓ	オーバーフロー管(φ150) ※ﾚﾍﾞﾙは詳細図参照	※1	スラブ上のルートを示す		タラップ		水勾配(釜場のあるピットのみ、釜場に向けて勾配を設ける。特記なき限り、+30mmふかし)		消火水槽		止水板(2段)		
Ⓑ	通気孔100φ	Ⓔ	オリフィス管 ※径及びﾚﾍﾞﾙは詳細図参照	※2	上ふかし部分を貫通する		上部点検口を示す				雨水貯留槽		雨水桝(新設)		
							上部マンホールを示す				排水槽		雨水桝(既設)		
							スリーブ(特記なき限りφ200)				EVピット		雨水ルート		
											記載なき限り 配管ピット				

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-004
図面名称	ピット階スリーブ図	縮尺(A1) 1:150	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 150
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全 226 葉

工事車両出入口1
パネルゲート(W3.6×H4.5)
交通誘導員
工事車両出入口2
交通誘導員
敷鉄板　t 22
浦安市消防本部日の出出張所
の量水器を移設(仮設計画図4を参照)
EX-009参照
隣地使用可能範囲
敷鉄板　t 22
パネルゲート(W6.3×H4.5)
日の出公民館(既存部)
ラフタークレーン 25t(7カ月)
残土置場
資材置場
現場事務所
フラットパネル H3.0m
掘削基礎工事
親杭横矢板
掘削+切梁(2段)
※山留は構造山留図参照とする

▽道路境界線 134-P4010 134-P4011 10.201 ▽道路境界線 134-P4012 32.748 134-P4013
▽道路境界線 9.970 134-P4009
▽隣地境界線 14.685
▽隣地境界線 14.706
134-P4018 134-P4017 ▽隣地境界線 22.516
14,500 58,200
4,200 8,500 8,500 8,500 8,500 10,000 10,000
1 2 3 4 5 6 7
21,000 6,000 6,000 6,000 6,000 6,000 6,000
53,000 36,000
G F E D C B A
▽隣地境界線 ▽道路境界線 68.726
▽隣地境界線 25.931 134-P4020 ▽隣地境界線 7.885 134-P4019
22.567
Y05 Y04 Y03 Y02 Y01
134-P4008 10.086
▽道路境界線 9.999
▽隣地境界線 9.960
134-P4007 △隣地境界線 39.397 134-P4024 △隣地境界線 66.962 134-P4023
X01 X02 X03 X04 X05 X06 X07 X08
配管ピット 消火水槽 床点検口 ピット

凡　例

	敷鉄板 t22　1524×6096(21カ月)
	敷鉄板 t22　1219×2438(21カ月)
	敷鉄板 t22　1524×3048(21カ月)
	仮囲い(フラットパネル H=3.0)
	シートパイル(7か月)
	パネルゲート (特記なき限りW7.2 H4.5)
	交通誘導員(21カ月)
	足場(7カ月)
	騒音振動計(21カ月)

工事名称	(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-005
図面名称	仮設計画図(1)	縮尺(A1) A1: 1/400 A3: 1/800	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 151
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

工事車両出入口1

パネルゲート(W3.6×H4.5)

交通誘導員

工事車両出入口2

交通誘導員

敷鉄板　t 22

EX-009参照

隣地使用可能範囲

敷鉄板　t 22

パネルゲート(W6.3×H4.5)

外周埋戻し

地盤改良
約150㎡

親杭横矢板

シートパイル残置

切梁解体+上部躯体工事

掘削・基礎工事　※山留は構造山留図参照とする

フラットパネル H3.0m

残土置場

資材置場

現場事務所

日の出公民館(既存部)

▽道路境界線

▽隣地境界線

△隣地境界線

134-P4007
134-P4008
134-P4009
134-P4011
134-P4012
134-P4013
134-P4017
134-P4018
134-P4019
134-P4020
134-P4021
134-P4023

10.201
32.748
9.970
14.685
14.706
14.500
22.516
58.200
4,200
8,500
8,500
8,500
8,500
10,000
10,000
21,000
6,000
53,700
36,000
68.726
9.999
39.397
66.962
25.931
7.885
22.567
9.960

X01 X02 X03 X04 X05 X06 X07 X08
Y01 Y02 Y03 Y04 Y05
A B C D E F G
1 2 3 4 5 6 7

凡　例

	敷鉄板 t22　1524×6096(21カ月)
	敷鉄板 t22　1219×2438(21カ月)
	敷鉄板 t22　1524×3048(21カ月)
	仮囲い(フラットパネル H=3.0)
	シートパイル(7か月)
	パネルゲート (特記なき限りW7.2 H4.5)
	交通誘導員(21カ月)
	足場(7カ月)
	騒音振動計(21カ月)

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-006
図面名称	仮設計画図(2)	縮尺(A1) A1：1/400 A3：1/800	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 152
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

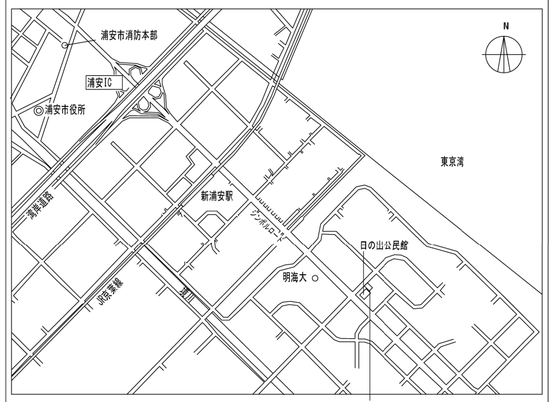
工事車両出入口1
パネルゲート(W3.6×H4.5)
交通誘導員
交通誘導員
工事車両出入口2
敷鉄板　t 22
EX-009参照
隣地使用可能範囲
敷鉄板　t 22
パネルゲート(W6.3×H4.5)
134-P4009
134-P4010
134-P4011
134-P4012
134-P4013
134-P4017
134-P4018
134-P4019
134-P4020
134-P4021
134-P4022
134-P4023
134-P4024
134-P4007
134-P4008
▽道路境界線 9.970
▽道路境界線 10.201
▽隣地境界線 14.685
▽隣地境界線 14.706
▽道路境界線 32.748
▽隣地境界線 22.516
▽道路境界線 68.726
▽隣地境界線 53.705
▽隣地境界線 25.931
▽隣地境界線 7.885
▽隣地境界線 22.567
▽隣地境界線 9.960
▽道路境界線 9.999
△隣地境界線 39.397
△隣地境界線 66.962
14,500
58,200
4,200
8,500
8,500
8,500
8,500
10,000
10,000
21,000
6,000
6,000
6,000
6,000
6,000
36,000
日の出公民館(既存部)
足場(外壁用)
W900 H5.0m
防音パネル貼
足場(外壁用)
W900 H8.5m
防音パネル貼
足場(外壁用)
W900(上部H2.5mW600) H11.0m
防音パネル貼
足場(屋根用)
W900 H11.0m
防音パネル貼
クローラクレーン80t(２カ月)
仮設進入路
敷鉄板　t 22
足場(屋根用)
W900 H11.0m
防音パネル貼
仮設ステージ(5日間)
W8000×D4000×H10000
資材置場
現場事務所
足場(外壁用)
W900 H8.5m
防音パネル貼
フラットパネル H3.0m
足場(2階外壁用)
W900 H6.6m
防音パネル貼
足場(屋根用)
W900 H11.0m
防音パネル貼
足場(2階外壁用)
W900 H3.9m
防音パネル貼
※山留は構造山留図参照とする
1
2
3
4
5
6
7
A
B
C
D
E
F
G
X01
X02
X03
X04
X05
X06
X07
X08
Y01
Y02
Y03
Y04
Y05

凡　例

	敷鉄板 t22　1524×6096(21カ月)
	敷鉄板 t22　1219×2438(21カ月)
	敷鉄板 t22　1524×3048(21カ月)
	仮囲い(フラットパネル H=3.0)
	シートパイル(7か月)
	パネルゲート（特記なき限りW7.2 H4.5）
	交通誘導員(21カ月)
	足場(7カ月)
	騒音振動計(21カ月)

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-007
図面名称	仮設計画図(3)	縮尺(A1) A1: 1/400 A3: 1/800	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 153
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

案内図



計画地：千葉県浦安市日の出4-1

植樹帯

隣地境界線 53.190

屋外階段

計画建物

1FL=TP3.700
設計GL=TP3.580

以降1階平面図参照

既設公設桝に接続
(GL-4000)

道路境界線 33.805

隣地境界線 33.800

新しいメーターボックス位置

現存40Aメーターボックスを移設

隣地境界線 53.190

隣地境界線

アスファルト舗装 撤去・復旧
(車道 A-5-15 路盤共)

既設200Hより分岐

既設ガス管200

既設公民館給水引込み80Aより分岐40A新設

既設給水管80A

ガスメーター

高圧キャビネット土間

植栽帯

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-008
図面名称	仮設計画図(4)	縮尺(A1) A1：1/400 A3：1/800	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 154
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

浦安市消防署　日の出出張所

サツキツツジ H0.3m W0.4m
３本 / ㎡　撤去・復旧
シャリンバイ H0.5m W0.4m
２本 / ㎡　撤去復旧

歩車道境界ブロック
新設 L=1200

縁石
撤去・復旧
L=3600

仮囲い（フラットパネル） H=3.0m
EX005~007 参照

仮設切下げ
L=3600

パネルゲート W3.6m×H4.5m
EX005~007 参照

敷き鉄板 t=22
EX005~007 参照

植栽帯（ハマヒサカキ H=0.6m W0.4m　3 本 / ㎡）
撤去・復旧
1000×3600

歩車道境界ブロック撤去・復旧 L=34000

通気管　建物側に 1400 移設

改良コウライシバ
撤去復旧

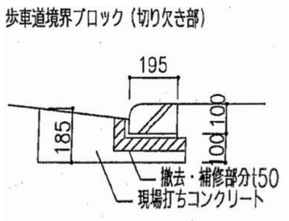
仮囲い（フラットパネル） H=2.0
EX005~007 参照

日の出公民館

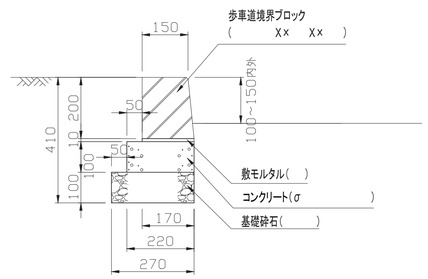
日の出公民館

配置図 A1:1/400 A3:1/200

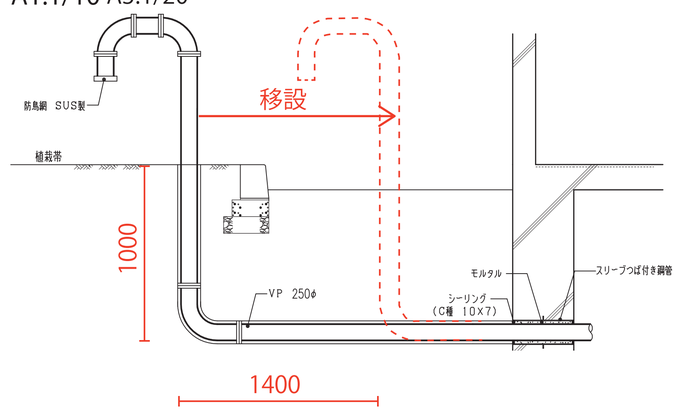
仮設切り下げ部



歩車道境界ブロック（撤去・新設）
A1:1/10 A3:1/20



通気管詳細図（移設）
A1:1/10 A3:1/20



工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 EX-009
図面名称	仮設計画図 (5)	縮尺(A1)	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 155
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全 226 葉

特記仕様書(構造関係)

Ⅰ　建物構造概要等

1. 建物概要

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事				
工事場所	千葉県浦安市日の出四丁目１番１及び７				
主要用途	図書館、児童福祉施設等		延べ面積	意匠図による	
階数	地上　2 階	地下　1 階	塔屋　階		
建物高さ	意匠図による		軒高	意匠図による	
工事種別	・ 新築 ・増築 ・ 改築 ・ 移転				
増築計画	・ 有り ・無し				
構造種別	地上　鉄骨　造　地下　鉄筋コンクリート 造				
架構形式	X方向	純ラーメン　構造			
	Y方向	純ラーメン　構造			
耐震構造方式	・耐震構造 ・ 免震構造 ・ 制振構造				
耐震安全性の分類	・ Ⅰ類（Ⅰ=1.50） ・Ⅱ類（Ⅰ=1.25） ・ Ⅲ類（Ⅰ=1.00）				

2. 構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期		（ 0.312 ）秒
	地盤種別		第（ 二 ）種地盤
	地域係数		Z= 1.0
計算ルート	X方向		※ 許容応力度計算 (ルート 3)
			・ その他
			・
	Y方向		※ 許容応力度計算 (ルート 3)
			・ その他
			・
設計層間変形角	X方向	一次設計	1/200
		二次設計	1/100
	Y方向	一次設計	1/200
		二次設計	1/100

b　耐風設計条件

基準風速 (V0)	（ 34 ） m/秒
地表面粗度区分	・ Ⅰ ・ Ⅱ ・Ⅲ ・ Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（ — ） m
多雪区域の指定	・ 有り ・無し
設計垂直積雪量	（ 30 ） cm

Ⅱ　建築工事仕様(構造関係)

（１）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和７年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。

（２）本特記仕様書の表記

１）項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。

２）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。

⊙ 印のない場合は、※印の付いたものを適用する。

⊙ 印と ㊛ 印の付いた場合は、共に適用する。

３）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

４）G 印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成25年2月閣議決定）」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

適用範囲

特記仕様（構造関係）の適用範囲は下記の工事種目とする。

⊙特記仕様書１　仕様書　Ⅰ工事概要 3工事種目に掲げる下記の工事種目番号

（ 番号○～番号○までの工事種目）

・

4 地業工事

① 支持力又は支持地盤の確認

支持地盤の位置及び種類 (4.3.4)(4.3.5)(4.5.5)

⊙杭基礎（基礎ぐいの先端の位置含む）

⊙図示 ・

・直接基礎(基礎底部の位置含む)

・図示 ・

長期設計支持力度

・（ ）kN/m²　・

試験

試験堀り (4.2.1)(4.2.3)(4.2.5)

・行う

・図示 ・

地盤の載荷試験(平板載荷試験) (4.2.4)(4.2.5)

⊙行わない

・行う

試験位置及び載荷荷重

・図示 ・

杭の載荷試験 (4.2.3)(4.2.5)

※行わない

・行う （・水平載荷試験 ・鉛直載荷試験）

試験位置及び載荷荷重

・図示

② 液状化対策

⊙ 行う （外構アプローチ下および杭施工時の液状化対策のため、地盤改良を施す工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等は図示による。）

・ 行わない

③ 既製コンクリート杭地業

種類等 (4.3.3)

⊙遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)

・遠心力プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭)

⊙外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)

SC杭の鋼管材料

・SKK400 ⊙SKK490 ・

材料

寸法、継手、性能等 (4.3.3)

	杭径(mm)	杭長(m)及び種類等				セット数	コンクリート強度(N/mm²)	長期設計支持力(kN/本)	備考
		種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)					
試験杭		上杭 中杭 下杭							
本杭		上杭 中杭 下杭		S-015図、杭伏図／杭リスト 参照					

試験杭 (4.2.2)(4.3.5)

試験杭の位置、本数及び寸法

⊙図示 ・

杭先端部形状 (4.3.3)

・開放形 ・半開放形 ⊙閉そく形 ・

施工方法 (4.3.4～4.3.5)

・セメントミルク工法 (4.3.4)

アースオーガーの支持地盤への掘削深さ

・1.5m程度 ・

杭の支持地盤への根入れ深さ

・1.0m以上 ・

杭の精度

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100mm以下 ・

・杭の傾斜

・1/100以内 ・

根固め液及び杭周固定液の管理試験

・図示による（ ）

・標仕4.3.4による

⊙特定埋込杭工法 (4.3.5)

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

⊙H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内

α、β、γが下記の値を採用できる工法

α=(424)、β=(1.5)、γ=(0.125×$\overline{qu}$+15)

工法

・プレボーリング拡大根固め工法

⊙中堀り拡大根固め工法

杭周固定液

⊙使用する ・使用しない

スラリー比重の確認 ※行う ・行わない

杭の支持地盤への根入れ深さ

※工法ごとに定められた条件による

杭の精度 (4.3.5)

⊙水平方向の位置ずれ

⊙杭径の1/4かつ100mm以下 ※評定条件又は認定条件による

⊙杭の傾斜

⊙1/100以内 ※評定条件又は認定条件による ・

杭継手工法 (4.3.6)

・溶接継手

⊙機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

⊙標準品

※有効率100%対応製品

工法

※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法 ・

検査

※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目 ・

施工

※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による ・

杭頭の処理(切断方法) (4.3.8)

※処理しない

・処理する

切断方法

・図示 ・

杭頭の中詰め材料

※基礎のコンクリートと同調合のもの ・

その他 (4.3.9)

・既製コンクリート基礎ぐいの施工については、国土交通省告示468号「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」によるものとする。

4 鋼杭地業

材料

寸法、継手、性能等 (4.4.3)(表4.4.1)

	杭径(mm)	杭長(m)及び種類等				セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
		種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)				
試験杭		上杭 中杭 下杭						
本杭		上杭 中杭 下杭						

試験杭 (4.4.2)(4.4.3)

試験杭の位置、本数及び寸法

・図示 ・

杭先端部形状 (4.4.3)

・開放形 ・半開放形 ・閉そく形

施工方法

・特定埋込杭工法 (4.4.4)

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内

α、β、γが下記の値を採用できる工法

α=( )、β=( )、γ=( )

工法

・中堀り拡大根固め工法

スラリー比重の確認 ※行う ・行わない

杭の精度 (4.3.5)

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定条件又は認定条件による

・杭の傾斜

・1/100以内 ・評定条件又は認定条件による ・

5 場所打ちコンクリート杭地業

杭の現場継手 (4.4.5)

・溶接継手

・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法

※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法 ・

検査

※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目 ・

施工

※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による ・

杭頭の処理(切断方法) (4.4.6)

※切断しない

・切断する

切断方法

・図示 ・

杭頭の中詰め材料

※基礎のコンクリートと同調合のもの ・

セメントの種類 (4.5.4)

※高炉セメントB種 G ・

コンクリートの種別 (4.5.4)(表4.5.1)

・A種 ・B種

コンクリートの設計基準強度 （ ）N/mm² (4.5.4)

構造体強度補正 (4.5.4)

・3N/mm² ・

・評定条件又は認定条件による

コンクリートのスランプ (4.5.4)

※21cm ・18cm ・（ ）cm

杭断面・長期許容支持力等

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭 (4.5.2)(4.5.4)(4.5.5)

試験杭の位置、本数及び寸法

・図示 ・

掘削工法 (4.5.5)

・アースドリル工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)

・リバース工法

・オールケーシング工法(・掘動式 ・全周回転式) (孔内の水張り ・行う ・行わない)

併用する工法 (4.5.1)(4.5.6)

・場所打ち鋼管コンクリート杭工法

鋼管巻き材料

・SKK400 ・SKK490 ・

鋼管径、板厚、長さ等

・図示 ・

・拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)

帯筋 (4.5.4)(4.5.6)

・構造関係共通図(配筋標準図)6.2帯筋(a)④丸形(ロ)による

・図示 ・

鉄筋かごの補強 (4.5.4)

・図示による（ ）

鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.4)

・100mm ・

鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.4)

・図示 ・

孔壁測定 (4.5.5)

・行わない

※行う

測定方法

・超音波測定器 ・

測定箇所数及び測定位置

・試験杭( )箇所及び本杭( )箇所とし、位置は構造図( )による

杭の精度 (4.5.5)

水平方向の位置ずれ

・100mm以下 ・

杭の傾斜

・1/100以内 ・評定条件又は認定条件による ・

⑥ 砂利地業

材料 (4.6.2)(4.6.3)

※ 再生クラッシャラン G ・ 切込み砂利及び切込み砕石

厚さ及び適用範囲

厚さ	適用箇所
⊙ 60	⊙基礎スラブ下 ⊙基礎梁下 ⊙土間コンクリート下 ⊙土に接するスラブ下
・	

⑦ 捨コンクリート地業

厚さ及び適用範囲 (4.6.4)

厚さ	適用箇所
⊙ 50	⊙基礎スラブ下 ⊙基礎梁下 ⊙土間コンクリート下 ⊙土に接するスラブ下
・	

⑧ 床下防湿層

施工範囲 (4.6.5)

・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く) ⊙意匠図による

防湿工法 (4.6.5)

・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ⊙意匠図による

防湿層の位置 (4.6.5)

・図示 ⊙意匠図による

⑨ 地盤改良（セメント系固化材を用いた工法による改良）

工法

⊙浅層混合処理工法

改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は意匠図および杭伏図による。

・深層混合処理工法

改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は図示による。

１０ 置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等

・図示 ・

支持地盤の長期設計支持力

（ ）kN/m²

支持地盤

・図示 ・

型枠使用の有無

・ 無し

・ 有り

型枠の使用箇所等は図示による

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類 (5.2.1)(表5.2.1)

規格の名称	種類の記号	呼び径(mm)	適用箇所
鉄筋コンクリート用棒鋼（異形鉄筋）	⊙ SD295	⊙ D16以下	基礎、土圧壁、壁、せん断補強筋、スラブ土間コン、設備基礎、パラペット等
	⊙ SD345	⊙ D19以上	柱主筋、鉄骨基礎柱主筋
	⊙ SD390	⊙ D29以上	基礎梁主筋
	⊙ MK785	⊙ S13	基礎梁せん断補強筋（MK785同等品）

② 溶接金網 (5.2.2)

形状等

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	適用箇所
⊙ 溶接金網	SR235	100 × 100 × 6φ	床、設備基礎
・ 鉄筋格子			

③ 圧接完了後の試験

⊙鉄筋の種類が異なる場合、形状が著しく異なる場合又は径の差が7mmを超える場合は、圧接を行ってはならない。ただし、鉄筋の種類が異なる場合においては、SD345とSD390の圧接を行うことができる。

外観試験 (5.4.10)

※行う(全数)

抜取試験 (5.4.10)

⊙超音波探傷試験

試験の箇所数等

試験の箇所数は、１ロットに対して３０箇所とする。

試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とし、無作為に抜き取る。

・引張試験

試験片の採取数は、1ロットに対して（※3本・5本）とする

試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとをとする

試験片を採取した箇所の処置：標準仕様書5.4.9による

④ 鉄筋の継手

継手方法 (5.5.3)(5.6.3)

適用箇所	継手方法と適用径の範囲
⊙ 柱主筋	⊙ ガス圧接継手(D19以上) ・
⊙ 梁主筋	⊙ ガス圧接継手(D19以上) ・
・ 耐力壁	・ 重ね継手 ・
⊙ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ ガス圧接継手( )
	⊙ 重ね継手( )
・ 杭主筋	・ 重ね継手 ・

⑤ 鉄筋の定着長さ

鉄筋の定着長さ (5.3.4)

⊙図示による（ S-003図 ～ S-006図 ）

機械式定着工法の適用箇所及び種類

⊙図示による（ 基礎梁主筋記載箇所 S-035,035a,036 、B1階RC柱頭部 S-039 ）

⑥ 主筋の継手位置等

カットオフ鉄筋の長さ (5.3.4)

⊙構造関係共通図(配筋標準図)5.1、6.1、7.1、7.3による（ ⊙全て ・下記以外全て ）

・上記以外の位置

・図示 ・

基礎梁主筋の継手

⊙構造関係共通図(配筋標準図)図5.2による（ ⊙全て ・図示 ・ ）

・構造関係共通図(配筋標準図)図5.3による（ ・全て ・図示 ・ ）

・構造関係共通図(配筋標準図)図5.4による（ ・全て ・図示 ・ ）

・図示 ・

⑦ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5)

⊙構造関係共通図(配筋標準図)表4.1による

・図示 ・

・

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

・無し

⊙有り 適用箇所（ 基礎梁主筋 ）

主筋のかぶり厚さ

⊙最小かぶり厚さ（ 60 ）mm

特殊な要求性能におけるコンクリートの部分(耐久性上不利な部分)

⊙無し

・有り 適用箇所（ ）

・構造関係共通図(配筋標準図)表4.1に加える厚さ （ ）mm

8 機械式継手

工法（ ） (5.5.3)

適用箇所

・図示による ・

平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 (5.5.3)

・A級 ・

機械式継手の種類 (5.5.3)

・図示による ・

鉄筋相互のあき (5.5.3)

・評定等の内容による ・図示による

施工完了後の継手部の試験 (5.5.5)

外観試験

試験項目及び合否判定

※標準仕様書 表5.5.1～表5.5.3による

・図示による ・

外観試験で不合格となった場合の措置 (5.5.6)

※標準仕様書 5.5.6(1)による

・図示による ・

・超音波測定試験

試験対象

・図示による ・

超音波測定試験で不合格となった場合の措置 (5.5.6)

・図示による ・

9 溶接継手

適用箇所

・図示 ・

性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.6.3)

・A級 ・

鉄筋相互のあき (5.6.3)

・図示による（ ）

溶接継手の工法 (5.6.3)

・図示による（ ） ・重ねアーク溶接

品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等 (5.6.3)

・鉄筋継手工事標準仕様書による ・図示による（ ）

１０ 機械式定着

工法（ 第三者機関の評定等を取得している工法とする ）

適用箇所

⊙図示による （ 基礎梁主筋記載箇所 S-035,035a,036 、B1階RC柱頭部 S-039 ） ・全て

補強筋

・図示による ⊙評定等の評価内容による

１１ 各部配筋

⊙構造関係共通図(配筋標準図)による。

・図示 ・

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-001
図面名称	構造特記仕様書 (1)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 156
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類及び品質

※ 普通コンクリート　・軽量コンクリート　(6.2.1～4)

設計基準強度 Fc (N/mm²)	気乾単位容積質量 (t/m³)	スランプ (cm)	水セメント比 (%)	単位水量 (kg/m3)	適用範囲
⊙27	2.3種度	・15 ⊙18 ・21	※ 65 ・	※ 185 ・	基礎、基礎梁、基礎スラブ、土圧壁、壁、柱、鉄骨基礎柱、B1階スラブ～1階スラブ
⊙24	2.3程度	⊙15 ・18 ・21	※ 65 ・	※ 185 ・	1.5階ｽﾗﾌﾞ～屋根屋外機置き場ｽﾗﾌﾞ壁、パラペット
・		・	・	・	

荷下ろし時のコンクリート温度が35度を超える場合は、監理指針または特別な調査や研究に基づいた方法による施工計画を行ない、監督職員の承諾を得ること。
コンクリートの構造体強度補正値 (S)
※標準仕様書　表6.3.2　・図示による（　　）
暑中コンクリート　スランプ 21(cm)
⊙コンクリート種類（⊙マスコンクリート　・　　）
適用範囲（ 基礎梁 ）
材料、品質等（ セメントの種類は、高炉セメントB種等とする ）

② コンクリート

類別
※ Ⅰ類　・ Ⅱ類　(6.3.1)(表6.3.1)

③ セメントの種類

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て（1階立上り部以上）
⊙ 高炉セメントB種 G ・ フライアッシュセメントB種 G	⊙1階スラブ以下 ・

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱		
	7日	352J/g以下
	28日	402J/g以下

④ 骨材の種類

使用骨材のアルカリシリカ反応性による区分　(6.3.1)
※A
・B（コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m³以下）

⑤ 混和材料

⊙混和剤の種類（JIS A 6204によるＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。
また、防錆材を併用する場合はJIS A 6205による防錆材とする。）　(6.3.1)
⊙混和材の種類（JIS A 6201によるフライアッシュのⅠ種、Ⅱ種若しくはⅣ種、
JIS A 6206による高炉スラグ微粉末、
JIS A 6207によるシリカフューム又はJIS A 6202による膨張剤とする。）
⊙I階スラブ以下については躯体防水混和材（ベストン同等品）を使用する。
（添加量20kg/m³程度）

⑥ 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート　・　(6.14.1)～(6.14.3)

設計基準強度 Fc (N/mm²)	スランプ (cm)	セメントの種類	適用箇所
※18 ・	※15 又は18 ・	⊙普通ポルトランドセメント 又は混合セメントのA種	⊙捨てｺﾝｸﾘｰﾄ　保護ｺﾝｸﾘｰﾄ ⊙設備基礎
		・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種	・捨てｺﾝｸﾘｰﾄ　保護ｺﾝｸﾘｰﾄ ・設備基礎

⑦ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継の位置　(6.6.4)
梁及びスラブ
※スパンの中央又は端から1/4の付近
・図示による（　　）
柱及び壁
※スラブ、壁又は基礎の上端
・図示による（　　）
目地寸法　(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
⊙標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体の打ち増し厚さ部で処理する
⊙図示による（ひび割れ誘発目地：S-043および意匠図による）
ひび割れ誘発目地の位置　(6.8.1)
⊙図示による（意匠図による）

⑧ コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　(6.2.5)(6.8.2)

種別	適用箇所
⊙ A種	※図示による（ 意匠図による ）
⊙ B種	※図示による（ 意匠図による ）
⊙ C種	※図示による（ 意匠図による ）

コンクリートの仕上がりの平坦さ　(6.2.5)(6.8.2)

種別	適用箇所		
⊙ a種	・見えがかり部	・打ち放し部	⊙ 意匠図による
・ b種	・a種およびc種以外		
⊙ c種	・基礎部	・隠ぺい部	⊙ 意匠図による

⑨ 打増し厚さ

打増し厚さ　(6.8.1)
⊙打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
⊙20mm　・
⊙打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
⊙10mm（パラペット、内壁W15はS-43に倣う）・20mm　・
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm　・
・床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行なう
・10mm　・20mm
打増し範囲
・図示　・

⑩ 型枠

せき板の材料　(6.8.2)
⊙合板　※12mm　・(　)mm
コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督職員と協議すること
⊙床型枠用鋼製デッキプレート
使用箇所等　⊙図示（ S-043図 、S-011a図 による ）
・せき板に断熱材を兼用した型枠材
・MCR工法用シートの適用
スリーブの材種　(6.8.2)(表6.8.1)
・標準仕様書 6.8.2(9)(ｲ)及び標準仕様書 表6.8.1による
⊙図示（意匠図、設備図による）

⑪ 型枠の存置期間及び取外し

標準仕様書6.8.4による。　(6.8.4)

⑫ コンクリートの養生方法

標準仕様書第6章第7節による。　(6.7.1～3)
凍害対策、高強度コンクリートの養生方法について施工計画書に記載する。

⑬ 圧縮強度及び試験方法

標準仕様書6.5.5、6.9.2、6.9.3、6.9.4による。　(6.5.5)(6.9.2～4)

⑭ 構造体コンクリートの仕上り及びかぶり厚さの確認

外観の確認は全数行う。寸法確認は抽出とし、監督職員と協議を行う。　(6.9.6)

⑮ コンクリートの単位水量測定

・ 行わない
⊙ 行う
実施要領
(1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(ｲ)(ｸ)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m³ の範囲にある場合はそのまま施工する。
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
3)設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力　(7.1.3)
⊙建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構（旧(社)全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(H)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する製作工場

② 施工管理技術者

※適用する　(7.1.3)(7.1.4)(7.6.2)(7.12.2)
・適用しない

③ 製作精度

※(一社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」 付則6［鉄骨精度検査基準］による。　(7.3.3)
※通しダイアフラムの許容誤差
⊙全てのダイアフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること
・ダイアフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

④ 建方精度

※(一社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則6［鉄骨精度検査基準］　(7.10.2)
付表５［工事現場］による。
仮組の実施　(7.3.10)
⊙行う　・行わない
建方精度は記録を残し、 監督職員へ報告すること。

⑤ 鋼材

鋼材の材質　(7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格等
SS400, SN400A	二次部材、スプライスプレート	※ JIS規格による
SN400B	大梁、二次部材、スプライスプレート	※ JIS規格による
SN490B	大梁、二次部材、スプライスプレート	※ JIS規格による
SN400C, SN490C	ダイアフラム	※ JIS規格による
SSC400	二次部材（胴縁、母屋）	※ JIS規格による
BCR295	柱	MSTL-0142同等品
BCP325	柱	MSTL-0326同等品

⑥ 高力ボルト

区分　(7.2.2)(7.3.2)
⊙トルシア形高力ボルト
⊙JIS形高力ボルト
高力ボルトの径
※図示　・
すべり係数試験　(7.4.2)
※行わない　・ 行う
ナット回転法でボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量　(7.4.7)
・図示による（　　）
軸力導入試験
・行わない ⊙ 行う

⑦ 繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等

高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの繰端距離、ボルト間隔、　(7.2.2)(7.3.2)(7.3.8)
ボルト径、ゲージ等
※構造関係共通図(鉄骨標準図) 1 繰端距離及びボルト間隔による　・

⑧ 溶融亜鉛めっき高カボルト

セットの種類　(7.2.2)
⊙1種(F8T相当)　・
摩擦面の処理　(7.12.5)
※ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
・リン酸塩処理(すべり係数0.40以上)
・ブラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による（　　）　(7.4.7)
ナット回転法でボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示による（　　）

⑨ アンカーボルト

適用　(7.2.4)(表7.2.3)(7.10.3)
⊙構造用アンカーボルト
・JIS B 1220 ABR400
・JIS B 1220 ABR490
⊙既製品柱脚の大臣認定内容による
・建方用アンカーボルト
材質
・SS400 ・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度
・標準仕様書　表7.2.3による
・
保持及び埋込み工法　(7.10.3)(表7.10.1)
⊙構造用
※適切な鋼製アンカーフレーム等を設置して固定する方法　⊙図示
・建方用
・標準仕様書 表7.10.1 （ ・A種 ・B種 ）による ・

⑩ 柱底均しモルタル

モルタルの種別　(7.2.9)
⊙無収縮モルタル　・
無収縮モルタルの材料及び調合
材料、調合等
⊙標準仕様書 7.2.9による　・
品質及び試験方法
⊙標準仕様書 表7.2.5による　・

⑪ ターンバックル

工法の種別　(7.10.3)
⊙標準仕様書 表7.10.2
⊙A種［モルタル厚さ50］ ⊙B種［モルタル厚さ30］

種類　(7.2.6)
建築用ターンバックル胴
⊙割枠式　・
建築用ターンバックルボルト
⊙羽子板ボルト　・
ねじの呼び　(7.2.6)
⊙図示　・

⑫ デッキプレート

工法の種別　(7.2.7)(6.8.3)
・合成スラブ
⊙床型枠用
・
材質、形状及び寸法
⊙図示（S-011aによる）　・
鉄骨部材への溶接方法　(7.7.8)
⊙図示（S-011aによる）　・
耐火認定
・あり(CD管等打ち込み時の耐火被覆吹付　※要　・不要)
⊙なし

⑬ 頭付きスタッド

(7.2.8)

径(呼び名)	長さ(呼び長さ) mm	適用箇所
16φ	・80 ⊙100 ⊙130	小梁
19φ	・80 ⊙100 ⊙130 ・150	大梁、小梁
22φ	・80 ・100 ・130 ・150	

⑭ 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
・図示　・
⊙構造関係共通図（鉄骨標準図）(5(7)鋼材と溶接材料の組合わせと溶接条件)による
・
適用箇所
・図示　・
⊙柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⑮ 溶接接合

スカラップの形状　(7.6.7)
⊙改良型　・ノンスカラップ　・
鋼製エンドタブの切除
・行なう
適用箇所
・全て　・図示
⊙行わない

⑯ 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験　(7.6.12)
・行わない
※行う
⊙工場溶接の場合
AOQL(%)
※レベルⅡ　・レベルⅠ

節	⊙全て	・	・	・
検査水準	⊙第６水準	・	・	・

⊙工事現場溶接の場合
・AOQL(%)
※レベルⅡ　・レベルⅠ
※全て
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
独立行政法人建築研究所監修
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・ 抜き取り検査①
※ 抜き取り検査②
外観検査
※「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」第二号による
試験方法　※目視　※計測　・図示による（　　）
※（一社）日本建築学会「JASS6 鉄骨工事」 付則6「鉄骨精度検査基準」付表3「溶接」による
試験方法　※目視　※計測　・図示による（　　）

⑰ 技量付加試験

技量付加試験
・行う ⊙行わない
AW検定有資格による試験免除
・行う ⊙行わない
試験方法、試験体は監督職員との協議による。

⑱ 錆止め塗装

塗料の種別
鉄鋼面　(7.8.2)(18.3.2)

種別	適用箇所
⊙ 標準仕様書　表18.3.1 A種	⊙ 屋外 （標準仕様書7.8.2の範囲以外） ・
⊙ 標準仕様書　表18.3.1 B種	⊙ 屋内 （標準仕様書7.8.2の範囲以外） ・
・	・

亜鉛めっき面

種 別	適用箇所
⊙ 標準仕様書　表18.3.2 A種	⊙屋外、屋内　・
・	・

鋼製スリーブの内側（鉄骨に溶接されたもの）

種 別	適用箇所
⊙ 標準仕様書　表18.3.1 B種	・
・	・

⊙耐火被覆材を接着する面への塗装　(7.8.2)
※行う
接着破壊しない耐火被覆材を選定すること
・行わない
適用範囲　・図示による（　　）

⑲ 耐火被覆

建築図仕様書による

⑳ 溶融亜鉛めっき

種別等　(7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材 料	適用箇所
A種(HDZT77)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※図示 ⊙屋外鉄骨
B種(HDZT63)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	
C種(HDZT49)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	

外観検査　⊙行う　・行わない
めっき付着量の検査　⊙行う　・行わない

21 梁貫通孔の補強

補強方法
・認定工法
⊙在来工法
適用箇所
※図示

22 検査

⊙製品検査
・原寸検査
⊙仮組検査（本溶接前）

その他

① 軽微な変更の対応（あらかじめ検討）

施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、
あらかじめの検討を行っている部分
本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、
品質管理上の施工誤差を許容するものではない。

⊙ 杭の芯ずれを考慮した検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法　※図示

・ 杭の長さの変更を見込んだ検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法　※図示

・ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法　※図示

・

② 構築された躯体の改変

既に構築されている躯体部分（RC・S・SRC）に、
新たに埋設物・開口等を設ける場合には、それらの大小、
設置位置等に拘わらず、すべて工事監理者との協議を行う。

3 既存杭撤去

新設杭（偏心、傾斜が生じない）および　復旧後地盤（沈下）の品質を確保できる施工計画を行うこと。
・既存杭種類
・既成コンクリート杭　・場所打ち杭　・図示による
・撤去位置
・既存杭全て　・図示による
・復旧方法
・流動化処理土（強度　kN/m2）
・砂、土
・撤去工法
・繰切引抜工法　・破砕撤去工法　・直接引抜工法　・図示による
・事前調査
・既存杭位置の測量

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事
図面名称	構造特記仕様書（2）
担当課	生涯学習部 生涯学習課 健康こども部　こども課 財務部　営繕課
縮尺(A1)	A1：　－ A3：　－
工事番号	08-01
図面番号	S-002
通し番号	157
	全226葉

構造関係共通事項

1 総則

1．1　適用範囲等

（a）構造関係共通事項は、構造関係の共通的事項と、構造関係共通図（配筋標準図）、構造関係共通図（鉄骨標準図）から構成される。

（b）構造関係共通図（配筋標準図）は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。

（c）構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。

（d）構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、設計図及び監督職員の指示による。

1．2　優先順位

（a）設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。

1．特記仕様書（構造関係）

2．図面 ┬ 2－1　構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）を除く図面
　　└ 2－2　構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）

3．国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）」

1．3　用語の定義

（a）異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。

（b）長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

1．4　記号

（a）設計図中で使用する記号は、表1.1、表1.2を標準とする。

表1.1　鉄筋の断面表示

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建　築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎

表1.2　各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
S0	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ポーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○	耐力壁の種別		

表1.3　梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400		
建　築	⊖	⊗	⊣	⊬	⊕	⊱	⊢	⊰	⊜	⊱	⊪	⊰	⊜	⊱	⊪		

表1.4　スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

構造関係共通図（配筋標準図）

1　鉄筋の加工

（a）鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1　鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295,SD345 D16以下	SD295,SD345 D19～D38	SD390 D19～D38
180°	d, D, 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	d, D, 6d以上			
90°	d, D, 8d以上			
135°及び90°（幅止め筋）	4d以上, d, D, 4d以上			

（注）1．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2．90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2　異形鉄筋の末端部

（a）次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

（1）柱の四隅にある主筋（図2.1の ● ）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合

（2）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図2.1の ● ）にある場合（基礎梁を除く）

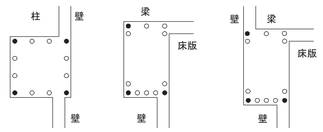


図2.1

（3）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

（4）杭基礎のベース筋

（5）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3　鉄筋の継手及び定着

3．1　継手及び定着

（a）鉄筋の重ね継手

（1）原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継手を用いない。

（2）鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

（3）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

（4）柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。耐力壁の鉄筋の重ね継ぎ手の場合、特記がなければ、４０ｄ（軽量コンクリートの場合は５０ｄ）と表3.1の重ね継手長さのうち大きい値とする。

表3.1　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24　27	35d	25d
	30　33　36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24　27	40d	30d
	30　33　36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24　27	45d	35d
	30　33　36	40d	30d

（注）1．L1，L1h：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2．フックありの場合のL1hは、図3.1に示すようにフック部分 Ω を含まない。

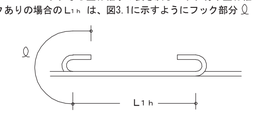


図3.1

3．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（3）隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。
なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、構造図による。

表3.2　隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	L1h, a＝0.5L1h	L1h, a≧0.5L1h
	フックなしの場合	L1, a＝0.5L1	L1, a≧0.5L1
圧接継手・溶接継手	—	圧接継手・溶接継手, a	a≧400mm
機械式継手	—	カップラー, b, a	a≧400mm以上、かつ、a≧(b+40)mm以上

（b）鉄筋の定着

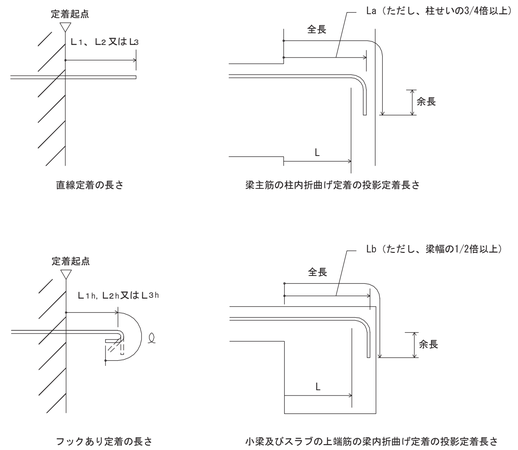
（1）鉄筋の定着の長さは、表3.3による。

表3.3　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	直線定着の長さ L1	直線定着の長さ L2	直線定着の長さ L3 小梁	直線定着の長さ L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	フックあり定着の長さ L2h	フックあり定着の長さ L3h 小梁	フックあり定着の長さ L3h スラブ
SD295	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24　27	35d	30d			25d	20d		
	30　33　36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24　27	40d	35d			30d	25d		
	30　33　36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24　27	45d	40d			35d	30d		
	30　33　36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L1，L1h：2．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2．L2，L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3．L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。）
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4．L3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5．フックあり定着の場合は、図3.2(イ)に示すようにフック部分 Ω を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6．軽量コンクリートを使用する場合は、表3.3の値に５ｄを加えたものとする。
7．L2，L2h：構造計算ルート1及びルート2の仕様規定による場合は、40d以上を確保する。（令73条3項）

（2）梁主筋の柱内定着の方法は図3.2による。
なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表3.3のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表3.3に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表3.4に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上、小梁の場合は1/2以上）をのみ込ませる。
（注）1．La、Lb は、表3.4の鉄筋の投影定着長さを示す。



（イ）直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ　　（ロ）折曲げ定着の方法

図3.2　定着の方法

表3.4　鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24　27	15d	15d
	30　33　36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24　27	20d	15d
	30　33　36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24　27	20d	20d
	30　33　36	20d	15d

（注）1．La　：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2．Lb　：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（c）その他の鉄筋の継手及び定着

（1）溶接金網の継手及び定着は、図3.3による。
なお、L1 は表3.2にL2 及びL3 は表3.3の（注）による。

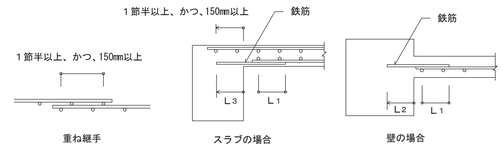


図3.3　溶接金網の継手及び定着

（2）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.4による

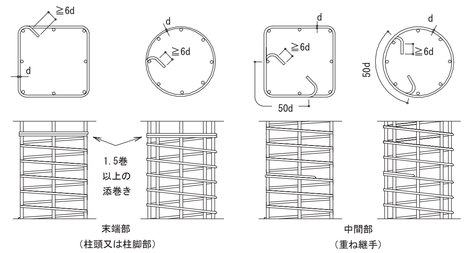


図3.4　スパイラル筋の継手及び定着

4　鉄筋のかぶり及び間隔

4．1　最小かぶり厚さ

（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．この表のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。
2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。

（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに１０mmを加えた数値を標準とする。

（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（d）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
ただし、機械式継手の場合のあきは、構造図による。
（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（2）２５mm
（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

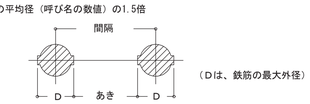


図4.1　鉄筋相互のあき

（e）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは（d）による。

（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり、厚さは（c）による。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-003
図面名称	構造関係共通事項（1）	縮尺(A1) A1：— A3：—	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 158
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

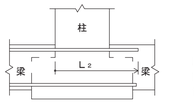
5　基礎及び基礎梁の配筋

5．1　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

（ａ）一般事項

（１）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。

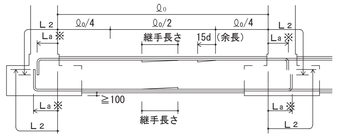
（２）（１）ができない場合は、梁筋を柱内に定着するものとし、7.1（ａ）（２）による。



原則折り曲げ定着に読み替えとする。
直線定着とする場合は、監督職員との協議による。

図5.1　梁筋の基礎梁内への定着

（ｂ）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



（注）１．図示のない事項は、7.1による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　La の数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

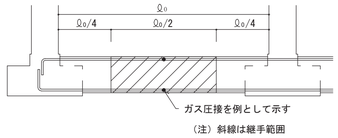
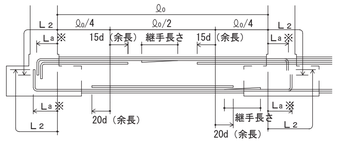


図5.2　主筋の継手、定着及び余長（その１）

（ｃ）　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長
ただし、耐圧スラブが付く場合は、（ｄ）による。



（注）１．図示のない事項は、7.1による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　La の数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

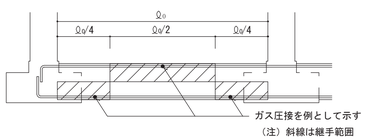
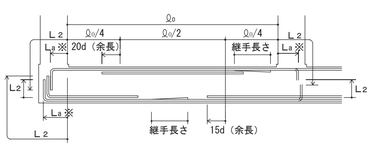


図5.3　主筋の継手、定着及び余長（その２）

（ｄ）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



（注）１．図示のない事項は、7.1による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　La の数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

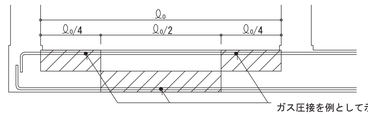


図5.4　主筋の継手、定着及び余長（その３）

5．2　基礎梁のあばら筋

（ａ）　あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(a)による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

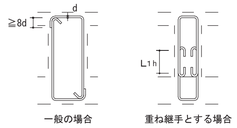


図5.5　あばら筋組立の形及びフックの位置

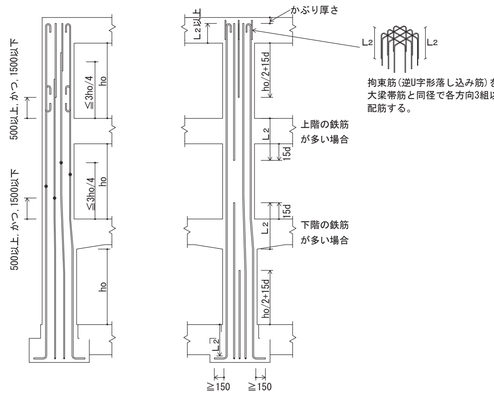
6　柱の配筋

6．1　柱主筋の継手、定着及び余長

（ａ）柱主筋の継手、定着及び余長の一般事項

（１）継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ、3h₀ /4（h₀ は柱の内法高さ）以下とする。

（２）継手、定着及び余長は図6.1による。ただし、柱頭定着長さL₂ を確保できない場合は構造図による。



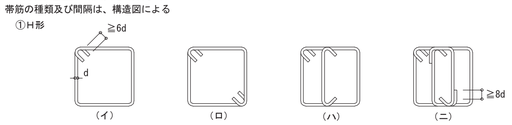
（注）1.　柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2.　隣り合う継手の位置は、表3.2による。

図6.1　柱主筋の継手、定着及び余長

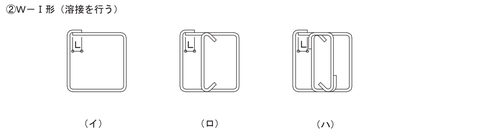
6．2　帯筋組立の形及び割付け

（ａ）帯筋の種類及び間隔は、構造図による

①Ｈ形

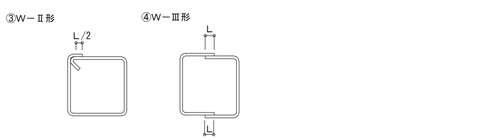


②Ｗ－Ⅰ形（溶接を行う）

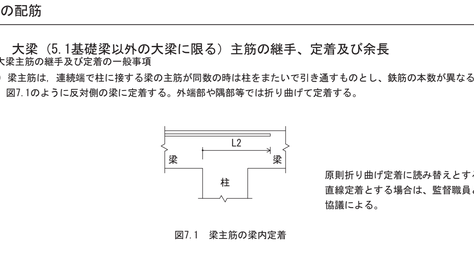


（注）溶接は、鉄筋の組立前に行う。

③Ｗ－Ⅱ形　　④Ｗ－Ⅲ形



③ＳＰ形（スパイラル筋）　　④丸形



（注）(1) Ｈ形を標準とする。
(2) フック及び継手の位置は、交互とする。
(3) 溶接する場合の溶接長さＬは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
(4) ＳＰ形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。
(5) Ｈ形の135°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ｉ形とする。

図6.2　帯筋組立の形

（ｂ）帯筋の割付けは、図6.3による。



（注）柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P₁ @、P₂ @は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.3　帯筋の割付け

7　梁の配筋

7．1　大梁（5,1基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

（ａ）大梁主筋の継手及び定着の一般事項

(1) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。

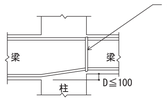
原則折り曲げ定着に読み替えとする。
直線定着とする場合は、監督職員との協議による。

図7.1　梁主筋の梁内定着

(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、3.1(b)(2)による。

上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

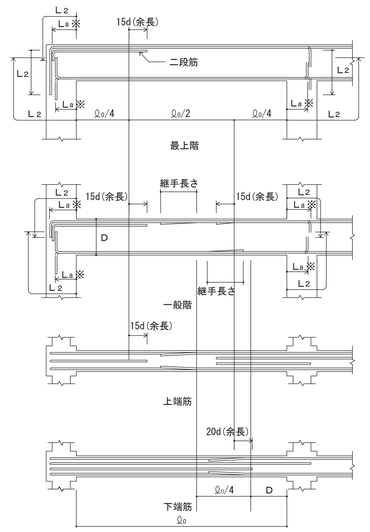
(3) 段違い梁は、図7.2による。



吊上げ筋は、一般のあばら筋より１サイズ太い鉄筋又は同径のものを２本重ねたものとする。

図7.2　段違い梁

（ｂ）ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



（注）1.　継手中心位置は次による。
上端筋：中央 Q₀/2以内
下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し，Q₀ /4を加えた範囲以内
2.　2.異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3.　　印は、継手及び余長を示す。
4.　破線は、柱内定着の場合を示す。
※　La の数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

図7.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

（ｃ）ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長

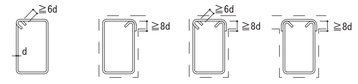
（注）1.　2.異形鉄筋の末端部(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2.　　印は、継手及び余長を示す。
3.　梁内定着の端部下端筋が接近するときは、　　のように引き通すことができる。
4.　破線は、柱内定着の場合を示す。
※　La の数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

図7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 S-004
図面名称	構造関係共通事項（2）	縮尺(A1) A1： — A3： —
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部　こども課	通し番号 159
	財務部　営繕課	全226葉

7．2　あばら筋（5.2基礎梁のあばら筋以外に限る）の組立の形及び割付け等

（a）あばら筋組立の形及びフックの位置

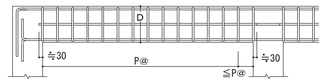


（注）1.　（イ）形を標準とする。ただし，L形梁の場合は，（ロ）又は（ハ），T形梁の場合は，（ロ）～（ニ）とすることができる。
2.　フックの位置は，（イ）の場合は交互とし，（ロ）の場合は，L形ではスラブの付く側，T形では交互とする。なお、（ハ）の場合は床板の付く側を90°折り曲げとする。

図7.5　あばら筋組立の形

（b）あばら筋の割付け

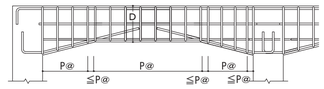
（1）　間隔が一様で，ハンチのない場合



（注）1.　あばら筋は，柱面の位置から割り付ける。
2.　図中のP@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6　あばら筋の割付け（その１）

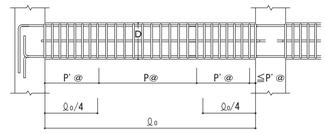
（2）　間隔が一様で，ハンチがある場合



（注）1.　あばら筋は，柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2.　図中のP@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7　あばら筋の割付け（その２）

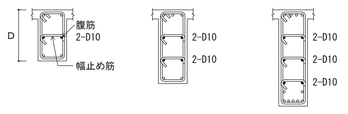
（3）　梁の端部で間隔の異なる場合



（注）1.　あばら筋は，柱面の位置から割り付ける。
2.　図中のP@，P'@は，特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8　あばら筋の割付け（その３）

（c）腹筋及び幅止め筋



600≦D＜900　　900≦D＜1,200　　1,200≦D＜1,500

（注）1.　腹筋に継手を設ける場合の継手長さは，150mm程度とし、柱等への、のみこみ長さは図7.6による。
2.　幅止め筋及び受け用幅止め筋は，D10-1,000@程度とする。

図7.9　腹筋及び幅止め筋

7．3　小梁主筋の継手、定着及び余長

（a）　連続小梁の場合

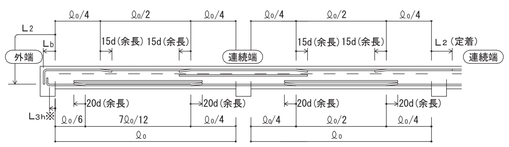


図7.10　小梁主筋の継手，定着及び余長（その１）

（b）　単独小梁の場合

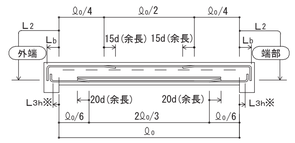
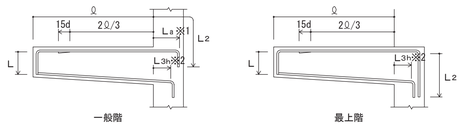


図7.11　小梁主筋の継手，定着及び余長（その２）

（注）1.　　印は，余長位置を示す。
2.　梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合，斜めにしてもよい。
3.　図示のない事項は，5.1及び7.1に準ずる。
※　Lshを確保できない場合は、図3.2（ロ）によることができる。

7．4　片持梁主筋の継手、定着及び余長

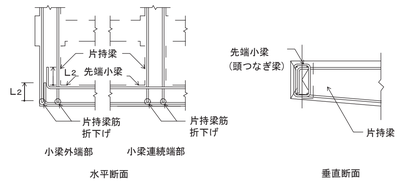
（a）　先端に小梁のない場合



（注）1.　　印は，余長位置を示す。
2.　先端の折曲げの長さLは，梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3.　図示のない事項は，7.1による。
※1　Laの数値は原則として柱せいの3/4以上とする。
※2　Lshを確保できない場合は、図3.2（ロ）によることができる。

図7.12　片持梁主筋の定着及び余長

（b）　先端に小梁がある場合



（注）1.　図示のない事項は，(a)による。
2.　先端小梁終端部の主筋は，片持梁内に水平定着する。
3.　先端小梁の連続端は，片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13　片持梁主筋の定着

8　壁及びその他の配筋

8．1　壁の配筋

（a）壁の配筋は表8.1により、種別の適用は構造図による。

表8.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	

（注）壁筋の配筋順序は，規定しない。

（b）片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表8.2により、種別の適用は構造図による。

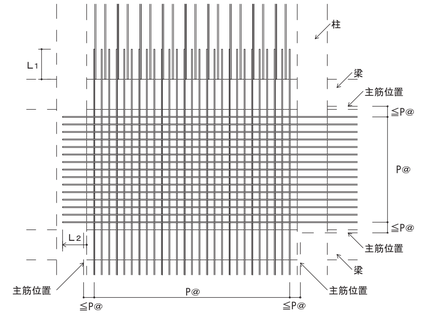
表8.2　片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	階段の配筋種別（表10.1）
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	180	KA1
	横筋	D10-200@ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	200	KA2
	横筋	D10-200@ダブル		KA4

（注）縦筋は，横筋の外側に配筋する。

8．2　壁の継手及び定着

（a）壁の継手及び定着の一般事項



（注）1.　図中のP@は，特記された壁筋の間隔を示す。
2.　壁配筋の重ね継手はL1とする。
3.　壁配筋の定着長さはL2とする。
4.　幅止め筋は，縦横ともD10-1,000@程度とする。
5.　原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。

図8.1　壁の配筋

8．3　壁の交差部及び端部の配筋

（a）壁の交差部及び端部の配筋は図8.2による。

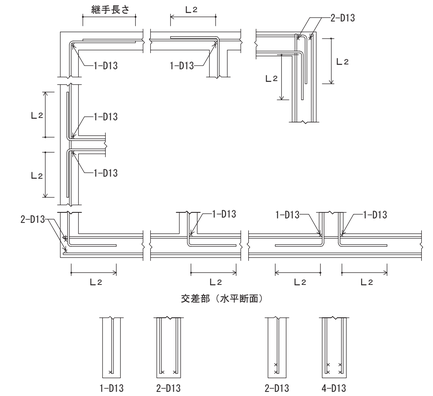


図8.2　壁の交差部及び端部の配筋

8．4　壁の開口部補強

（a）耐力壁を除く壁開口部の補強筋は，A形は表8.3，B形は表8.4とし、適用は構造図による。

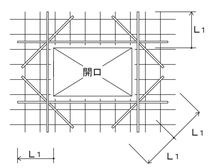
表8.3　壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	1-D13	1-D13
W18，W20	2-D13	2-D13

表8.4　壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	2-D13	1-D13
W18，W20	4-D13	2-D13

（b）壁開口部補強筋の定着長さは図8.3による。



（注）1.　開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

図8.3　壁開口部補強筋の定着長さ

8．5　パラペット

（a）パラペットの配筋は図8.4による。
（b）コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

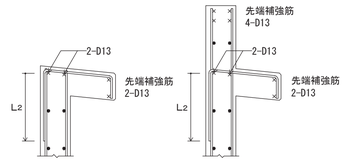


図8.4　パラペットの配筋

9　スラブの配筋

9．1　スラブの配筋

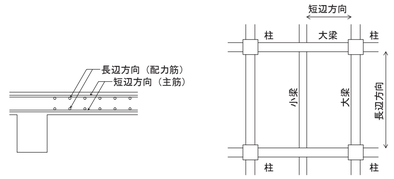
（a）スラブの配筋は表9.1により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9.1　スラブの配筋（S形）

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 1	D13-100@	D13-100@
S 2	同　上	D13-150@
S 3	同　上	D10，D13-150@
S 4	D13-150@	D13-150@
S 5	同　上	D10，D13-150@
S 6	同　上	D10-150@

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
S 7	D10，D13-150@	D10，D13-150@
S 8	D10，D13-150@	D10-150@
S 9	同　上	D10-200@
S10	D10，D13-200@	D10，D13-200@
S11	同　上	D10-200@
S12	同　上	D10-250@
S13	D10-200@	D10-200@
S14	同　上	D10-250@

（注）上端筋，下端筋とも同一配筋とする。



（注）1.　配筋の割付けは，中央から行い，端部は定められた間隔以下とする。
2.　鉄筋の重ね継手長さはL1とする。

図9.1　スラブの配筋

9．2　スラブ筋の定着及び受け筋

（a）スラブ筋の定着及び受け筋は図9.2により、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

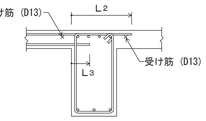


図9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）

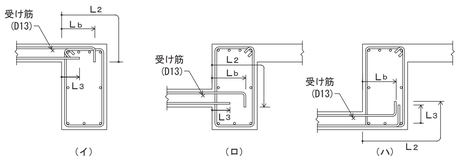


図9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-005
図面名称	構造関係共通事項（3）	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 160
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

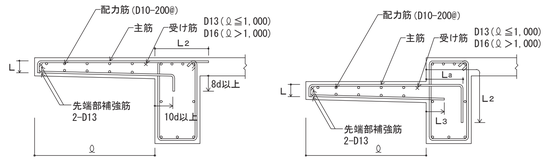
９．３　片持スラブの配筋

（ａ）片持スラブの配筋は表9.2により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9.2　片持スラブの配筋（CS形）

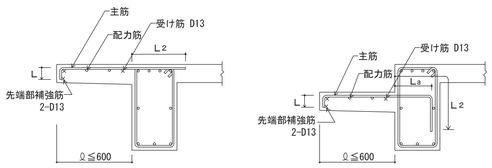
配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100@
	下	D13-200@
CS2	上	D13-150@
	下	D13-300@
CS3	上	D10, D13-150@
	下	D10, D13-300@
CS4	上	D10, D13-200@
	下	D10-200@

配筋種別		主筋
CS5	上	D10-200@
	下	D10-400@
CS6	上	D10, D13-200@
	下	——
CS7	上	D10-200@
	下	——



（段差なし）　　（段差あり）

図9.4　片持スラブの配筋（ＣＳ１からＣＳ５）



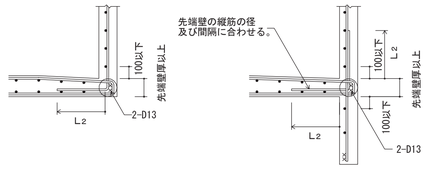
（段差なし）　　（段差あり）

図9.5　片持スラブの配筋（ＣＳ６及びＣＳ７）

（注）先端の折り曲げ長さＬは，スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

９．４　片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋

（ａ）片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

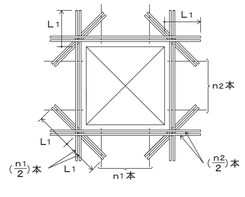


垂れ壁のない場合　　垂れ壁のある場合

図9.6　先端に壁が付く場合の配筋

９．５　スラブの開口部の補強

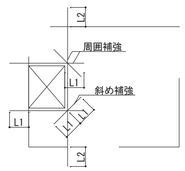
（ａ）スラブ開口部の補強及び定着方法は構造図による。ただし構造図において軽微な開口として特記されたものの開口補強については下記による事ができる。軽微な開口の特記は構造図による。



（注）1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し，偶角部に斜め方向に2-D13（ ℓ =2Ｌ１）シングルを上下筋の内側に配筋する。
2. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で，鉄筋を緩やかに曲げることにより，開口部を避けて配筋できる場合は，補強を省略することができる。
3. 開口のサイズ700㎜角以下を適用範囲とする。

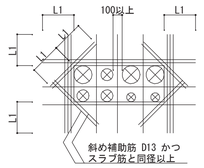
図9.7　スラブ開口部の補強配筋

b）開口が700㎜を超える場合



・補強筋は特記による。
・補強筋は周囲の梁内に定着させること。
・上記補強方法を計画し、監督職員の承諾を得ること。

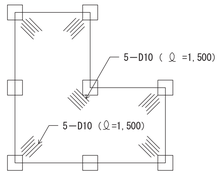
c）小開口が連続する場合



・開口間には2-D13を入れること。
・開口間のあきは、原則として100㎜以上とする。
・開口によって切断される鉄筋と同本数以上の鉄筋を左右に振り分けて配置すること。（上下筋共）
・上記補強方法を計画し、監督職員の承諾を得ること。

９．６　出隅部及び入隅部の補強

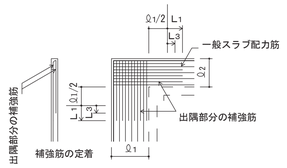
（ａ）屋根スラブの出隅及び入隅部



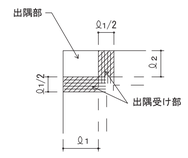
（注）補強筋を上端筋の下側に配置する。

図9.8　出隅及び入隅部の補強配筋

（ｂ）片持ちスラブの出隅部



（注）$\ell_1 \geqq \ell_2$とする



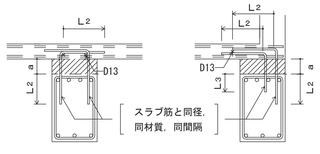
（注）1. $\ell_1 \geqq \ell_2$とする
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にＬ１定着する。
3. 出隅受け部分（斜線部分）の補強筋は構造図による。

出隅部分補強配筋　　出隅受け部配筋

図9.9　片持スラブ出隅部の補強配筋

９．７　スラブの打継ぎ補強等

（ａ）土間スラブの打継ぎ補強（基礎梁とスラブを一体打ちとしないで打継ぎを設ける場合の補強）
（土間スラブは土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。a>300の場合は構造図による。）

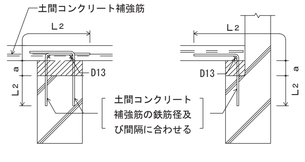


中間部　　端部

a≦300の場合

図9.10　打継ぎ補強配筋

（ｂ）　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋
（土間コンクリートの補強筋は構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。
a>300の場合は構造図による。）



中間部　　端部

a≦300の場合

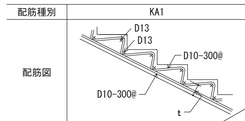
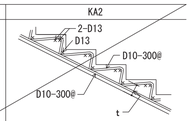
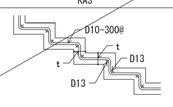
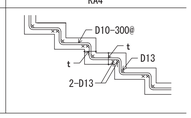
図9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

１０　階段の配筋

１０．１　片持スラブ形階段の配筋

（ａ）片持スラブ形階段の配筋は表10.1により、種別の適用及びスラブ厚さ等は構造図による

表10.1　片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

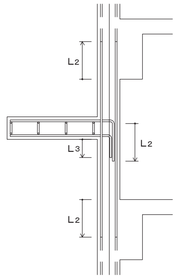


図10.1　片持スラブ形階段配筋の定着

（注）1.　片持ちスラブ形階段を受ける壁配筋は，8.1(b)による。
2.　階段主筋は，壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3.　スラブ配力筋の継手及び定着の長さは，表3.3のＬ３ とする。

１０．２　二辺固定スラブ形階段の配筋

（ａ）二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2、図10.3により、
種別の適用、スラブ厚さ等は構造図による。

表10.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13, D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

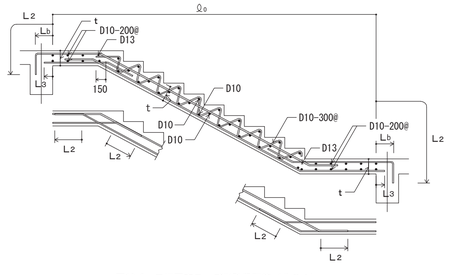
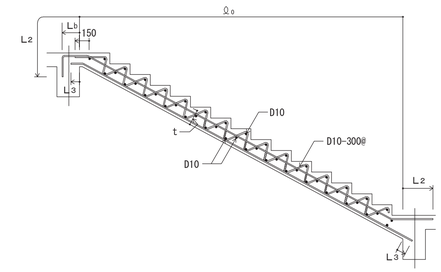


図10.2　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）



（注）　下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

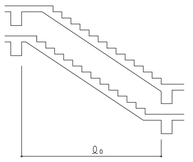
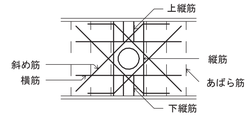


図10.3　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

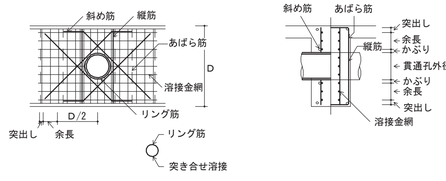
１１　梁貫通孔その他の配筋

１１．１　梁貫通孔の配筋

（ａ）梁貫通孔補強筋の名称等は図11.1による。
（ｂ）孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
（ｃ）孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
耐圧スラブ付きの基礎梁の梁中央部においては、梁上端より1/3Dの範囲に孔を設けてはならない。
（ｄ）孔は、柱面から、原則として、1.5D(Dは梁せい)以上離す。ただし、基礎梁は柱面から 1.0mの範囲は開口を設けてはならない。
（ｅ）孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。
（ｆ）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
（ｇ）補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
（ｈ）孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの（軽微な開口）で鉄筋を緩やかに曲げることにより、
開口部を避けて配筋出来る場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
（ｉ）溶接金網の余長は１格子以上とし、突き出しは10mm以上とする。
（ｊ）溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13Φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。
（ｋ）溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
（ｌ）認定工法を採用する場合は、認定条件に準拠すること。

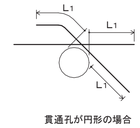


H形



MH形及びM形

図11.1　梁貫通孔補強筋の名称等



貫通孔が円形の場合

図11.2　補強筋の定着長さ

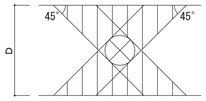


図11.3 他の開孔を設けない範囲

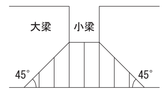
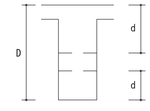


図11.4 孔を設けない範囲



500≦D＜700　……　d≧175
700≦D＜900　……　d≧200
900≦D　……　d≧250

図11.5　孔の上下方向の位置の限度

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-006
図面名称	構造関係共通事項（4）	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 161
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

１１．２　梁貫通孔の補強形式

（ａ）梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、種別の適用、箇所数等は構造図による

表11.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注）— — は，一般部分のあばら筋を示す。

表11.2　M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13		

（注）— — は，一般部分のあばら筋を示す。

表11.3　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

（注）— — は，一般部分のあばら筋を示す。

１１．３　コンクリートブロック帳壁との取合い

（ａ）控壁の配筋は、図11.3とし、控壁の配置は意匠図による。

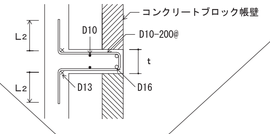


図11.3　控壁の配筋（水平，垂直とも）

（ｂ）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は図11.4により、帳壁の配筋の定着長等は意匠図による。

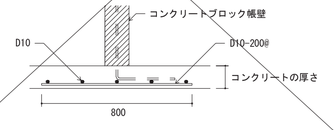


図11.4　壁付き土間コンクリートの補強配筋

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-007
図面名称	構造関係共通事項（5）	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 162
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

構造関係共通図(鉄骨標準図)

1 縁端距離及びボルト間隔等

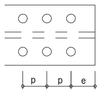
（1）縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位：mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

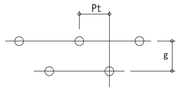


（2）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2　千鳥のゲージ及びボルト間隔　（単位：mm）

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔　Pt	
	ねじの呼び	
	M12,M16,M20,M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	–	40

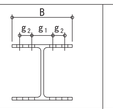


（3）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位：mm）







A又はB	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

（4）ボルト記号

表1.4　高力ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	／	|	┼	✳	✳

表1.5　普通ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	⊖	⊕	✳	✳

2 溶接記号

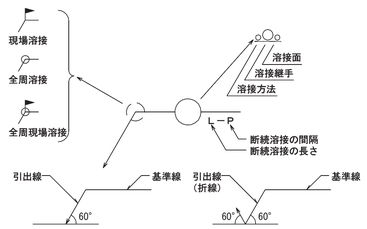
設計図中で使用する記号は、表2.1、表2.2、図2.1を標準とする。

表2.1　溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表2.2　溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L－P



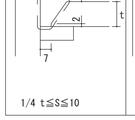
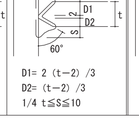
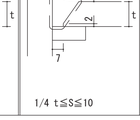
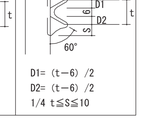
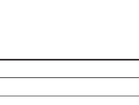
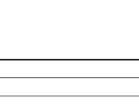
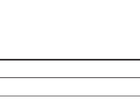
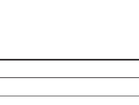
※特記なき限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

図2.1　溶接記号の記載例

3 溶接継手の種類別開先標準

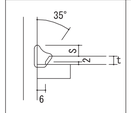
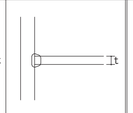
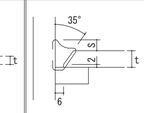
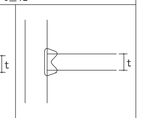
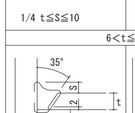
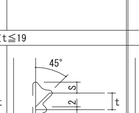
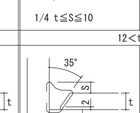
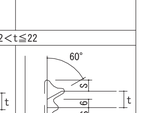
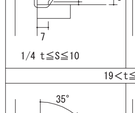
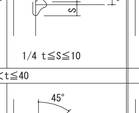
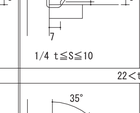
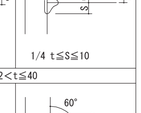
突合わせ継手の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
			
6<t≦19		12<t≦22	
19<t≦40		22<t≦40	
	 D1 = 2（t－2）/3 D2 = （t－2）/3		 D1 =（t－6）/2 D2 =（t－6）/2

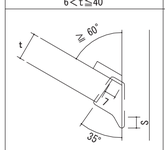
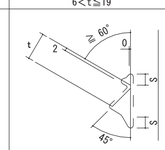
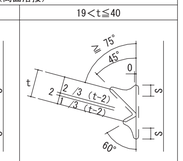
T型継手の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
 1/4 t≦S≦10		 1/4 t≦S≦10	
6<t≦19		12<t≦22	
 1/4 t≦S≦10	 1/4 t≦S≦10	 1/4 t≦S≦10	 1/4 t≦S≦10
19<t≦40		22<t≦40	
 1/4 t≦S≦10	 D1= 2（t－2）/3 D2= （t－2）/3 1/4 t≦S≦10	 1/4 t≦S≦10	 D1=（t－6）/2 D2=（t－6）/2 1/4 t≦S≦10

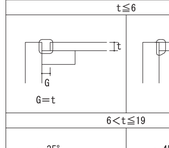
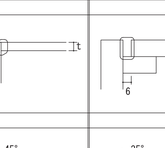
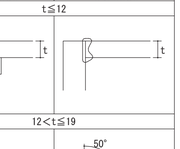
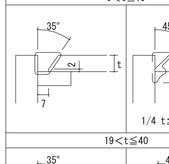
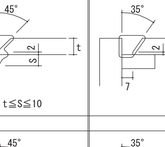
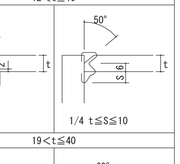
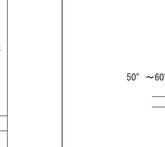
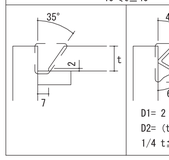
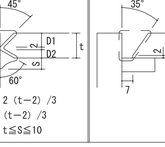
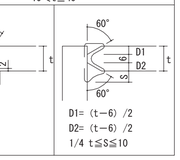
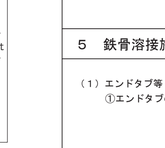
部材が直交しない場合の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
6<t≦40	6<t≦19	19<t≦40
 1/4 t≦S≦10	 1/4 t≦S≦10	 1/4 t≦S≦10

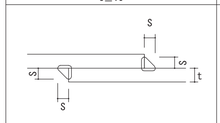
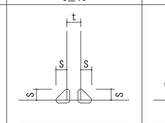
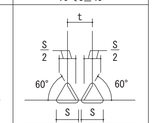
かど継手の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
			
6<t≦19		12<t≦19	
	 1/4 t≦S≦10		 1/4 t≦S≦10
19<t≦40		19<t≦40	
	 D1= 2（t－2）/3 D2= （t－2）/3 1/4 t≦S≦10		 D1=（t－6）/2 D2=（t－6）/2 1/4 t≦S≦10

隅肉溶接の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
t≦16	t≦16	16<t≦40
		

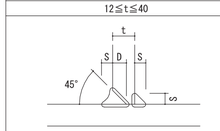
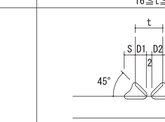
隅肉溶接のサイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	12	13	15	17	19	21	24

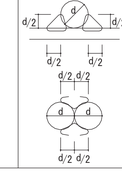
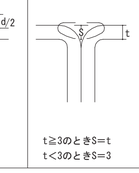
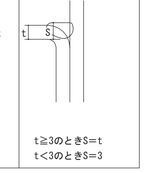
部分溶込み溶接の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）
12≦t≦40	16≦t≦40
	
t 12 16 19 22 25 28 32 36 40 D 10 11 12 13 13 14 15 15 16 1/4 t≦S≦10	D1=（t－2）/2 D2=（t－2）/2 1/4 t≦S≦10

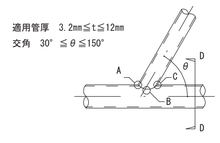
フレア溶接の開先標準

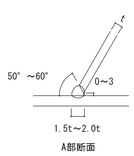
（単位：mm）

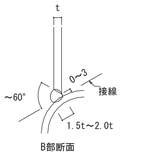
H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）			
1（丸鋼等片面溶接）	2（丸鋼等両面溶接）	3（軽量形鋼Ｖ形溶接）	4（軽量形鋼レ形溶接）
		 t≧3のときS=t t<3のときS=3	 t≧3のときS=t t<3のときS=3

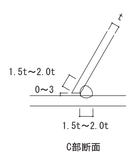
4 鋼管分岐継手

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。　（単位：mm）





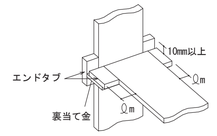




5 鉄骨溶接施工

（1）エンドタブ等

①エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



エンドタブの長さ　（単位：mm）

溶接方法	0 m
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

②エンドタブの鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。

③スプライスプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。

④フィラープレートの材質は、SS400とする。

⑤代替エンドタブ（固形エンドタブ等）を使用する場合は、溶接技能者技量付加試験等により、監督職員の承諾を得ること。

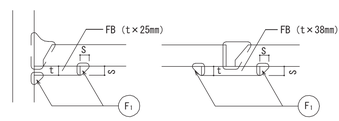
（2）裏当て金

裏当て金の溶接

①裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。

②完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内部に設置する。

裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



裏当て金の厚さ　（単位：mm）

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t>9	9

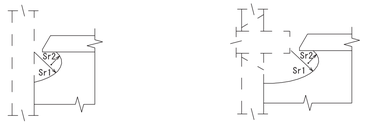
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事
図面名称	構造関係共通事項（6）
担当課	生涯学習部 生涯学習課
	健康こども部　こども課
	財務部　営繕課
縮尺(A1)	A1：－ A3：－
工事番号	08-01
図面番号	S-008
通し番号	163
	全226葉

（３）スカラップ

改良型スカラップ

①スカラップ半径Sr1は35㎜とする。Sr2は10㎜とする。

②スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



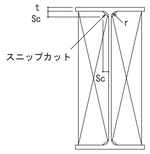
従来型スカラップ

①スカラップ半径Srは35㎜とする。



（４）スニップカット

①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



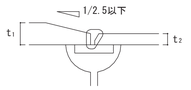
スニップカットの寸法　（単位：mm）

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

※ ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r＋2により求めるものとする。

（５）溶接部分の段差

①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10㎜を超える場合



（７）鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱（KJ/cm）	パス間温度（℃）
400N級鋼	JIS Z 3211	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3211	40以下	350以下
	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3214		
	YGA-50W, 50P		
520N級鋼	YGW-18, 19	30以下	250以下
400N級STKR、BCR及びBCP	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGW-18, 19	40以下	350以下
490N級STKR、及びBCP	YGW-18, 19	30以下	250以下

注）材種・強度の異なる鋼材の溶接部については、高い強度の種類とすること。

6　梁貫通孔補強

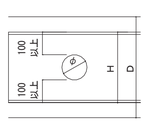
（１）鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。

（２）貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。

（３）貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で２倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で３倍以上確保する。

（４）梁貫通孔位置の限度は以下による。

（５）認定工法を採用する場合は、認定条件に準拠すること。

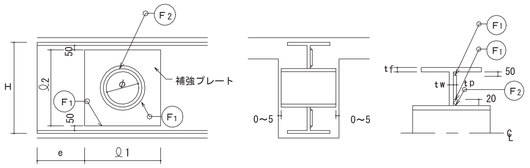


梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）

H：鉄骨せい
D：はりせい
φ：貫通孔内径寸法
（φ≦H/2かつφ≦D/3）

※ 梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端から貫通孔の中心まで1.2D以上離し、梁継手位置等にも留意する。

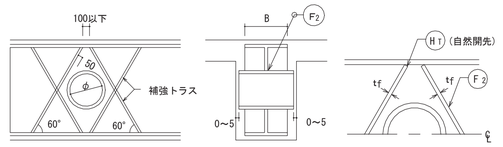
補強プレート法



Ω1は3φまたはΩ 2のうち小さい方とする。（e≧Hとする）

e：材端と補強プレートとの間隔

補強トラス法



7　広幅平鋼の取り扱い

（１）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であっても FB又はPLとする。

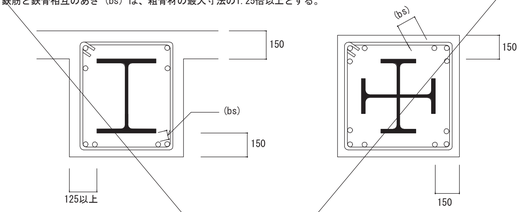
（２）BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
	500					○	○	○	○	○	○	○

8　鉄骨と鉄筋コンクリート部分の取合い

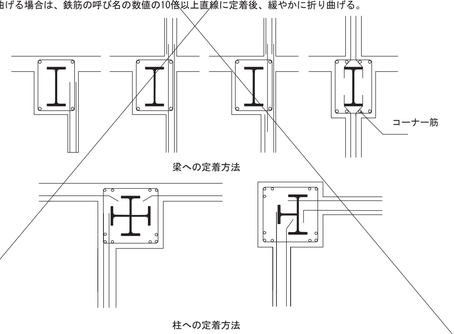
（１）鉄骨のかぶり厚さ

鉄筋と鉄骨相互のあき（bs）は、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。

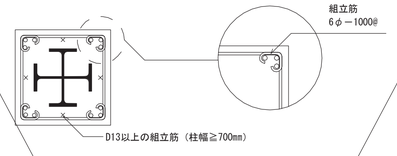


（２）壁筋の周辺部材への定着

鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。

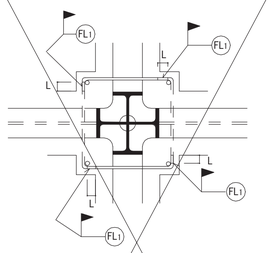


（３）柱組立筋



（４）仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



（５）鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋貫通孔の径

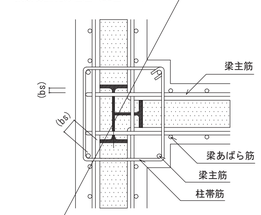
①主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。

②鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

（単位：mm）

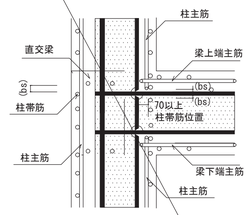
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄筋貫通孔の位置（単位：mm）

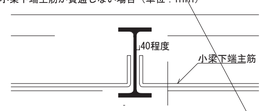


小梁下端主筋が貫通する場合





小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-009
図面名称	構造関係共通事項（7）	縮尺(A1) A1：－ A3：－	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 164
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

（ ハイベースNEO工法 同等品とする ）

ハイベースNEO工法設計施工標準

（ハイベースNEO工法は、S造及びＣＦＴ造に適用）

2025/10

大臣認定　MSTL-0566（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0044, 0046, 0228～0230（アンカー用ボルトセット）

BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ、高強度柱適用タイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設　　計

１．材質

（１）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（ＥＢ型式、ＥＭ型式、ＥＨ型式）, 高強度柱適用タイプ（KB型式）

	ベースプレート エコタイプ	ベースプレート 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト※2	エコナット※2	ナット※2	座　金※2	定着板
規　格	JIS G3136※5 又はTMCP鋼※4	TMCP鋼※4	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備　考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B, C	TMCP385B, C	降伏比 ７０%以下	−	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Ｇタイプ（ＧＢ型式、ＧＭ型式、ＧＨ型式）

	ベースプレート※1	アンカーボルト※2	ナット※2	座　金※2	定着板
規　格	HCW490B（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	メートル並目※3	メートル並目※3	—	—
備　考	SN490B同等	降伏比 ７０%以下	強度区分5（二重ナット時） 強度区分4（一重ナット時）	SM490A	SS400

※１ 国土交通大臣認定（ＭＳＴＬ-0566）　※２ 国土交通大臣認定（ＭＢＬＴ-0042～0044, 0046, 0228～0230）
※３ Ｍ７２は細目ねじ　※４ 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用　※５ 電炉材を使用する場合があります

（２）ベースプレート下面のモルタル

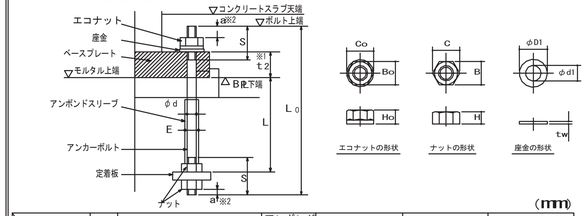
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※　※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル（NX-２０００及びクイック３は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Ｆｃ＝１８～３６Ｎ／ mm²
鉄　筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱　形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の０．１倍以上確保しなければならない。

２．アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



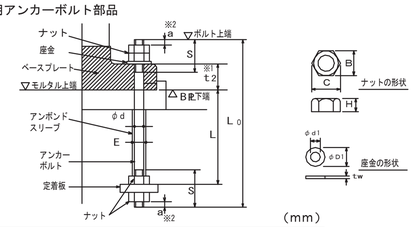
（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径 φd	ねじ ピッチ P	ねじ 長さ S	余長※2 a	定着長さ L	全長 LO	アンボンドスリーブ 外径 E	エコナット 高さ HO	エコナット 二面幅 BO	エコナット 対角距離 CO	ナット 高さ H	ナット 二面幅 B	ナット 対角距離 C	座金 厚さ tw	座金 内径 φd1	座金 外径 φD1
エコタイプ※3 M24	24	3	95～105	10	400～480	550～645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
エコタイプ※3 M30	30	3.5	110～130	13	400～600	580～900	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
エコタイプ※3 M36	36	4	130	16	480～720	690～925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
エコタイプ※3 M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
高強度柱適用タイプ M42	42	4.5	165	18	840	1110	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※１　t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※２　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※３　表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、
エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

⚠注意
・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Ｇタイプ用アンカーボルト部品



（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径 φd	ねじ ピッチ P	ねじ 長さ S	余長※2 a	定着長さ L	全長 LO	アンボンドスリーブ 外径 E	ナット 高さ H	ナット 二面幅 B	ナット 対角距離 C	座金 厚さ tw	座金 内径 φd1	座金 外径 φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130～150	16	720	925～955	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	150～165	18	840	1060～1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175～190	22	960	1235～1270	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	185～210	24	1120	1420～1470	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	200～230	28	1280	1610～1660	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※１
t₂ はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。

※２
ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。

※３
上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

⚠注意
・Ｇタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

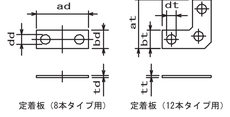
ベースプレートのアンカーボルト孔径　（mm）

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ 高強度柱適用タイプ	38	44	50	57	−	−	−	−
Ｇタイプ孔径	−	38	45	53	61	70	79	87

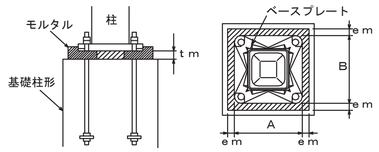
定着板（エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Ｇタイプ共通）　（mm）

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ ts	4本タイプ用 外径 Ds	4本タイプ用 内径 ds	8本タイプ用 厚さ td	8本タイプ用 長さ ad	8本タイプ用 幅 bd	8本タイプ用 内径 dd	12本タイプ用 厚さ tt	12本タイプ用 長さ at	12本タイプ用 幅 bt	12本タイプ用 内径 dt
M24	16	70	27	−	−	−	−	−	−	−	−
M30	16	90	33	9	180	65	33	−	−	−	−
M36	19	100	39	9	215	75	39	−	−	−	−
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	−	−	−	16	380	145	76	16	375	145	76

ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースＮＥＯ工法設計ハンドブックを参照ください。

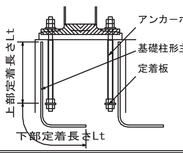


３．ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ（ｔｍ）	標準寸法 ｔｍ=50mm	許容範囲 ３０≦ｔｍ≦７０mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（ｅｍ）	ｅｍ≧３０mm	許容範囲 ｅｍ≧２５mm

４．基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



基礎柱形主筋の定着長さ（Lt）は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

１．溶　接　材　料

被覆アーク溶接	JIS Z 3211（旧JIS Z 3212）に従い選定する（低水素系）
ガスシールドアーク溶接	JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する

※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

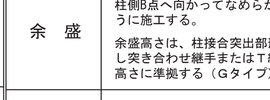
２．ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

※　柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はＭＣ−ＴＬ−１Ｂ、ＧＣ−ＴＬ−１Ｂによる　　※開先形状は参考

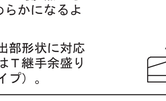
エコタイプ・高強度柱適用タイプ

ベースプレート形状

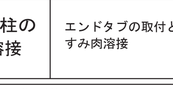
角形鋼管柱用（EB型式）



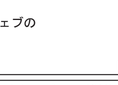
円形鋼管柱用（EM型式）



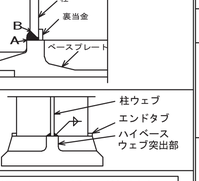
高強度角形鋼管柱用（KB型式）



H形柱用（EH型式）



開先形状

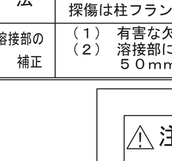


⚠注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

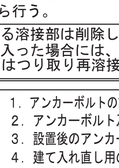
Ｇタイプ

ベースプレート形状

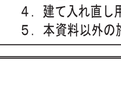
角形鋼管柱用（GB型式）



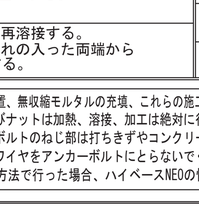
円形鋼管柱用（GM型式）



H形柱用（GH型式）



開先形状

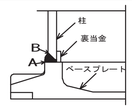


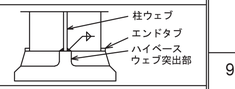
３．組立溶接

４．本溶接の手順

５．溶接施工一般

予　熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余　盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはＴ継手余盛り高さに準拠する（Ｇタイプ）。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とＨ形柱ウェブのすみ肉溶接





⚠注意　柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がることがあります。

６．検　　査

方　法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１）　有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２）　溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から５０mm以上、はつり取り再溶接する。

現　場　施　工

（#）：センクシアの担当範囲

１．捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

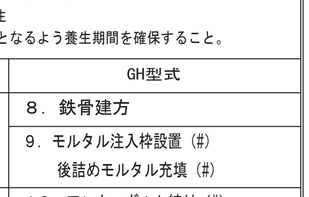
２．墨出し

３．アンカーボルト搬入（#）

４．アンカーボルト据付（#）

アンカーボルト設置

アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。



アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値

平面



e≦３mm
（形板芯にて検査）

レベル

基準高さよりの誤差eh
－３mm≦eh≦10mm

５．鉄筋配筋・型枠の立込み

６．基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

７．中心塗り部分モルタル施工

中心塗部分モルタル
ＮＸ-2000、クイック３は使用不可。

後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-2000、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※
注入方法はヘッド圧工法による。
※ センクシアが供給するものに限る

（イ）□ ２５０以下、φ２６７．４以下、Ｈ２５０以下の場合
１００mm ≦ ａ ≦２００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下

（ロ）□ ３００以上□７００以下、φ３００以上φ７１１．２以下、および Ｈ２５０以上の場合
１５０mm ≦ ａ ≦３００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下

（ハ）□ ７５０～□１２００、φ７５０～φ１０１６の場合
３００mm ≦ ａ ≦５００mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
８．鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	８．鉄骨建方
	９．モルタル注入栓設置（#） 後詰めモルタル充填（#）
９～１０．モルタル注入栓設置（#） 後詰めモルタル充填（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	１０．アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30°回転、許容差：$^{+10°}_{-0}$）

１１．モルタル注入栓取り外し

施工完了後、ハイベースＮＥＯ工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社

本社　ＴＥＬ　０３-４２１４-１９３２
札幌　ＴＥＬ　０１１-７０８－１１７７
東北　ＴＥＬ　０２２-２１３-５５９５

ＵＲＬ　https://www.senqcia.co.jp/

関東　ＴＥＬ　０２７-３２２-９４１１
中部　ＴＥＬ　０５２－５８２－３３５６
北陸　ＴＥＬ　０７６-２３３-５２６０

関西　ＴＥＬ　０６-６３９５-２１３３
中四国　ＴＥＬ　０８２-２４０-１６３０
九州　ＴＥＬ　０９２-４５２-０３４１

⚠注意
1．アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2．アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3．設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4．建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5．本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-010
図面名称	鉄骨露出柱脚標準図（ハイベースNEO工法 同等品）	縮尺(A1) A1：－ A3：－	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 165
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

F.T.Pile構法 既製コンクリート杭（標準タイプ、各種既製コンクリート杭）　　BCJ評定-FD0141-06

（F.T.Pile構法 同等品とする）

■構法概要

1．本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。

2．杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパー状のクリアランスを設ける。

3．杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの２タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

・杭　：　各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭　等）

・杭径　：　300mm～1200mm

・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）　：　普通コンクリート　設計基準強度：18～60 N/mm^2

（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

■施工手順

既製コンクリート杭の施工
（各種工法による）
↓
掘　削
↓
基礎底地盤の整地
↓
杭芯・杭頭レベルの確認
↓
FTキャップの設置
（仮止めボルトによる固定）
↓
レベルコンクリートの打設
↓
仮止めボルトの撤去
↓
基礎の配筋・型枠
↓
基礎コンクリートの打設

＊留意事項

・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承諾を得ること。

・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。

・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパー型枠）を使用すること。

・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。

・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。

・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。

・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。

・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。

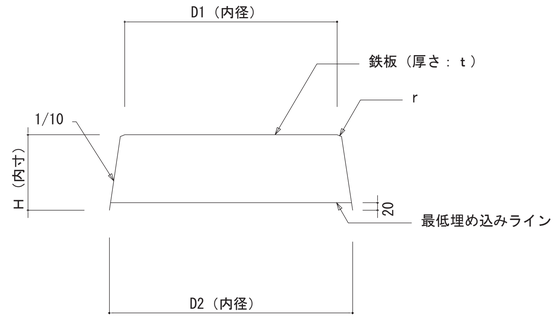
・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。

・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。

・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。

・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

■FTキャップ（テーパー型枠）仕様



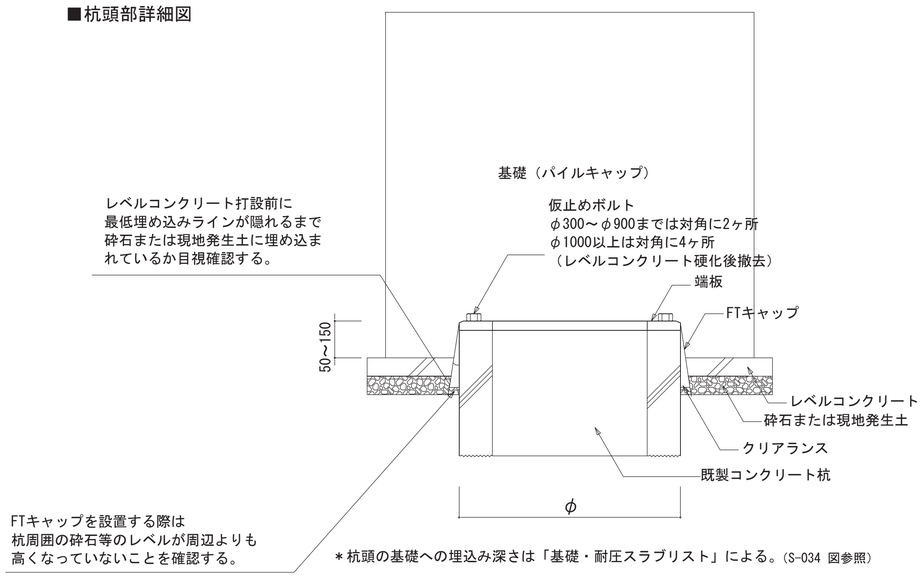
杭径：φ	鉄板厚さ：ｔ(mm)	D1(mm)	D2(mm)	H(mm)	r(mm)	W(kg)
300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
350	1.2	351	395	201	2.0	2.3
400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

＊FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。

・FTキャップに「FTP」の刻印があること。

・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図



＊杭頭の基礎への埋込み深さは「基礎・耐圧スラブリスト」による。(S-034 図参照)

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-011
図面名称	パイルキャップ標準図（F.T.Pile構法 同等品）	縮尺(A1) A1：－ A3：－	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 166
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

型枠用鋼製デッキプレート設計・施工標準 （JF75・JF75W 同等品とする）

1 型式・質量および断面性能

JF75 ⇒熊谷工場製造
JF75W⇒神戸工場製造

	型式	板厚 [mm]	製品質量 垂鉛めっき(Z12) [kg/枚/m]	[kg/m²]	断面性能 I [x10⁴mm⁴/m]	Z [x10³mm³/m]
□	JF75-08	0.8	7.95	12.6	120	18.7
	JF75W-08		7.97	12.6		
□	JF75-10	1.0	9.88	15.7	150	24.4
	JF75W-10		9.88	15.7		
□	JF75-12	1.2	11.8	18.7	180	29.4
	JF75W-12		11.8	18.7		
□	JF75-14	1.4	13.7	21.8	206	34.4
	JF75W-14		13.6	21.6		
□	JF75-16	1.6	15.7	24.9	232	39.3
	JF75W-16		15.5	24.6		

（注）JF75（熊谷工場）とJF75W（神戸工場）の使い分けについて：製品は原則、指定搬入先に近い工場にて製造し出荷致します

ＪＦ７５・ＪＦ７５Ｗの設計・施工は、(一社)公共建築協会「平成18年版 床型枠用鋼製デッキプレート(フラットデッキ)設計施工指針・同解説」による。
ＪＦ７５評価番号［評価 第911-0100A003号］

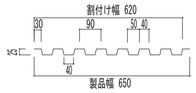
種類の記号および材料

種類記号	付着量記号	最小付着量（両面）[g/m²]	使用材料
SGCC	■ Z12	120	JIS G 3302「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm²、引張強さ295N/mm²以上
SGHC	□ Z27	275	
SZACC SZAHC	□ Y18	180	JIS G 3317「溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯」 降伏点205N/mm²、引張強さ295N/mm²以上
□ その他（ ）			

（注）断面性能のⅠは、断面2次モーメント(全断面有効)、Zは断面係数(有効幅考慮50t)を示します
Y18及びその他製品については、事前にご相談下さい

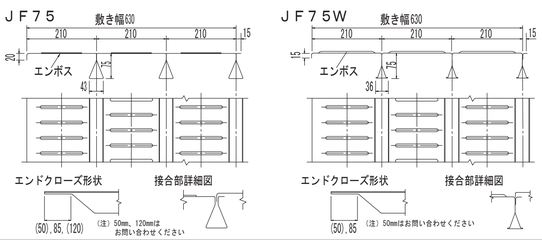
キーストンプレート

原則として、デッキ長さが1,000mm未満の場合に使用。
(L=350~1,200mm)※板厚：0.8mm



キーストンプレート				
板厚 mm	全断面有効 断面2次モーメント I x10⁴mm⁴/m	有効幅考慮 断面係数 Zx10³mm³/m	製品質量 垂鉛めっき(Z12) kg/m	垂鉛めっき(Z27) kg/m
0.8	12.2	9.80	5.89	6.07

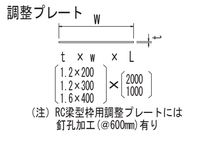
2 製品仕様



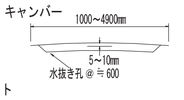
製品長さ・エンドクローズ寸法

種類	ｴﾝﾄﾞｸﾛｰｽﾞ長さ	製品長さ
ＪＦ７５	85、(50、120) mm	1000~4900 mm
ＪＦ７５Ｗ	85、(50) mm	1000~4900 mm

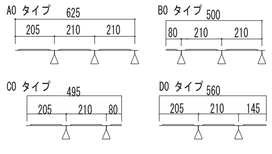
（注）50mm、120mmはお問い合わせください



（注）RC梁型枠用調整プレートには釘孔加工（@600mm）有り



役物デッキプレート



3 断面応力・たわみの計算

断面応力・たわみの計算は、一般に単純支持梁モデルを用いて計算する
算定式および許容値は、下表とする

項目		算定式
曲げ応力 (N/mm²)	[S 造]	$\sigma = \frac{M}{Z} = \frac{WL^2}{8Z} \times 10^3 \leqq f_b$
	[RC・SRC造]	$\sigma = \frac{M}{Z} = \frac{WL^2}{8Z} \times 10^3 \leqq \frac{f_b}{\alpha}$
たわみ (mm)		$\delta = \frac{5WL^4}{384EI} \times 10^9 \leqq \frac{Lx10^3}{180} + 5$
支圧耐力 (N/m)		P＝ WL ≦ Pa

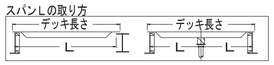
記号説明

σ	：曲げ応力度	(N/mm²)
fb	：許容曲げ応力度 fb= 205	(N/mm²)
M	：最大曲げモーメント	(N･mm/m)
Z	：断面係数（有効幅５０ｔ考慮）	(mm³/m)
δ	：最大たわみ	(mm)
C	：たわみ算定用係数 (C=1.6)	
W	：設計（上載）荷重	(N/m²)
L	：スパン	(mm)
E	：鋼材のヤング係数 E=2.05x10⁵N/mm²	(N/mm²)
I	：断面２次モーメント(全断面有効)	(mm⁴/m)
α	：施工割増係数[別表参照]	
P	：ＪＦデッキリブ支圧荷重	(N/m)
Pa	：許容支圧荷重[別表参照]	(N/m)

許容支圧荷重Pa（幅1m当たり）

板厚 (mm)	0.8	1.0	1.2
許容支圧荷重 (N/m)	9,800	14,700	19,600

スパンLの取り方



設計荷重 W

W=W₁+ W₂+ W₃　W₁：スラブ自重＝（スラブ厚）x（鉄筋コンクリート単重）
W₂：フラットデッキ自重　W₃：作業荷重（下記）

施工時作業荷重	□ 1,470N/m²［ポンプ工法］　□ 2,450N/m²［ホッパー・バケット工法］ □（ N/m²）［ ］
コンクリート［鉄筋コンクリート単重］	□ 普通コンクリート［ 24kN/m³］　□ 軽量コンクリート［ 20kN/m³］ □（ ）［ kN/m³］

施工割増係数（支持梁がＲＣ造またはＳＲＣ造の場合）

施工状況の種類	施工割増係数(α)	施工条件など
□ Ⅰ類	1.0	ＲＣ造またはＳＲＣ造の場合で、荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合
□ II類	1.25	Ⅰ類以外のＲＣ造またはＳＲＣ造の場合で、板厚１.０mmまたは板厚１.２mmのフラットデッキを使用する場合
□ III類	1.5	Ⅰ類以外のＲＣ造またはＳＲＣ造の場合で、板厚０.８mmのフラットデッキを使用する場合

スラブ厚さ別許容スパン早見表［施工時作業荷重1,470N/m²、施工割増係数考慮］

建物の構造		S造、RC・SRC造					RC・SRC造		
RC・SRC造 施工状況の種類		Ⅰ類[施工割増係数：α=1.0]					II類[α=1.25]		III類[α=1.5]
スラブ厚S(mm)	板厚 t	0.8mm	1.0mm	1.2mm	1.4mm	1.6mm	1.0mm	1.2mm	0.8mm
普通コンクリート 24 kN/m³	120	2,610	2,870	3,040	3,160	3,270	2,660	2,910	2,130
	125	2,580	2,850	3,010	3,130	3,250	2,630	2,870	2,100
	130	2,540	2,830	2,990	3,110	3,220	2,590	2,840	2,080
	135	2,510	2,810	2,960	3,090	3,200	2,560	2,800	2,050
	140	2,480	2,790	2,940	3,060	3,170	2,530	2,770	2,030
	145	2,450	2,770	2,920	3,040	3,150	2,500	2,740	2,000
	150	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130	2,470	2,700	1,980
	155	2,400	2,730	2,880	3,000	3,110	2,440	2,670	1,960
	160	2,370	2,700	2,860	2,980	3,080	2,410	2,640	1,930
	170	2,320	2,640	2,820	2,940	3,040	2,360	2,590	1,890
	180	2,270	2,590	2,790	2,900	3,010	2,320	2,540	1,850
	190	2,230	2,540	2,750	2,870	2,970	2,270	2,490	1,820
	200	2,180	2,490	2,720	2,830	2,940	2,230	2,440	1,780
	250	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	2,040	2,240	1,640
	300	1,860	2,120	2,330	2,510	2,660	1,900	2,080	1,520
軽量コンクリート 20 kN/m³	120	2,760	2,980	3,140	3,270	3,390	2,810	3,080	2,260
	125	2,730	2,950	3,120	3,250	3,360	2,780	3,040	2,230
	130	2,700	2,930	3,100	3,220	3,340	2,750	3,010	2,200
	135	2,670	2,910	3,070	3,200	3,310	2,710	2,970	2,180
	140	2,640	2,890	3,050	3,180	3,290	2,680	2,940	2,150
	145	2,610	2,870	3,030	3,150	3,270	2,650	2,900	2,130
	150	2,580	2,850	3,010	3,130	3,250	2,630	2,870	2,100
	155	2,550	2,830	2,990	3,110	3,220	2,600	2,840	2,080
	160	2,520	2,810	2,970	3,090	3,200	2,570	2,810	2,060
	170	2,470	2,780	2,940	3,060	3,160	2,520	2,760	2,020
	180	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130	2,470	2,700	1,980
	190	2,380	2,710	2,870	2,980	3,090	2,420	2,650	1,940
	200	2,340	2,660	2,840	2,950	3,060	2,380	2,610	1,910
	250	2,150	2,450	2,690	2,810	2,910	2,190	2,400	1,760
	300	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	2,040	2,240	1,640

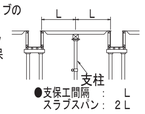
1)□ 部は、たわみで決定する範囲を示す。　（単位：mm）

中間支保工を設ける場合の許容スパン早見表［施工時作業荷重1,470N/m²］

施工状況の種類	Ⅰ類			II類		III類
施工割増係数	α=1.0			α=1.25		α=1.5
スラブ厚S(mm) 板厚 t	0.8mm	1.0mm	1.2mm	1.0mm	1.2mm	0.8mm
普通コンクリート 24 kN/m²	120	4,370	4,900	4,900	4,900	4,900	4,270
	130	4,150	4,900	4,900	4,900	4,900	4,150
	140	3,950	4,900	4,900	4,900	4,900	3,950
	150	3,770	4,900	4,900	4,900	4,900	3,770
	160	3,600	4,900	4,900	4,830	4,900	3,600
	170	3,450	4,900	4,900	4,730	4,900	3,450
	180	3,310	4,900	4,900	4,640	4,900	3,310
	190	3,180	4,750	4,900	4,540	4,900	3,180
	200	3,060	4,570	4,900	4,460	4,880	3,060
	250	2,570	3,850	4,900	3,850	4,480	2,570
	300	2,220	3,330	4,420	3,330	4,170	2,220
軽量コンクリート 20 kN/m²	120	4,900	4,900	4,900	4,900	4,900	4,520
	130	4,670	4,900	4,900	4,900	4,900	4,410
	140	4,450	4,900	4,900	4,900	4,900	4,310
	150	4,260	4,900	4,900	4,900	4,900	4,210
	160	4,080	4,900	4,900	4,900	4,900	4,080
	170	3,920	4,900	4,900	4,900	4,900	3,920
	180	3,770	4,900	4,900	4,900	4,900	3,770
	190	3,630	4,900	4,900	4,850	4,900	3,630
	200	3,500	4,900	4,900	4,770	4,900	3,500
	250	2,970	4,430	4,900	4,390	4,810	2,970
	300	2,570	3,850	4,900	3,850	4,480	2,570

（単位：mm）

1)上表の数値は、中間支保工を設ける場合のＪＦ７５・ＪＦ７５Ｗリブの許容支圧荷重によって決まる許容スラブスパン２Ｌを示す
2)ＲＣ造またはＳＲＣ造において梁側板型枠でＪＦ７５・ＪＦ７５Ｗを支持する場合、スラブスパンが３.０mを超えるときは中間支保工を設けることを原則とする
3)ＪＦ７５・ＪＦ７５Ｗ製品仕様の最大長さは４.９m

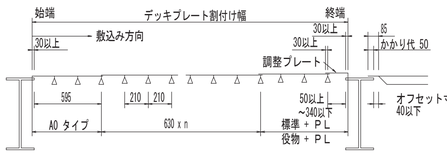


4 納まり例

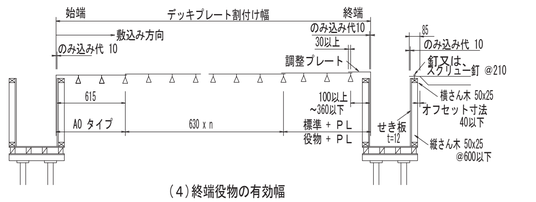
4-1 割付け

幅方向の割付けは、標準品（６３０幅）をベースに割付ける
始端・終端調整には役物、調整プレートを使用する

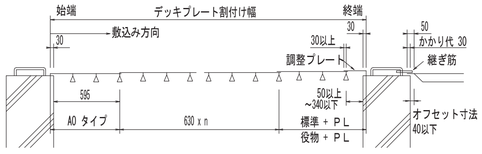
（1）鉄骨造（S造）



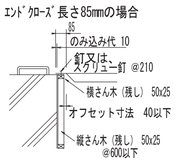
（2）鉄筋コンクリート造（RC造） 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）



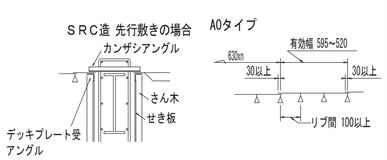
（3）RC置きスラブ（地中梁）



ｴﾝﾄﾞｸﾛｰｽﾞ長さ85mmの場合



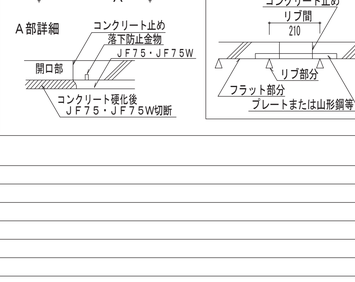
（4）終端役物の有効幅



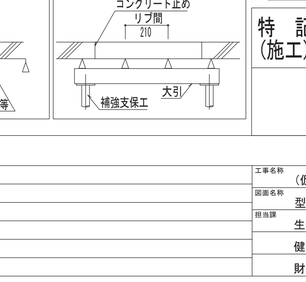
4-2 各所の納まり

デッキプレート受けは、設計荷重を十分支持可能な部材及び取付方法とする
デッキプレート受けのサイズは監理者の承認を得て決定すること

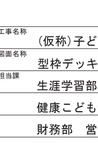
（1）S造継手プレート部の納まり
※柱コーナーおよび継手プレート部の切断は現場加工



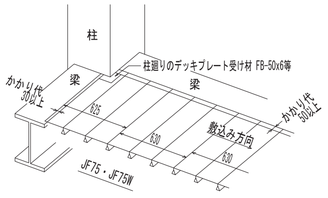
（2）S造斜め梁の納まり



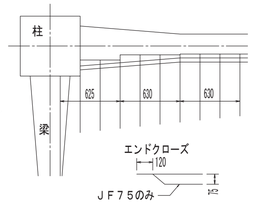
（3）RC、SRC造斜め梁



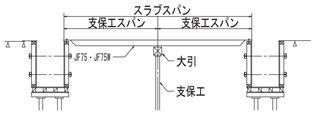
（4）S造柱廻りの納まり
※柱コーナー切断は現場加工



（5）S造水平ハンチの納まり



4-3 中間支保工設置



（6）S造梁の段差（レベル差）がある場合

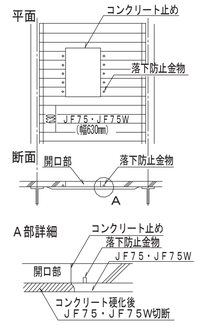


（7）S造床板と梁に段差のある場合

4-4 開口部納まり例

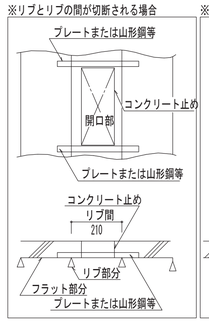
配線・配管・空調ダクト等の開口部の施工は、原則として下Ａ図のようにあらかじめ型枠で囲い、コンクリート打設硬化後にデッキプレートを切断する。開口部の大きさにより、デッキプレートとコンクリートが剥離する恐れがある場合、切断部周辺に「落下防止金物」を取り付ける

A)コンクリート硬化後に開口部切断

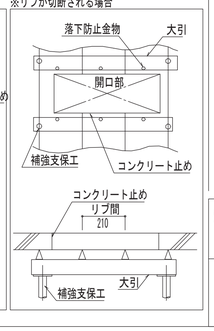


B)コンクリート打設前に開口部切断

※リブとリブの間が切断される場合



※リブが切断される場合



5 施工の要点

施工の要点は、下表のとおりとする
特殊なケースの場合は、その都度施工法を十分に検討し施工すること

項目	内容
1 保管	(1)敷込みとの関連を考えて保管場所を決める (2)薄板製品であることを十分認識し変形に注意する
2 吊り込み	(1)骨組の組立順序との関連を十分検討する (2)壁、パネル等の取り付け作業との関連を十分検討する (3)クレーンの揚重能力の検討、パレットを用いる等安全対策を検討する (4)揚重枚数と敷込み順序の関係等検討する
3 敷込み	(1)始端かかり位置、中間位置(デッキ５枚位の位置)終端位置をマーキングする (2)割付方向は図面に従い、間違いの無いようにする (3)２枚目以降は最初のデッキプレートに倣うので最初の位置決めを正確に行い、確実に梁に固定する(落下防止等安全対策) (4)かかり寸法は厳守する (5)敷込み後は速やかに溶接等で固定する
4 作業床	(1)一時的な作業床で使用することも考えられるが、板厚が0.8~1.0mmのデッキプレートの場合は、接合部分の変形、破損しやすいので避ける (2)受圧面積が極端に小さい集中荷重は避ける。集中荷重がかかる場合は、厚板等を敷く等の措置により受圧面積を大きくする (3)油等コンクリートに有害なものは、コンクリート打設前までに取り除く (4)資材等の仮置は避ける。止むを得ず仮置する場合は、デッキプレートに負担がかからないよう十分配慮する。特に0.8~1.0mmは注意する
5 ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	(1)打設は打設荷重等の施工荷重を極力低減するようにし、過荷重には十分注意する (2)打設は、コンクリートの山（集中荷重）をつくらないようにする

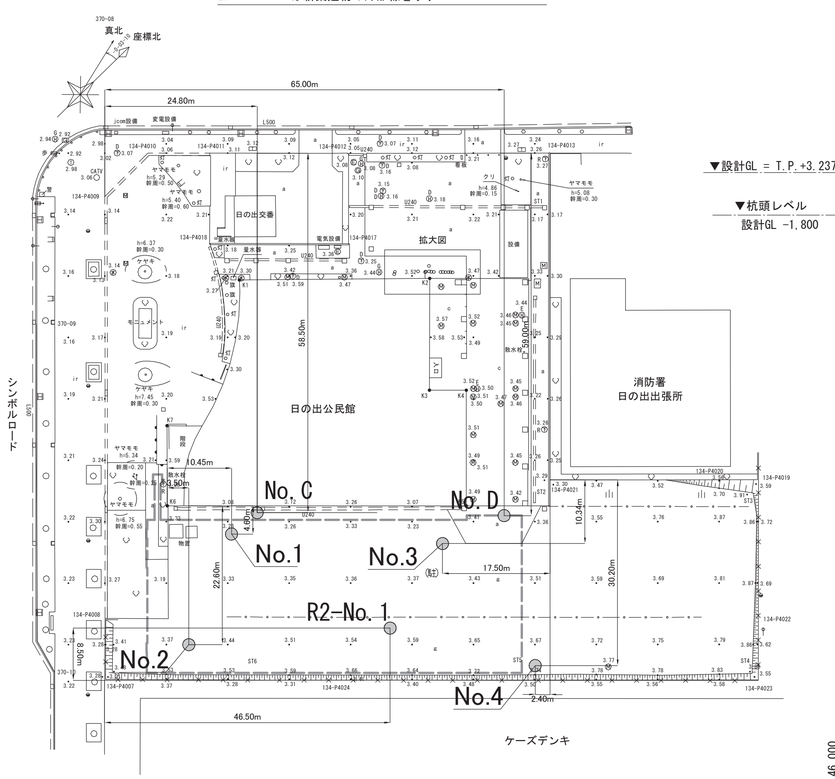
特記（施工）	

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-011a
図面名称	型枠デッキプレート標準図	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 167
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

ボーリング調査位置図　　S= 1 : 500

特記なき限り下記による

1. ◎ はボーリング調査位置を示す
2. ——— は新築建物の外形線を示す



柱状図 No.1

調査名　(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業実施設計業務委託に伴う地盤調査業務

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	千葉県浦安市日の出4-1-1及び7(日の出公民館隣接地)			北緯	
発注機関	千葉県浦安市			調査期間	令和7年9月1日 ～ 7年9月6日	東経	
調査業者名	千葉エンジニアリング株式会社 電話 043-214-2211	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	市川 覚
孔口標高	T.P. +3.447m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	52.27m					使用機種	試錐機 YBM-05 / ハンマー落下用具 半自動落下型 / エンジン ヤンマーNFD-10 / ポンプ 東邦BG-3

▼設計GL = T.P.+3.237

▼杭頭レベル
設計GL -1,800

▼杭先端レベル
設計GL -47,800

46,000

杭位置：X3、Y5

P1

孔内水平載荷試験(切孔②)

孔内水平載荷試験(切孔②)

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	記事
1	1.24	2.20	2.20		埋土	暗灰	緩い	0.00~0.30m 表土で砂石 0.30~2.20m 砂質土主体 0.80~1.00m 礫、ガラ混入 貝殻片混入 1.60~1.80m 粘性土主体
2	-0.56	1.80	4.00		シルト	暗灰	粘性中位~強い	貝殻片混入
3	-2.56	2.00	6.00		細砂	暗灰	密な	3.00m付近、細砂不規則に挟む 含水多い、粒子均一、貝殻片混入
4	-4.56	2.00	8.00					4.00m付近、軽石点在
5	-6.56	2.00	10.00					5.00m付近より貝殻片混入
6	-8.56	2.00	12.00					6.00m付近、含水少量
7	-10.20	1.64	13.64					7.00m付近、含水多量 貝殻片混入
8	-11.36	1.16	14.80		砂質シルト	暗灰	粘性強い~中位	9.00m付近より シルト薄層状に挟む 含水多量
9	-12.76	1.40	16.20		シルト	暗灰	粘性中位~強い	10.00m付近、粒子細かい
10	-14.16	1.40	17.60					11.00m付近、有機物を薄層状に混入
11								12.00m付近より シルト多量挟む
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49								
50								
51								
52								

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0/10	0/10	0/20	0/30	貫入量(cm)
1.00	シ 1	1	シ 1		3
1.60	シ 1	1	シ 1		3
2.00	シ 1	1	シ 1		3
2.80	シ 1	1	シ 1		3
3.00	シ 1	1	シ 1		3
3.60	シ 1	1	シ 1		3
4.00	シ 1	1	シ 1		3
4.60	シ 1	1	シ 1		3
5.00	シ 2	3	シ 5		8
5.60	シ 3	4	シ 7		11
6.00	シ 4	4	シ 8		12
6.60	シ 3	3	シ 6		9
7.00	シ 3	3	シ 6		9
7.60	シ 3	3	シ 6		9
8.00	シ 3	3	シ 6		9
8.60	シ 3	3	シ 6		9
9.00	シ 3	3	シ 6		9
9.60	シ 3	3	シ 6		9
10.00	シ 3	3	シ 6		9
10.60	シ 3	3	シ 6		9
11.00	シ 3	3	シ 6		9
11.60	シ 3	3	シ 6		9
12.00	シ 3	3	シ 6		9
12.60	シ 3	3	シ 6		9
13.00	シ 3	3	シ 6		9
13.60	シ 3	3	シ 6		9
14.00	シ 3	3	シ 6		9
14.60	シ 3	3	シ 6		9
15.00	シ 3	3	シ 6		9
15.60	シ 3	3	シ 6		9
16.00	シ 3	3	シ 6		9
16.60	シ 3	3	シ 6		9
17.00	シ 3	3	シ 6		9
17.60	シ 3	3	シ 6		9
18.00	シ 3	3	シ 6		9
18.60	シ 3	3	シ 6		9
19.00	シ 3	3	シ 6		9
19.60	シ 3	3	シ 6		9
20.00	シ 3	3	シ 6		9
20.60	シ 3	3	シ 6		9
21.00	シ 3	3	シ 6		9
21.60	シ 3	3	シ 6		9
22.00	シ 3	3	シ 6		9
22.60	ハンマー自由落下				
23.00	ハンマー自由落下				
23.60	ハンマー自由落下				
24.00	ハンマー自由落下				
24.60	ハンマー自由落下				
25.00	ハンマー自由落下				
25.60	ハンマー自由落下				
26.00	ハンマー自由落下				
26.60	ハンマー自由落下				
27.00	ハンマー自由落下				
27.60	ハンマー自由落下				
28.00	ハンマー自由落下				
28.60	ハンマー自由落下				
29.00	ハンマー自由落下				
29.60	ハンマー自由落下				
30.00	ハンマー自由落下				
30.60	ハンマー自由落下				
31.00	ハンマー自由落下				
31.60	ハンマー自由落下				
32.00	ハンマー自由落下				
32.60	ハンマー自由落下				
33.00	ハンマー自由落下				
33.60	ハンマー自由落下				
34.00	ハンマー自由落下				
34.60	ハンマー自由落下				
35.00	ハンマー自由落下				
35.60	ハンマー自由落下				
36.00	ハンマー自由落下				
36.60	ハンマー自由落下				
37.00	ハンマー自由落下				
37.60	ハンマー自由落下				
38.00	ハンマー自由落下				
38.60	ハンマー自由落下				
39.00	ハンマー自由落下				
39.60	ハンマー自由落下				
40.00	ハンマー自由落下				
40.60	ハンマー自由落下				
41.00	ハンマー自由落下				
41.60	ハンマー自由落下				
42.00	ハンマー自由落下				
42.60	ハンマー自由落下				
43.00	ハンマー自由落下				
43.60	ハンマー自由落下				
44.00	ハンマー自由落下				
44.60	ハンマー自由落下				
45.00	ハンマー自由落下				
45.60	ハンマー自由落下				
46.00	ハンマー自由落下				
46.60	ハンマー自由落下				
47.00	ハンマー自由落下				
47.60	ハンマー自由落下				
48.00	ハンマー自由落下				
48.60	ハンマー自由落下				
49.00	ハンマー自由落下				
49.60	ハンマー自由落下				
50.00	ハンマー自由落下				
50.60	ハンマー自由落下				
51.00	ハンマー自由落下				
51.60	ハンマー自由落下				
52.00	ハンマー自由落下				
52.60	ハンマー自由落下				

柱状図 No.2

調査名　(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業実施設計業務委託に伴う地盤調査業務

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	千葉県浦安市日の出4-1-1及び7(日の出公民館隣接地)			北緯	
発注機関	千葉県浦安市			調査期間	令和7年9月8日 ～ 7年9月12日	東経	
調査業者名	千葉エンジニアリング株式会社 電話 043-214-2211	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	市川 覚
孔口標高	T.P. +3.546m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	51.31m					使用機種	試錐機 YBM-05 / ハンマー落下用具 半自動落下型 / エンジン ヤンマーNFD-10 / ポンプ 東邦BG-3

▼杭頭レベル
設計GL -1,800

▼杭先端レベル
設計GL -47,800

46,000

杭位置：X2、Y2

P2

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	記事
1	1.00	1.00	1.00		埋土	暗灰	緩い	0.00~0.20m 固化砕石 0.20~0.60m 礫混じり砂 0.60~1.00m 貝殻混じり砂
2	0.00	1.00	2.00		シルト	暗灰	粘性強い	1.00~1.90m 砂質粘性土
3	-0.54	0.54	2.54		細砂	暗灰	密な	1.90m付近、粘質土 2.00m付近、西ヤシルト混入
4								粘性強い 微細砂不規則に混入 貝殻片点在
5								3.00m付近、微細砂多量混入 含水多い、粒子均一、微細砂主体
6								4.00m付近、シルト薄く挟む 貝殻片混入
7								5.00m付近、貝殻片多量混入
8								6.00m付近、シルト薄層状に挟む 腐植物混入
9								7.00m付近、全体にシルト少量混入
10								
11								9.00m付近より、含水少ない
12								
13								11.00m付近、シルト薄層状に挟む 腐植物混入
14								12.00m以深、西ヤシルト挟む
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49								
50								
51								

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0/10	0/10	0/20	0/30	貫入量(cm)
1.00	シ 1	1	シ 1		3
1.60	シ 1	1	シ 1		3
2.00	シ 1	1	シ 1		3
2.80	シ 1	1	シ 1		3
3.00	シ 1	1	シ 1		3
3.60	シ 1	1	シ 1		3
4.00	シ 1	1	シ 1		3
4.60	シ 1	1	シ 1		3
5.00	シ 2	3	シ 5		8
5.60	シ 3	4	シ 7		11
6.00	シ 4	4	シ 8		12
6.60	シ 3	3	シ 6		9
7.00	シ 3	3	シ 6		9
7.60	シ 3	3	シ 6		9
8.00	シ 3	3	シ 6		9
8.60	シ 3	3	シ 6		9
9.00	シ 3	3	シ 6		9
9.60	シ 3	3	シ 6		9
10.00	シ 3	3	シ 6		9
10.60	シ 3	3	シ 6		9
11.00	シ 3	3	シ 6		9
11.60	シ 3	3	シ 6		9
12.00	シ 3	3	シ 6		9
12.60	シ 3	3	シ 6		9
13.00	シ 3	3	シ 6		9
13.60	シ 3	3	シ 6		9
14.00	シ 3	3	シ 6		9
14.60	シ 3	3	シ 6		9
15.00	シ 3	3	シ 6		9
15.60	シ 3	3	シ 6		9
16.00	シ 3	3	シ 6		9
16.60	シ 3	3	シ 6		9
17.00	シ 3	3	シ 6		9
17.60	シ 3	3	シ 6		9
18.00	シ 3	3	シ 6		9
18.60	シ 3	3	シ 6		9
19.00	シ 3	3	シ 6		9
19.60	シ 3	3	シ 6		9
20.00	シ 3	3	シ 6		9
20.60	シ 3	3	シ 6		9
21.00	シ 3	3	シ 6		9
21.60	シ 3	3	シ 6		9
22.00	シ 3	3	シ 6		9
22.60	ハンマー自由落下				
23.00	ハンマー自由落下				
23.60	ハンマー自由落下				
24.00	ハンマー自由落下				
24.60	ハンマー自由落下				
25.00	ハンマー自由落下				
25.60	ハンマー自由落下				
26.00	ハンマー自由落下				
26.60	ハンマー自由落下				
27.00	ハンマー自由落下				
27.60	ハンマー自由落下				
28.00	ハンマー自由落下				
28.60	ハンマー自由落下				
29.00	ハンマー自由落下				
29.60	ハンマー自由落下				
30.00	ハンマー自由落下				
30.60	ハンマー自由落下				
31.00	ハンマー自由落下				
31.60	ハンマー自由落下				
32.00	ハンマー自由落下				
32.60	ハンマー自由落下				
33.00	ハンマー自由落下				
33.60	ハンマー自由落下				
34.00	ハンマー自由落下				
34.60	ハンマー自由落下				
35.00	ハンマー自由落下				
35.60	ハンマー自由落下				
36.00	ハンマー自由落下				
36.60	ハンマー自由落下				
37.00	ハンマー自由落下				
37.60	ハンマー自由落下				
38.00	ハンマー自由落下				
38.60	ハンマー自由落下				
39.00	ハンマー自由落下				
39.60	ハンマー自由落下				
40.00	ハンマー自由落下				
40.60	ハンマー自由落下				
41.00	ハンマー自由落下				
41.60	ハンマー自由落下				
42.00	ハンマー自由落下				
42.60	ハンマー自由落下				
43.00	ハンマー自由落下				
43.60	ハンマー自由落下				
44.00	ハンマー自由落下				
44.60	ハンマー自由落下				
45.00	ハンマー自由落下				
45.60	ハンマー自由落下				
46.00	ハンマー自由落下				
46.60	ハンマー自由落下				
47.00	ハンマー自由落下				
47.60	ハンマー自由落下				
48.00	ハンマー自由落下				
48.60	ハンマー自由落下				
49.00	ハンマー自由落下				
49.60	ハンマー自由落下				
50.00	ハンマー自由落下				
50.60	ハンマー自由落下				
51.00	ハンマー自由落下				
51.60	ハンマー自由落下				
52.00	ハンマー自由落下				
52.60	ハンマー自由落下				

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-012
図面名称	ボーリング柱状図 (1)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 168
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

柱状図 No.3

調査名　(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業実施設計業務委託に伴う地盤調査業務

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No.3	調査位置	千葉県浦安市日の出4－1－1及び7（日の出公民館隣接地）
発注機関	千葉県浦安市	調査期間	令和 7年 9月 11日 ～ 7年 9月 16日
調査業者名	千葉エンジニアリング株式会社 電話（043－244－2311）	主任技師	
孔口標高	T.P. +3.432m	現場代理人	
総掘進長	52.30m	コア鑑定者	市川 覚
		ボーリング責任者	池内 清貴
孔口標高 角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 西270° 90°東 180°南
地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	
試錐機	東邦D1－C	ハンマー落下用具	半自動落下型
エンジン	ヤンマーNFD－10	ポンプ	カノ－V6

▼設計GL = T.P.+3.237

▼杭頭レベル 設計GL -2.550

▼杭先端レベル 設計GL -47.550

45,000

杭位置：X7、Y5

P2A

柱状図 No.4

調査名　(仮称) 子ども・子育て支援複合施設整備事業実施設計業務委託に伴う地盤調査業務

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No.4	調査位置	千葉県浦安市日の出4－1－1及び7（日の出公民館隣接地）
発注機関	千葉県浦安市	調査期間	令和 7年 9月 3日 ～ 7年 9月 8日
調査業者名	千葉エンジニアリング株式会社 電話（043－244－2311）	主任技師	
孔口標高	T.P. +3.827m	現場代理人	
総掘進長	52.23m	コア鑑定者	市川 覚
		ボーリング責任者	千葉 浩文
孔口標高 角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 西270° 90°東 180°南
地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	
試錐機	KR－100PB	ハンマー落下用具	半自動落下型
エンジン	TF90V	ポンプ	カノ－V6－C

▼杭頭レベル 設計GL -2.550

▼杭先端レベル 設計GL -47.550

45,000

杭位置：X8、Y2

P2A

[5] 軸組図X8_杭姿図

柱状図 R2-No.1

調査名　(仮称)子ども図書館整備事業に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

ボーリング名	No.1	調査位置	浦安市日の出四丁目1番1号
発注機関	浦安市（生涯学習部生涯学習課）	調査期間	令和 1年 12月 2日 ～ 1年 12月 10日
調査業者名	千葉土質調査株式会社 電話（043－256－1510）	主任技師	田中 宏
孔口標高	H= 3.49m	現場代理人	高橋 義雄
総掘進長	52.33m	コア鑑定者	---
		ボーリング責任者	椎名 孝典
孔口標高 角度	180°上 90° 下 0°	方向	北0° 西270° 90°東 180°南
地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	
試錐機	KR－100	ハンマー落下用具	半自動落下装置
エンジン	NFD9	ポンプ	V－6

北緯 35° 38' 38.28"

東経 139° 55' 26.83"

▼杭頭レベル 設計GL -5.180

▼杭先端レベル 設計GL -48.180

43,000

杭位置：X6、Y2

P4B

[5] 軸組図X6_杭姿図

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 S-013
図面名称	ボーリング柱状図（2）	縮尺(A1) A1： － A3： －
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部　こども課	通し番号 169
	財務部　営繕課	全226葉

柱状図 No.C

調査名　仮称）調布市自の出地区公共施設整備に係る敷地地質調査業務委託

ボーリングNo. C

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	N O . C	調査位置	調布市日の出１７番　北緯　東経
発注機関	調布市役所	調査期間	平成 8年 1月29日～ 8年 2月 1日
調査業者名	日建コンサルタンツ株式会社 電話(043-273-1103)	主任技師	山本 賞 / 現場代理人 矢田部 守 / コア鑑定者 斉藤 伸道 / ボーリング責任者 斉藤 伸道
孔口標高	T.P. +3.05m	角度	90° / 方向
総掘進長	52.27m	使用機種	試錐機 KR－100 / エンジン NS－75 / ハンマー落下用具 コーンブーリ / ポンプ V－6

▼設計GL ＝ T.P. +3.237

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事	孔内水位(m)/測定日	標準貫入試験 深度	打撃回数 0 10 20 30	貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度	試験名および結果	試料採取 深度	試料番号	採取方法	掘進月日
1					埋土	暗褐灰～暗灰			0～0.60m 砂主体 小礫点在 0.60m～1.00m 粘性主体 1.00m以深 シルト、砂の混る土主体 含水大 3m以深 シルト介在 下部粘性体 含水大	1/25 9:00	1.15	2 1 2	5/5							1/23
2											2.15	2/15 1/15	3/30							
3	0.87	3.50	3.50								3.15	2/20 1/20	3/40							
4											4.15	1/30	1/30							
5											5.15	1/15 1/15	2/30							
6											6.15	2 2 1	5/30							
7											7.15	1/15 1/15	2/30							
8									4m シルト分混ほさむ 混ゆを混大干砂一 具粒片少混入 含水大 5m以深 粒子干砂一 含水中～大 7m 具粒片少混入 含水中 8m 粒子干砂一 含水中～大 9m シルト少混入 含水中～大 10m 粒子干砂一 含水中～大 11m 上約15cmはでシルトほさむ 粒子混ほを混入干砂一 12m 粒子干砂一 13m 所々シルト少混ほる 含水中～大		8.15	2/15 1/15	3/30							
9											9.15	1/15 1/15	2/30							
10											10.15	1 1 1	3/30							
11											11.15	2/15 1/15	3/30							
12											12.15	1 2 2	5/30							
13											13.15	4 4 3	11/30							
14	-10.11	10.37	13.60		シルト混粘土	暗灰	非常に緩い	非常に軟らかい	14m 所々シルト分多く混入 含水中		14.15	2 5 3	10/30							
	-10.37	0.80	14.40								15.15	1/15 1/15	2/30							
15											16.15	1/15 1/15	2/30							
16											17.15	1/15 1/15	2/30							
17											18.15	4 5 5	15/30							
18											19.15	1/15 1/15	2/30							
19											20.15	1/30	1/30							
20											21.15	1/30	1/30							
21											22.15	1/15 1/15	2/30							
22									15m 混砂 所々多く混入 粘性中 16m 粘性小 17m 粘性強小 18m以深 具粒片少混入 粘性中 20m 不規則に混ほさむ 粘性小～中 30m以深 やや設置状を呈す 粘性小		23.15	1/15 1/15	2/30							
23											24.15	モンケン自沈	0/50							
24											25.15	1/30	1/30							
25											26.15	モンケン自沈	0/50							
26											27.15	1/15 1/15	2/30							
27											28.15	モンケン自沈	0/50							
28											29.15	1/30	1/30							
29											30.15	1/15	1/15							
30											31.15	2 2 2	6/30							
31											32.15	2 2 3	7/30							
32											33.15	2 3 4	9/30							
33	-30.81	19.10	33.70								34.15	2 2 2	6/30							
34									34m 具粒片少混入 含水中～大 35m 具粒片少混入 含水小 36m 所々シルト少混じる 具粒片少混入 含水中 37m 具粒片少混入 含水中 38m 不規則にシルト やや多く混る 含水中～大		35.15	2 3 4	9/30							
					砂	暗灰～暗灰	緩い～中位				36.15	10 11 17	28/30							
35											37.15	4 5 7	16/30							
36											38.15	8 10 12	28/30							
37											39.15	3 4 5	12/30							
38	-34.81	4.00	38.00								40.15	1 1 1	3/30							
39											41.15	2/15 1/15	4/30							
40											42.15	1 1 2	4/30							
41											43.15	1/15 1/15	2/30							
42											44.15	2/15 3/15	5/30							
43											45.15	2 2 3	7/30							
44											46.15	2 3 2	7/30							
45	-43.91	6.00	44.00		砂質シルト	暗灰	中位		全体に混ほやや多く混入 含水小 粘性小		47.15	5 7 9	27/30							
46	-47.91	1.30	45.70								48.15	18 27 33	58/30							
47											49.15	23 27/3	50/29							
48									46m 粒子ほぼ均一 含水小～中 47m 粒子細い 含水小 48m以深 粒子や多混ほを呈し均一 含水小 51m以深 具粒片少混入 含水小		50.15	20 24 6/3	50/33							
49											51.15	23 27/3	50/33							
50											52.15	47 3/3	50/33							
51											53.15	40 10/3	50/33							
52	-48.51	4.51	52.27								54.15									

柱状図 No.D

調査名　仮称）調布市自の出地区公共施設整備に係る敷地地質調査業務委託

ボーリングNo. D

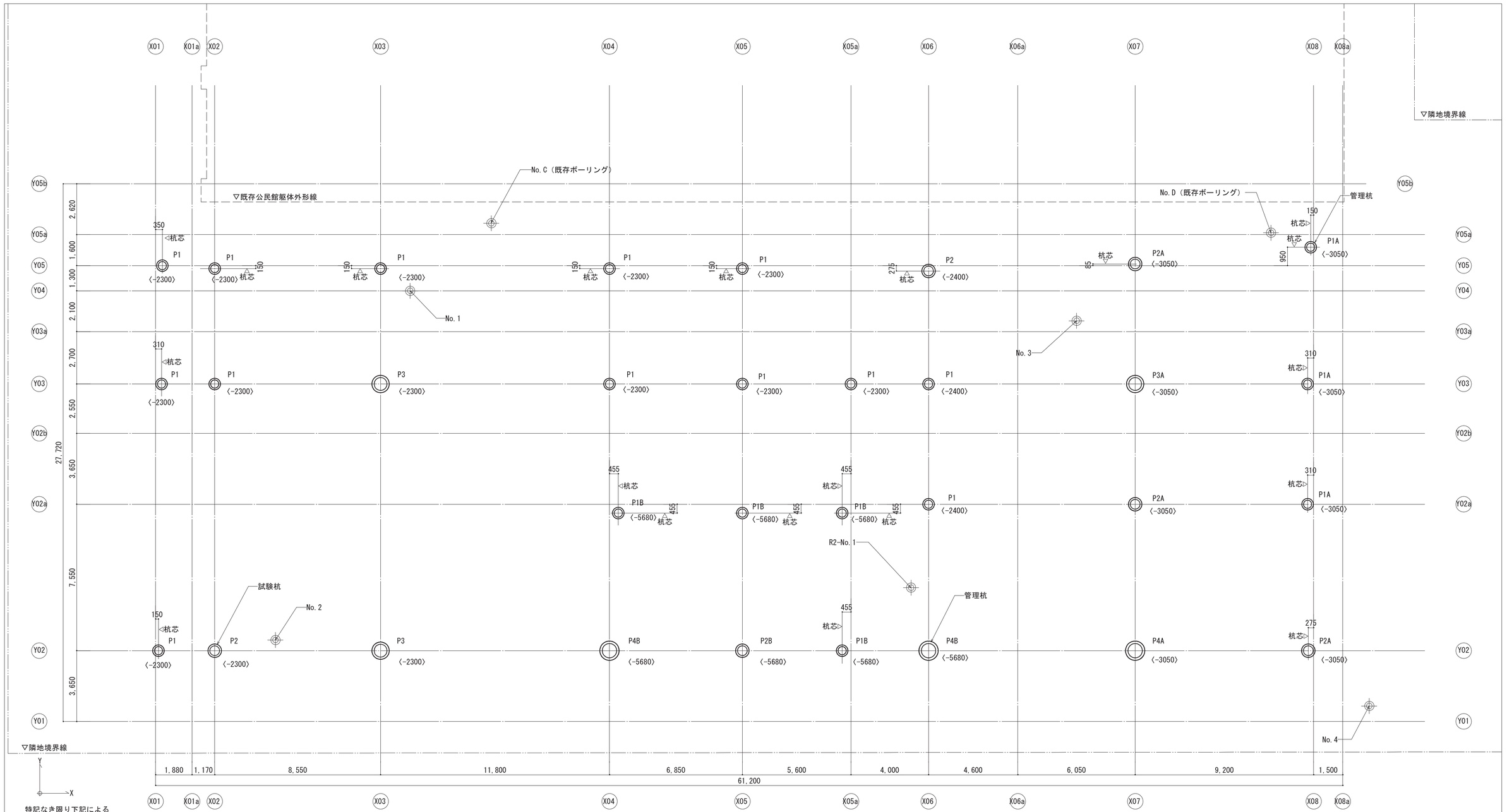
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	N O . D	調査位置	調布市日の出１７番　北緯　東経
発注機関	調布市役所	調査期間	平成 8年 1月25日～ 8年 1月29日
調査業者名	日建コンサルタンツ株式会社 電話(043-273-1103)	主任技師	山本 賞 / 現場代理人 矢田部 守 / コア鑑定者 斉藤 伸道 / ボーリング責任者 斉藤 伸道
孔口標高	T.P. +3.05m	角度	90° / 方向
総掘進長	52.27m	使用機種	試錐機 KR－100 / エンジン NS－75 / ハンマー落下用具 コーンブーリ / ポンプ V－6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事	孔内水位(m)/測定日	標準貫入試験 深度	打撃回数 0 10 20 30	貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度	試験名および結果	試料採取 深度	試料番号	採取方法	掘進月日
1					埋土	暗褐灰～暗灰			0～0.90m 礫混主体 粘土混る 0.90m以深 砂質シルト主体 所々暗色の砂混る 3m 具粒片の砂多く混入 含水中～大	1/25	1.15	2/15 1/15	3/30							1/24
2											2.15	1/15 1/15	2/30							
3	0.87	3.60	3.60								3.15	2/20 1/20	3/40							
4											4.15	1/30	1/30							
5											5.15	2 2 3	7/30							
6											6.15	2 3 4	9/30							
7											7.15	2 2 7	6/30							
8									4m シルト混り砂にはさむ 含水大 5m以深 粒子はほぼ一 含水中 7m 具粒片少混入 含水中 8m 具粒片少混入 含水中～大 9m 礫多のシルト 2cm位ではさむ 含水中 10m 1約100cm位間隔で混入 粗砂シームにはさむ 粒子やや強幅を呈す 含水小～中 11m以深 千切断シルトをごくはさむ粒子混幅を呈す 含水小～中 13m シルト少混ほる 含水小		8.15	3 5 6	14/30							
9											9.15	3 3 4	10/30							
10											10.15	2 2 2	6/30							
11											11.15	2 2 1	5/30							
12											12.15	3 3 6	12/30							
13											13.15	1 1 1	3/30							
14	-11.04	10.10	13.70		砂質シルト	暗灰	緩い	軟らかい	全体に混砂やや多く混入 含水中 粘性小～中		14.15	1 1 1	3/30							
	-11.14	1.10	14.80								15.15	1 1 1	3/30							
15	-11.94	0.80	15.60		シルト混粘土	暗灰	緩い	軟らかい	部分ポケット状にはさむ 粘性中		16.15	4 3 3	10/30							
16	-12.84	0.90	16.50			暗灰	中位		シルト分混少混入 含水小～中		17.15	3 3 5	11/30							
17											18.15	1/30	1/30							
18											19.15	1/15 1/15	2/30							
19											20.15	1/30	1/30							
20											21.15	1/15 1/15	2/30							
21											22.15	1/15 1/15	2/30							
22									17m 粘性強小 やや設置状を呈す 18m 具粒片少混入 粘性中 19m以深 具粒片少混入 粘性中 21m以深 具粒片少混入 粘性中 24m以深 具粒片少混入 粘性中 20m以深 具粒片少混入 粘性中 31m やや設置状を呈す 具粒片少混入 粘性小～中 32m以深 やや設置状を呈す 粘性小～中		23.15	1/15 1/15	2/30							
23											24.15	モンケン自沈	0/50							
24											25.15	1/30	1/30							
25											26.15	モンケン自沈	0/50							
26											27.15	1/15 1/15	2/30							
27											28.15	モンケン自沈	0/50							
28											29.15	1/30	1/30							
29											30.15	1/15	1/15							
30											31.15	1 1 1	3/30							
31											32.15	1/20 1/20	2/40							
32											33.15	1 1 2	4/30							
33	-29.54	17.10	33.80								34.15	2 3 4	9/30							
34									34m 粒子やや強幅を呈す 含水中 35m 所々シルト少混じる 含水中 36m 色調や幅変色を繰り返す ～ 37m 粒子はほぼ均一 含水中		35.15	3 5 8	16/30							
					砂	暗灰～暗灰	緩い～中位				36.15	8 8 12	28/30							
35											37.15	4 4 5	13/30							
36											38.15	2 1 2	5/30							
37					シルト分混粘土	暗灰	緩い		所々シルト分多く混入 含水中		39.15	1 1 2	4/30							
38	-34.24	4.70	37.90								40.15	1/30	1/30							
39	-35.04	0.80	38.70								41.15	1 1 2	4/30							
40											42.15	1/15	1/15							
41											43.15	1 3/15 4/15	8/30							
42											44.15	1 1 2	4/30							
43											45.15	2 3 2	7/30							
44											46.15	3 4 3	10/30							
45	-41.24	6.21	44.00								47.15	13 28 3	50/29							
46	-42.14	0.90	45.80		砂質シルト	暗灰	中位	非常に軟らかい	部分的に混砂多混入 全体に混ほやや多く混入 色調粘々茶灰色を呈する 部分的に混ほ 所々シルト分多く混入 色調やや茶灰色を呈する 含水中～大		48.15	21 29	50/26							
47	-42.94	0.80	46.60			暗灰	中位				49.15	25/5	50/15							
48	-43.64	0.90	47.50		シルト混粘土	暗灰	中位		上部中位混じる 含水中		50.15	50/0	50/0							
49					砂	暗灰	密な	非常に密な	48m 粒子均一 含水小 49m以深 粒子均一 含水小 51m 具粒片少混入 含水小 52m 具粒片少混入 含水小		51.15	50/11	50/11							
50											52.15	50/4	50/4							
51											53.15	38 12/3	50/41							
52	-48.67	4.77	52.27								54.15									

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-014
図面名称	ボーリング柱状図（3）（既存ボーリング参考図）	縮尺(A1)	A1： － A3： －
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号	08-01
	健康こども部 こども課		通し番号 170
	財務部 営繕課		全226葉



特記なき限り下記による

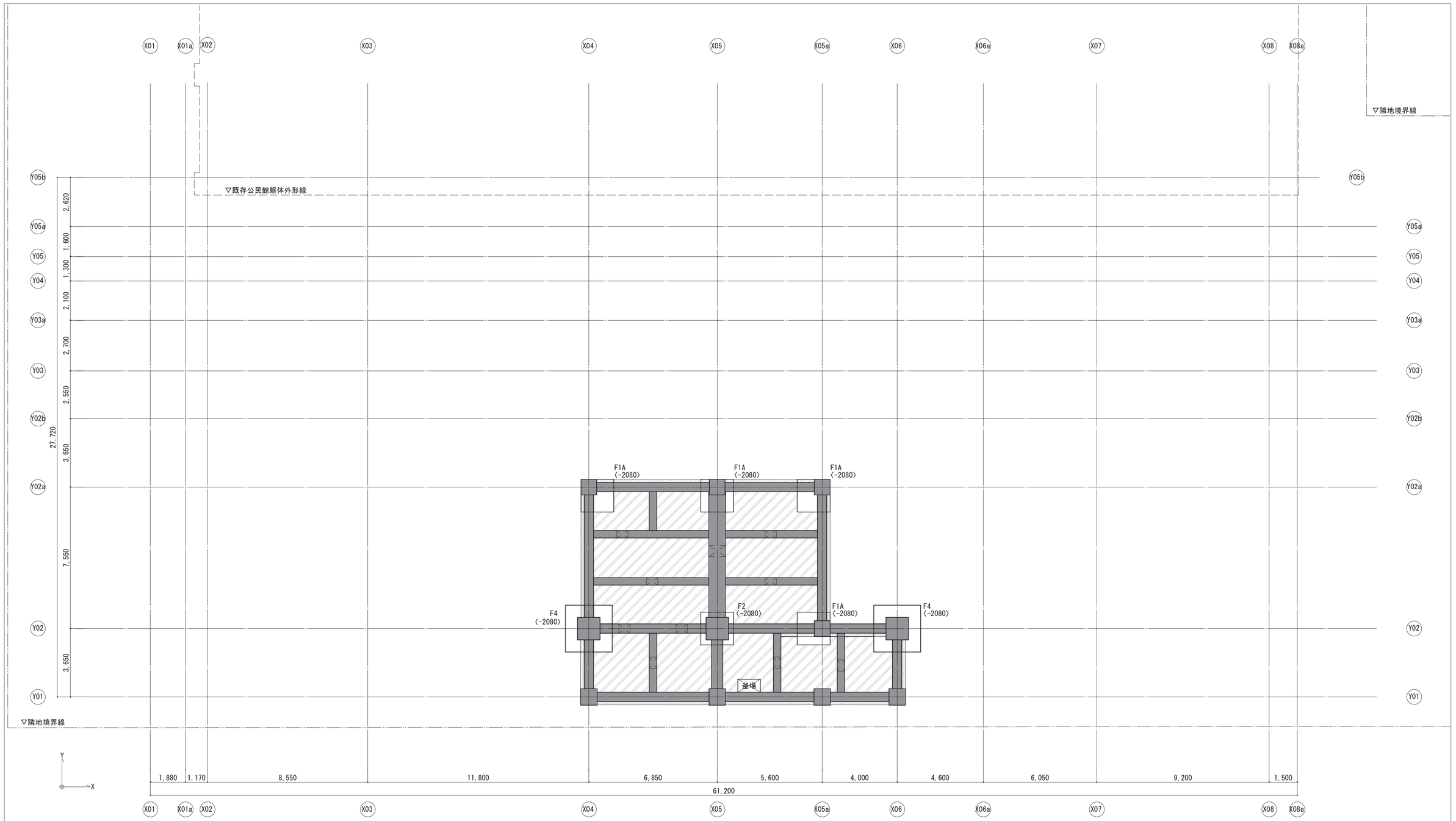
1. 既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭中掘拡大根固め工法（Hyper-NAKSⅡ工法）
2. 1FL = T.P.+3.737
3. 〈 〉内数値は 1FL からの杭天端レベルを示す
4. 杭芯 ＝ 柱芯 ＝（通り芯）とする
5. 杭頭接合部は半固定(F.T.Pile構法同等品)とする
6. 杭の継手工法は機械式継手とする
7. ⊕ はボーリング調査位置を示す
8. 管理杭：試験杭で得られた地盤情報等を踏まえ支持層等を立会確認する杭
9. 施工誤差として杭の偏心量はD/4かつ100㎜以内とする（Dは杭径を示す）
10. 杭施工時の作業範囲(建物範囲)には、GL-1.2mの地盤改良を見込む。セメント添加量は100kg/㎥とし、六価クロム溶出試験を実施。現地地盤状況により強度確認を行い、安全性を確認すること。

・杭の肉厚は最小値を示す。許容値は±0～+15㎜とし、杭全長に渡り内径管理を行い、スパイラルオーガと干渉が生じないように確認をすること

杭リスト

符号	上杭						中杭1					中杭2					下杭					杭全長(m)	長期許容支持力(kN/本)	杭本数(本)
	杭種別	杭径(mm)	杭種	肉厚(mm)	鋼管板厚(mm)	杭長(m)	杭種別	杭径(mm)	杭種	肉厚(mm)	杭長(m)	杭種別	杭径(mm)	杭種	肉厚(mm)	杭長(m)	杭種別	杭径(mm)	杭種	肉厚(mm)	杭長(m)			
P1	SC	600	105-SKK490	90	6	10.0	PHC	600	105-A種	90	12.0	PHC	600	105-A種	90	12.0	溝付PHC-HS	600	105-A種	90	12.0	46.0	2620.0	13
P1A	SC	600	105-SKK490	90	6	9.0	PHC	600	105-A種	90	12.0	PHC	600	105-A種	90	12.0	溝付PHC-HS	600	105-A種	90	12.0	45.0	2620.0	3
P1B	SC	600	105-SKK490	90	6	7.0	PHC	600	105-C種	90	12.0	PHC	600	105-A種	90	12.0	溝付PHC-HS	600	105-A種	90	12.0	43.0	2620.0	4
P2	SC	700	105-SKK490	100	6	10.0	PHC	700	105-A種	100	12.0	PHC	700	105-A種	100	12.0	溝付PHC-HS	700	105-A種	100	12.0	46.0	3510.0	2
P2A	SC	700	105-SKK490	100	6	9.0	PHC	700	105-A種	100	12.0	PHC	700	105-A種	100	12.0	溝付PHC-HS	700	105-A種	100	12.0	45.0	3510.0	3
P2B	SC	700	105-SKK490	100	6	7.0	PHC	700	105-B種	100	12.0	PHC	700	105-A種	100	12.0	溝付PHC-HS	700	105-A種	100	12.0	43.0	3510.0	1
P3	SC	900	105-SKK490	120	9	10.0	PHC	900	105-A種	120	12.0	PHC	900	105-A種	120	12.0	溝付PHC-HS	900	105-A種	120	12.0	46.0	5670.0	2
P3A	SC	900	105-SKK490	120	9	9.0	PHC	900	105-A種	120	12.0	PHC	900	105-A種	120	12.0	溝付PHC-HS	900	105-A種	120	12.0	45.0	5670.0	1
P4A	SC	1,000	105-SKK490	130	9	9.0	PHC	1,000	105-A種	130	12.0	PHC	1,000	105-A種	130	12.0	溝付PHC-HS	1,000	105-A種	130	12.0	45.0	6950.0	1
P4B	SC	1,000	105-SKK490	130	9	7.0	PHC	1,000	105-B種	130	12.0	PHC	1,000	105-A種	130	12.0	溝付PHC-HS	1,000	105-A種	130	12.0	43.0	6950.0	2

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-015
図面名称	杭伏図	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 171
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉



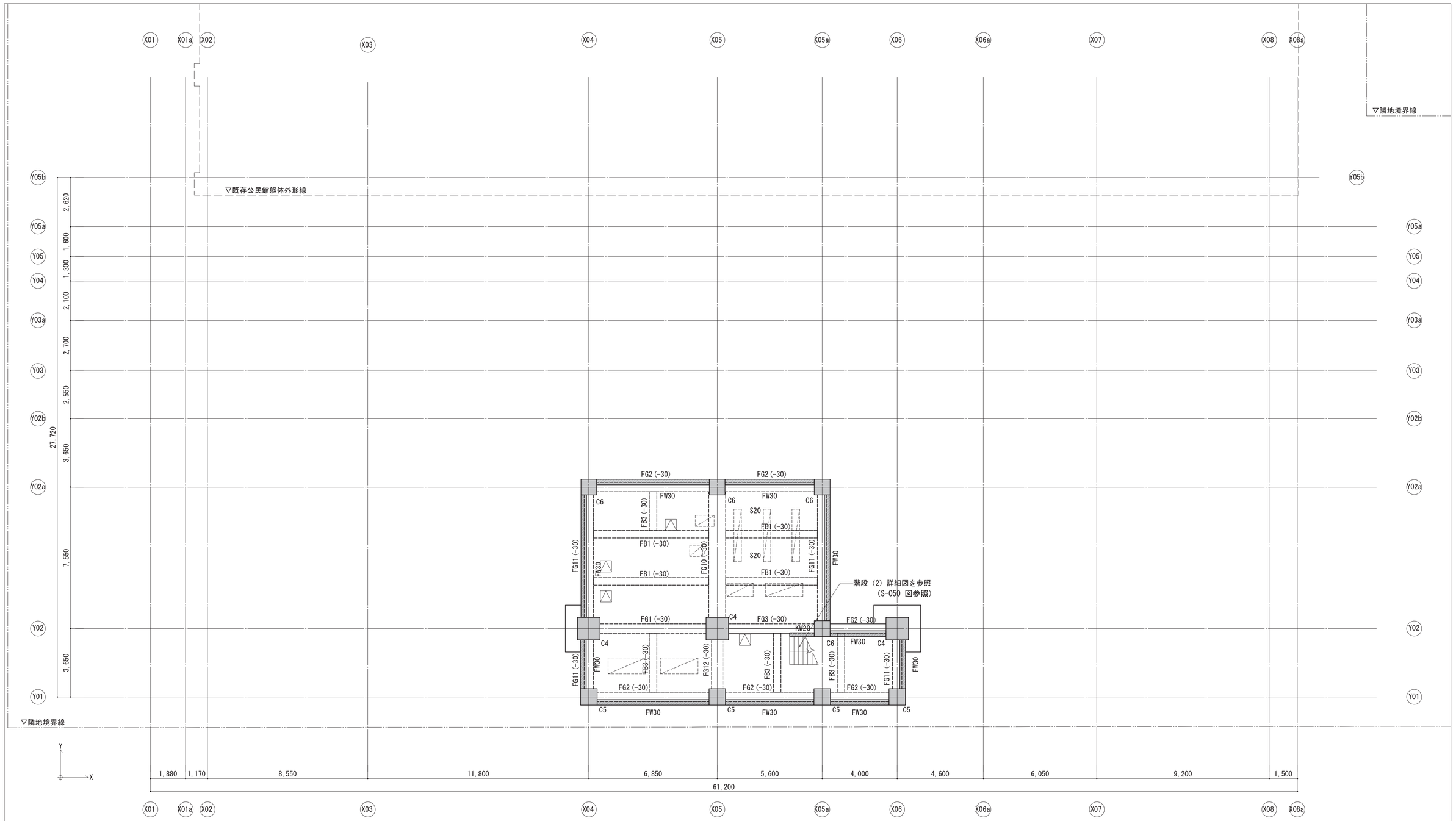
B1階基礎伏図　　S=1:100

特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. 耐圧盤はFS1とする
3. 基礎芯＝柱芯とする
4. 〈　〉内数値はB1FLからの基礎底レベルを示す
5. 釜場 は釜場(1200x700xH600)を示す
6. ⊠ は人通孔600φを示す
7. ▨ は梁の側フカシを示す

凡例	耐圧盤 天端レベル	
▨	B1FL-1530	

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-016
図面名称	B1階基礎伏図	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 172
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



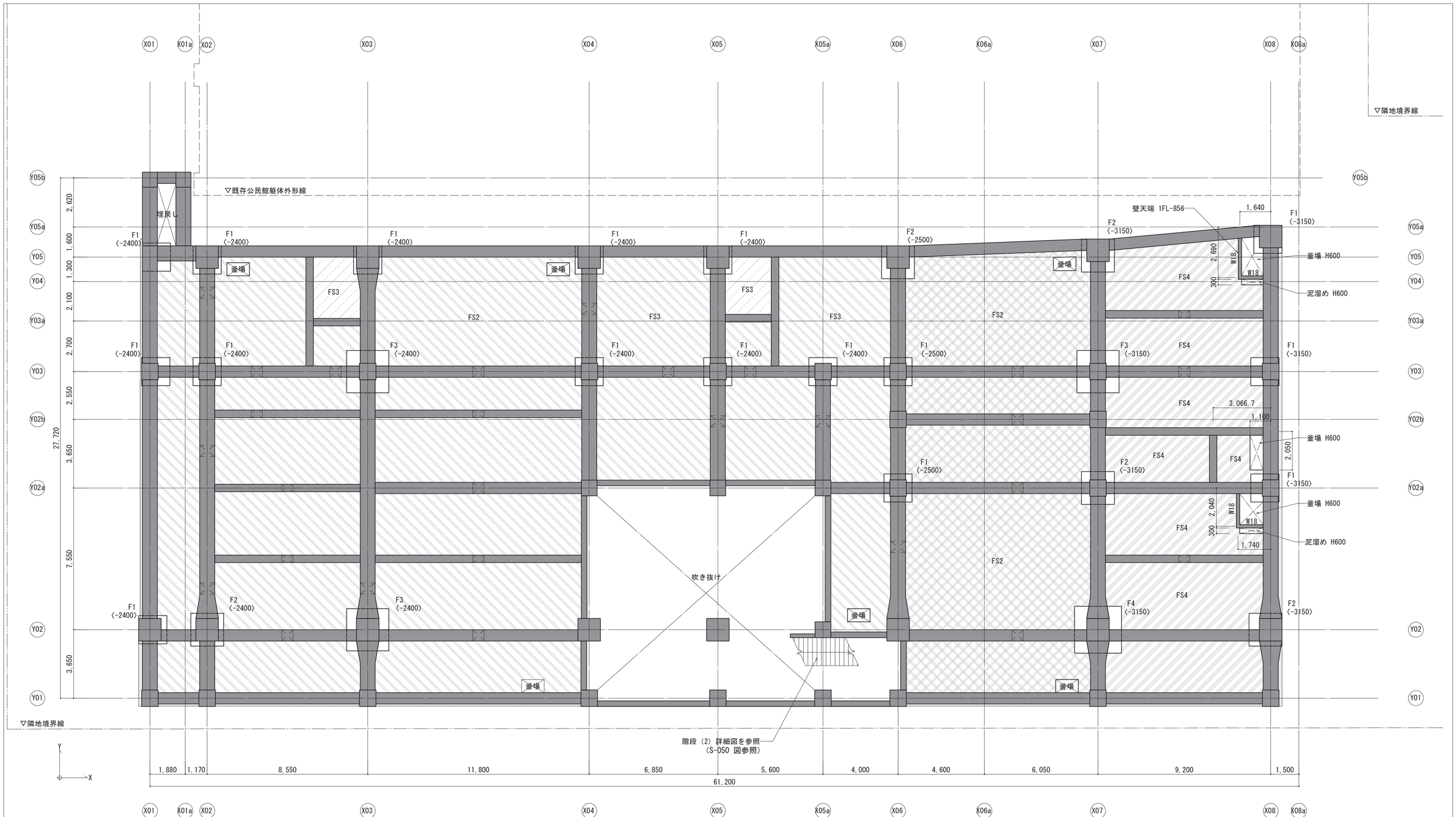
特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. スラブ符号　S18A
3. （　）内数値はB1FLからの梁天端レベルを示す
4. □ 内数値はB1FLからのスラブ天端レベルを示す
5. ▨ は梁の側フカシを示す
   ▨ は柱の側フカシを示す
6. ▽ は床点検口を示す
7. ┌┐ は設備基礎の位置を示す。大きさは意匠図参照。
   配筋は雑詳細図(1)を参照。(S-047 図参照)
8. 止水性を考慮し基礎梁とスラブを一体打設とすること

凡例	スラブ・小梁 天端レベル	基礎小梁 天端レベル
	B1FL-30	図示

B1階伏図　　S= 1 : 100

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-017
図面名称	B1階伏図	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 173
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



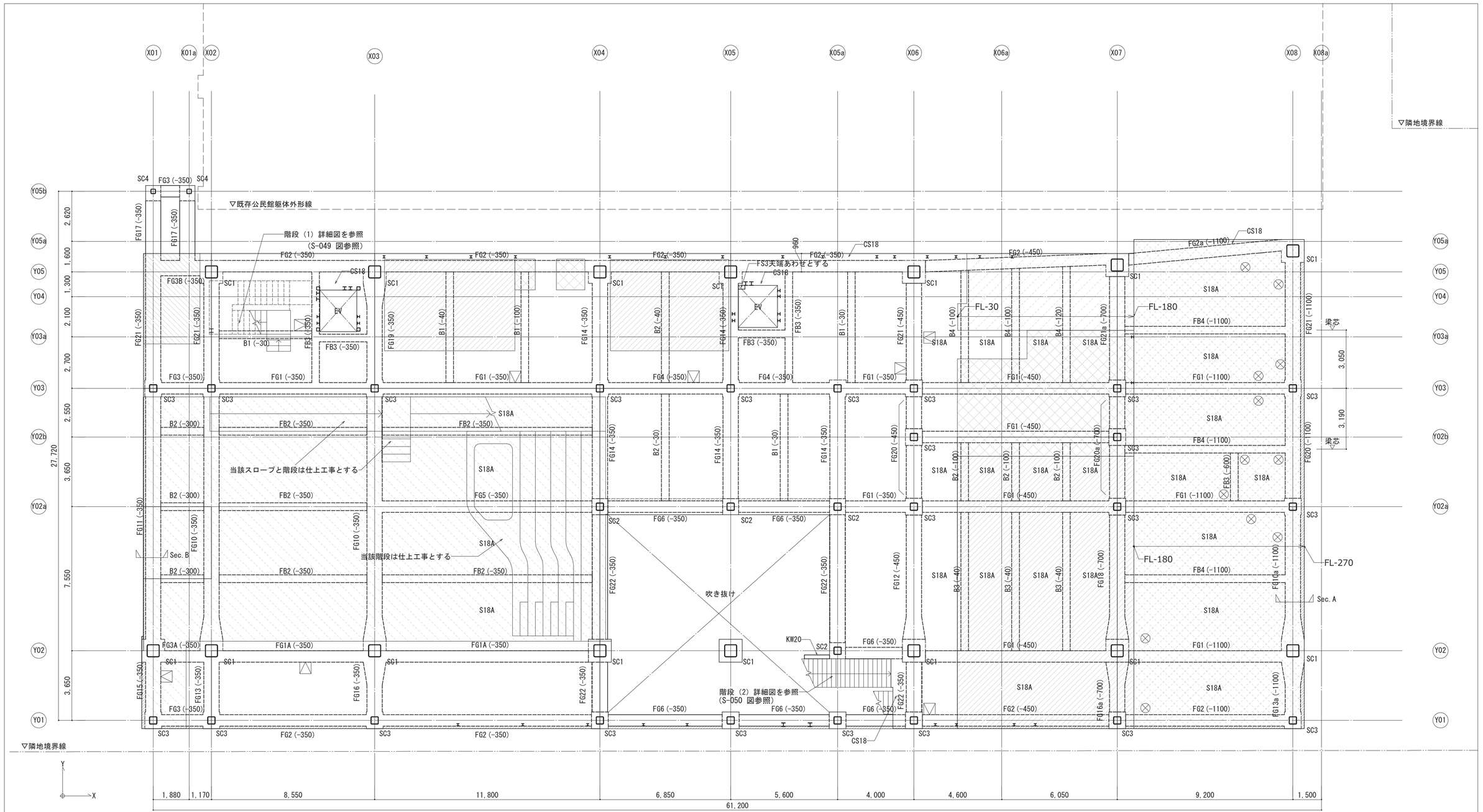
特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. 設計GL＝1FL-500＝T.P.+3.237
3. 耐圧盤は FS5 とする
4. 基礎下端レベルは 1FL-2400
5. 基礎芯＝柱芯とする
6. 〈 〉内数値は1FLからの基礎底レベルを示す
7. [釜場] は釜場(1200x700xH600)を示す
8. ⊠ は人通孔600φを示す
9. ▨ は壁の側フカシを示す

凡例	耐圧盤 天端レベル	
	1FL-1850	
	1FL-1950	
	1FL-2600	
	1FL-1250	

1階基礎伏図　　S= 1 : 100

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-018
図面名称	1階基礎伏図	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 174
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉



特記なき限り下記による

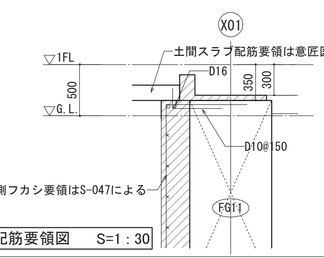
1. 本図は見下げ図とする
2. 設計GL＝1FL-500＝T.P.+3.237
3. スラブ符号　S18
4. （　）内数値は1FLからの梁天端レベルを示す
5. □内数値は1FLからのスラブ天端レベルを示す
6. ▨は梁の側フカシを示す
   ▩は柱の側フカシを示す
7. ▽は床点検口を示す
8. ⊗はマンホール開口を示す
9. 外壁・開口補強間柱の符号は軸組図による
10. EVシャフト鉄骨の詳細は意匠図による

11. 駐車場スラブ（X07-08間）の上端筋かぶり厚さは設計かぶり厚さ+30mm(フカシ厚さ)とする
意匠図に示すカッター目地はフカシ部分のみに施工すること

凡例	スラブ・小梁 天端レベル	基礎小梁 天端レベル
	1FL-30	図示
	1FL-40	図示
	1FL-50	図示
	1FL-100	図示
	1FL-180～30	図示
	1FL-300	図示
	1FL-270～-180	図示

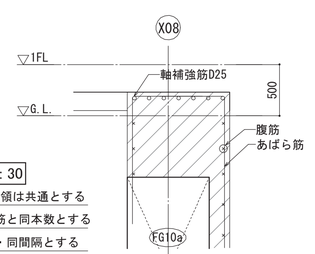
1階伏図　S= 1 : 100

Sec. B
土間スラブ受け配筋要領図　S=1 : 30

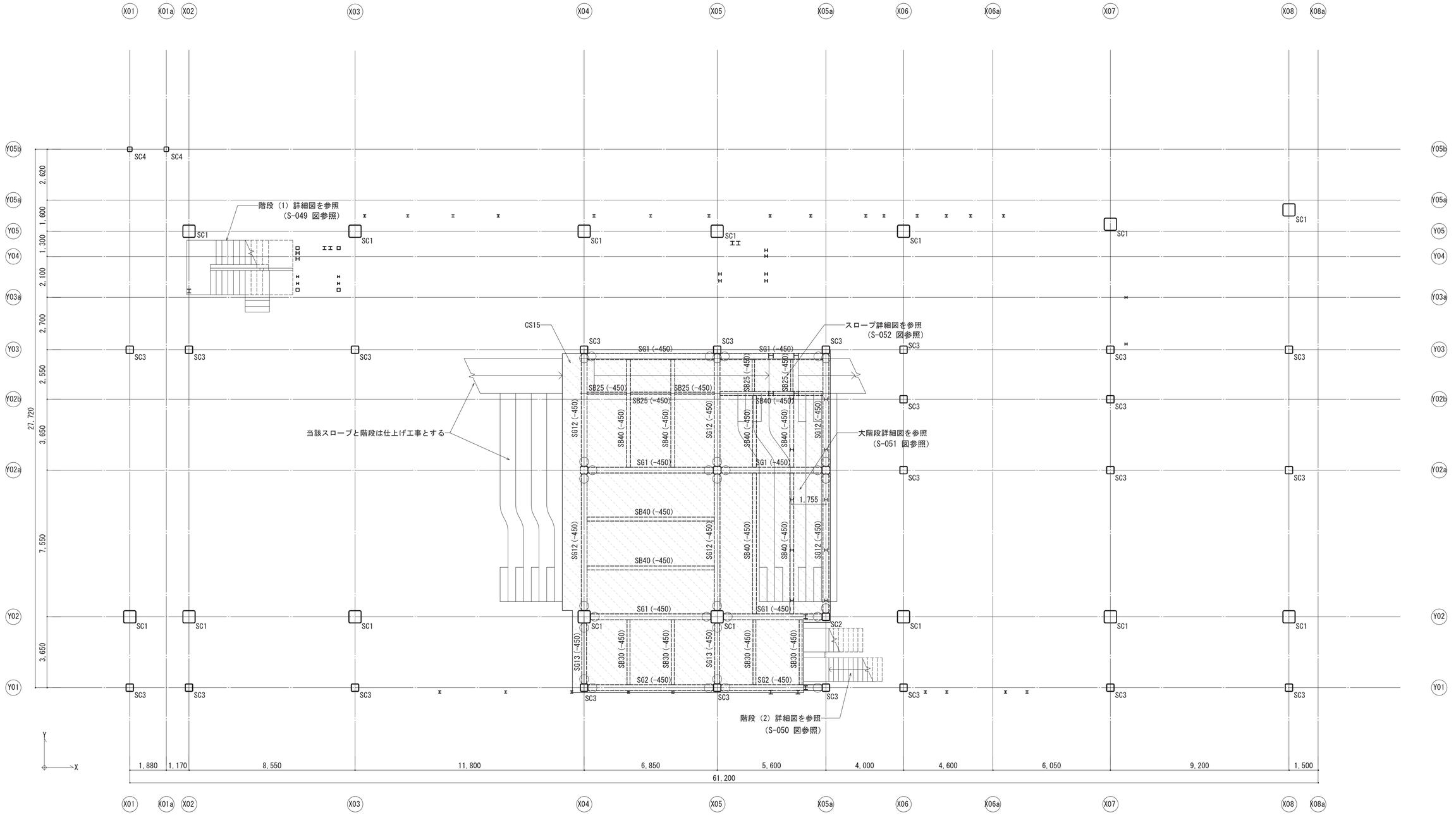


Sec. A
梁打増要領図　S=1 : 30

・梁天端レベル1FL-1,100の打増要領は共通とする
・軸補強筋はD25とし、1段目梁主筋と同本数とする
・あばら筋および腹筋は梁と同径・同間隔とする



工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事
図面名称	1階伏図
縮尺(A1)	A1：1/100 A3：1/200
担当課	生涯学習部 生涯学習課 健康こども部　こども課 財務部　営繕課
工事番号	08-01
図面番号	S-019
通し番号	175
	全226葉



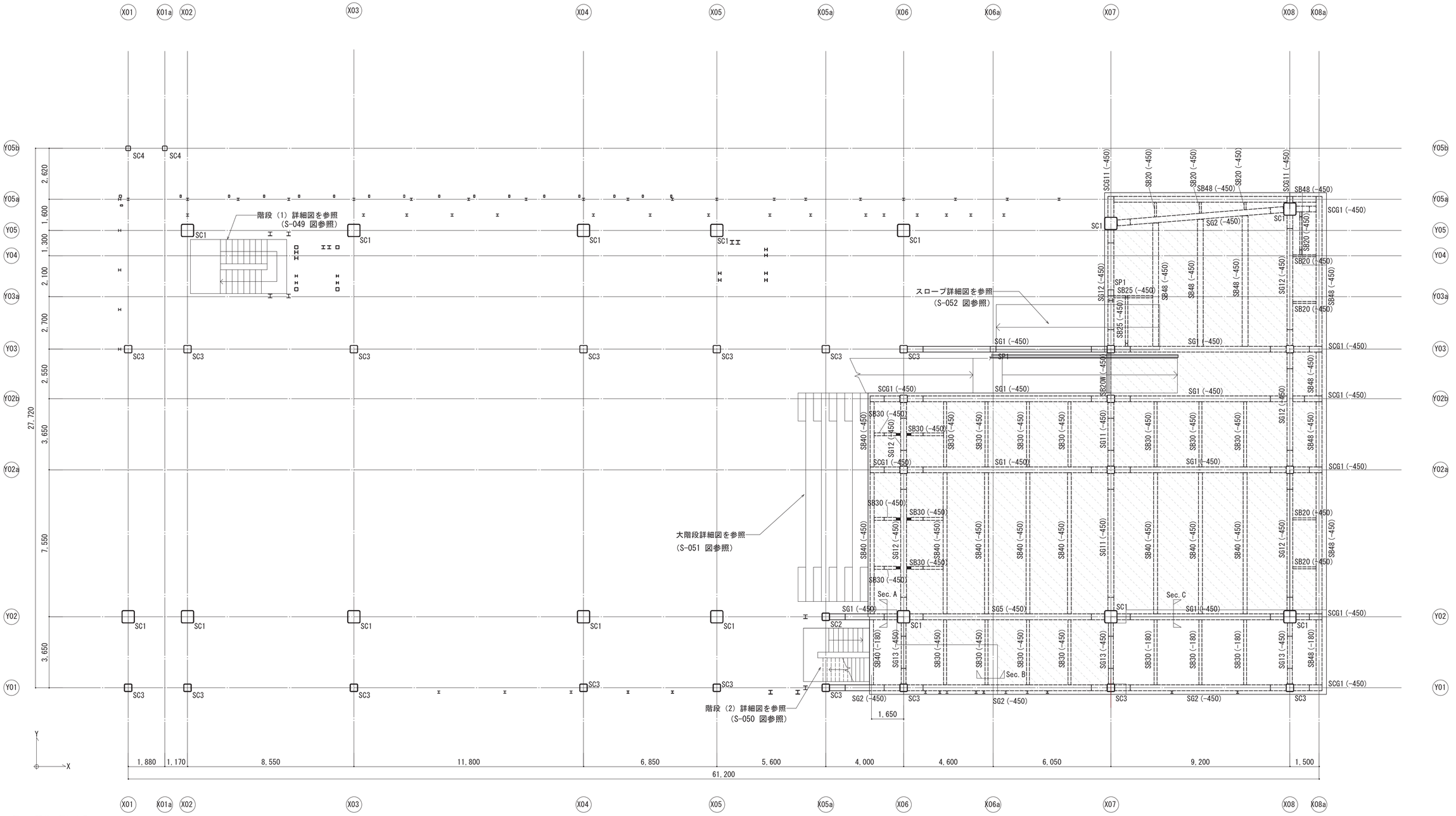
1.5階伏図　　S= 1 : 100

凡例	スラブ天端レベル
	1.5FL-300

特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. スラブ符号　S15
3. □内数値は 1.5FL からのスラブ天端レベルを示す
4. （　）内数値は 1.5FL からの梁天端レベルを示す
5. 鉄骨大梁・片持梁の継手位置は柱芯から 1000 とする
6. ○記号は鉄骨大梁(SG, SCG梁)端部ピン接合とする
   □■記号は鉄骨小梁(SB, SCB梁)端部剛接合とする
   梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG, SCG梁)は剛接合、
   鉄骨小梁(SB, SCB梁)はピン接合とする
7. 外壁・開口補強間柱の符号は軸組図による
8. EVシャフト鉄骨の詳細は意匠図による

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 S-020
図面名称	1.5階伏図	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部 こども課	通し番号 176
	財務部 営繕課	全226葉

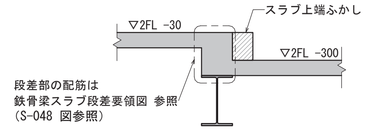


特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. スラブ符号　S15
3. □内数値は 2FL からのスラブ天端レベルを示す
4. （ ）内数値は 2FL からの梁天端レベルを示す
5. 鉄骨大梁・片持梁の継手位置は柱芯から 1000 とする
6. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)端部ピン接合とする
   ▭■記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)端部剛接合とする
   梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)は剛接合、
   鉄骨小梁(SB,SCB梁)はピン接合とする
7. 外壁・開口補強間柱の符号は軸組図による
8. EVシャフト鉄骨の詳細は意匠図による

凡例	スラブ 天端レベル
	2FL-30
	2FL-300

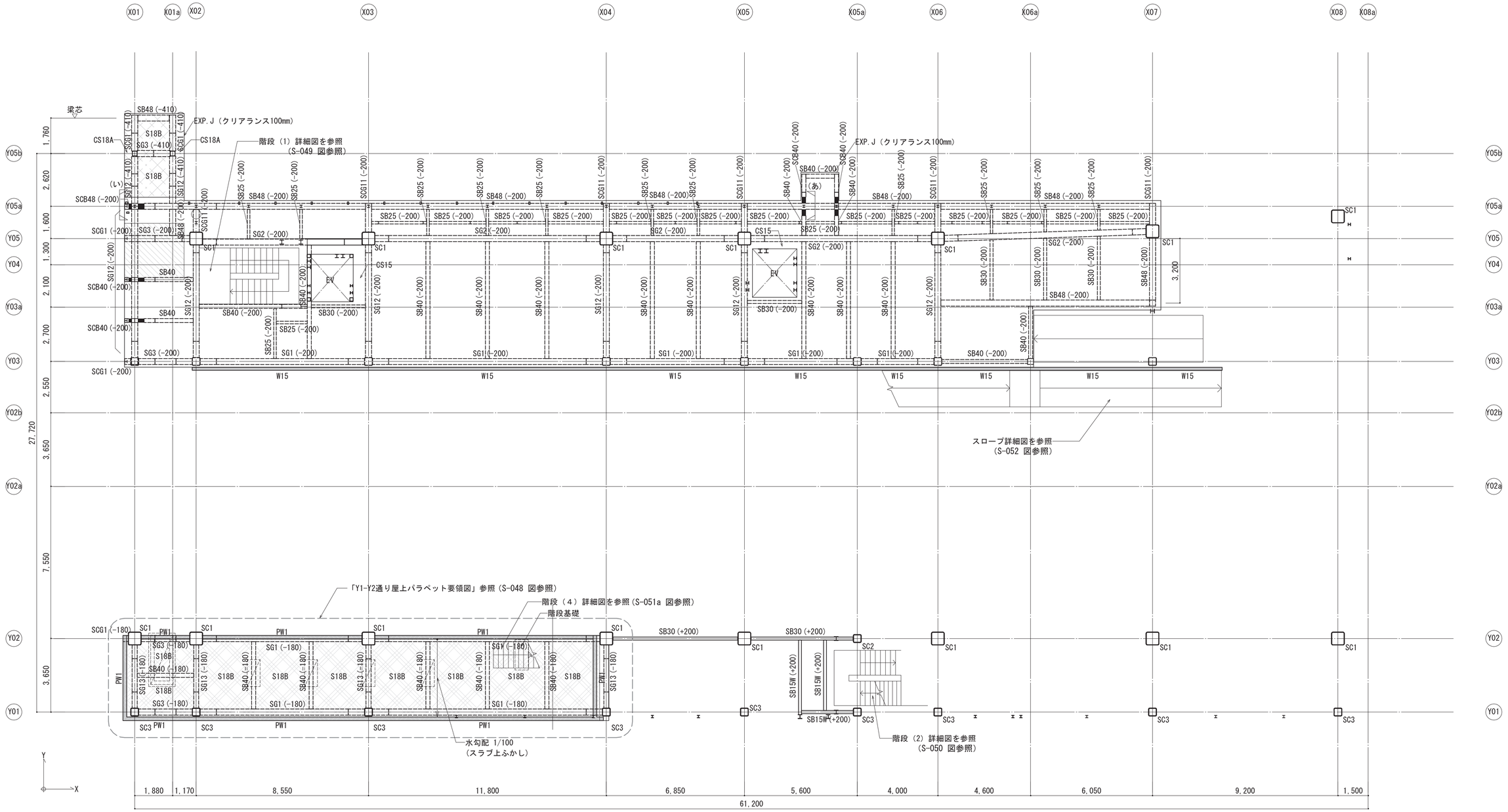
2階伏図　　S= 1 : 100



Sec. B、Sec. Cも同様の納まりとする

Sec.A　　S=1 : 30

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-021
図面名称	2階伏図	縮尺(A1) A1 : 1/100 A3 : 1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 177
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

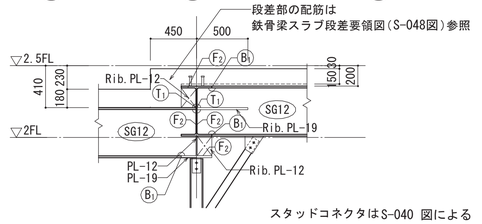


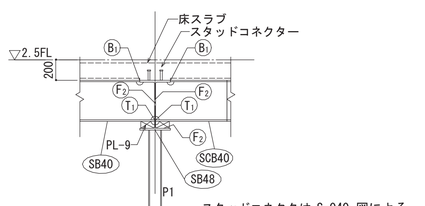
特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. スラブ符号　S15
3. □内数値は 2.5FL からのスラブ天端レベルを示す
4. （　）内数値は 2.5FL からの梁天端レベルを示す
5. 鉄骨大梁・片持梁の継手位置は柱芯から 1000 とする
6. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)端部ピン接合とする
   ▭■記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)端部剛接合とする
   梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)は剛接合、
   鉄骨小梁(SB,SCB梁)はピン接合とする
7. 外壁・開口補強間柱の符号は軸組図による
8. ▭ は設備基礎の位置を示す。大きさは意匠図参照。
   配筋は雑詳細図(1)を参照。(S-047 図参照)
9. ▭ はハト小屋の位置を示す。大きさは意匠図参照。
   配筋は雑詳細図(1)を参照。(S-047 図参照)
10. EVシャフト鉄骨の詳細は意匠図による
11. パラペットPW1を支持する片持ちスラブはCS18Aとする

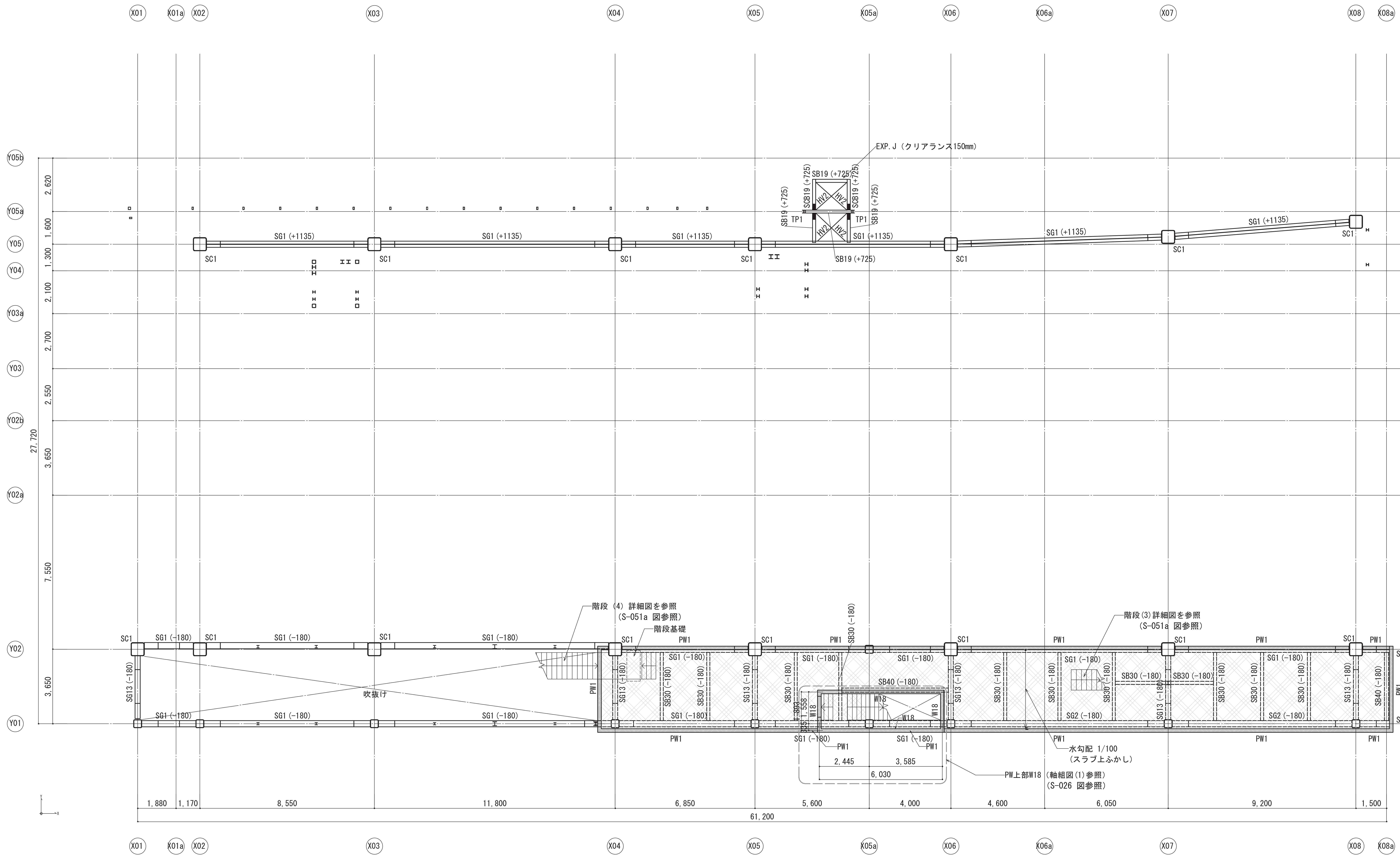
凡例	スラブ天端レベル
▨	2.5FL±0
□	2.5FL-30
▨	2.5FL-50
▨	2.5FL-230

2.5階伏図　S=1：100



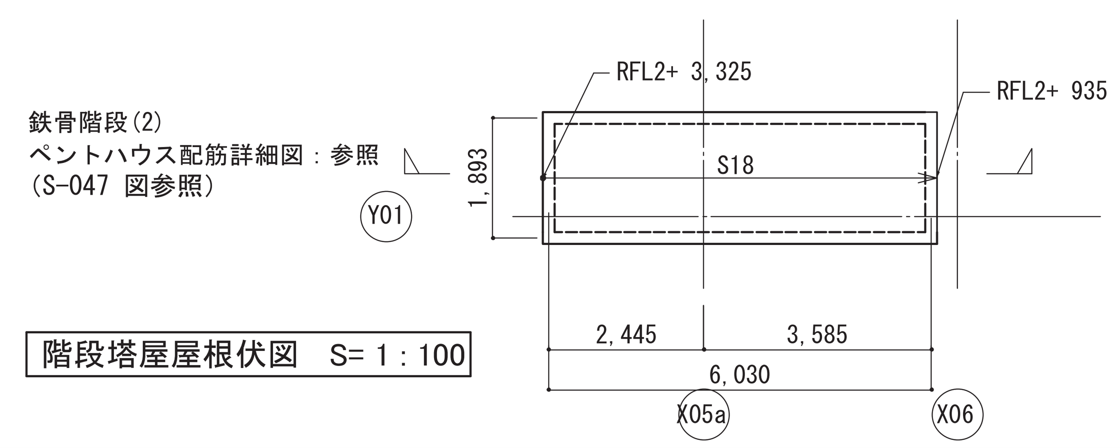


工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 S-022
図面名称	2.5階伏図	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部　こども課	通し番号 178
	財務部　営繕課	全226葉



RFL2階伏図 S= 1 : 100

凡例	スラブ 天端レベル
(ハッチ)	RFL2±0

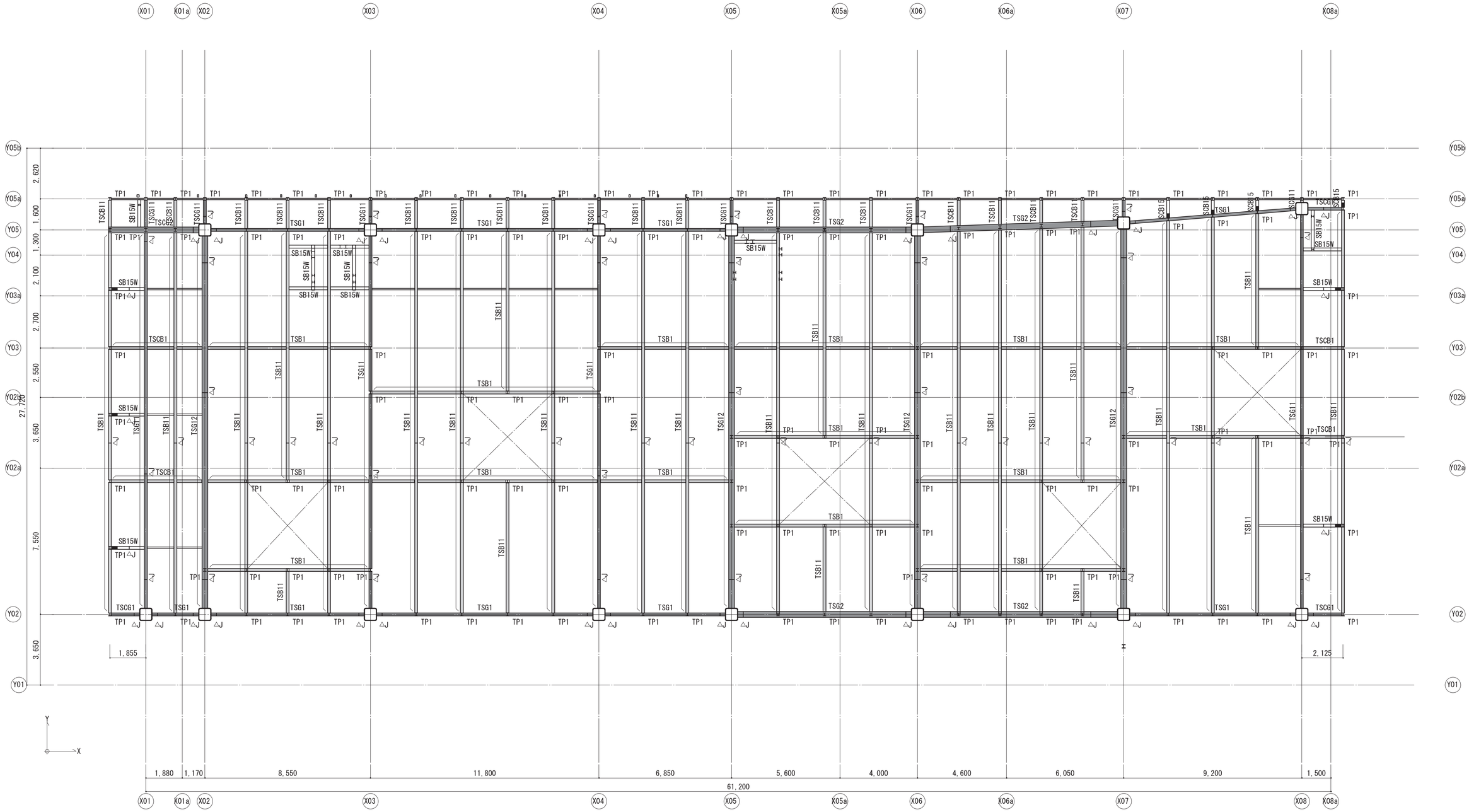


階段塔屋屋根伏図 S= 1 : 100

特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. スラブ符号 S18B
3. □内数値は RFL2 からのスラブ天端レベルを示す
4. ( ) 内数値は RFL2 からの梁天端レベルを示す
5. 鉄骨大梁・片持梁の継手位置は柱芯から 1000 とする
6. ○記号は鉄骨大梁(SG, SCG梁)端部ピン接合とする
   ▭■記号は鉄骨小梁(SB, SCB梁)端部剛接合とする
   梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG, SCG梁)は剛接合、
   鉄骨小梁(SB, SCB梁)はピン接合とする
7. 外壁・開口補強間柱の符号は軸組図による
8. EVシャフト鉄骨の詳細は意匠図による
9. パラペットPW1を支持する片持ちスラブはCS18Aとする
10. 水平ブレースHV2はS-042図に示す部材と同仕様とする

項目	内容	項目	内容
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号	S-023
図面名称	RFL2階伏図	縮尺(A1)	A1 : 1/100 A3 : 1/200
担当課	生涯学習部 生涯学習課 健康こども部　こども課 財務部　営繕課	工事番号	08-01
通し番号	179		全226葉

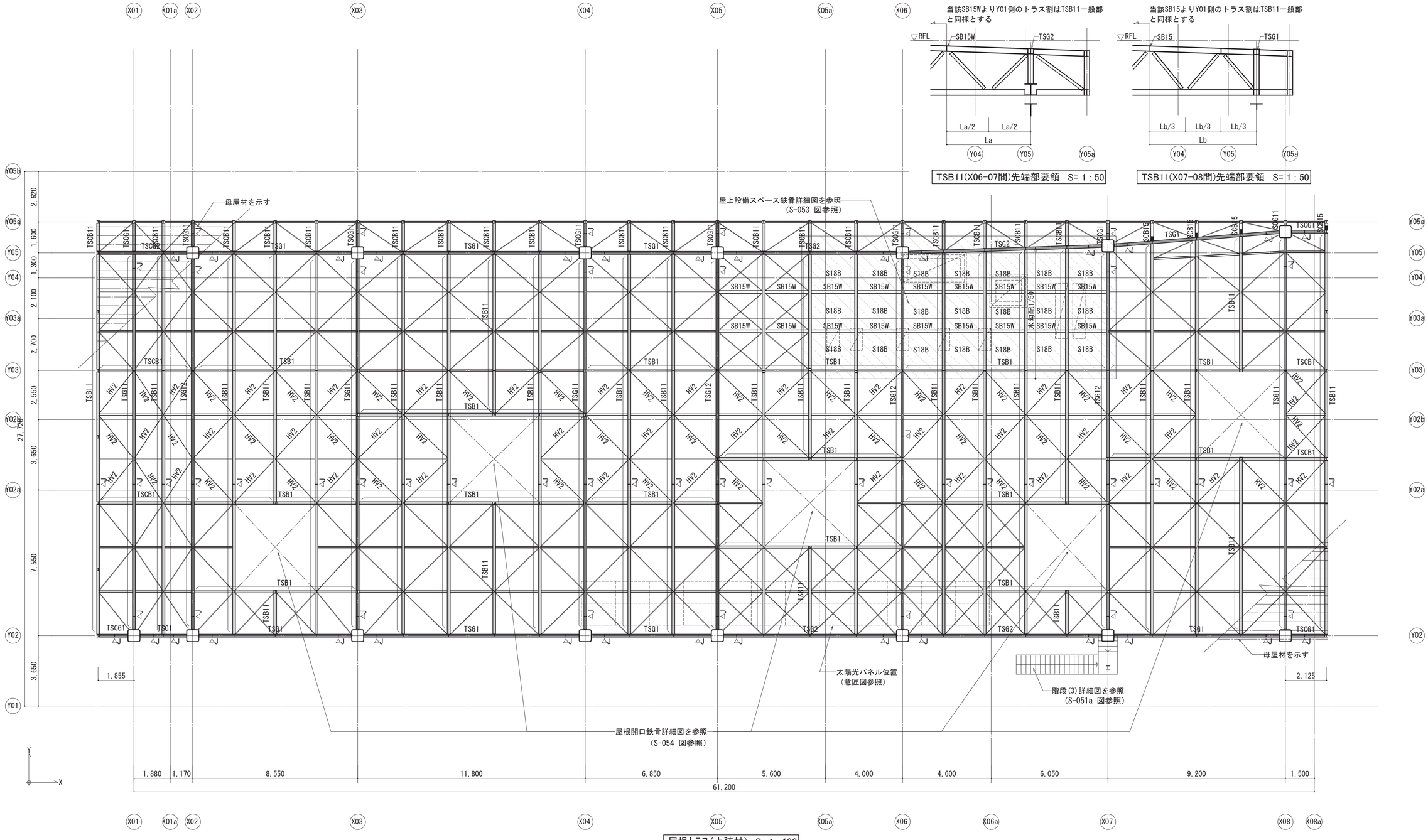


屋根トラス(下弦材) S=1:100

特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. 小梁符号　SB15
3. 鉄骨梁天端レベル、屋根勾配は屋根架構鉄骨詳細図による
4. ■はトラス大梁(TSG梁)、□はトラス小梁(TSB梁)を示す
5. ○記号は鉄骨大梁(SG, SCG梁)とトラス大梁(TSG, TSCG梁)端部ピン接合とする
   □■記号は鉄骨小梁(SB, SCB梁)とトラス小梁(TSB, TSCB梁)端部剛接合とする
   梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG, SCG梁)とトラス大梁(TSG, TSCG梁)は剛接合、
   鉄骨小梁(SB, SCB梁)とトラス小梁(TSB, TSCB梁)はピン接合とする
6. ▽Jはジョイント位置を示す
7. 外壁・開口補強間柱の符号は軸組図による
8. EVシャフト鉄骨の詳細は意匠図による

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 S-024
図面名称	屋根伏図（トラス下弦材）	縮尺(A1) A1：1/100 A3：1/200
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部 こども課	通し番号 180
	財務部 営繕課	全226葉



屋根トラス(上弦材) S=1:100

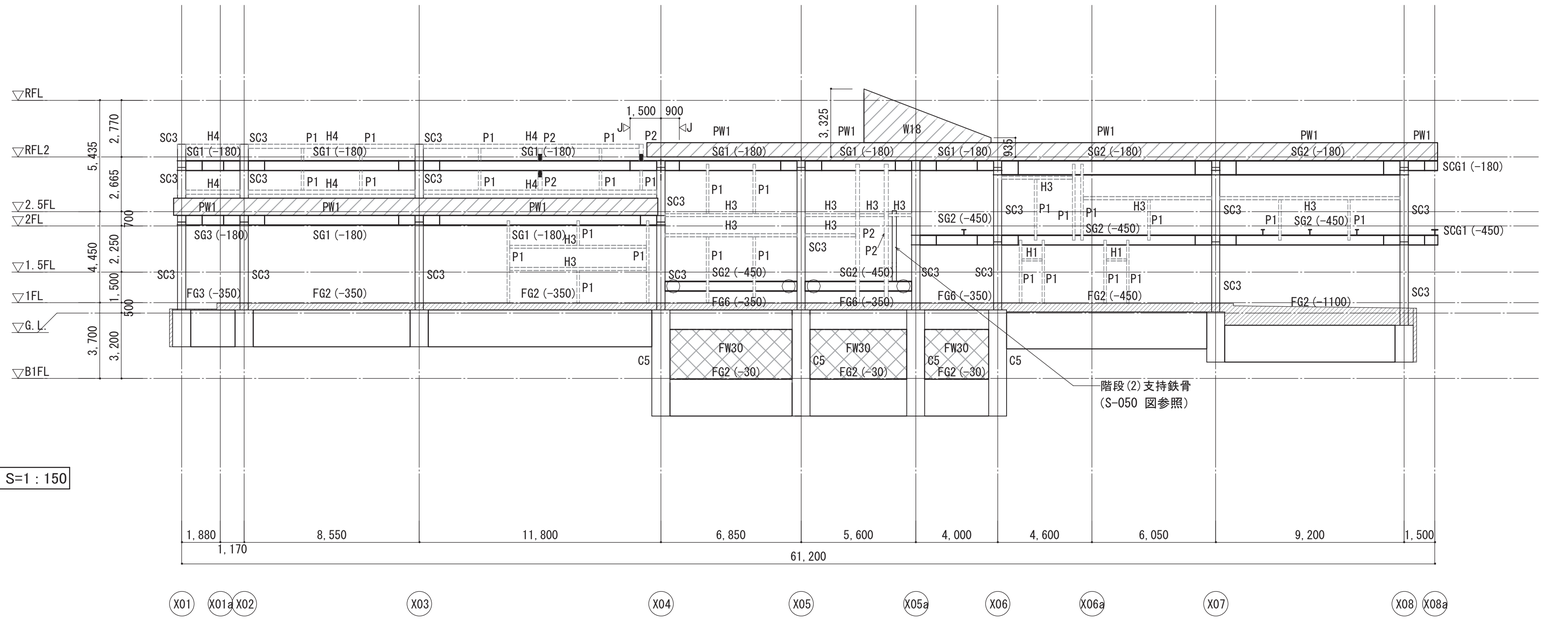
TSB11(X06-07間)先端部要領 S=1:50

TSB11(X07-08間)先端部要領 S=1:50

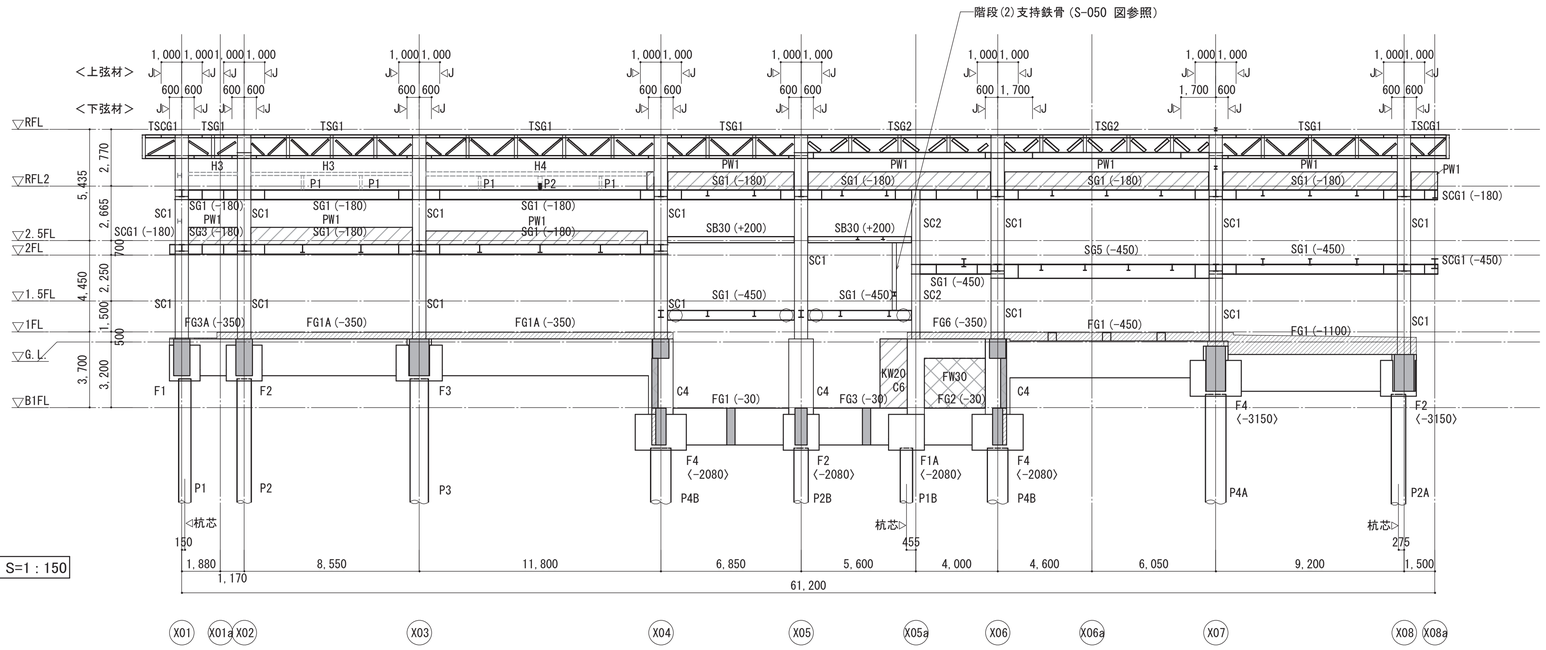
特記なき限り下記による

1. 本図は見下げ図とする
2. 小梁符号 SB15
3. 水平ブレース符号 HV1
4. 鉄骨梁天端レベル、屋根勾配は屋根架構鉄骨詳細図による
5. ■はトラス大梁(TSG梁)、□はトラス小梁(TSB梁)を示す
6. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
   ■□記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
   梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
   鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
7. ▽Jはジョイント位置を示す
8. ▨は設備基礎の位置を示す。大きさは意匠図参照。
   配筋は雑詳細図(1)を参照。(S-047 図参照)
9. ▨はハト小屋の位置を示す。大きさは意匠図参照。
   配筋は雑詳細図(1)を参照。(S-047 図参照)
10. 目隠し受け間柱位置は屋上設備スペース (1) 鉄骨図参照。(S-053 図参照)
11. ▨は屋上設備スペースの範囲を示す。(S-053 図参照)

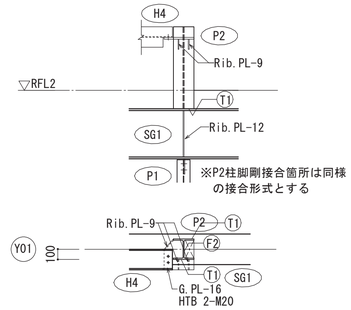
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-025
図面名称	屋根伏図 (トラス上弦材)	縮尺(A1) A1:1/100 A3:1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 181
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉



軸組図Y01　　S=1：150



軸組図Y02　　S=1：150

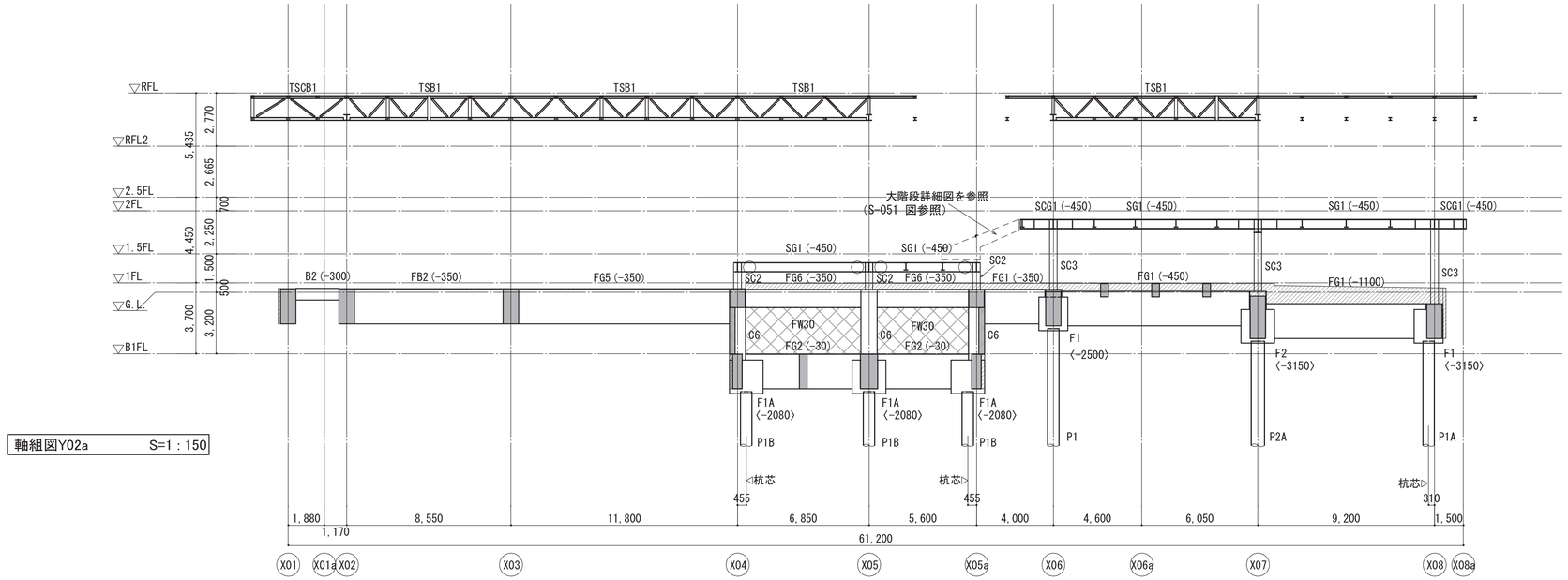


X04-900/Y01-225通り　　S=1：30

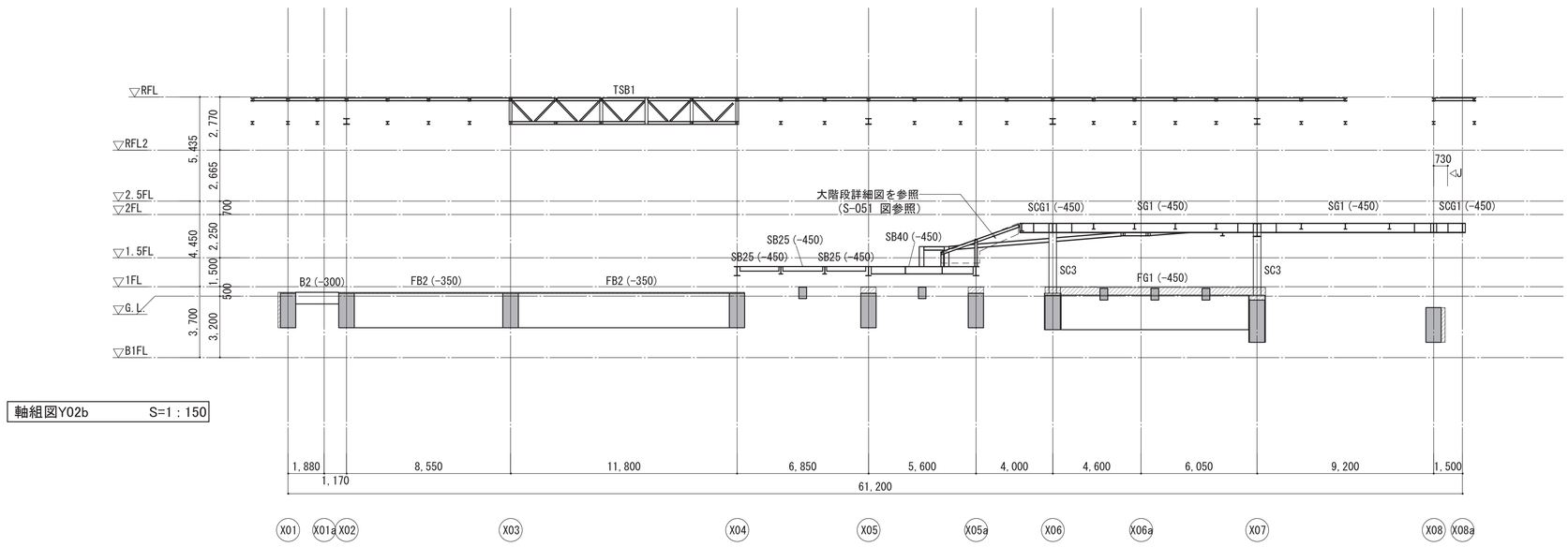
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ▨：耐震壁
   ▨：雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
    ■記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
11. ▨は梁フカシを示す
12. ■記号は鉄骨間柱端部剛接合とする

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-026
図面名称	軸組図（１）　Y01通、Y02通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 182
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



軸組図Y02a　　S=1：150

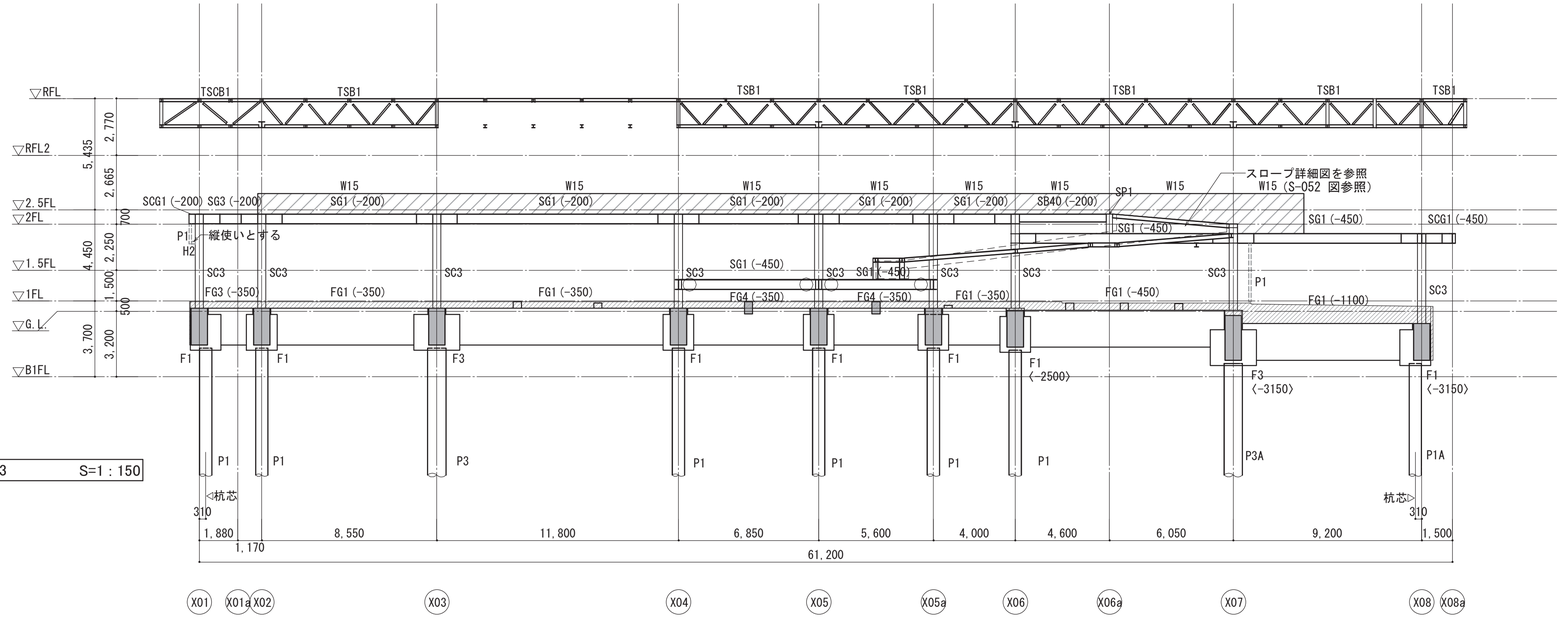


軸組図Y02b　　S=1：150

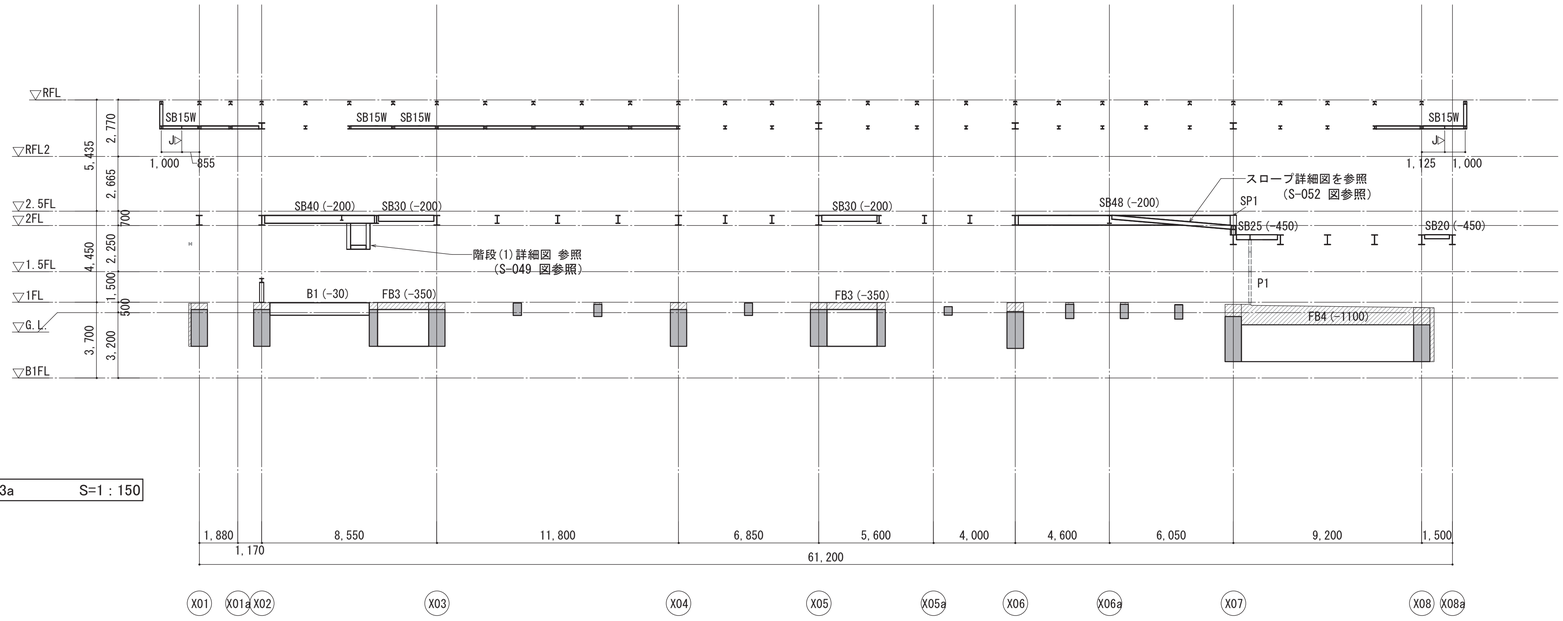
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ▨:耐震壁
   ▨:雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG, SCG梁)とトラス大梁(TSG, TSCG梁)端部ピン接合とする
    ▭■ 記号は鉄骨小梁(SB, SCB梁)とトラス小梁(TSB, TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG, SCG梁)とトラス大梁(TSG, TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB, SCB梁)とトラス小梁(TSB, TSCB梁)はピン接合とする
11. ▨は梁フカシを示す

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-027
図面名称	軸組図（２）　Y02a通、Y02b通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 183
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



軸組図Y03　　S=1：150

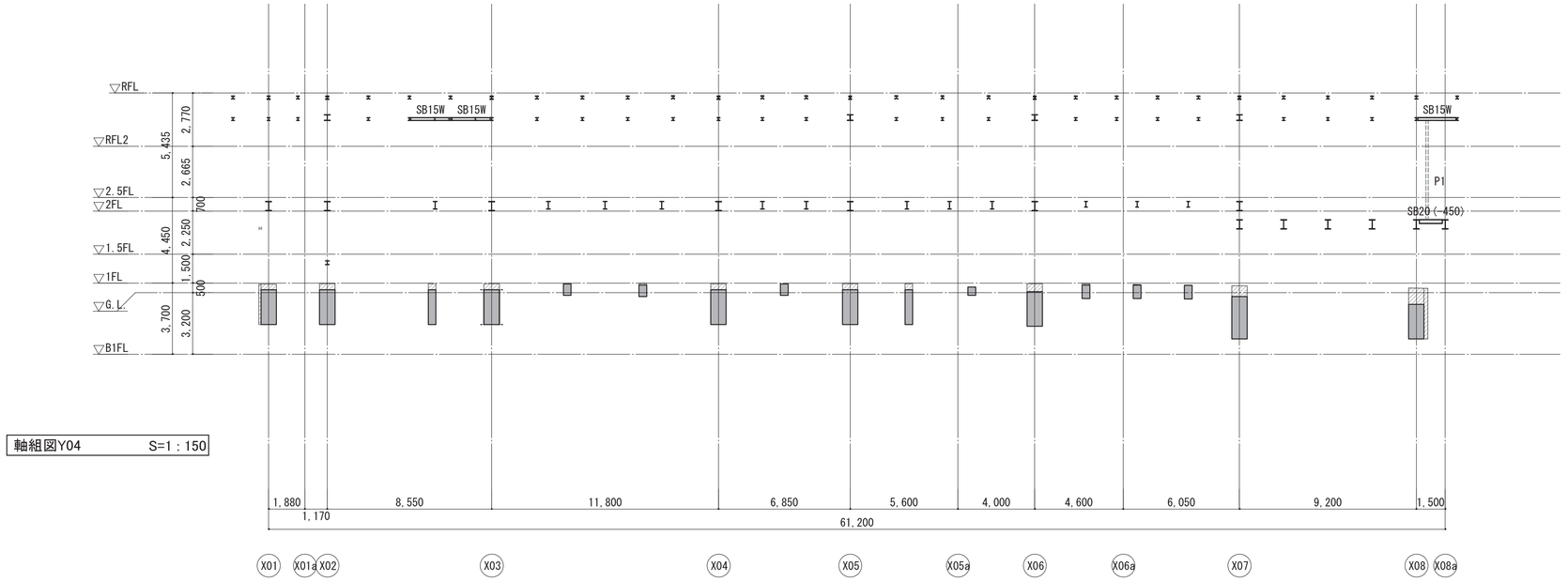


軸組図Y03a　　S=1：150

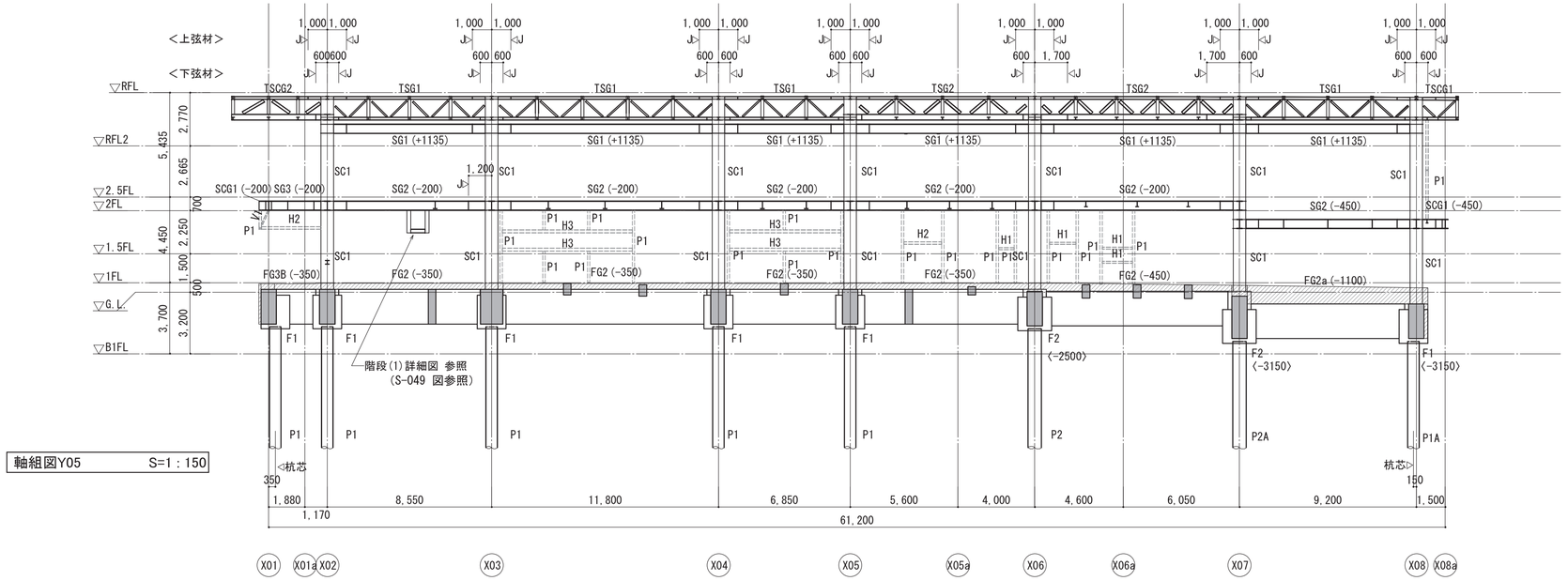
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ⊠：耐震壁
   ▨：雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG, SCG梁)とトラス大梁(TSG, TSCG梁)端部ピン接合とする
    □■記号は鉄骨小梁(SB, SCB梁)とトラス小梁(TSB, TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG, SCG梁)とトラス大梁(TSG, TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB, SCB梁)とトラス小梁(TSB, TSCB梁)はピン接合とする
11. ▨は梁フカシを示す

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-028
図面名称	軸組図（３）　Y03通、Y03a通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 184
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



軸組図Y04　　S=1：150

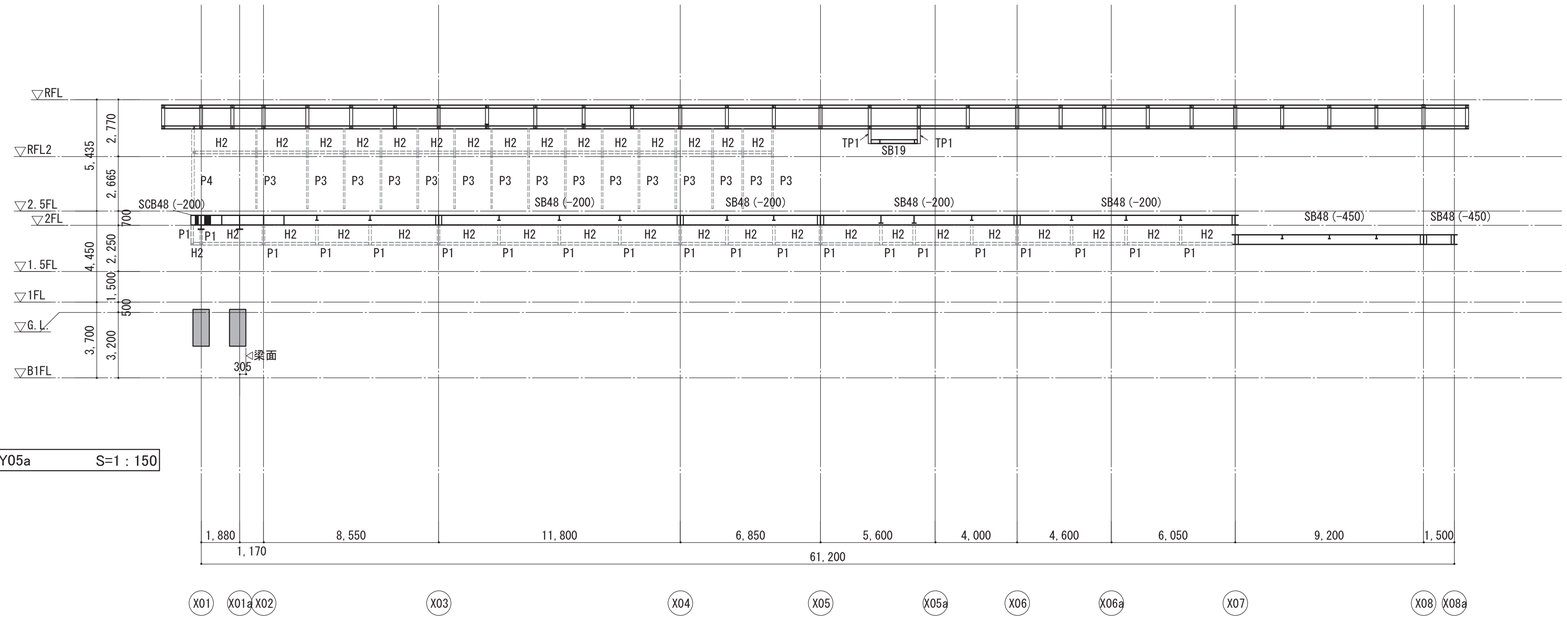


軸組図Y05　　S=1：150

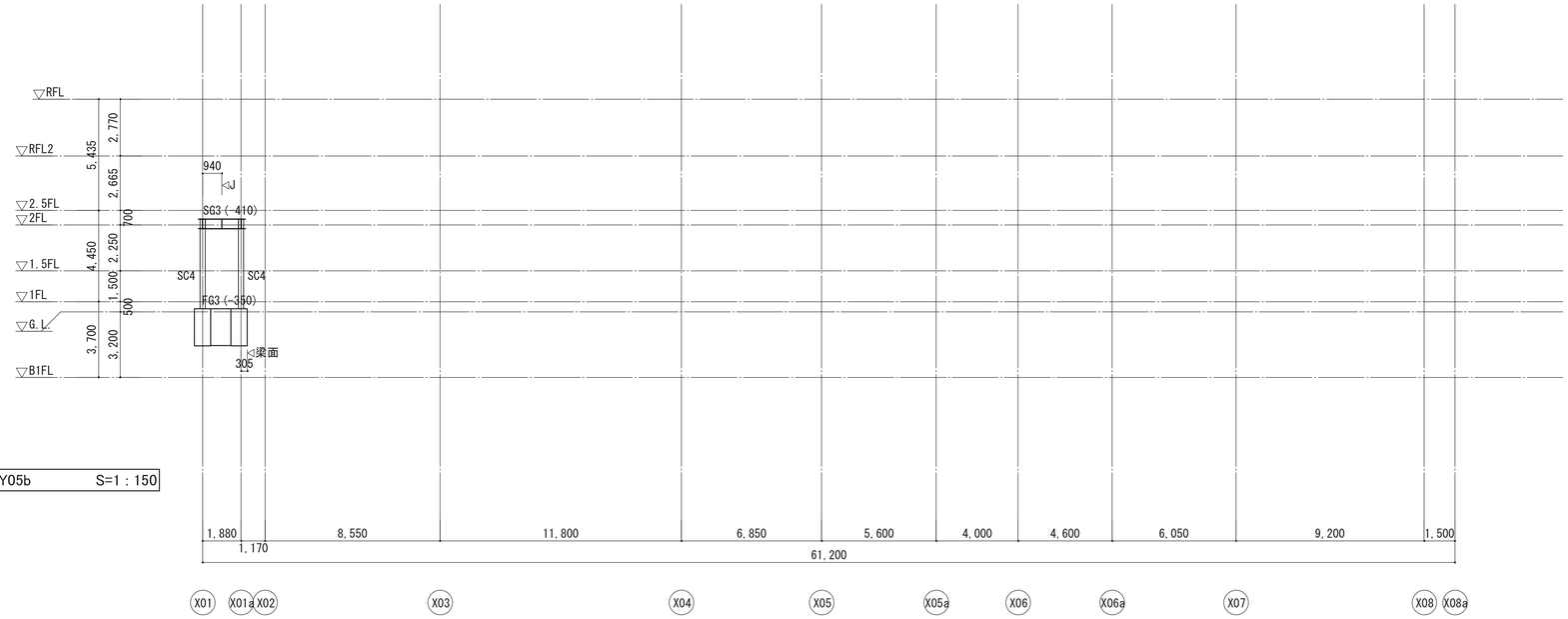
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ▨:耐震壁
   ▨:雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
    ▭■ 記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
11. ▨は梁フカシを示す

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-029
図面名称	軸組図（４） Y04通、Y05通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 185
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉



軸組図Y05a　　S=1：150

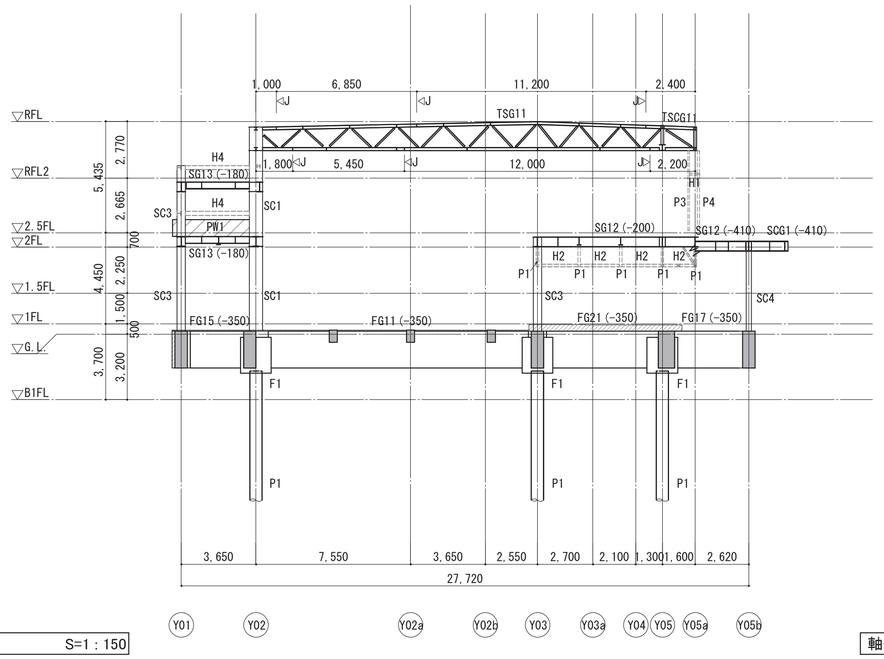


軸組図Y05b　　S=1：150

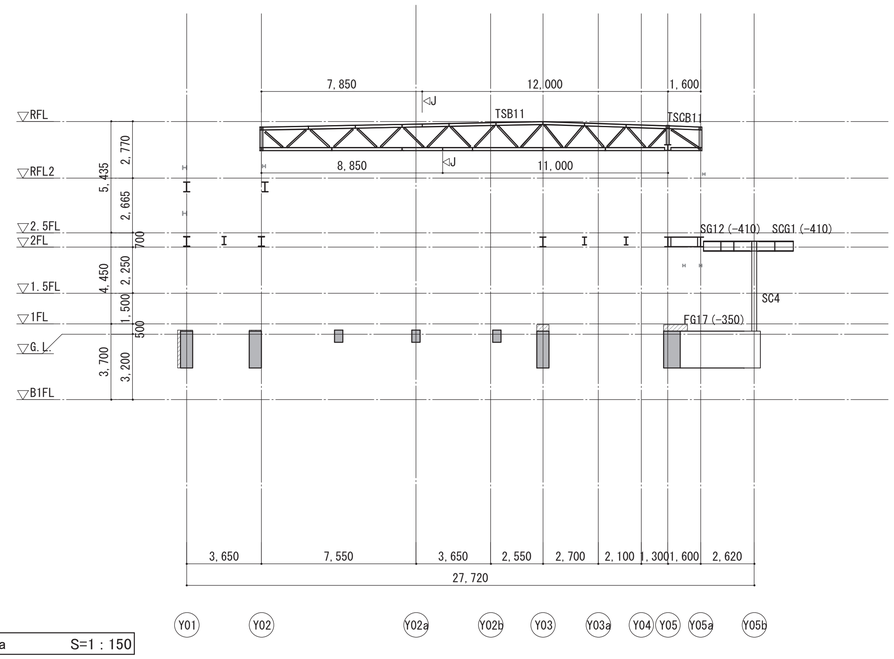
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ⊠:耐震壁
   ▨:雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
    ▭■ 記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
11. ▨は梁フカシを示す

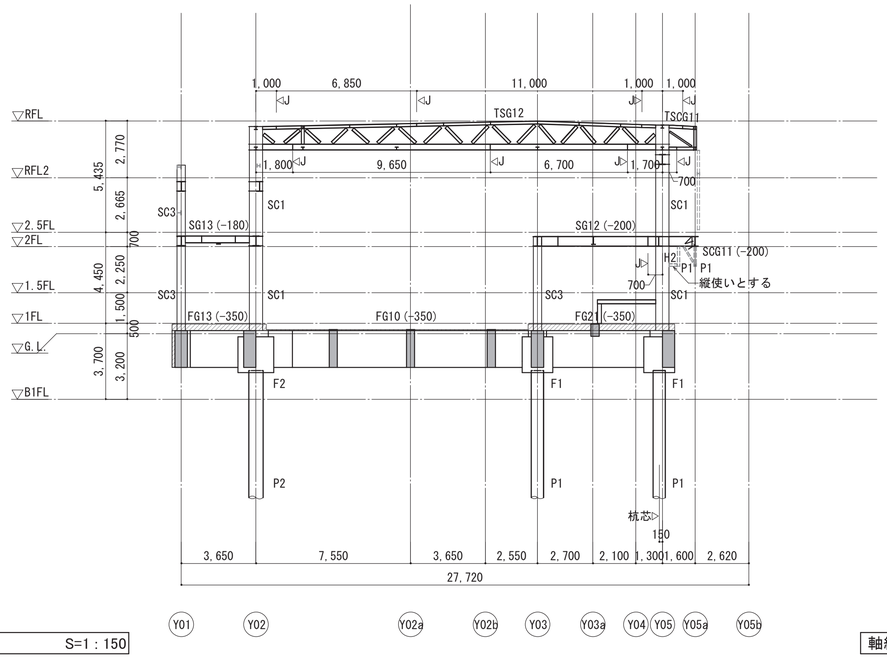
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-030
図面名称	軸組図（５）　Y05a通、Y05b通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 186
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



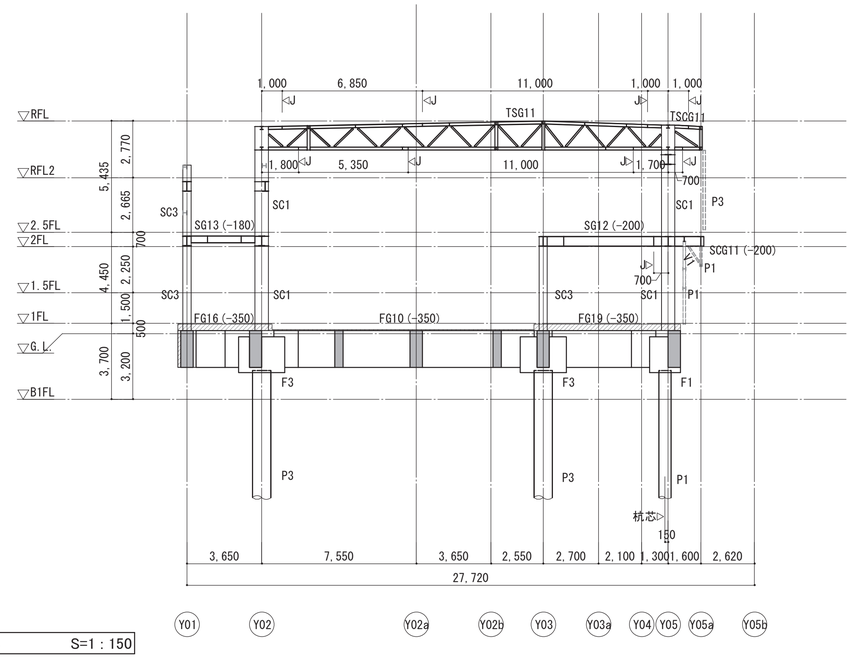
軸組図X01　　S=1：150



軸組図X01a　　S=1：150



軸組図X02　　S=1：150

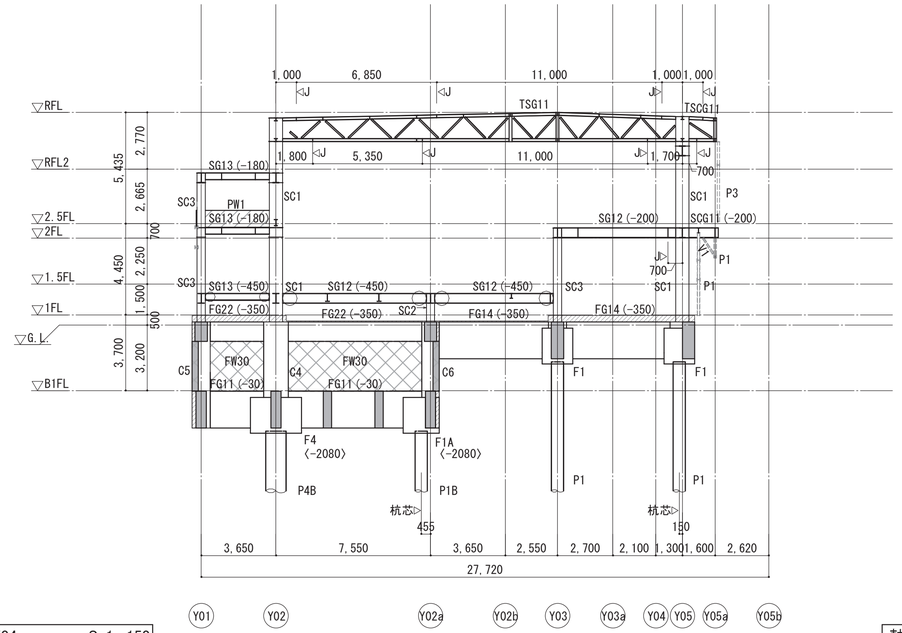


軸組図X03　　S=1：150

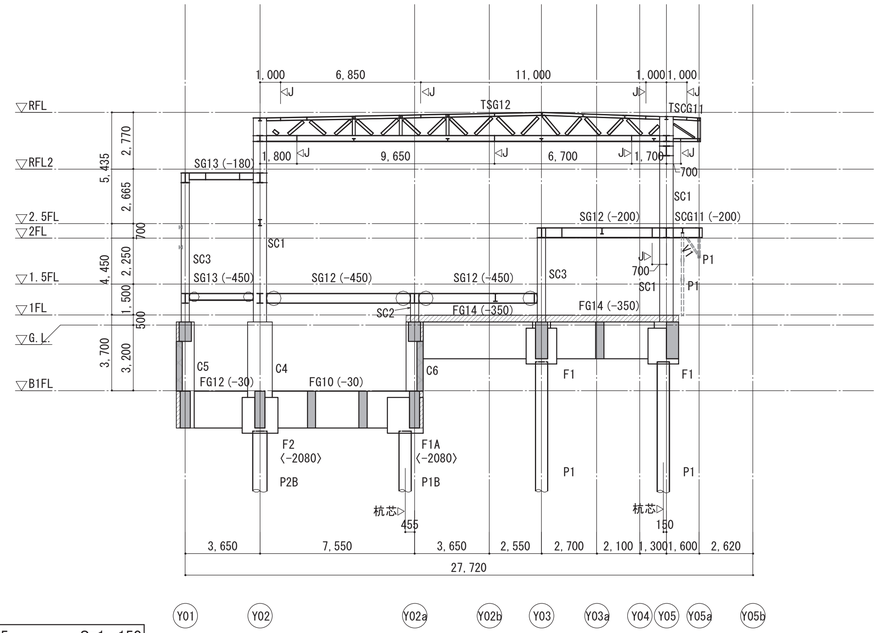
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ：耐震壁
   ：雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
    記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
11. は梁フカシを示す

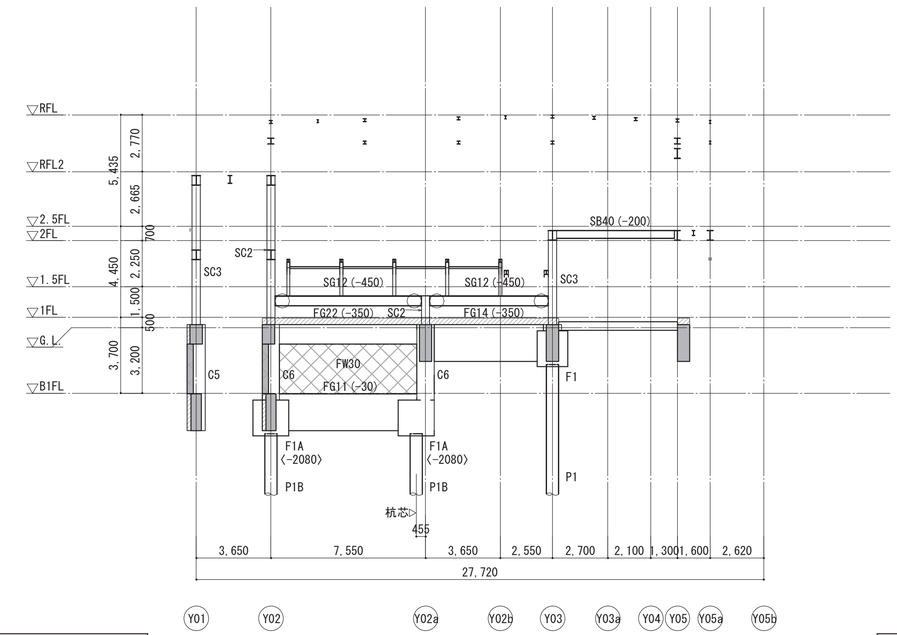
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-031
図面名称	軸組図（６）　X01通、X01a通、X02通、X03通	縮尺(A1)	A1：1/150 A3：1/300
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号	08-01
	健康こども部　こども課		通し番号 187
	財務部　営繕課		全226葉



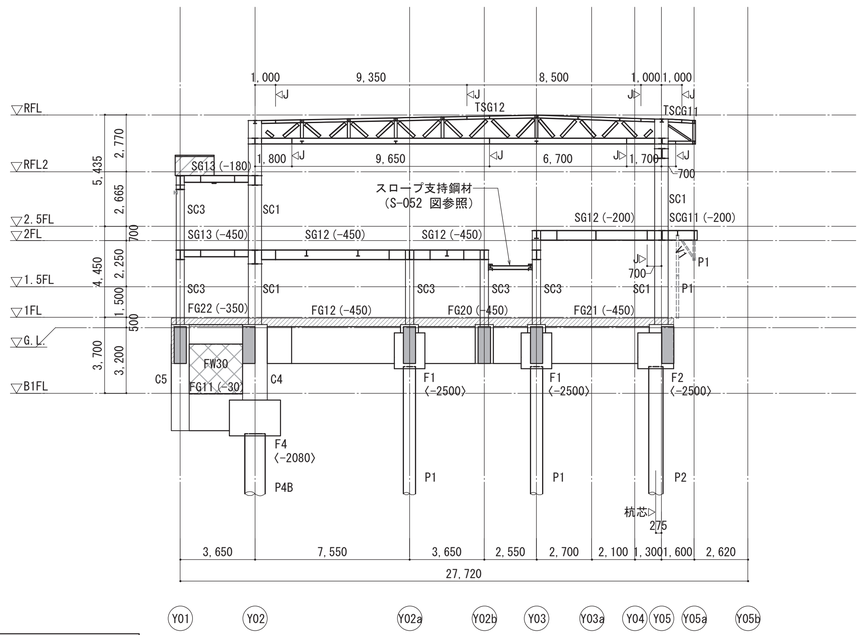
軸組図X04　　S=1：150



軸組図X05　　S=1：150



軸組図X05a　　S=1：150

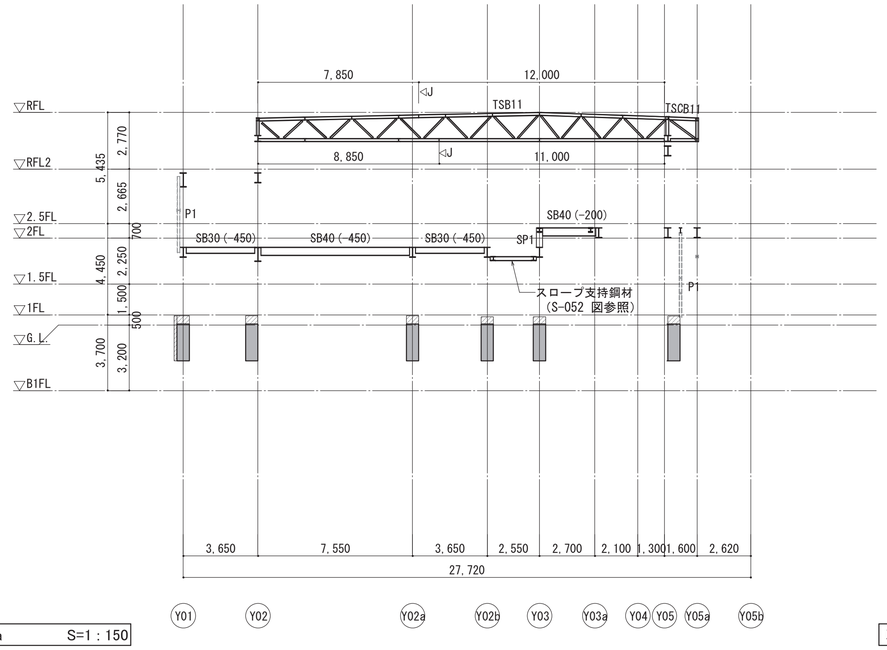


軸組図X06　　S=1：150

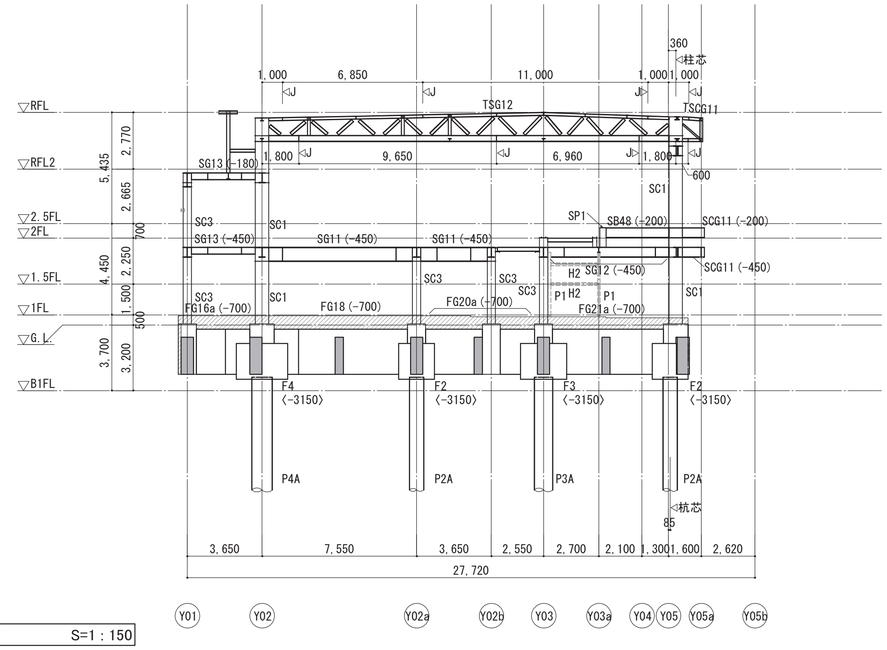
特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ▨：耐震壁
   ▨：雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
    ▭■ 記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
11. ▨は梁フカシを示す

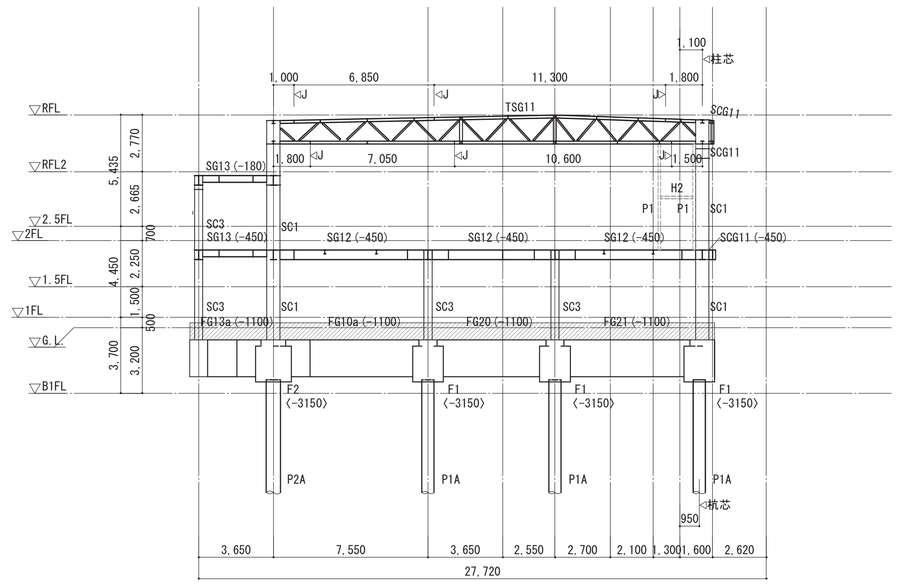
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-032
図面名称	軸組図（７）　X04通、X05通、X05a通、X06通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 188
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



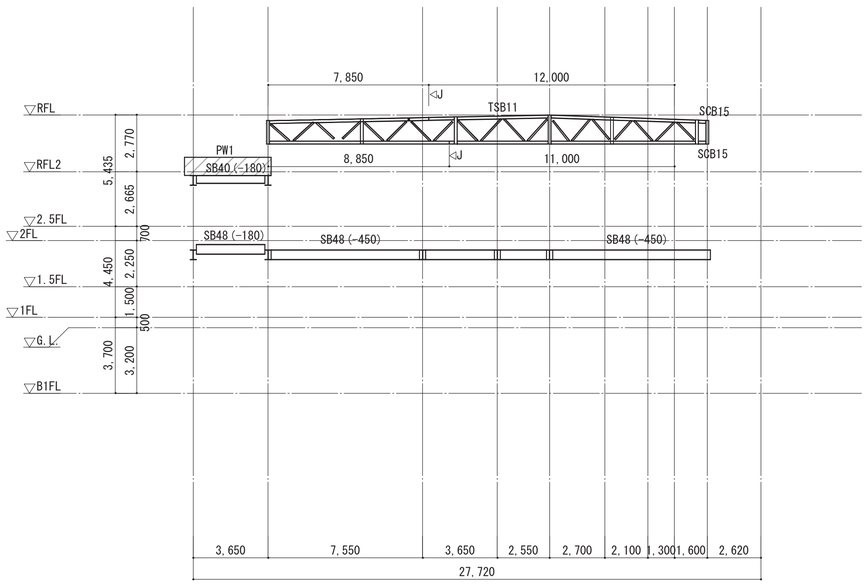
軸組図X06a　　S=1：150



軸組図X07　　S=1：150



軸組図X08　　S=1：150



軸組図X08a　　S=1：150

特記なき限り下記による

1. 基礎下端レベルは 1FL-2400 とする
2. 〈 〉内数値はFLからの基礎底レベルを示す
3. 柱符号は上階と同じとする
4. （ ）内数値はFLからの梁天端レベルを示す
5. RFL2階以下の鉄骨大梁・片持ち梁の継手位置は柱芯から1000とする
6. ：耐震壁
   ：雑壁
7. 小梁符号　SB15
8. トラス束材符号　TP1
9. トラス梁の天端レベルは、屋根架構鉄骨詳細図による
10. ○記号は鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)端部ピン接合とする
    記号は鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)端部剛接合とする
    梁端部に記号のない鉄骨大梁(SG,SCG梁)とトラス大梁(TSG,TSCG梁)は剛接合、
    鉄骨小梁(SB,SCB梁)とトラス小梁(TSB,TSCB梁)はピン接合とする
11. は梁フカシを示す

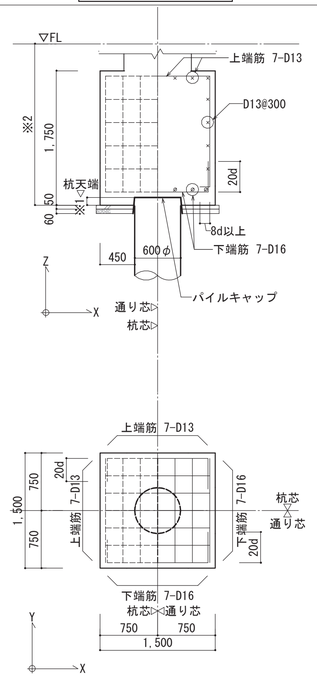
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-033
図面名称	軸組図（８） X06a通、X07通、X08通、X08a通	縮尺(A1) A1：1/150 A3：1/300	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 189
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

基礎リスト　S=1:40

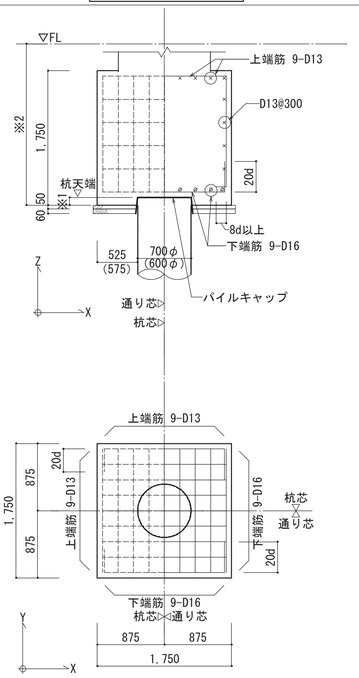
特記なき限り下記による

1.※2印寸法は基礎伏図、軸組図による　　2.パイルキャップはF.T.Pile構法とする（S-011 図参照）　　3.杭頭部のフーチングへの埋め込み深さ ※1 = 100 とする

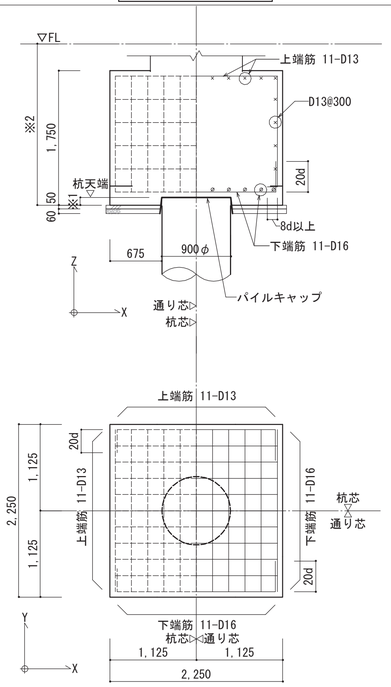
F1



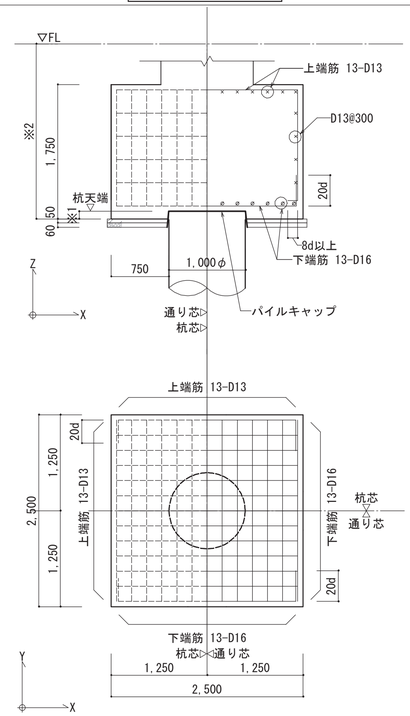
F2（F1A）



F3



F4



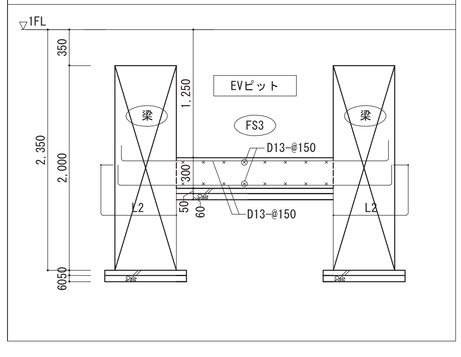
耐圧スラブリスト

特記なき限り下記による

※ピット内の勾配はスラブ上ふかしで形成し、ふかし厚が100mm以上の場合はワイヤーメッシュφ6-100x100を配置すること。

符　号	厚　さ	位　置	短辺方向（主筋）		長辺方向（配力筋）		備　考
			端　部	中　央	端　部	中　央	
FS1	300	上　端	D16@150		D13@150		
		下　端	D16@150		D13@150		
FS2	300	上　端	D16@150		D13D16@150		
		下　端	D16@150		D13D16@150		
FS3	300	上　端	D13@150		D13@150		EVピット要領 参照
		下　端	D13@150		D13@150		
FS4	300	上　端	D19@200		D16@200		
		下　端	D19@200		D16@200		
FS5	300	上　端	D13@150		D10D13@200		
		下　端	D13@150		D10D13@200		

EVピット要領　1/30

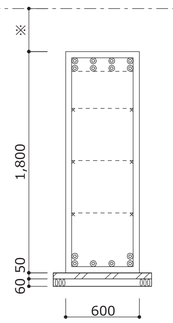
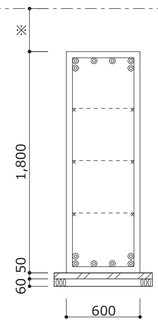
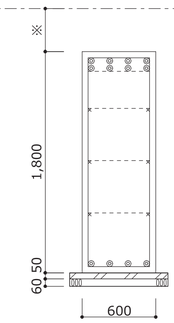
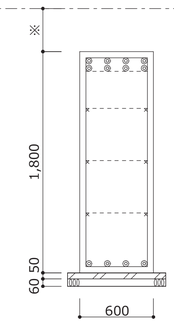
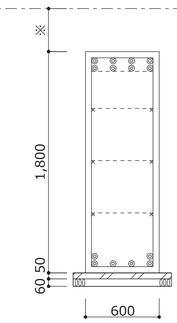
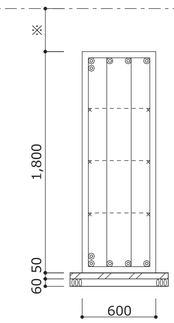
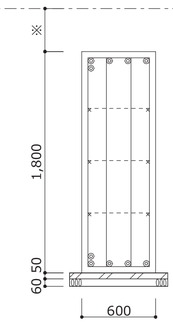
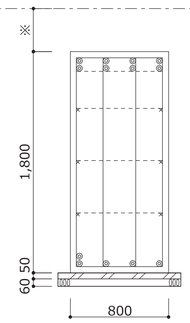
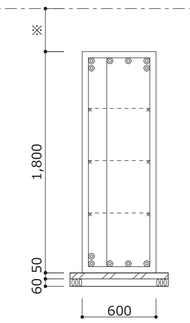


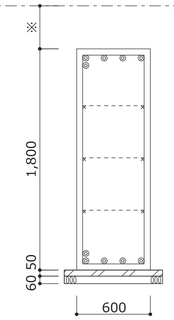
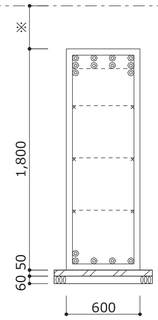
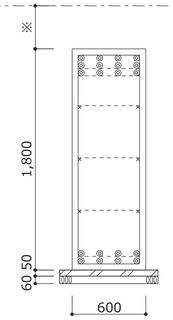
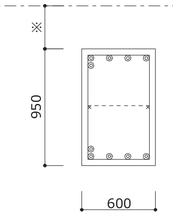
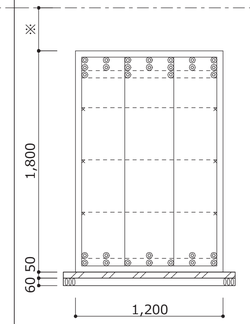
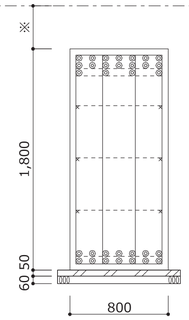
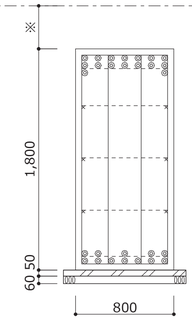
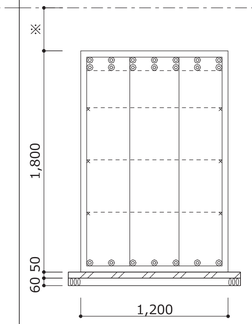
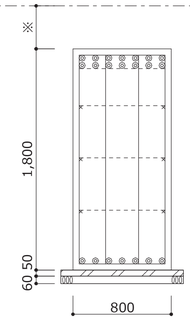
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-034
図面名称	基礎・耐圧スラブリスト	縮尺（A1） A1：1/30, 1/40 A3：1/60, 1/80	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 190
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

基礎梁リスト（1）　S=1:50

特記なき限り下記による

1.鉄筋：D10･D13(SD295),S13(MK785),D25(SD345),D29(SD390)　2.幅止め筋：D10@1000以内　3.機械式定着板を採用する場合は評定工法とし、監督職員の承諾を得ること　4.※印寸法は伏図、軸組図による

階	符号	FG1	FG1A	FG2	FG2a		FG3	FG3A	FG3B	FG4
	位置	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面
1	断面									
	上端筋	4/4 - D32	4/2 - D32	4/4 - D32	4/4 - D32	4/4 - D32	4/1 - D32	4/1 - D32	4/4 - D32	4/2 - D32
	下端筋	4/2 - D32	4/2 - D32	4 - D32	4 - D32	4/2 - D32	4/1 - D32	4/1 - D32	4/1 - D32	4/1 - D32
	あばら筋	2 - D13 @200	2 - D13 @200	2 - D13 @150	2 - D13 @150		4 - D13 @200	4 - S13 @200	4 - D13 @200	3 - D13 @200
	腹筋	6 - D13	6 - D13	6 - D13	6 - D13		6 - D13	6 - D13	6 - D13	6 - D13
	備考	-	-	-	-		-	-	-	-

階	符号	FG5			FG6	FG10			FG10a	
	位置	X03端	中央	X04端	全断面	Y02端	中央	Y03端	Y02端	中央･Y02a端
1	断面									
	上端筋	4/1 - D32	4/4/2 - D32	4/4/4 - D32	4/1 - D32	7/7/4 - D32	7/7/4 - D32	7/7/2 - D32	7/7 - D32	7/7 - D32
	下端筋	4/1 - D32	4/1 - D32	4/4 - D32	4/1 - D32	7/5 - D32	7/7 - D32	7/5 - D32	7 - D32	7 - D32
	あばら筋	2 - D13 @200			2 - D13 @150	4 - D13 @200			4 - D13 @200	
	腹筋	6 - D13			※※ 2 - D13	6 - D13			6 - D13	
	備考	X4端：機械式定着工法			Y02/X06端：機械式定着工法	両端：機械式定着工法			-	

※※Y01/X04-X06間の腹筋は6-D22とし、柱にL2定着すること

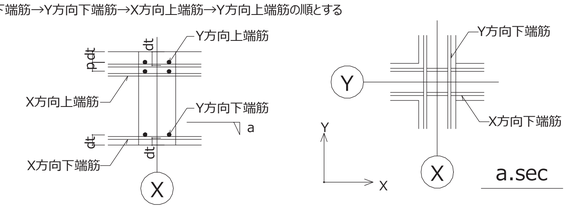
(柱面より 1,200)

(柱面より 1,200)

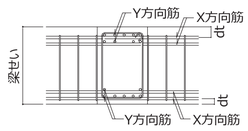
配 筋 順 序

梁断面に配筋するときの配筋順序は

X方向下端筋→Y方向下端筋→X方向上端筋→Y方向上端筋の順とする



基礎梁主筋位置



設計主筋芯位置

	Y方向鉄筋		X方向鉄筋	
	上dt	下dt	上dt	下dt
D32	85	140	120	105

※施工主筋位置は、必要かぶり厚を確保した上、上表の数値以内とする。

2段筋の鉄筋芯 - 芯間隔

D32	
85	

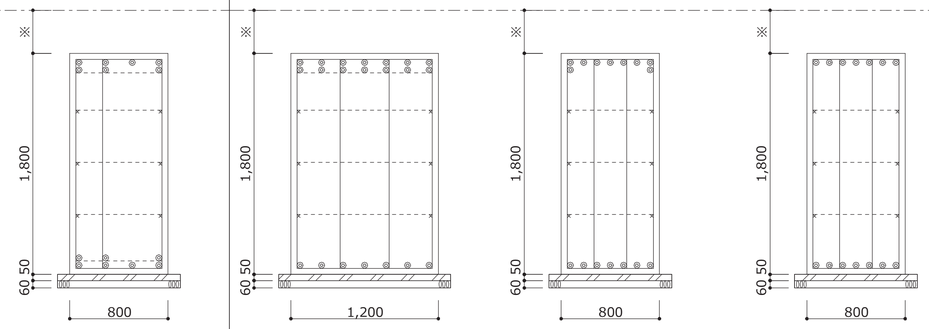
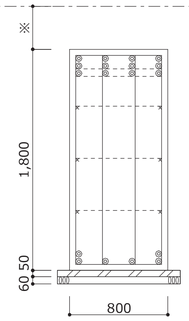
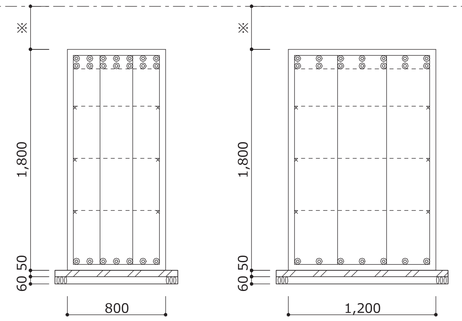
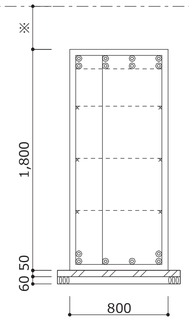
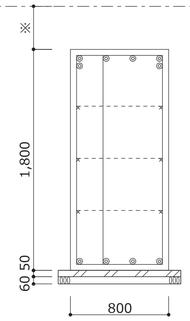
※施工2段筋位置は1.5d+d'
（d：鉄筋呼び径、d'：鉄筋最外径）
を確保した上、上表の数値以内とする。

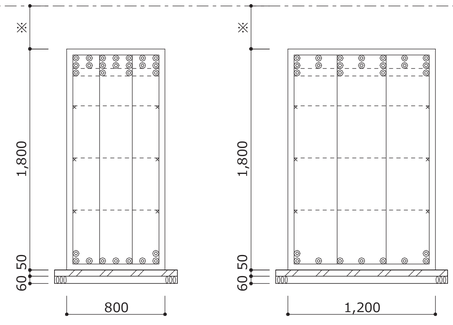
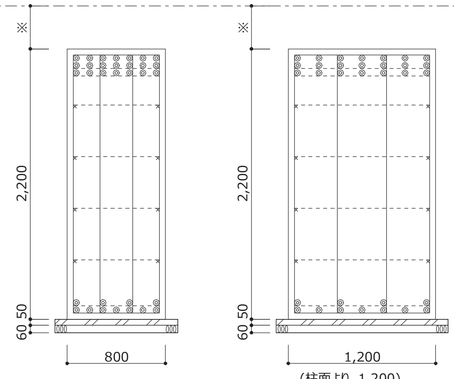
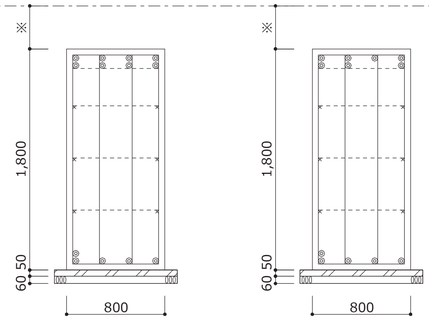
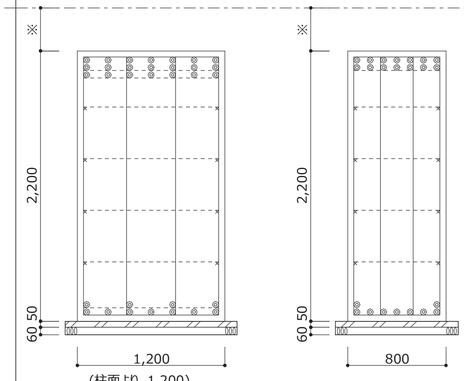
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-035
図面名称	基礎梁リスト（1）	縮尺(A1) A1：1/25 A3：1/50	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 191
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

基礎梁リスト（3）　S=1:50

特記なき限り下記による

1.鉄筋：D10･D13(SD295),S13(MK785),D25(SD345),D29(SD390)　2.幅止め筋：D10@1000以内　3.機械式定着板を採用する場合は評定工法とし、監督職員の承諾を得ること　4.※印寸法は伏図、軸組図による

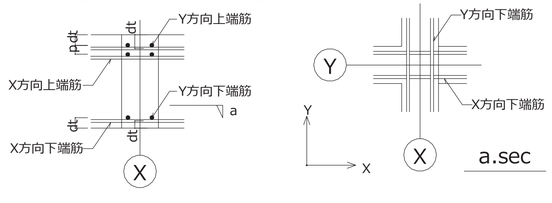
階	符号	FG11	FG12			FG13	FG13a		FG14	FG15
	位置	全断面	Y02端	中央	Y02a端	全断面	Y01端･中央	Y02端	全断面	全断面
1	断面									
	ハンチ長さ		(柱面より 1,200)					(柱面より 1,200)		
	上端筋	4/3 - D32	7/7 - D32	7/2 - D32	7 - D32	4/4/4 - D32	7/7 - D32	7/7 - D32	4/4 - D32	4/2 - D32
	下端筋	4/3 - D32	7 - D32	7 - D32	7 - D32	4/2 - D32	7 - D32	7 - D32	4/2 - D32	4 - D32
	あばら筋	3 - D13 @200	4 - D13 @200			4 - D13 @200	4 - D13 @200		3 - D13 @200	3 - D13 @200
	腹筋	6 - D13	6 - D13			6 - D13	6 - D13		6 - D13	6 - D13
	備考	-	-			Y01端：機械式定着工法	-		-	-

階	符号	FG16		FG16a		FG17		FG18	
	位置	Y01端･中央	Y02端	Y01端･中央	Y02端	Y05端	中央･Y05b端	Y02端	中央･Y02a端
1	断面								
	ハンチ長さ		(柱面より 1,200)		(柱面より 1,200)			(柱面より 1,200)	
	上端筋	7/7/4 - D32	7/7/4 - D32	7/7/7 - D32	7/7/7 - D32	4/4 - D32	4/3 - D32	7/7/7 - D32	7/7 - D32
	下端筋	7/2 - D32	7/2 - D32	7/4 - D32	7/4 - D32	4/1 - D32	4/1 - D32	7/4 - D32	7/2 - D32
	あばら筋	4 - D13 @200		4 - D13 @200		4 - D13 @200		4 - D13 @200	
	腹筋	6 - D13		8 - D13		6 - D13		8 - D13	
	備考	Y01端：機械式定着工法		Y01端：機械式定着工法		-		-	

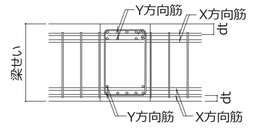
配 筋 順 序

梁断面に配筋するときの配筋順序は

X方向下端筋→Y方向下端筋→X方向上端筋→Y方向上端筋の順とする



基礎梁主筋位置



設計主筋芯位置

	Y方向鉄筋		X方向鉄筋	
	上dt	下dt	上dt	下dt
D32	85	140	120	105

※施工主筋位置は、必要かぶり厚を確保した上、上表の数値以内とする。

2段筋の鉄筋芯 - 芯間隔

D32	
85	

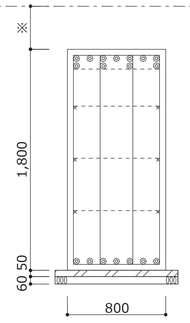
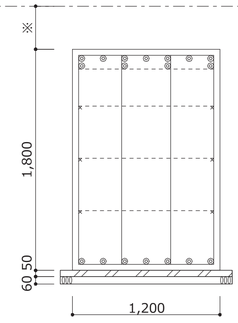
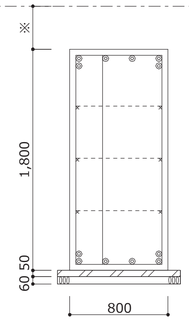
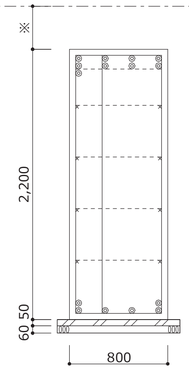
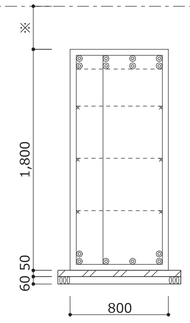
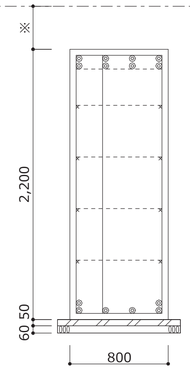
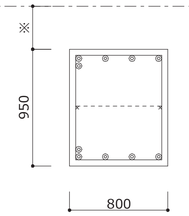
※施工2段筋位置は1.5d+d'
（d：鉄筋呼び径、d'：鉄筋最外径）
を確保した上、上表の数値以内とする。

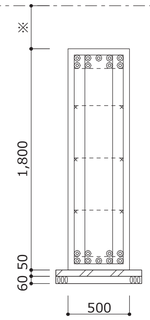
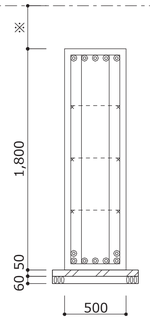
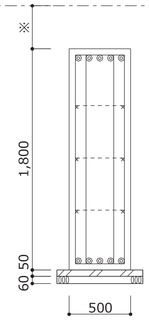
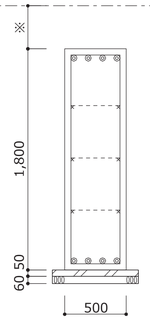
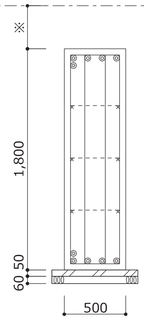
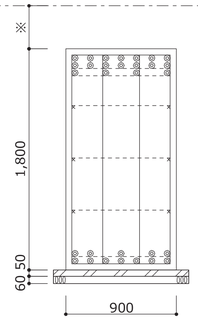
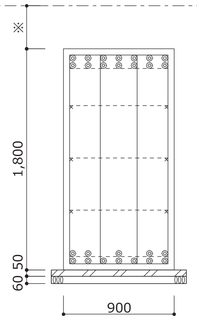
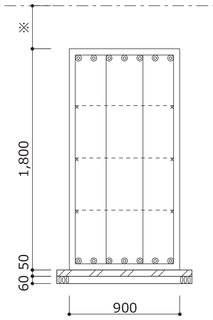
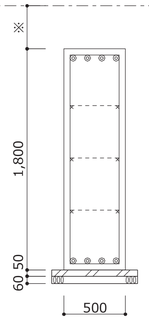
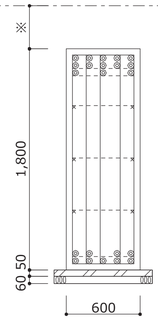
工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-035a
図面名称	基礎梁リスト（２）	縮尺(A1) A1：1/25 A3：1/50	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 192
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

基礎梁リスト（3）　S=1:50

特記なき限り下記による

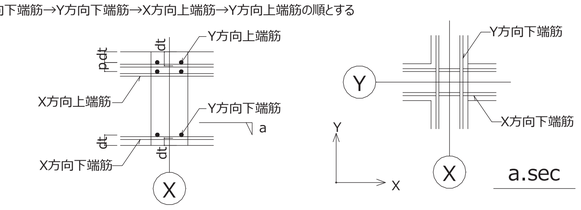
1.鉄筋：D10･D13(SD295),S13(MK785),D25(SD345),D29(SD390)　2.幅止め筋：D10@1000以内　3.機械式定着板を採用する場合は評定工法とし、監督職員の承諾を得ること　4.※印寸法は伏図、軸組図による

階	符号	FG19		FG20	FG20a	FG21	FG21a	FG22
	位置	Y03端･中央	Y05端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
1	▽設計GL 断面 ハンチ長さ		 (柱面より 1,200)					
	上端筋	7/4 - D32	7/4 - D32	4/2 - D32	4/4/1 - D32	4/4 - D32	4/4 - D32	4/1 - D32
	下端筋	7 - D32	7 - D32	4/2 - D32	4/2 - D32	4/2 - D32	4/2 - D32	4/1 - D32
	あばら筋	4 - D13 @200		3 - D13 @200	3 - D13 @200	3 - D13 @200	3 - D13 @200	2 - D13 @200
	腹筋	6 - D13		6 - D13	8 - D13	6 - D13	8 - D13	2 - D13
	備考	-		-	両端：機械式定着工法	-	-	Y01端,X06/Y02端：機械式定着工法

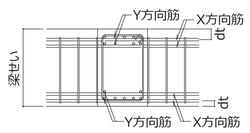
階	符号	FG1			FG2	FG3	FG10			FG11	FG12
	位置	X04端	中央	X05端	全断面	全断面	Y02端	中央	Y02a端	全断面	全断面
B1	▽ FL 断面										
	上端筋	5/4 - D32	5 - D32	5 - D32	4 - D32	4/1 - D32	7/7/4 - D32	7/7 - D32	7 - D32	4 - D32	5/5/3 - D32
	下端筋	5/4 - D32	5/2 - D32	5 - D32	4 - D32	4/1 - D32	7/5 - D32	7/5 - D32	7 - D32	4 - D32	5/4 - D32
	あばら筋	4 - D13 @100			2 - D13 @200	4 - D13 @100	4 - D13 @100			2 - D13 @200	5 - S13 @150
	腹筋	6 - D13			6 - D13	6 - D13	6 - D13			6 - D13	6 - D13
	備考	-			-	-	Y02端：機械式定着工法			-	両端：機械式定着工法

配 筋 順 序

梁断面に配筋するときの配筋順序は
X方向下端筋→Y方向下端筋→X方向上端筋→Y方向上端筋の順とする



基礎梁主筋位置



設計主筋芯位置

	Y方向鉄筋		X方向鉄筋	
	上dt	下dt	上dt	下dt
D32	85	140	120	105

※施工主筋位置は、必要かぶり厚を確保した上、上表の数値以内とする。

2段筋の鉄筋芯 - 芯間隔

D32	
85	

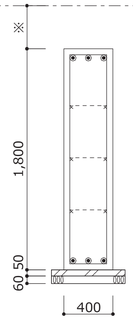
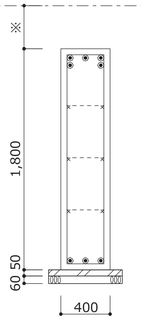
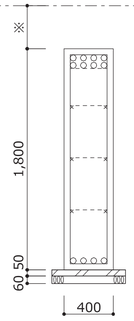
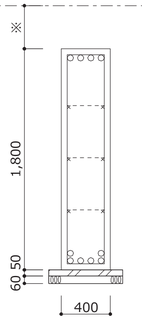
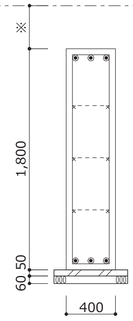
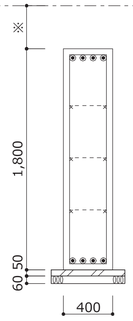
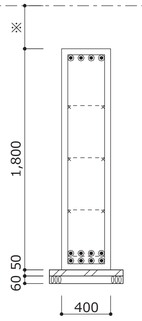
※施工2段筋位置は1.5d+d'
（d：鉄筋呼び径、d'：鉄筋最外径）
を確保した上、上表の数値以内とする。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-036
図面名称	基礎梁リスト（3）	縮尺(A1) A1：1/25 A3：1/50	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 193
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

基礎小梁リスト　1:50

特記なき限り下記による

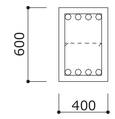
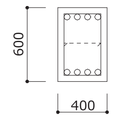
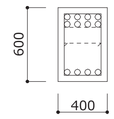
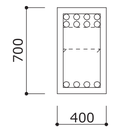
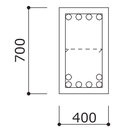
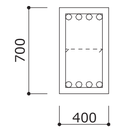
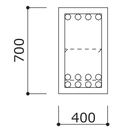
1.鉄筋：D10･D13(SD295),D25(SD345),D29(SD390)　2.幅止め筋：D10@1000以内　3.機械式定着板を採用する場合は評定工法とし、監督職員の承諾を得ること　4.※印寸法は伏図による　5.小梁符号によらず小梁が連続する端部配筋は連続端とする

符号	FB1		FB2		FB3	FB4	
位置	外端･中央	連続端	連続端	中央･外端	全断面	端部	中央
▽ FL							
断面							
上端筋	3 - D25	3/2 - D25	4/4 - D22	4 - D22	3 - D25	4 - D25	4 - D25
下端筋	3 - D25	3 - D25	4 - D22	4/2 - D22	3 - D25	4 - D25	4/4 - D25
あばら筋	2 - D13 @200		2 - D13 @200		2 - D13 @200	2 - D13 @200	
腹筋	6 - D13		6 - D13		6 - D13	6 - D13	
備考	-		-		-	-	

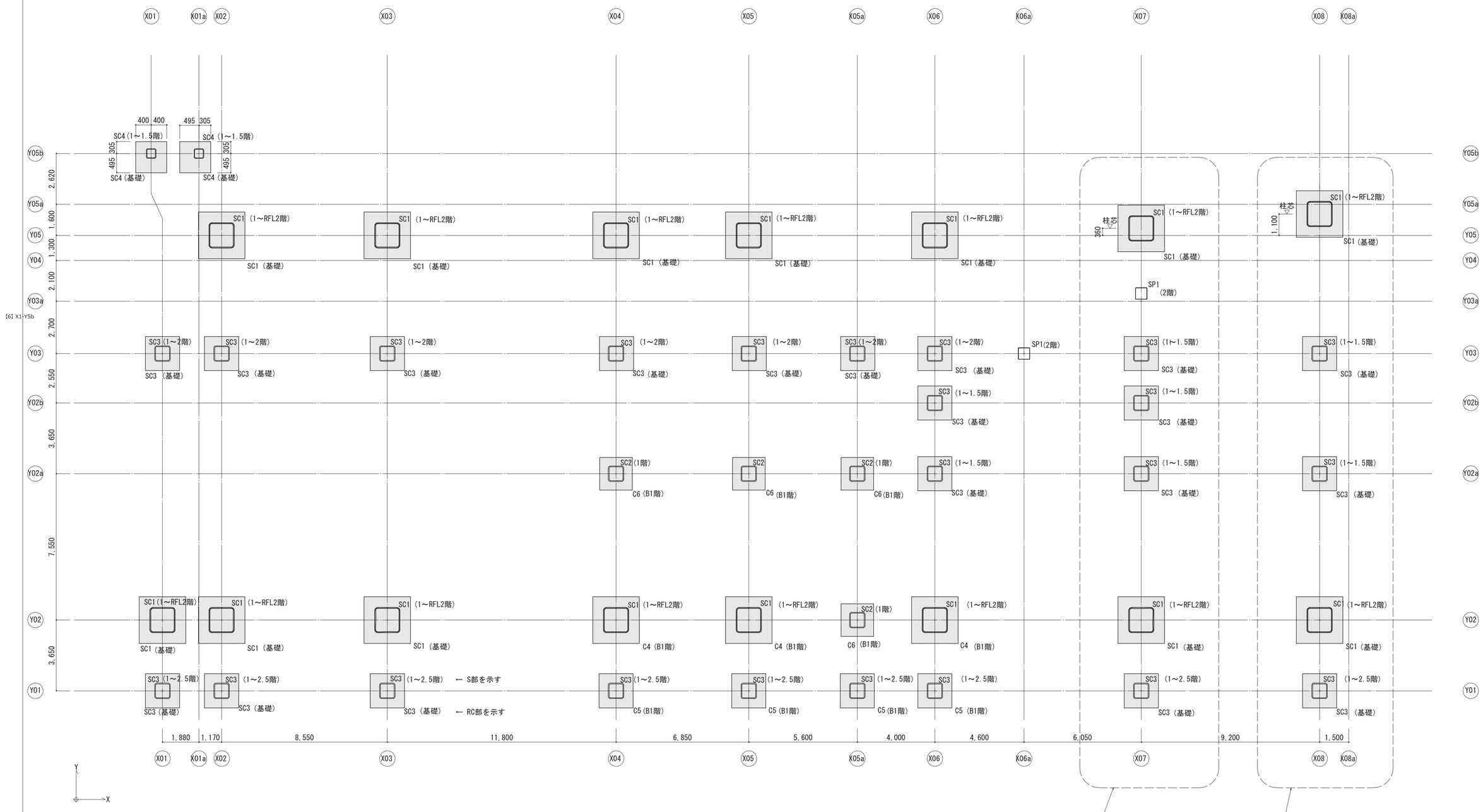
小梁リスト　1:50

特記なき限り下記による

1.鉄筋：D10･D13(SD295),D25(SD345),D29(SD390)　2.幅止め筋：D10@1000以内　3.機械式定着板を採用する場合は評定工法とし、監督職員の承諾を得ること　4.小梁符号によらず小梁が連続する端部配筋は連続端とする

符号	B1	B2		B3		B4	
位置	全断面	外端･中央	連続端	連続端	中央･外端	端部	中央
断面							
上端筋	4 - D22	4 - D22	4/4 - D22	4/4 - D22	4 - D22	4 - D22	4 - D22
下端筋	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4/2 - D22	4 - D22	4/4 - D22
あばら筋	2 - D13 @200	2 - D13 @200		2 - D13 @200		2 - D13 @200	
腹筋	2 - D10	2 - D10		2 - D10		2 - D10	
備考	-	-		-		-	

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-037
図面名称	基礎小梁・小梁リスト	縮尺(A1) A1：1/25 A3：1/50	
担当課	生涯学習部　生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 194
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉



柱芯案内図　　S=1:50,1：100

特記なき限り下記による

1. 柱芯 ＝ 通り芯　とする。

2. ベースプレート下端 ＝ 1FL-300 とする。（SP1以外）

範囲内のベースプレート下端レベルは
1FL-400 とする。（SP1以外）

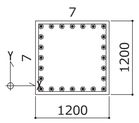
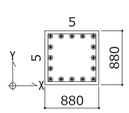
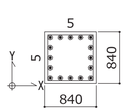
範囲内のベースプレート下端レベルは
1FL-1050 とする。

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-038
図面名称	柱芯案内図	縮尺(A1) A1：1/50, 1/100 A3：1/100, 1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 195
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

RC柱リスト　S= 1 : 50

特記なき限り下記による

1. フープはH形とする
2. 柱頭部は機械式定着工法を採用する
   工法は評定工法とし、評定内容に準拠した配筋を施すこと

階	符号	C4	C5	C6
B1	仕口部フープ	(2 -2) D13@100	(2 -2) D13@100	(2 -2) D13@100
	断面			
	主筋	24-D25	16-D25	16-D25
	一般部フープ	(2 -2) D13@100	(2 -2) D13@100	(2 -2) D13@100
	仕口部フープ	(2 -2) D13@100	(2 -2) D13@100	(2 -2) D13@100

鉄骨柱リスト

特記なき限り下記による

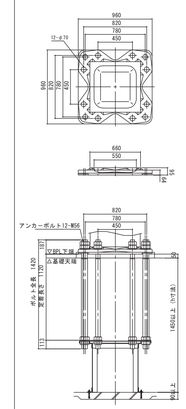
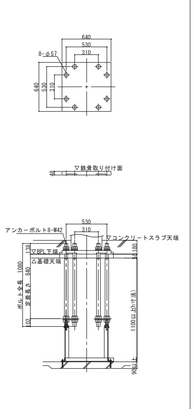
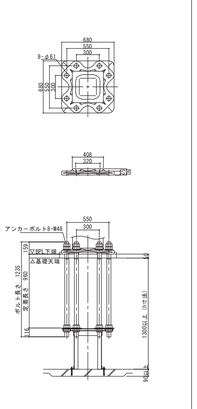
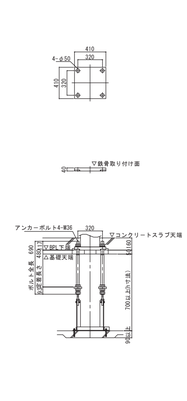
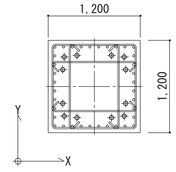
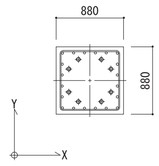
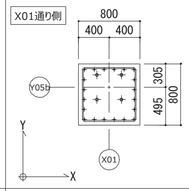
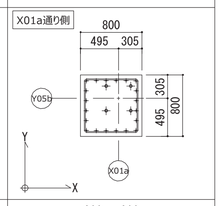
1. 耐火被覆を施すこと

階	部材寸法	材質	備考
SC1			
2. 5FL	□-650X650X22X22	BCP325	
2FL	□-650X650X22X22	BCP325	
1FL	□-650X650X22X22	BCP325	
SC2			
1FL	□-400X400X22X22	BCR295	
SC3			
2. 5FL	□-400X400X22X22	BCR295	
2FL	□-400X400X22X22	BCR295	
1FL	□-400X400X22X22	BCR295	
SC4			
1FL	□-250X250X16X16	BCR295	
SP1			
2FL	□-300X300X6X6	BCR295	

鉄骨柱柱脚リスト　S=1:40

特記なき限り下記による

1. 露出柱脚工法：ハイベースＮＥＯ工法（同等品）(S-010 図参照)　2. 基礎柱のコンクリート材料は基礎梁同様とする
3. ベースプレート下部がB1階柱頭部の場合は、基礎柱はRC柱とする　4. 基礎柱の柱頭は四隅フック不要

柱符号	SC1	SC2	SC3	SC4
柱断面	□-650x650x22x22(BCP325)	□-400x400x22x22(BCR295)	□-400x400x22x22(BCR295)	□-250x250x16x16(BCR295)
鉄骨柱脚仕様	ベースプレート詳細図 	ベースプレート詳細図 	ベースプレート詳細図 	ベースプレート詳細図 
ﾊｲﾍﾞｰｽ型番	GB650-12-56	EB400-8-42	GB400-8-48	EB250-4-36
B.PL	95x960x960	48x640x640	80x680x680	40x410x410
A.Bolt	12-M56	8-M42	8-M48	4-M36
備考				
B.PL下部基礎柱		B1階のRC柱C6リストによる		
B x D	1200 x 1200		880 x 880	800 x 800
主筋	36-D29(SD390)		20-D29(SD390)	20-D19(SD345)
帯筋	4-4-D16@100(SD295)		2-2-D13@100(SD295)	2-2-D13@100(SD295)
備考				
B.PL下部基礎柱				
B x D				800 x 800
主筋				20-D19(SD345)
帯筋				2-2-D13@100(SD295)
備考				

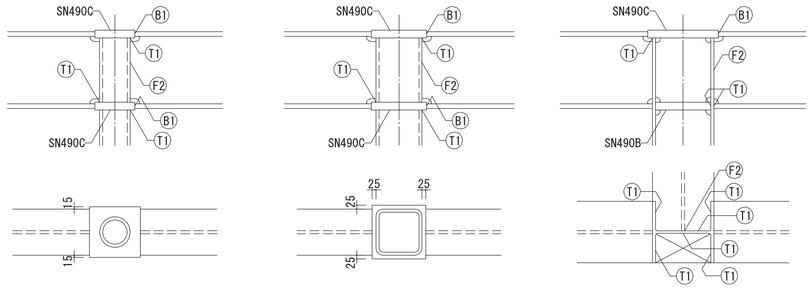
仕口ダイアフラム標準図

特記なき限り下記による

1. 溶接記号の詳細は構造関係共通事項(6)による。(S-008 図参照)
2. スカラップの形状は 改良型スカラップ とし、詳細は構造関係共通事項(7)の(3)スカラップによる。(S-009 図参照)

仕口、ダイアフラム標準図

1. 勾配付き梁の取付くダイアフラム板厚は架構詳細図による。



丸柱要領図

・通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の2ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。
・内ﾀﾞｲｱﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の1ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。
・のぼり梁剛接合部は3ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。

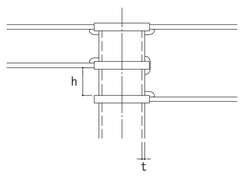
角柱要領図

・通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の2ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。
・内ﾀﾞｲｱﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の1ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。
・のぼり梁剛接合部は3ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。

H鋼柱要領図

・通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の2ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。
・内ﾀﾞｲｱﾌﾗﾑは梁ﾌﾗﾝｼﾞ厚の1ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。
・のぼり梁剛接合部は3ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟを基本とする。

ダイアフラム基準図



通しダイアフラムの内法寸法が、下記に示すh1,h2以上を確保できない場合には内ダイヤフラムとする。
内ダイアフラムが不可の場合には、監理者と協議のうえで梁端部ハンチによる対応も可とする。

・製作可能寸法 h1＝150mm
・超音波探傷検査可能寸法 h2　以下の参考式で算出される値

参考式：h=2t×tanα+15+2×(7+t×tan35°)

t ：柱板厚
α：屈折角

柱板厚	製作可能寸法	超音波探傷検査の可能寸法h2	
t	h1	探触子屈折角65°	探触子屈折角70°
16	150	121	140
22	150	155	181

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-039
図面名称	RC柱・鉄骨柱リスト	縮尺(A1) A1：1/40 A3：1/80	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 196
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

鉄骨大梁リスト

特記なき限り下記による

1.鉄骨梁H鋼強軸方向を鉛直方向とする。　2.GPL ,SPLは取り付く部材と同強度とする。　3.継スチフナはGPLと同厚・同材質とする。　4.コンクリートと接する部材はスタッドコネクターを設ける。　5.高力ボルトはF10T,S10Tとする。(溶融亜鉛メッキ部材はF8Tとする)

階	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合			備考
					フランジ				ウェブ				タイプ	HTB	G.PL厚さ	
	左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)				
SCG1																
RFL2	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	8-M20	PL-12x300x440	PL-12x110x440	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	8-M20	PL-12x300x440	PL-12x110x440	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-9x350x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	8-M20	PL-12x300x440	PL-12x110x440	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-9x350x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
SCG11																
RFL	H-150X150X7X10	H-150X150X7X10	H-150X150X7X10	SN400B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—	—	
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-9x350x290	B	4-M20	12	溶融亜鉛メッキとする
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-9x350x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
SG1																
RFL2	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
RFL2	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	16-M20	PL-12x300x800	PL-12x110x800	D	12-M20	60	2PL-9x380x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	16-M20	PL-12x300x800	PL-12x110x800	D	12-M20	60	2PL-9x380x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
1.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	6-M20	12	
SG2																
RFL2	H-700X300X13X24	H-700X300X13X24	H-700X300X13X24	SN490B	B	18-M20	PL-19x300x890	PL-19x110x890	D	16-M20	60	2PL-12x500x290	—	—	—	
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	16-M20	PL-12x300x800	PL-12x110x800	D	12-M20	60	2PL-9x380x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
1.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	6-M20	12	
SG3																
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	16-M20	PL-12x300x800	PL-12x110x800	D	12-M20	60	2PL-9x380x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
SG5																
2FL	H-700X300X13X24	H-700X300X13X24	H-700X300X13X24	SN490B	B	18-M20	PL-19x300x890	PL-19x110x890	D	16-M20	60	2PL-12x500x290	—	—	—	
SG11																
2FL	H-700X300X13X24	H-700X300X13X24	H-700X300X13X24	SN490B	B	18-M20	PL-19x300x890	PL-19x110x890	D	16-M20	60	2PL-12x500x290	—	—	—	
SG12																
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	16-M20	PL-12x300x800	PL-12x110x800	D	12-M20	60	2PL-9x380x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	12-M20	PL-12x300x620	PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-12x350x290	—	—	—	
2FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN490B	B	16-M20	PL-12x300x800	PL-12x110x800	D	12-M20	60	2PL-9x380x290	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
1.5FL	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	H-488X300X11X18	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	6-M20	12	
SG13																
RFL2	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	SN490B	A	10-M20	PL-12x250x650	PL-12x100x650	D	6-M20	60	2PL-9x200x290	—	—	—	
RFL2	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	SN490B	A	10-M20	PL-9x250x650	PL-9x100x650	E	9-M20	60	2PL-9x200x410	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
2.5FL	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	SN490B	A	10-M20	PL-12x250x650	PL-12x100x650	D	6-M20	60	2PL-9x200x290	—	—	—	
2FL	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	SN490B	A	10-M20	PL-12x250x650	PL-12x100x650	D	6-M20	60	2PL-9x200x290	—	—	—	
2FL	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	SN490B	A	10-M20	PL-9x250x650	PL-9x100x650	E	9-M20	60	2PL-9x200x410	—	—	—	溶融亜鉛メッキとする
1.5FL	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	H-340X250X9X14	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	3-M20	9	

鉄骨小梁リスト

特記なき限り下記による

1.鉄骨梁H鋼強軸方向を鉛直方向とする。　2.GPL ,SPLは取り付く部材と同強度とする。　3.継スチフナはGPLと同厚・同材質とする。　4.コンクリートと接する部材はスタッドコネクターを設ける。　5.高力ボルトはF10T,S10Tとする。(溶融亜鉛メッキ部材はF8Tとする)

符号	部材寸法 H x B x t1 x t2	材質	剛接合								ピン接合			備考
			フランジ				ウェブ				タイプ	HTB	G.PL厚さ	
			タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)				
SB15	H-150X75X5X7	SN400A	—	—	—	—	—	—	—	—	B	2-M20	9	溶融亜鉛メッキも同接合仕様とする
SB15W	H-150X150X7X10	SN400A	—	—	—	—	—	—	—	—	B	2-M20	9	
SB15W	H-150X150X7X10	SN400B	A	4-M20	PL-9x150x290	2PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	B	2-M20	9	溶融亜鉛メッキとする
SB19	H-194X150X6X9	SN400A	—	—	—	—	—	—	—	—	B	2-M20	9	
SB20	H-200X100X5.5X8	SN400A	—	—	—	—	—	—	—	—	B	2-M20	9	溶融亜鉛メッキとする
SB20W	H-200X200X8X12	SN400A	—	—	—	—	—	—	—	—	B	2-M20	9	
SB25	H-250X125X6X9	SN400A	—	—	—	—	—	—	—	—	C	4-M20	9	溶融亜鉛メッキも同接合仕様とする
SB30	H-300X150X6.5X9	SN400B	A	4-M20	PL-9x150x290	2PL-9x60x290	C1	3-M20	60	2PL-6x200x170	C	4-M20	9	
SB30	H-300X150X6.5X9	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	C	4-M20	9	溶融亜鉛メッキとする
SB40	H-400X200X8X13	SN400B	A	6-M20	PL-9x200x410	2PL-9x80x410	C1	4-M20	90	2PL-9x260x170	B	5-M20	9	
SB40	H-400X200X8X13	SN400B	A	6-M20	PL-9x200x410	2PL-9x80x410	D	6-M20	60	2PL-9x260x290	B	5-M20	9	溶融亜鉛メッキとする
SB48	H-488X300X11X18	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	5-M20	12	
SB48	H-488X300X11X18	SN400B	A	12-M20	PL-12x300x620	2PL-12x110x620	D	8-M20	90	2PL-9x350x290	B	5-M20	12	溶融亜鉛メッキとする
SCB15	H-150X150X7X10	SN400B	A	4-M20	PL-9x150x290	2PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	B	2-M20	9	溶融亜鉛メッキも同接合仕様とする
SCB19	H-194X150X6X9	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	2-M20	9	
SCB40	H-400X200X8X13	SN400B	A	6-M20	PL-9x200x410	2PL-9x80x410	C1	4-M20	90	2PL-9x260x170	B	4-M20	9	
SCB40	H-400X200X8X13	SN400B	A	6-M20	PL-9x200x410	2PL-9x80x410	D	6-M20	60	2PL-9x260x290	B	4-M20	9	溶融亜鉛メッキとする
SCB48	H-488X300X11X18	SN400B	—	—	—	—	—	—	—	—	B	4-M20	12	

鉄骨梁継手基準図

一般事項

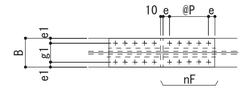
1. 高力ボルト本数　及び　スプライスプレートは、端部・中央の部材断面の小さい方により決定し、下記の継手表により選定する。スプライスプレートの材質は母材(端部)と同材質とする。
2. 継手部のクリアランスは、10mmとする。
3. 継手部にて、1mmの板厚差がある場合は、フィラープレートにて締付厚さを調整する。
4. 鉄骨材質　　無印・・・SS400
5. 高力ボルトセットの諸元は下記による。

種　別		ピッチ(P)	エッジ(e)	孔　径	備　考
S10T相当	M16	60	40	18	
	M20	60	40	22	
	M22	60	40	24	

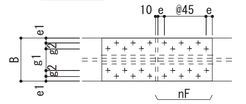
6.外部露出鉄骨はF8T仕様とする。

剛接合梁継手基準　（フランジ及び、ウェブの継手）

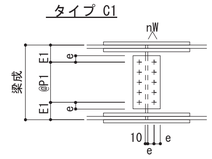
タイプ A



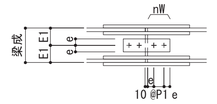
タイプ B



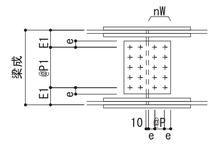
タイプ C1



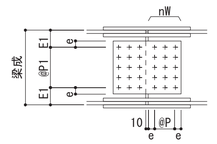
タイプ C2



タイプ D



タイプ E



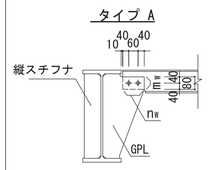
B	g1	g2	e1	備考
150	90	－	30	
175	105	－	35	
200	120	－	40	
250	150	－	50	
300	150	40	35	

● 印及び ▲ 印の現場溶接部フランジ

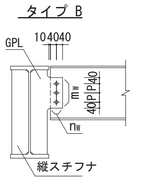
1. 突合せ溶接部の裏当材とエンドタブはセラミック系とし、溶接に従事する者は技量付加試験を行い、監督員の承諾を得ること
2. 溶接ビード(現場溶接)はグラインダーで平滑に仕上げること

ピン接合　接合部基準

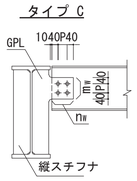
タイプ A



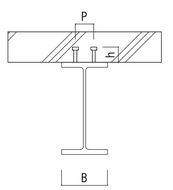
タイプ B



タイプ C



スタッドコネクター取合要領



t	h
150	100
180	130
≧200	150

n：1列の本数

大　梁　(G・SG)					小　梁　(B・SB)				
B	φ	n	P	@	B	φ	n	P	@
200	19	1	—	150	100	16	1	—	200
250	19	2	100	150	150	16	1	—	200
300	19	2	120	150	200	19	1	—	200
350	19	3	100	150	300	19	2	120	200
400	19	3	120	150					

・合成デッキ、1方向デッキで小梁の上をデッキが渡る場合は、スタッドのピッチをデッキの山のピッチに合わせてよいこととする。
・梁継手のスプライスプレート部分は両側に分けて必要本数を増打すること。

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-040
図面名称	鉄骨大梁・小梁リスト	縮尺(A1) A1：－ A3：－	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 197
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

鉄骨屋根トラスリスト(大梁)

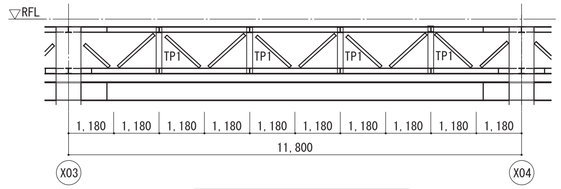
特記なき限り下記による

1.鉄骨梁H鋼強軸方向を鉛直方向とする。 2.GPL ,SPLは取り付く部材と同強度とする。 3.縦スチフナはGPLと同厚・同材質とする。 4.コンクリートと接する部材はスタッドコネクターを設ける。 5.高力ボルトはF10T,S10Tとする。(溶融亜鉛メッキ部材はF8Tとする)

6.ピン接合の接合タイプは「タイプB」とする 7.建方終了後、仕上げ工事終了後、トラスのたわみ量測定を行う

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
						フランジ				ウェブ					
		左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)	HTB	G.PL厚さ
TSG1	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG1	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG1	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M16	9

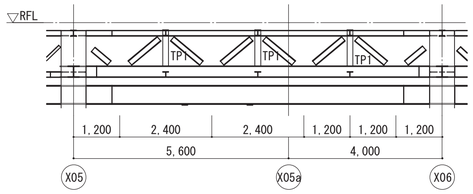
符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B



TSG1(Y05通り) S=1：80

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
						フランジ				ウェブ					
		左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)	HTB	G.PL厚さ
TSG2	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG2	下弦材	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15	SN490B	B	8-M22	PL-9x300x440	PL-12x110x440	D	6-M22	60	2PL-9x200x290	—	—
TSG2	斜材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—

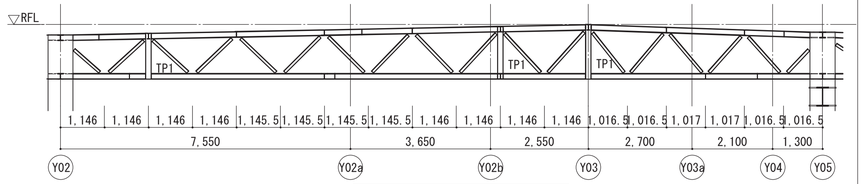
符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B



TSG2(Y05通り) S=1：80

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
						フランジ				ウェブ					
		左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)	HTB	G.PL厚さ
TSG11	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG11	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG11	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M16	9

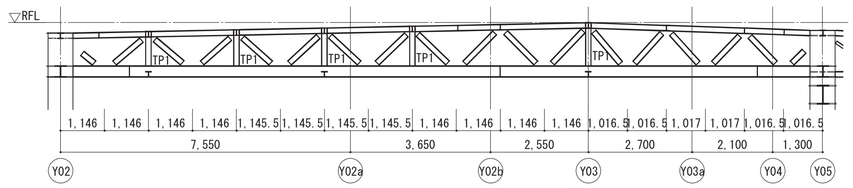
符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B



TSG11(X03通り) S=1：80

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
						フランジ				ウェブ					
		左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)	HTB	G.PL厚さ
TSG12	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG12	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	—	—
TSG12	下弦材	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15	SN490B	B	8-M22	PL-9x300x440	PL-12x110x440	D	6-M22	60	2PL-9x200x290	—	—
TSG12	斜材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	0-	0

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

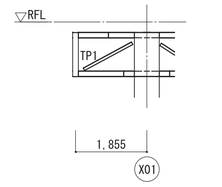


TSG12(X06通り) S=1：80

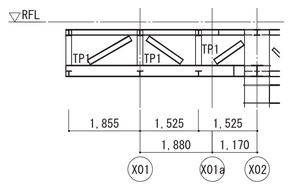
※溶融亜鉛メッキ仕様とする

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
						フランジ				ウェブ					
		左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)	HTB	G.PL厚さ
TSCG1	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	3-M20	60	2PL-9x80x410	—	—
TSCG1	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	3-M20	60	2PL-9x80x410	—	—
TSCG1	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M20	9

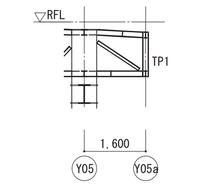
符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B



TSCG1(Y02通り) S=1：80



TSCG2(Y05通り) S=1：80

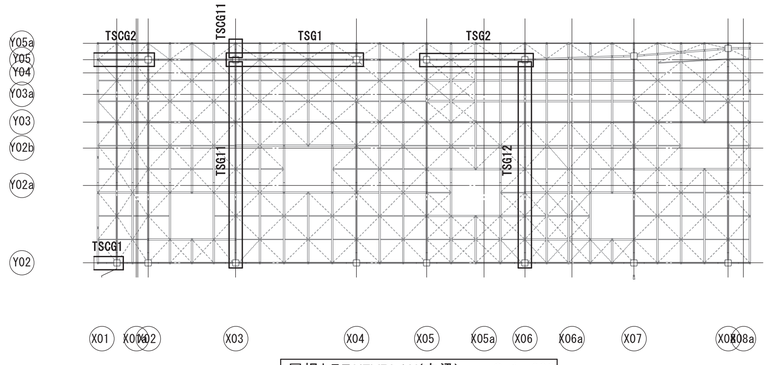


TSCG11(X03通り) S=1：80

※溶融亜鉛メッキ仕様とする

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
						フランジ				ウェブ					
		左端	中央	右端		タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)	HTB	G.PL厚さ
TSCG2	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	3-M20	60	2PL-9x80x410	—	—
TSCG2	下弦材	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15	SN490B	B	10-M22	PL-9x300x530	PL-12x110x530	D	6-M22	60	2PL-9x200x290	—	—
TSCG2	斜材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	3-M20	60	2PL-9x80x410	—	—

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B



屋根トラスKEYPLAN(大梁) S=1：300

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-041
図面名称	鉄骨屋根トラスリスト(大梁)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 198
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

鉄骨屋根トラスリスト(小梁)

特記なき限り下記による

1.鉄骨梁H鋼強軸方向を鉛直方向とする。 2.GPL ,SPLは取り付く部材と同強度とする。 3.縦スチフナはGPLと同厚・同材質とする。 4.コンクリートと接する部材はスタッドコネクターを設ける。 5.高力ボルトはF10T,S10Tとする。(溶融亜鉛メッキ部材はF8Tとする)

6.ピン接合の接合タイプは「タイプB」とする 7.建方終了後、仕上げ工事終了後、トラスのたわみ量測定を行う

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSB1	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSB1	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSB1	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M16	9

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSB11	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	2-M20	9
TSB11	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	2-M20	60	2PL-9x80x290	2-M20	9
TSB11	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M16	9

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

※溶融亜鉛メッキ仕様

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSB11	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	3-M20	60	2PL-9x80x410	2-M20	9
TSB11	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	A	4-M20	PL-9x150x290	PL-9x60x290	C2	3-M20	60	2PL-9x80x410	2-M20	9
TSB11	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M20	9

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSCB1	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB1	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB1	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M16	9

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

※溶融亜鉛メッキ仕様

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSCB1	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB1	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB1	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M20	9

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSCB11	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB11	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB11	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M16	9

符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

※溶融亜鉛メッキ仕様

符号	部材	部材寸法：H x B x t1 x t2			材質	剛接合								ピン接合	
		左端	中央	右端		フランジ				ウェブ				HTB	G.PL厚さ
						タイプ	HTB(nF)	スプライス(S.PL-1)	スプライス(S.PL-2)	タイプ	HTB(nW)	P1	スプライス(S.PL-3)		
TSCB11	上弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB11	下弦材	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	H-150x150x7x10	SN490B	—	—	—	—	—	—	—	—	2-M20	9
TSCB11	斜材	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	2L-75x75x6x6	SS400	—	—	—	—	—	—	—	—	5-M20	9

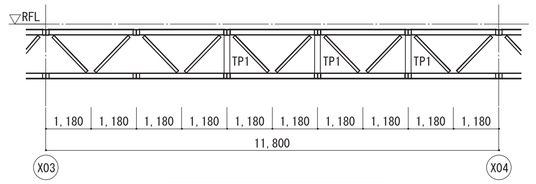
符号	部材	部材寸法	材質
TP1	束材	H-150X150X7X10	SN490B

鉄骨屋根トラス水平ブレースリスト

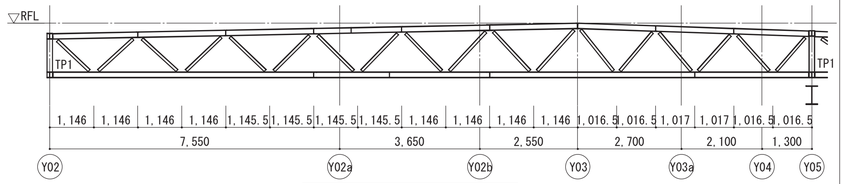
特記なき限り下記による

1.GPLは取りつく部材と同強度とする。 2.ターンバックル付きブレースとする。 3.高力ボルトはF10T,S10Tとする。(溶融亜鉛メッキ部材はF8Tとする)

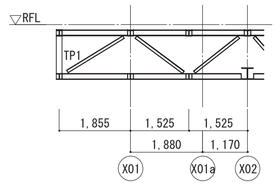
符号	階	部材寸法	材質	ピン接合		備考
				HTB	G.PL厚さ	
HV1	RFL	1-M27	SS400	2-M20	12	G.PL必要溶接長L=150mm,溶融亜鉛メッキも同接合仕様とする
HV2	RFL	1-M20	SS400	1-M20	9	G.PL必要溶接長L=100mm,溶融亜鉛メッキも同接合仕様とする



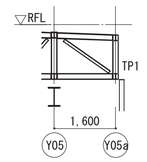
TSB1(Y02a-675通り) S=1：80



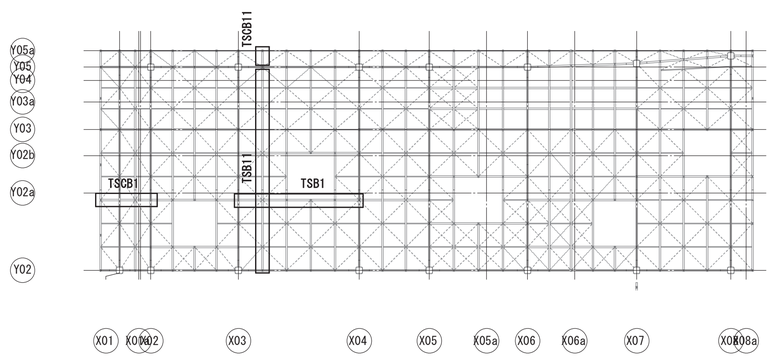
TSB11(X03+2360通り) S=1：80



TSCB1(Y02a-675通り) S=1：80



TSCB11(X03+2360通り)S=1：80



屋根トラスKEYPLAN(小梁) S=1：300

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-042
図面名称	鉄骨屋根トラスリスト(小梁)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 199
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

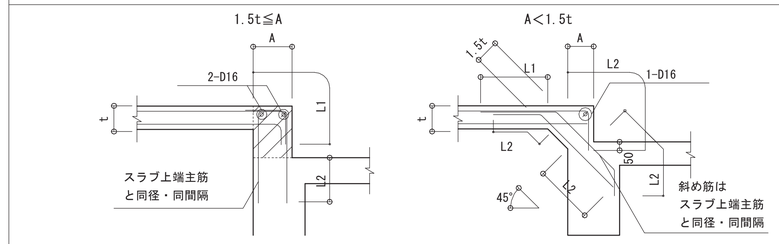
スラブリスト

特記なき限り下記による

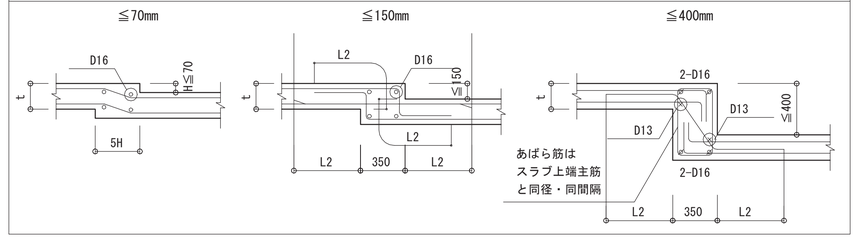
1.バー型スペーサーを使用すること　　2.ピットに面する以外は型枠デッキを使用する（S-011a 図参照）

符号	厚さ	位置	短辺方向（主筋） 端部	短辺方向（主筋） 中央	長辺方向（配力筋） 端部	長辺方向（配力筋） 中央	備考
S15	150	上端	D13@200		D10D13@200		
		下端	D13@200		D10D13@200		
S18	180	上端	D13@200		D10D13@200		
		下端	D13@200		D10D13@200		
S18A	180	上端	D13@150		D10D13@150		
		下端	D13@150		D10D13@150		
S18B	180	上端	D13@200		D13@200		
		下端	D13@200		D13@200		
S20	200	上端	D16@150		D13@150		
		下端	D16@150		D13@150		
CS15	150	上端	D13@200		D10D13@200		
		下端	D13@200		D10D13@200		
CS18	180	上端	D13@150		D10D13@150		
		下端	D13@150		D10D13@150		
CS18A	180	上端	D13@200		D13@200		
		下端	D13@200		D13@200		

梁の両脇でスラブ段差がある場合



スラブ段差配筋要領



壁リスト

特記なき限り下記による

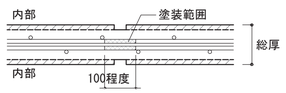
1.交差部・端部の配筋は、令和7年度版公共建築工事標準仕様書 図4.2による　　2.S：シングル　D：ダブル配筋、FWは土圧壁を示す

符号	厚さ	位置	配筋	水平断面	開口部補強筋リスト 縦筋	横筋	斜め補強
FW30	300	横筋	D16-@200　D	300			
		縦筋	D19-@200　D				
		幅止筋	D10-@1000				
KW20	200	横筋	D13-@200　D	200	4-D13	4-D13	2-D13
		縦筋	D13-@200　D				
		幅止筋	D10-@1000				
W18	180	横筋	D13-@200　D	180	4-D13	4-D13	2-D13
		縦筋	D13-@200　D				
		幅止筋	D10-@1000				
W15	150	横筋	D10-@200　チドリ	150			
		縦筋	D13-@200　チドリ				
		幅止筋	D10-@1000				

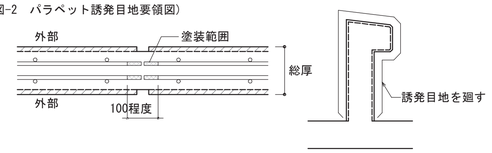
非耐力壁の誘発目地詳細

目地部の詳細は原則以下とする。
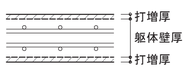
（図-1　内壁W15誘発目地要領図）



（図-2　パラペット誘発目地要領図）

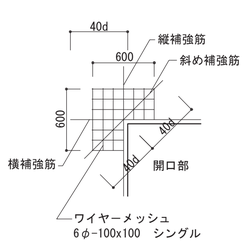


（注）1.欠損率は20%以上とする（欠損率＝総打増厚/躯体壁厚×100%）
2.パラペットは目地位置で横筋を切断すること（図-2）
3.目地部の横筋は（・エポキシ樹脂塗装鉄筋　・普通鉄筋　⊙目地部塗装普通鉄筋　）とする
4.開口補強筋については、誘発目地に沿って切断（※する　・しない）
5.かぶり厚さは、目地部分でも最小かぶり厚さ以上を確保する
6.誘発目地の目地間隔、配置は意匠図による
7.パラペットの天端は誘発目地を廻すこと（図-2）

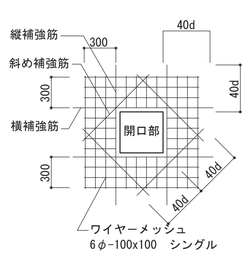


開口部補強要領図　（Lo＝開口幅、Ho＝開口高さとすること）

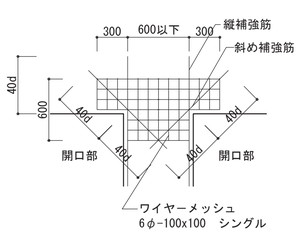
Lo 又は Ho ＞ 0.6m



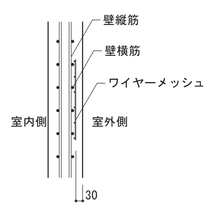
Lo、Ho 共に ≦ 0.6m



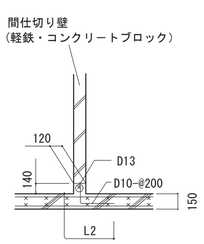
Lo 又は Ho＞0.6mで開口が隣接する場合



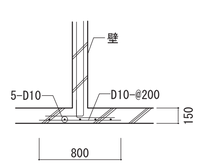
（縦断面）

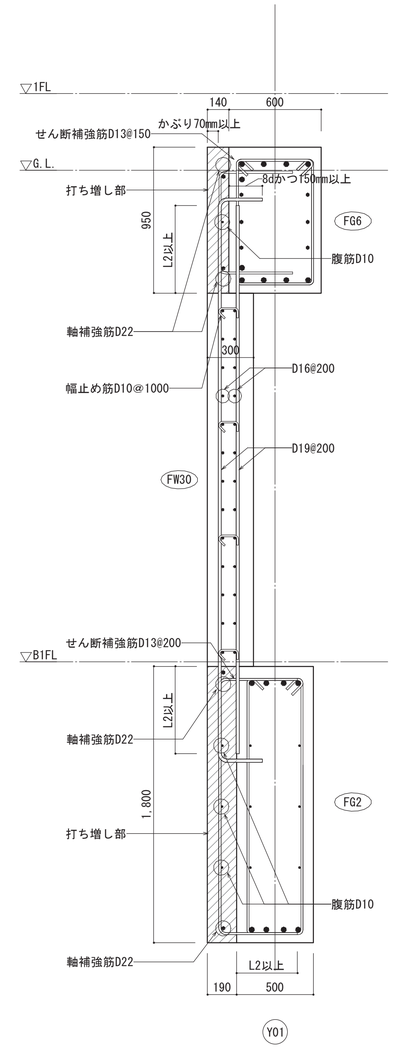


間仕切り受け 立上り壁配筋要領　1/30



スラブ壁受け要領　1/30

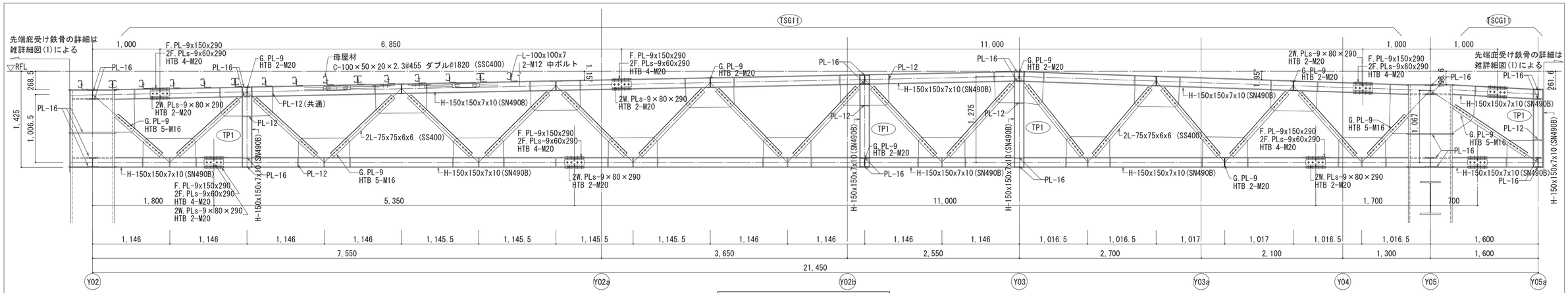




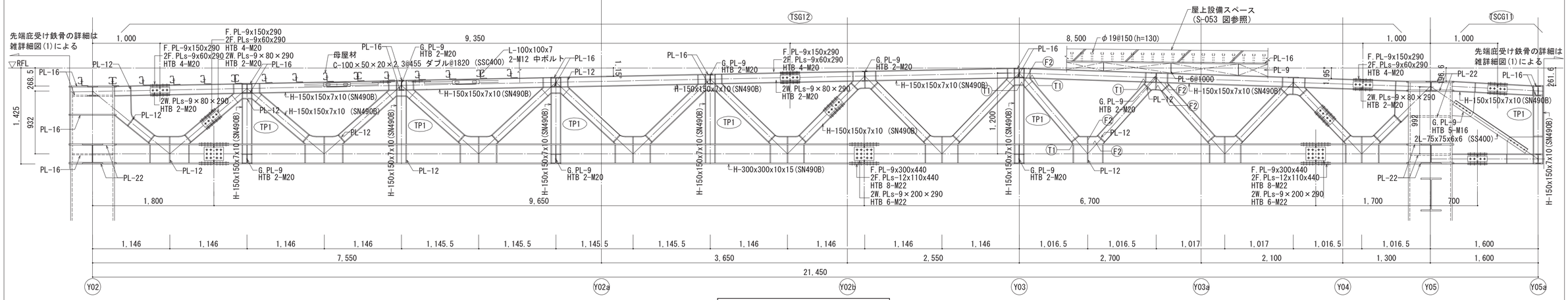
土圧壁配筋詳細図　S=1:20

・側打増部の軸補強筋はD22とし、取り合う柱にL2定着とすること

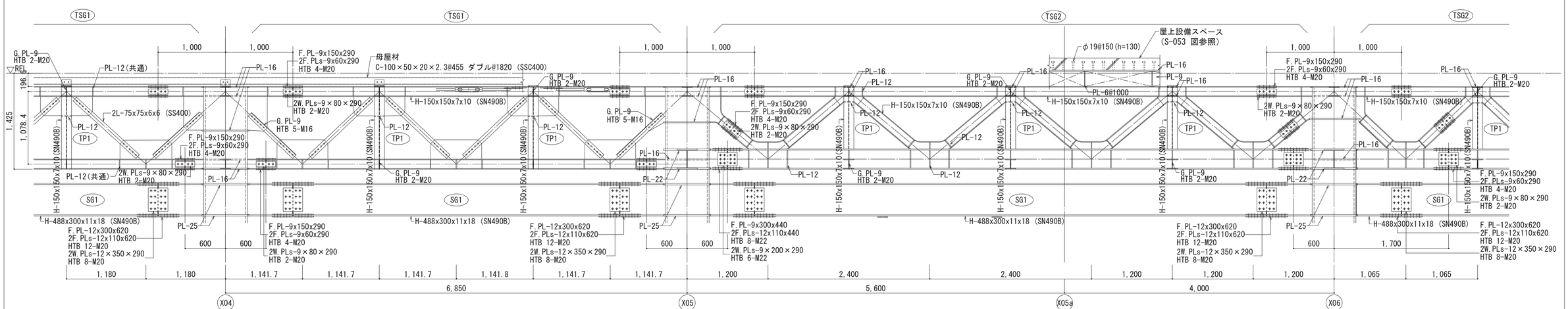
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-043
図面名称	スラブリスト・壁リスト	縮尺(A1) A1：1/30 A3：1/60	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 200
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉



TSG11,TSCG11(X03通り)　　S=1：30



TSG12,TSCG11(X06通り)　　S=1：30　・TSG12梁のスパン中央でキャンバー8mmを確保すること

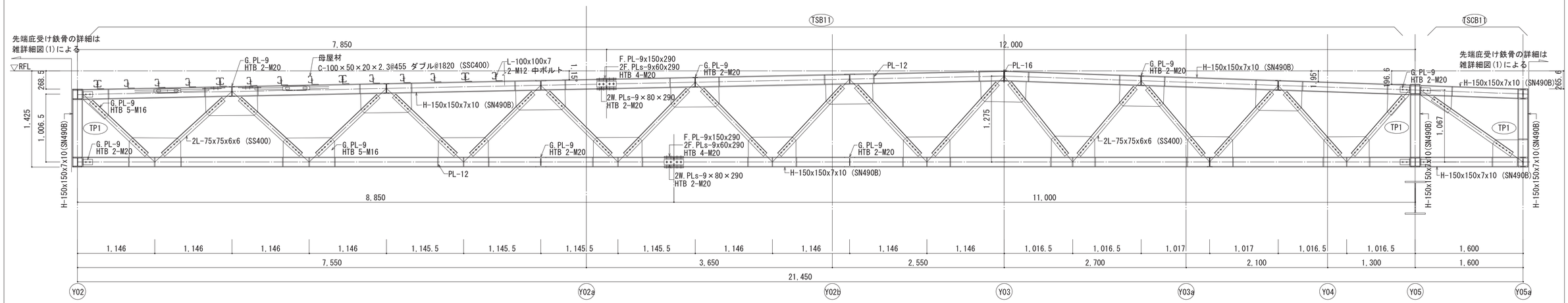


TSG1,TSG2(Y05通り)　　S=1：30

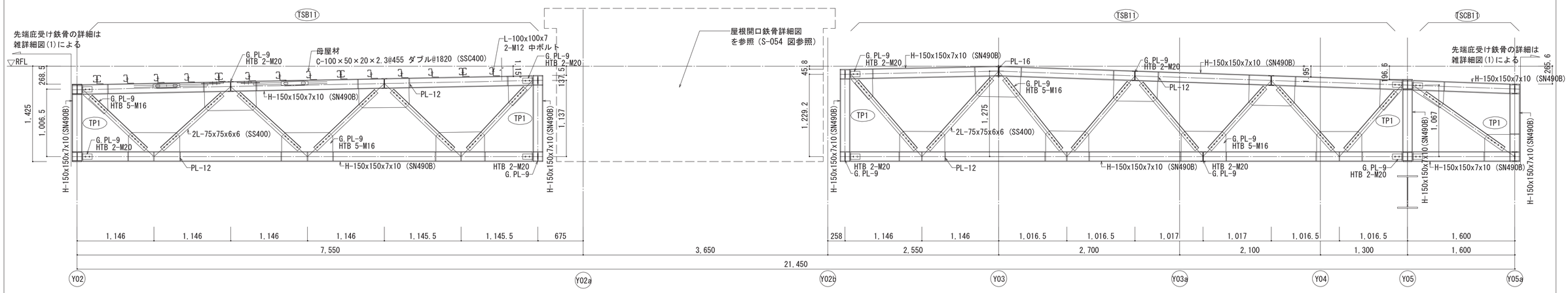
特記なき限り下記による

1.通しダイアフラム SN490C　内ダイアフラム SN490B　　2.高力ボルト S10T,F10T　　3.仕口部の溶接要領は、S-039 図による

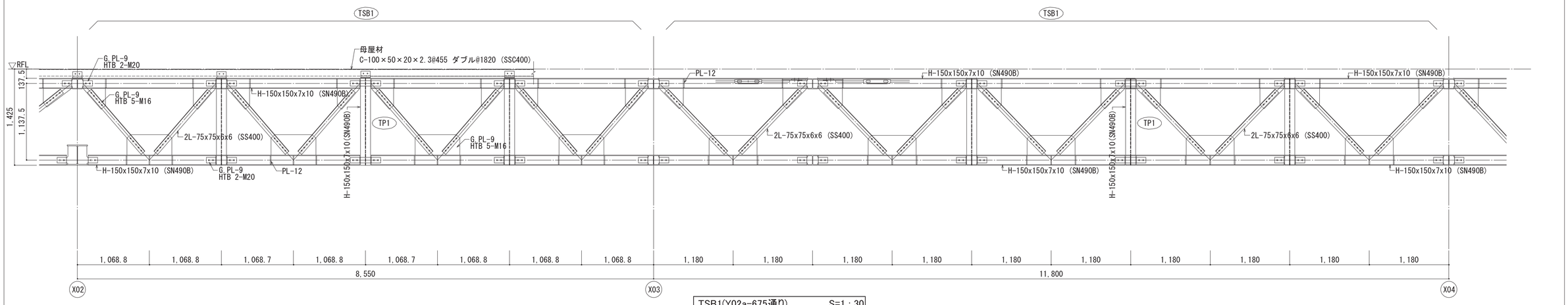
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事	図面番号 S-044
図面名称	屋根架構　鉄骨詳細図 (1)	縮尺(A1) A1：－ A3：－
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01
	健康こども部　こども課	通し番号 201
	財務部　営繕課	全226葉



TSB11,TSCB11(X03+2360通り) S=1：30



TSB11,TSCB11(X04-4720通り) S=1：30

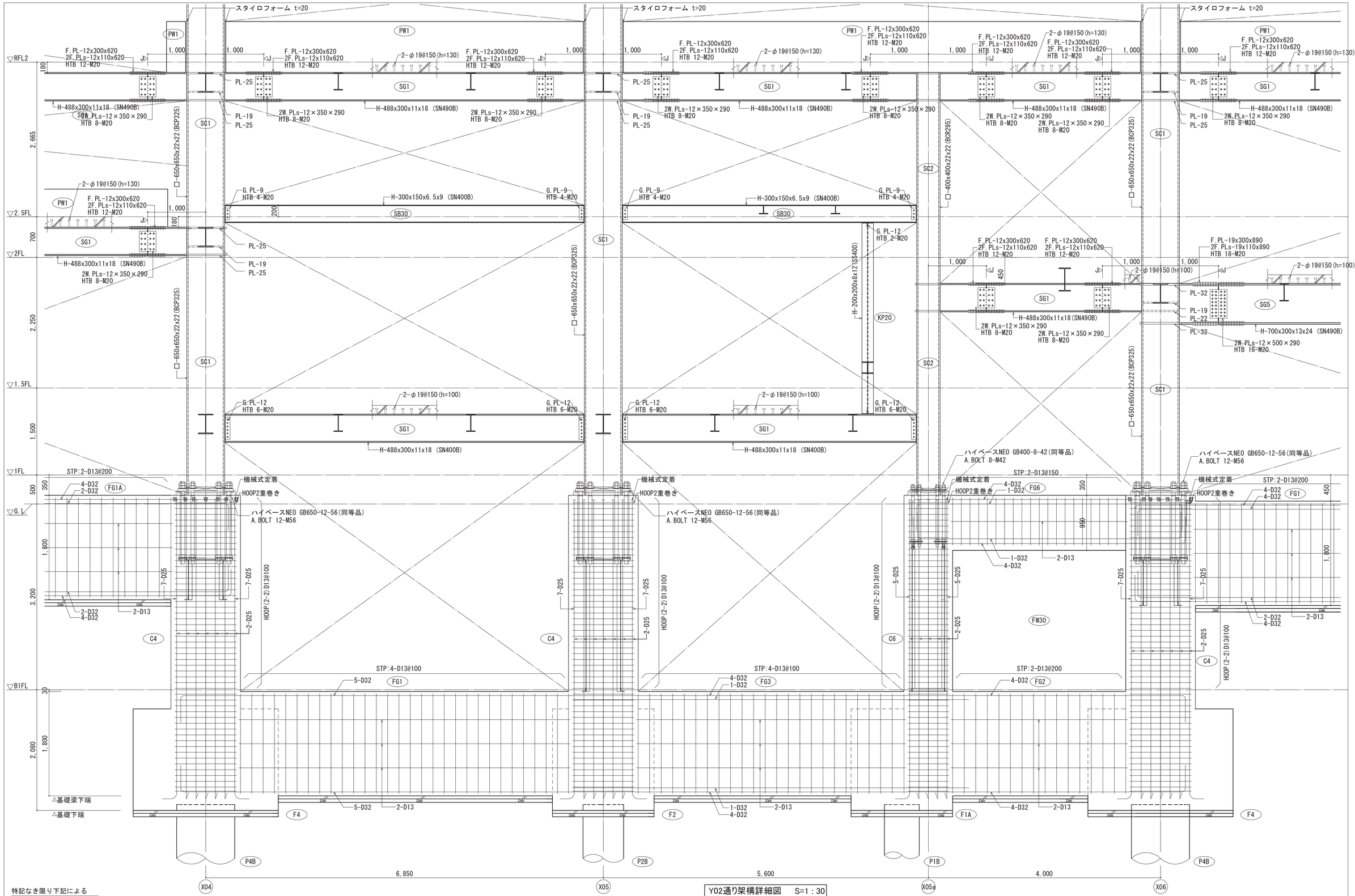


TSB1(Y02a-675通り). S=1：30

特記なき限り下記による

1.通しダイアフラム SN490C 内ダイアフラム SN490B　2.高力ボルト S10T,F10T　3.仕口部の溶接要領は、S-039 図による

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-045
図面名称	屋根架構 鉄骨詳細図 (2)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 202
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉



特記なき限り下記による

1.通しダイアフラム SN490C　内ダイアフラム SN490B　2.高力ボルト S10T,F10T　3.仕口部の溶接要領は、S-039 図による

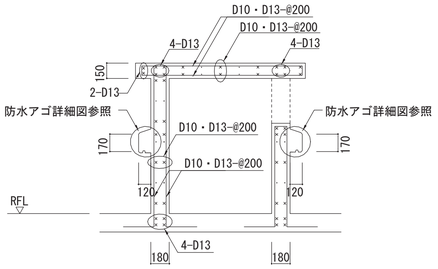
Y02通り架構詳細図　S=1：30

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-046
図面名称	Y02通り架構詳細図	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 203
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

雑詳細図(1)　S=1/30

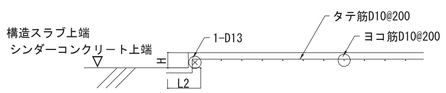
屋上設備配管立ち上がり(ハト小屋)配筋詳細図

※詳細寸法は意匠図による

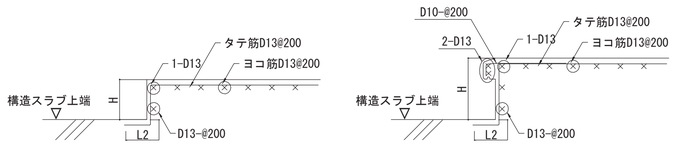


機械基礎　配筋要領図(1)

※詳細寸法は意匠図による



(a) H≦200の場合

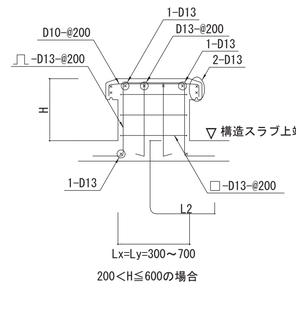


床スラブから直接コンクリートを打設する場合は25d定着する。

(b) 200＜H≦600の場合

機械基礎　配筋要領図(2)　正方形基礎の場合

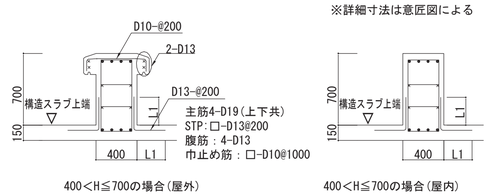
※詳細寸法は意匠図による

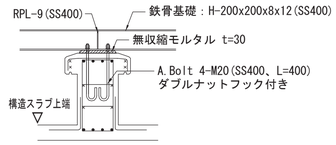


200＜H≦600の場合

機械基礎　配筋要領図(3)　長方形基礎の場合

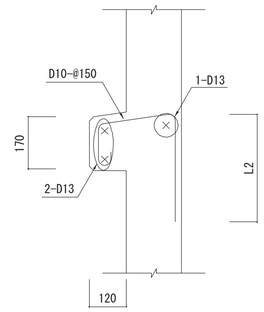
※詳細寸法は意匠図による



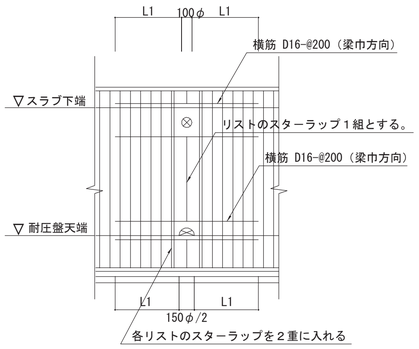


鉄骨基礎柱脚納まり図（機械基礎形状共通）

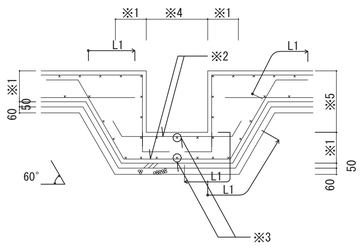
防水アゴ詳細図　S=1/10



連通管・通気管 補強要領



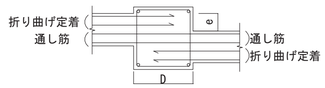
釜場配筋詳細図



※1：耐圧スラブ厚さ「耐圧スラブリスト」参照　(S-034 図参照)
※2：耐圧スラブ主筋「耐圧スラブリスト」参照　(S-034 図参照)
※3：耐圧スラブ配力筋「耐圧スラブリスト」参照　(S-034 図参照)
※4：釜場の大きさ：「基礎伏図」参照　(S-016 図参照)(S-018 図参照)
※5：釜場深さ「基礎伏図」参照　(S-016 図参照)(S-018 図参照)

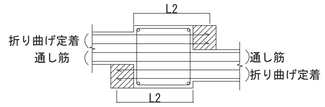
平面的なずれのある梁の仕口部配筋要領

a) 柱内で梁配筋を定着する場合



(注)左右の梁のずれ「e/Dj」が1/6勾配以下の場合は鉄筋を折り曲げて連続させてもよい。

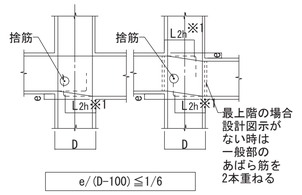
b) 柱ふかし部で定着をする場合

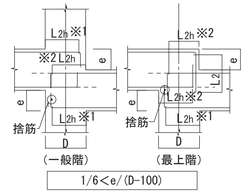


(注)納まり上支障の無い箇所は上記の通り柱ふかしを行い、折り曲げ定着あるいは直線定着を可とする。直線定着とする場合は、上記の通りL2定着長を確保すること。

梁の段差がある場合の仕口部配筋要領

段差がある場合

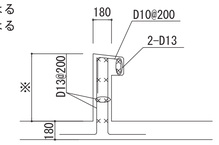




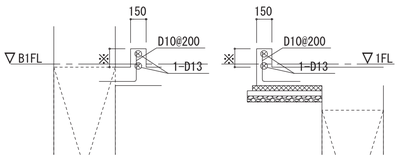
(注)1)※1：L2hを確保出来ない場合は2-2-1の(3)による。
2)※2：L2の直線定着としてもよい。
3)下端筋は下向き定着としてもよい。
3)梁主筋の折曲げ位置は、柱面から50mm内側とする。
4)捨筋はD10以上とする。

パラペット(PW1)、B1階・1階立上り壁配筋要領図

(注)1)※寸法は意匠図による
2)各配置は意匠図による

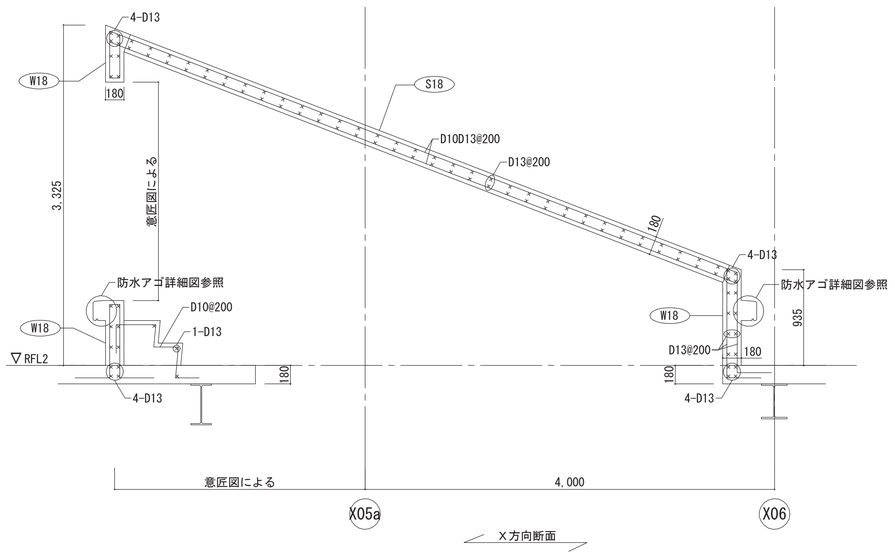


a) パラペット（PW1）



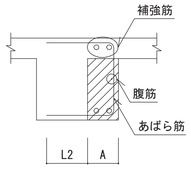
b) B1階立上り壁　　c) 1階立上り壁

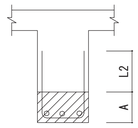
鉄骨階段(2)ペントハウス配筋詳細図　S=1/30

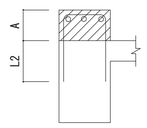


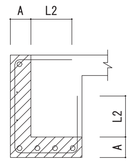
梁打増要領

印の範囲は増打部分を示す





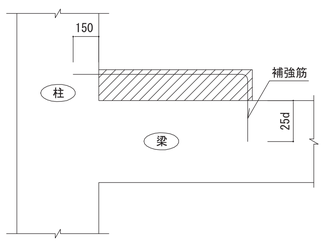




A>200mmの場合は、腹筋D13@300とする。 A>200mmの場合は、腹筋D13@300とする。 A>200mmの場合は、腹筋D13@300とする。

梁増打部分のあばら筋及び腹筋は、梁と同径・同間隔とし、
材質をSD295Aとする。

・ 梁増打部分要領

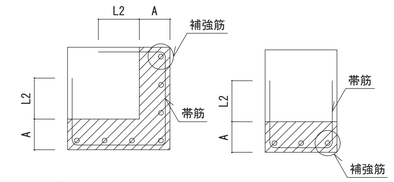


補強筋本数表

A の範囲	梁
A ＜70	補強なし
70 ≦A ≦200	D16 を@300で割付
200 ＜A	D19以上 かつ 主筋径より2サイズダウン @300 で割付

柱打増要領

印の範囲は増打部分を示す



補強筋本数表

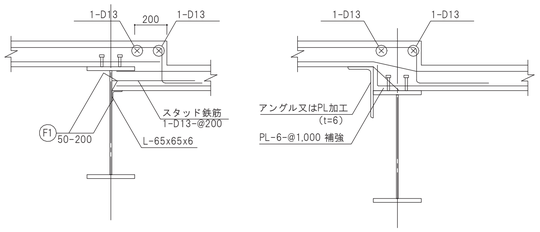
A の範囲	柱
A ＜70	補強なし
70 ≦A ≦200	D16 を@300で割付
200 ＜A	D19以上 かつ 主筋径より2サイズダウン @300 で割付

・ 柱増打部分の帯筋及び中子筋は、柱と同径・同間隔とし、
材質をSD295Aとする。

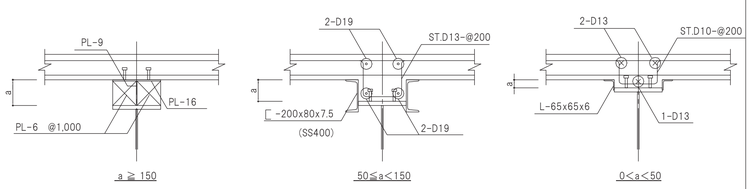
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-047
図面名称	雑詳細図 (1)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 204
	健康こども部　こども課		
	財務部　営繕課		全226葉

雑詳細図(2)

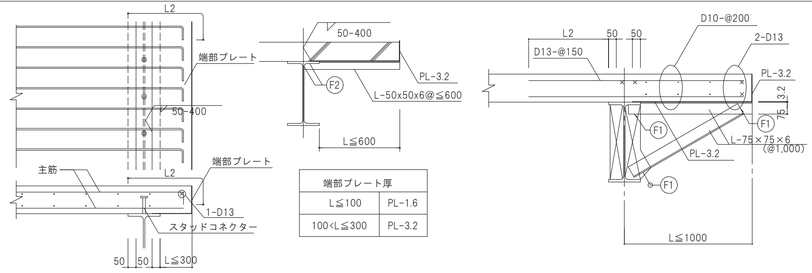
鉄骨梁スラブ段差要領図



鉄骨梁上嵩上げ要領図

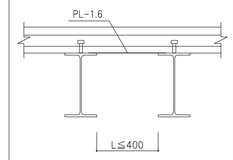


スラブ端部はね出し納まり要領図

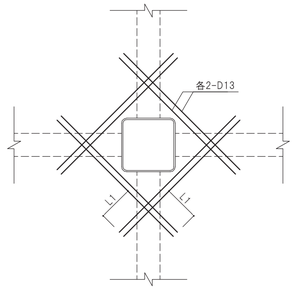


端部プレート厚	
L≦100	PL-1.6
100<L≦300	PL-3.2

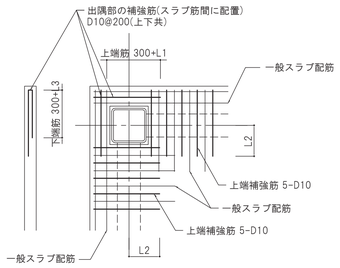
短スパンスラブ納まり要領図



鉄骨柱周りのスラブ補強要領図

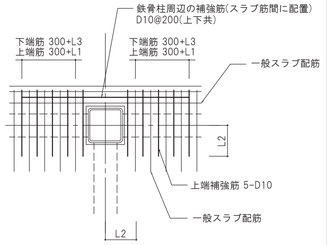


片持ちスラブ出隅部分および出隅受け部の補強要領図



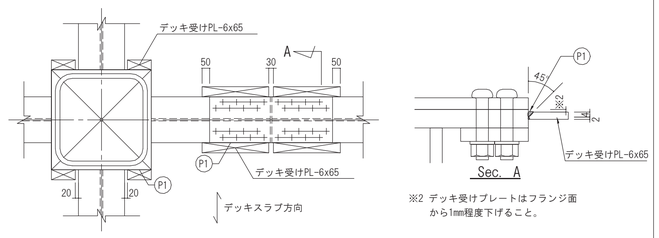
※通常のスラブ配筋に加えて上記補強筋を施すこと

片持ちスラブ鉄骨柱部の補強要領図



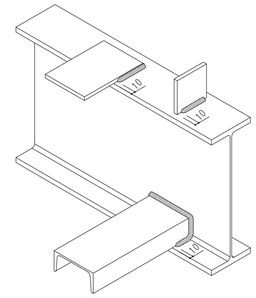
※通常のスラブ配筋に加えて上記補強筋を施すこと

デッキプレート受け



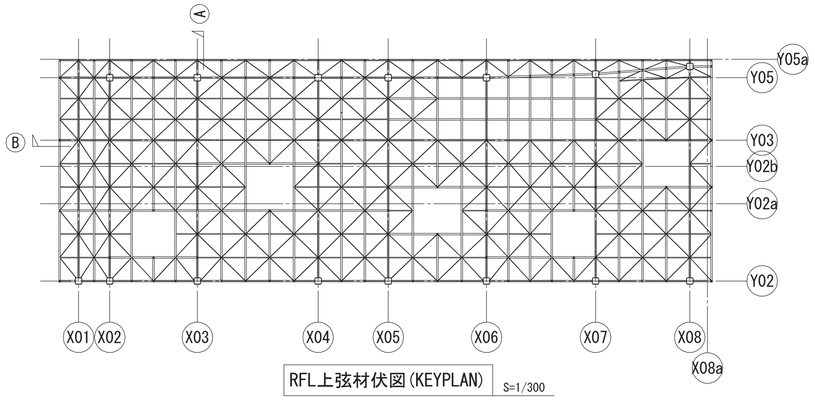
※2 デッキ受けプレートはフランジ面から1mm程度下げること。

仕上材等の取付プレート



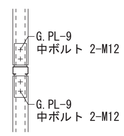
・仕上の取付プレートの溶接は原則工場溶接とし、母材を痛めないように注意すること。
・廻し溶接が不要な部分は小口面から10mm手前で溶接を止めること。

屋根トラス先端鉄骨納まり詳細図

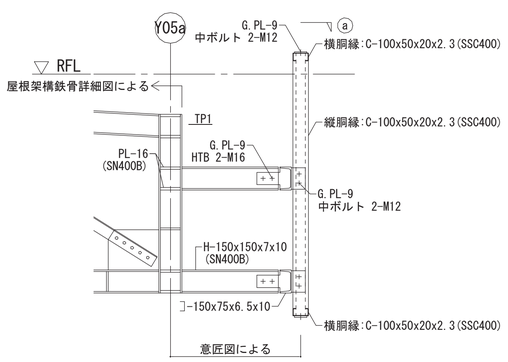


RFL上弦材伏図(KEYPLAN) S=1/300

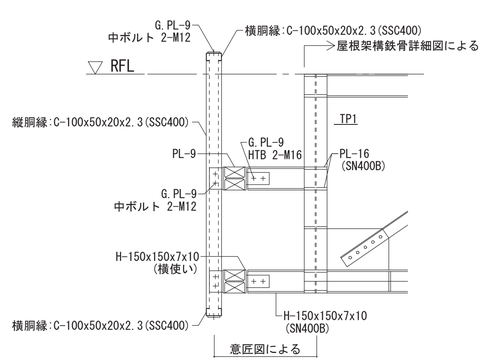
特記なき限り下記による
1. 鉄骨材質 SS400
2. 溶融亜鉛メッキ高力ボルト(F8T)
3. 記載の部材は溶融亜鉛メッキとする
4. 記載の部材ピッチはTP1と同一ピッチとする



ⓐ 矢視図 S=1/20

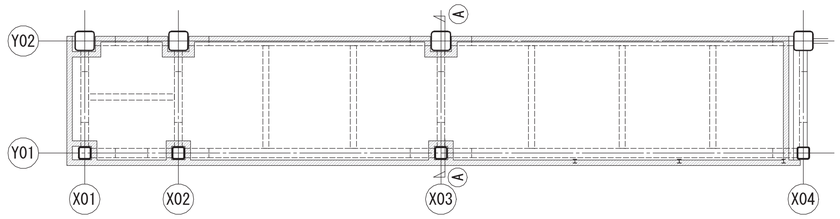


Ⓐ 断面図 S=1/20 ※Y02通り側も同様の納まりとする



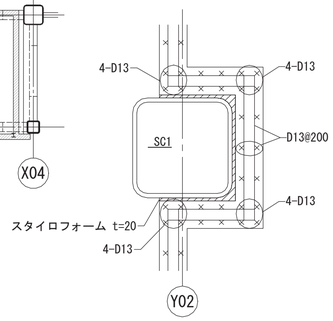
Ⓑ 断面図 S=1/20 ※X08a通り側も同様の納まりとする

Y1-Y2通り屋上パラペット要領図

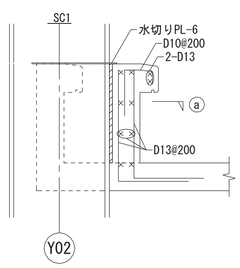


2.5階伏図(KEYPLAN) S=1/100

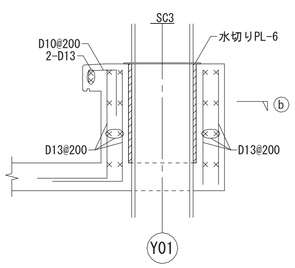
特記なき限り下記による
1. パラペットの詳細寸法は意匠図による
2. パラペット交差部の横筋定着は「S-005図 8.3 壁の交差部及び端部の配筋」による
3. RFL2階Y02/X04-X08aのパラペット納まりも同様とする

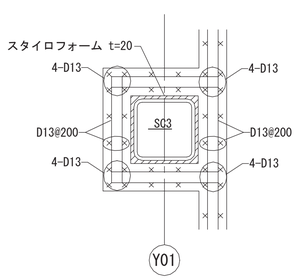


ⓐ 断面図 S=1/20



Ⓐ 断面図 S=1/20

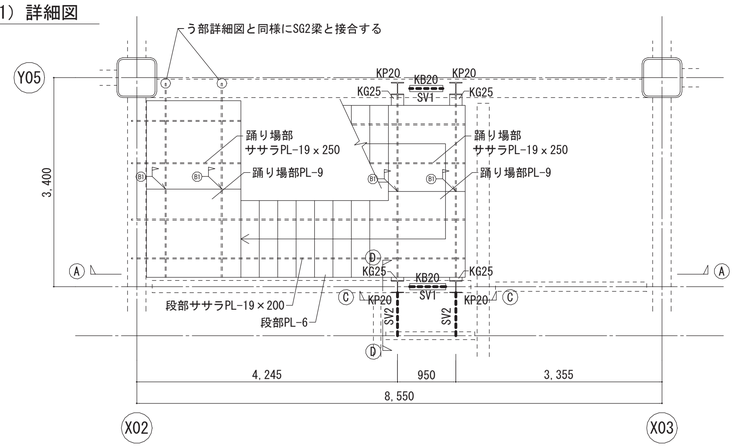




ⓑ 断面図 S=1/20

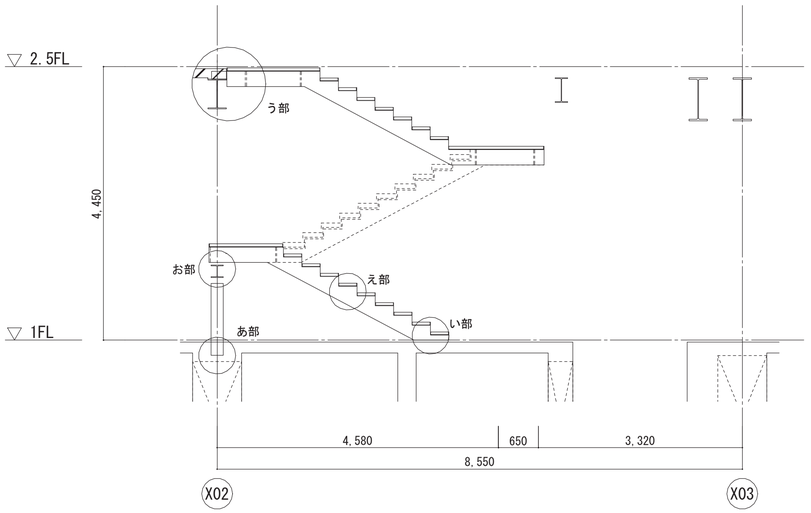
工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-048
図面名称	雑詳細図 (2)	縮尺(A1) A1： — A3： —	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 205
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

階段（1）詳細図



2.5階伏図　S=1/50

運搬上階段を分割する場合は、図に示す箇所を現場溶接とする
現場溶接部の裏当金は内側に設け、エンドタブはフラックスタブとすること
現場溶接部の溶接ビードはグラインダーで平滑に仕上げること

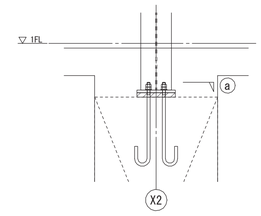


Ⓐ－Ⓐ 断面図　S=1/50

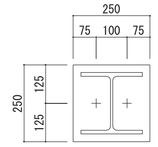
部材リスト

特記なき限り下記による
1. 鉄骨材質：SS400
2. 高力ボルト：F10T,S10T
3. 仕口部の溶接要領は、S-039図 による

符号	鉄骨部材	H.T.B.	G.PL	備考
KP20	H-200×200×8×12	2-M20	PL-9	RC取合部は下図による
KB20	H-200×100×5.5×8	2-M16	PL-6	
KG25	BCT-250×200×19×9	—	—	踊り場部との接合は下図による
SV1	FB-6×60	2-M16	PL-9	
SV2	L-100x100x9	2-M20	PL-9	

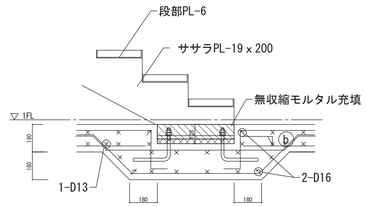


あ部 詳細図　S=1/20



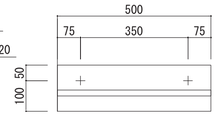
B. PL-16×250×250(SS400)
A. BOLT 2-M20(SS400)
L=400,ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄﾌｯｸ付き

ⓐ 矢視図　S=1/10



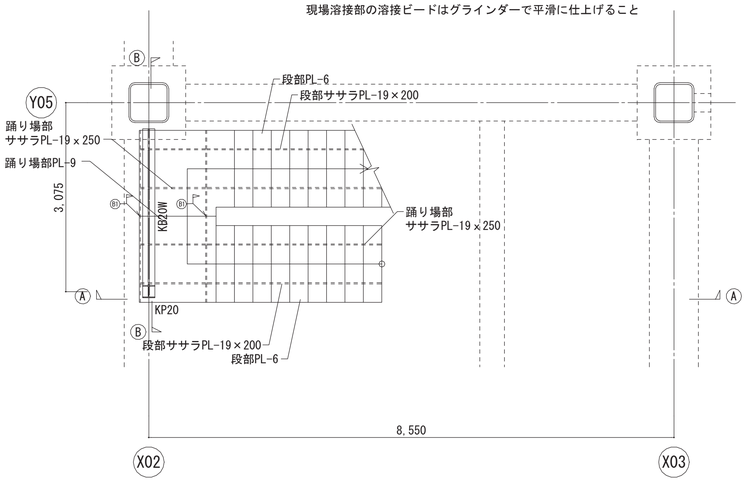
特記を除きスラブ配筋と同径・同ピッチとする

い部 詳細図　S=1/20



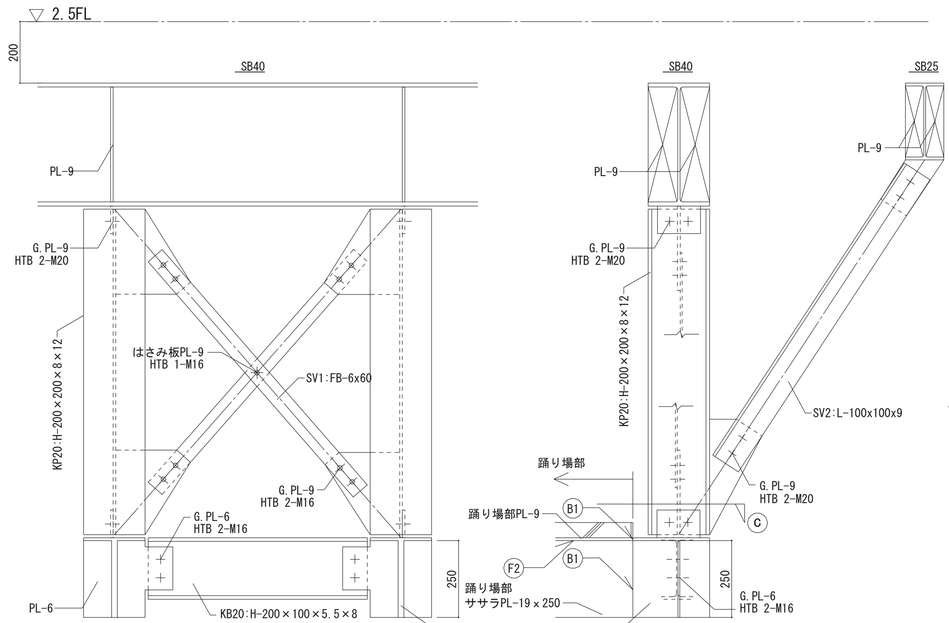
B. PL-22×500×150(SS400)
A. BOLT 2-M20(SS400)
L=400,ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄﾌｯｸ付き

ⓑ 矢視図　S=1/10



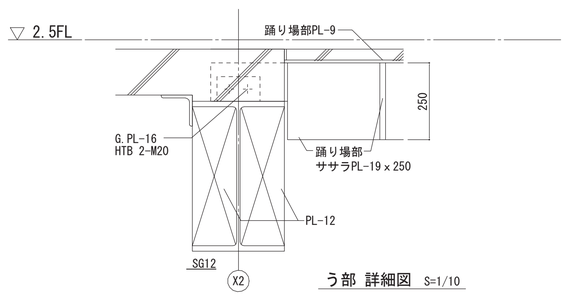
1階伏図　S=1/50

運搬上階段を分割する場合は、図に示す箇所を現場溶接とする

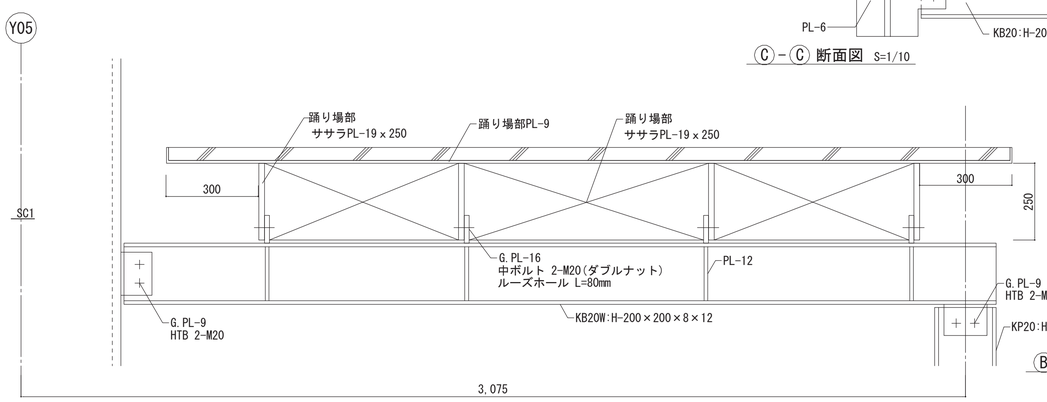


Ⓒ－Ⓒ 断面図　S=1/10

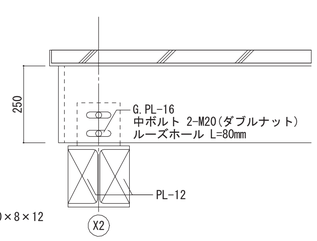
Ⓓ－Ⓓ 断面図　S=1/10



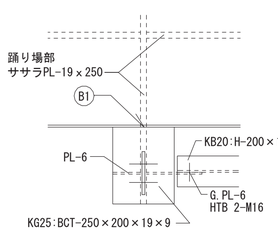
う部 詳細図　S=1/10



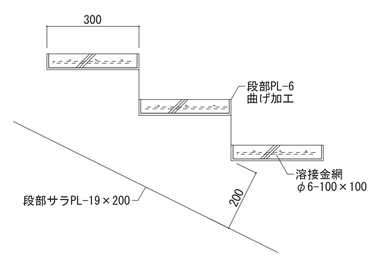
Ⓑ－Ⓑ 断面図　S=1/10



お部 詳細図　S=1/10



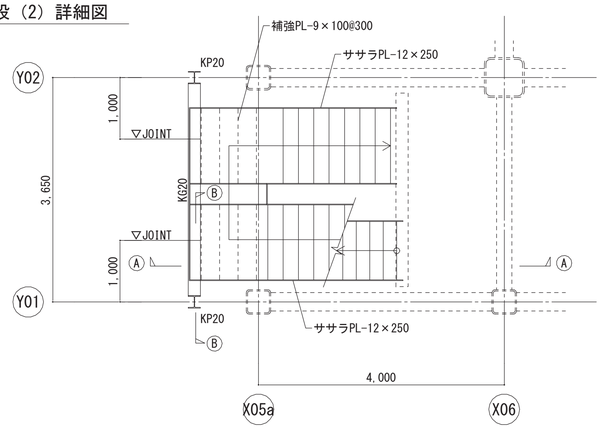
ⓒ 矢視図　S=1/10



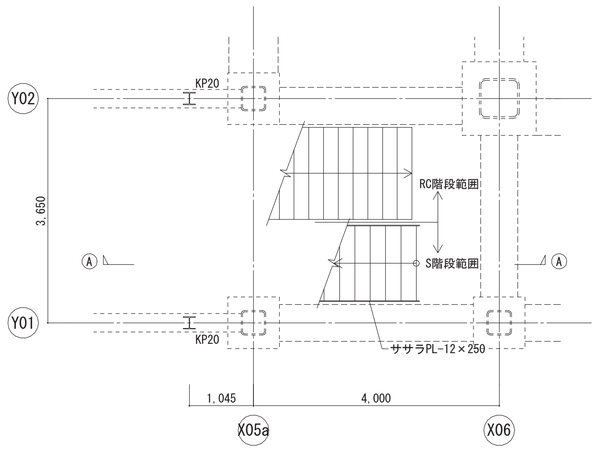
え部 詳細図　S=1/10

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-049
図面名称	階段詳細図（1）	縮尺(A1) A1：1/10, 1/50 A3：1/20, 1/100	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 206
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

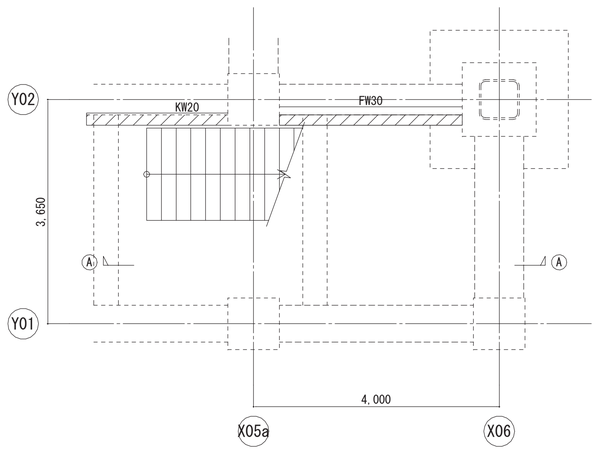
階段（2）詳細図



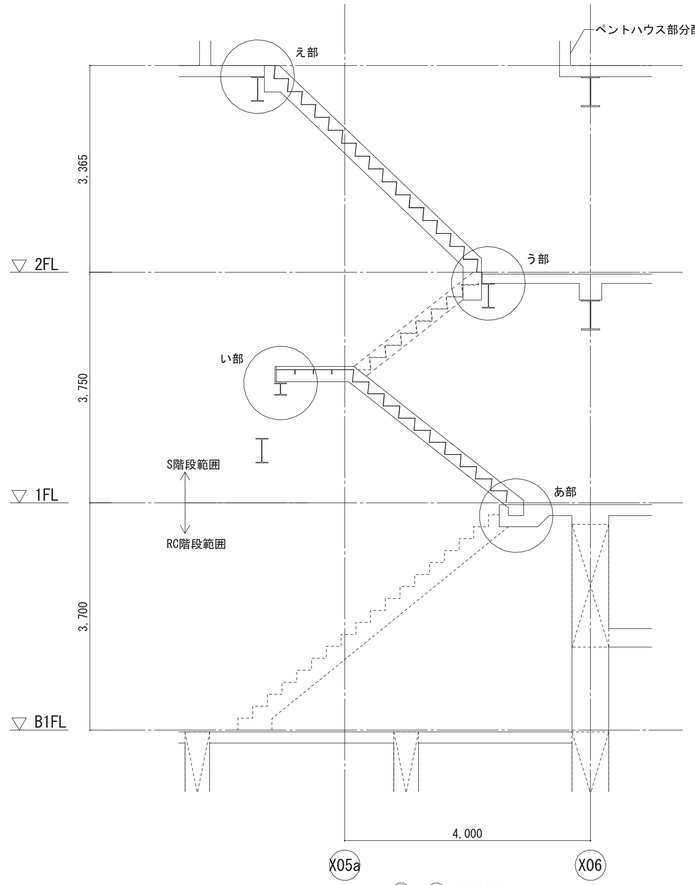
2階伏図　S=1/50



1階伏図　S=1/50



地階伏図　S=1/50

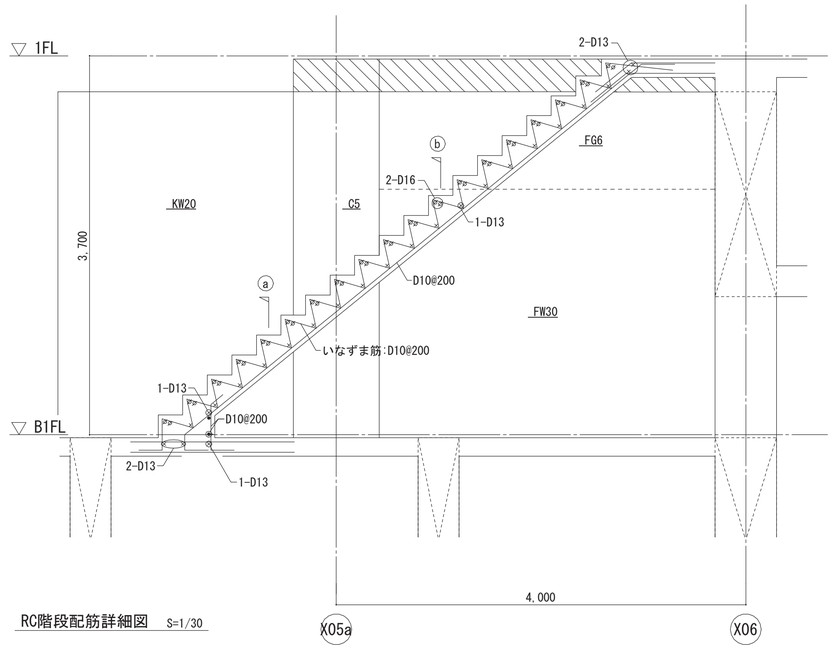


Ⓐ－Ⓐ 断面図　S=1/50

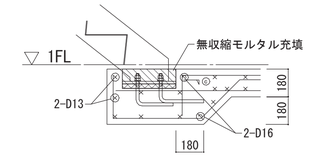
部材リスト

特記なき限り下記による
1. 鉄骨材質：SS400
2. 高カボルト：F10T, S10T
3. 仕口部の溶接要領は、S-039 図による

符号	鉄骨部材	H.T.B.	G.PL	備考
KP20	H-200×200×8×12	2-M20	PL-9	
KG20	H-200×200×8×12	—	—	剛接合仕様は下図による

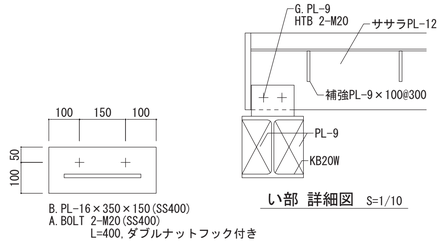


RC階段配筋詳細図　S=1/30

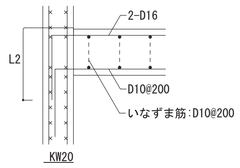


特記を除きスラブ配筋と同径・同ピッチとする

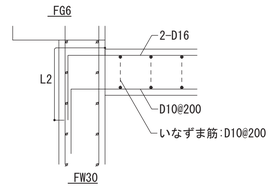
あ部 詳細図　S=1/20



い部 詳細図　S=1/10

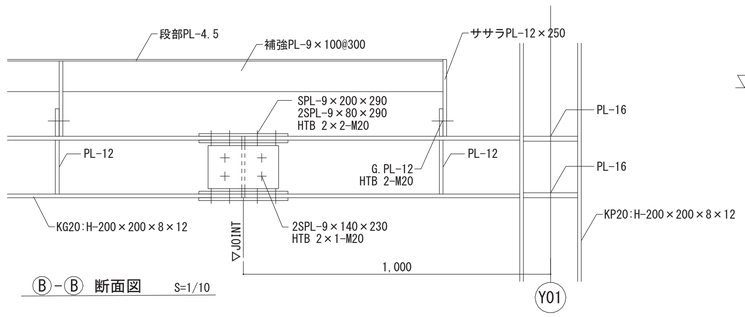


ⓐ 矢視図　S=1/20

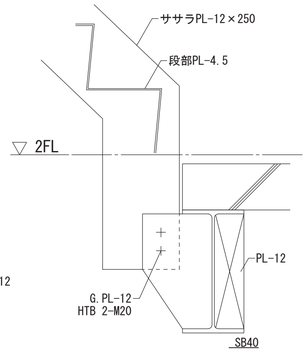


ⓑ 矢視図　S=1/20

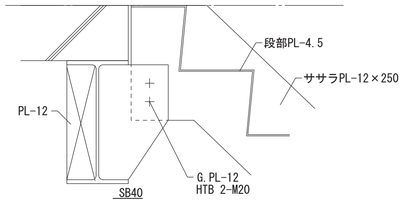
ⓒ 矢視図　S=1/10



Ⓑ－Ⓑ 断面図　S=1/10



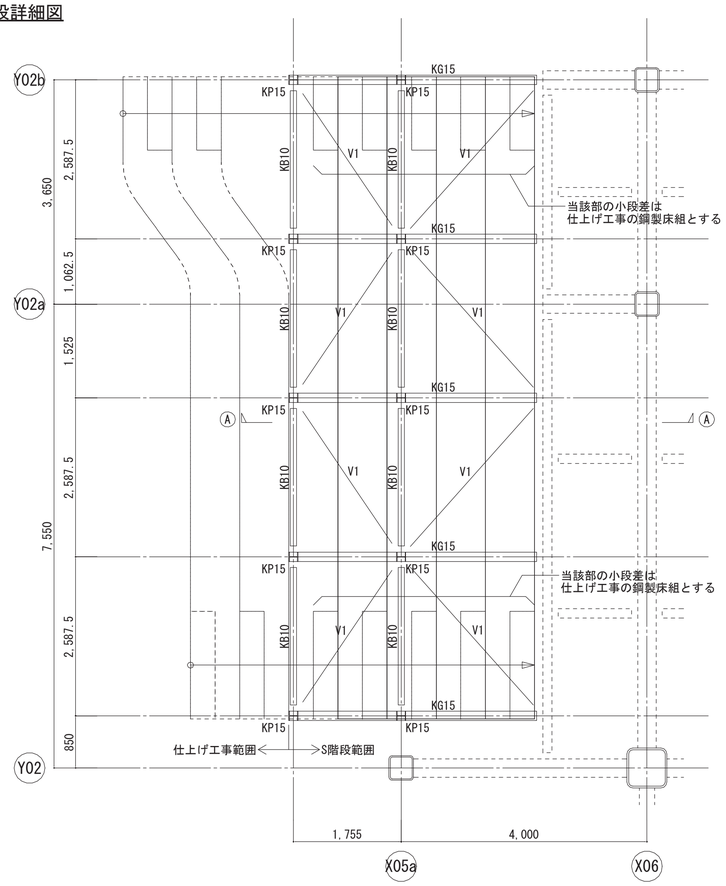
う部 詳細図　S=1/10



え部 詳細図　S=1/10

工事名称	（仮称）子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-050
図面名称	階段詳細図（2）	縮尺(A1)	A1：1/10, 1/20, 1/50 A3：1/20, 1/40, 1/100
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号	08-01
	健康こども部 こども課		通し番号 207
	財務部 営繕課		全226葉

大階段詳細図



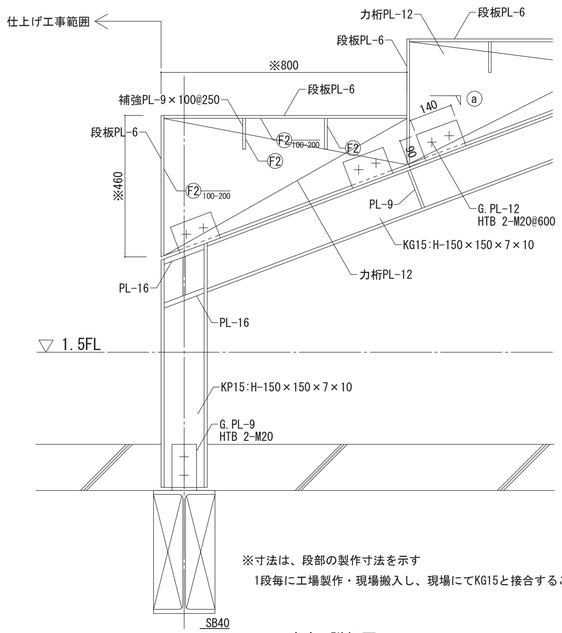
2階伏図 S=1/50

部材リスト

特記なき限り下記による

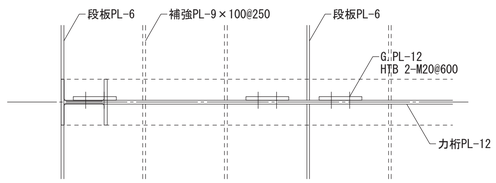
1. 鉄骨材質: SS400
2. ダイアフラム: SN400B
3. 高カボルト: F10T,S10T
4. 中ボルト 強度区分4.6以上
5. 仕口部の溶接要領は、S-039 図による
6. 溶接記号の詳細は、S-008 図による

符号	鉄骨部材	H.T.B.	G.PL	備考
KP15	H-150×150×7×10	2-M20	PL-9	鉄骨材質: SN400B 耐火被覆を施すこと
KG15	H-150×150×7×10	-	PL-9	鉄骨材質: SN400B い部接合部はルーズホール納まりとする 耐火被覆を施すこと
KB10	L-100×100×9	2-M16	PL-6	
V1	M20	1-M20	PL-9	ターンバックル付き

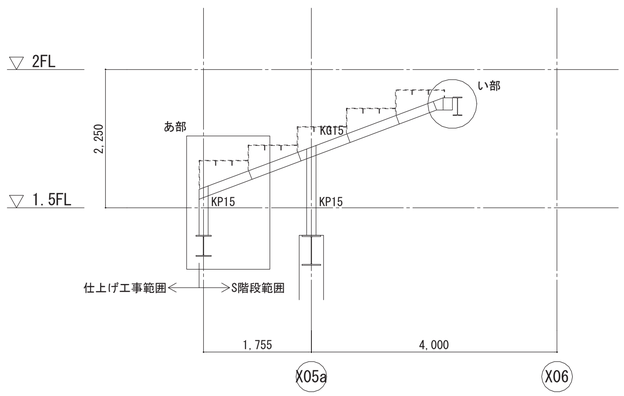


※寸法は、段部の製作寸法を示す
1段毎に工場製作・現場搬入し、現場にてKG15と接合すること

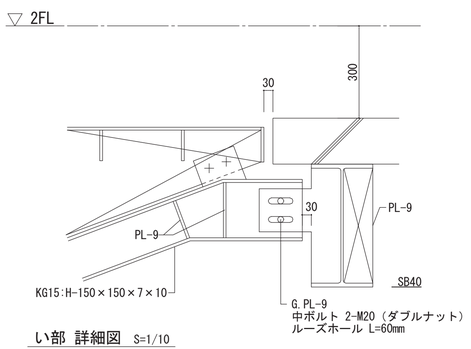
あ部 詳細図 S=1/10



ⓐ 矢視図 S=1/10



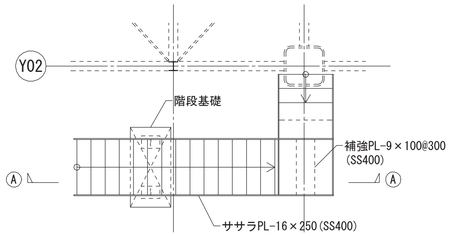
Ⓐ-Ⓐ 断面図 S=1/50



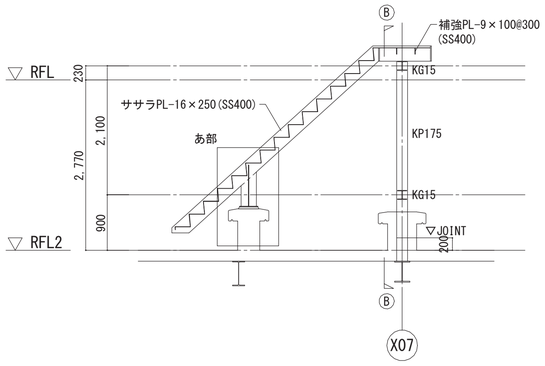
い部 詳細図 S=1/10

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-051
図面名称	階段詳細図 (3)	縮尺(A1) A1：1/10,1/50 A3：1/20,1/100	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 208
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

階段(3)詳細図

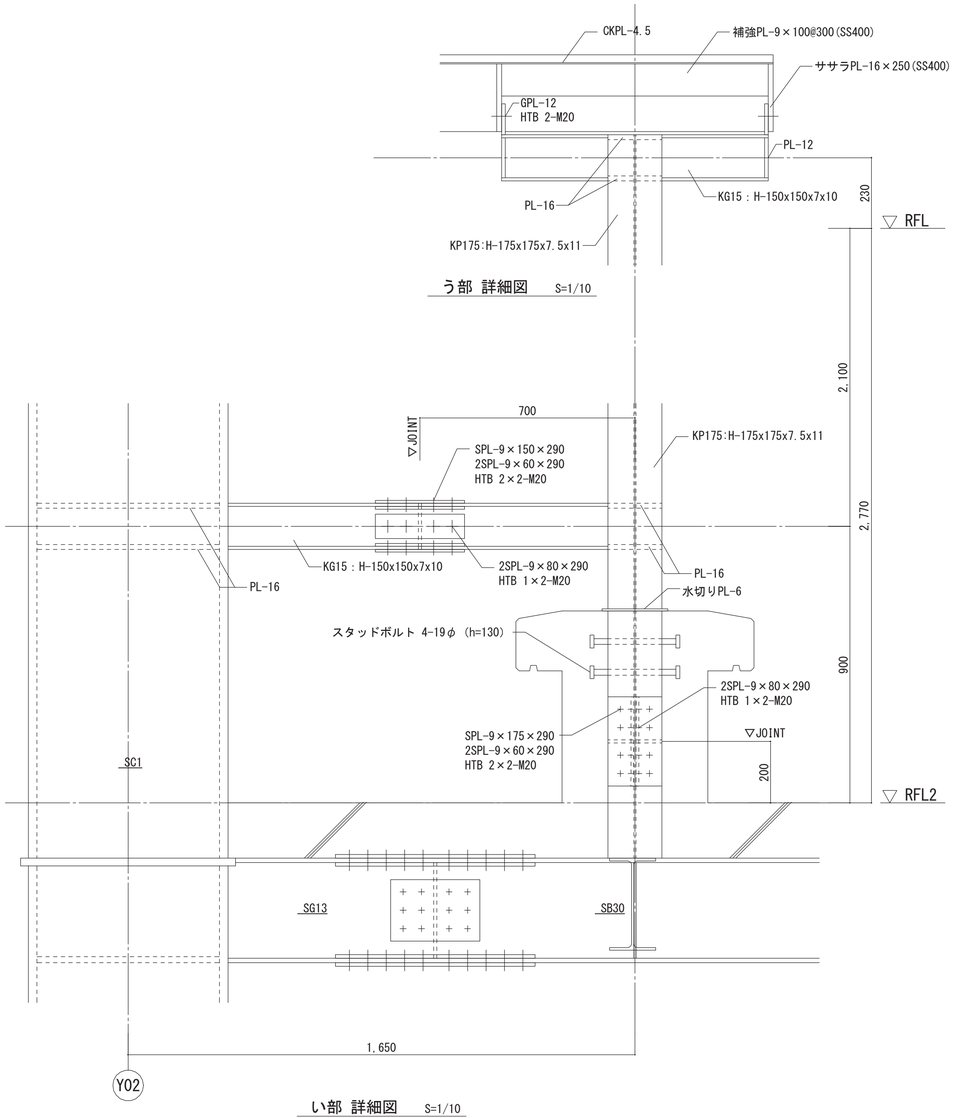


RFL2階～屋根伏図　S=1/50



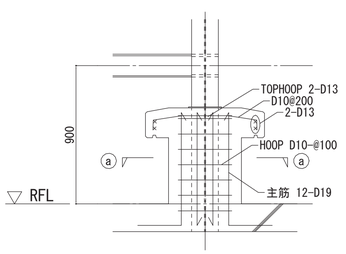
A－A 断面図　S=1/50
あ部詳細図は階段（4）と同様とする

B－B 断面図　S=1/50

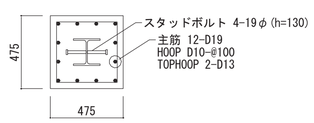


う部 詳細図　S=1/10

い部 詳細図　S=1/10



柱脚 配筋詳細図　S=1/20



a－a 断面図　S=1/20

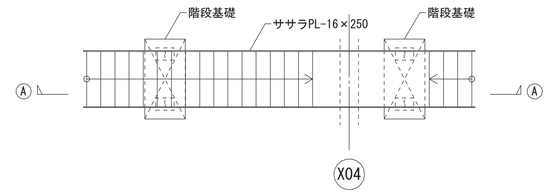
部材リスト

特記なき限り下記による
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 溶融亜鉛メッキボルト：F8T
3. 屋外露出範囲は溶融亜鉛メッキとする
4. 雨水のたまる部分には、監理者に確認のうえで、20φの水抜き穴を@1500以内に設けること
5. GPL、SPLは取り付く部材と同強度以上とする
6. 仕口部の溶接要領は、S-039 図による

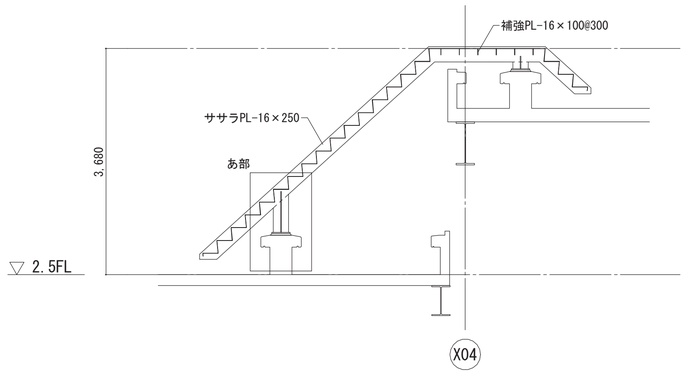
符 号	鉄 骨 部 材	H.T.B.	G.PL	備 考
KP175	H-175×175×7.5×11	—	—	剛接合仕様は下図による
KG15	H-150×150×7×10	—	—	剛接合仕様は下図による

階段（4）詳細図

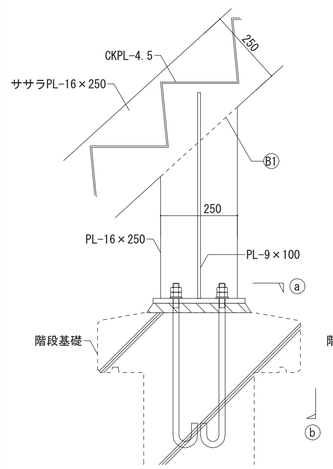
特記なき限り下記による
1. 鉄骨材質：SS400
2. 溶融亜鉛メッキ高力ボルト(F8T)
3. 外部露出鉄骨は溶融亜鉛メッキとする
4. 雨水のたまる部分には、監理者に確認のうえで、20φの水抜き穴を@1500以内に設けること



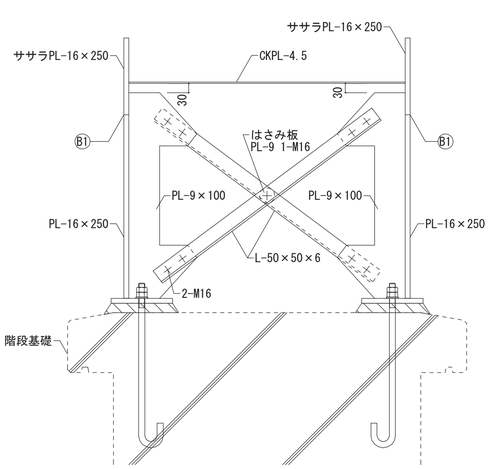
2.5階、RFL2階伏図　S=1/50



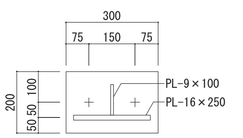
A－A 断面図　S=1/50



あ部 詳細図　S=1/10



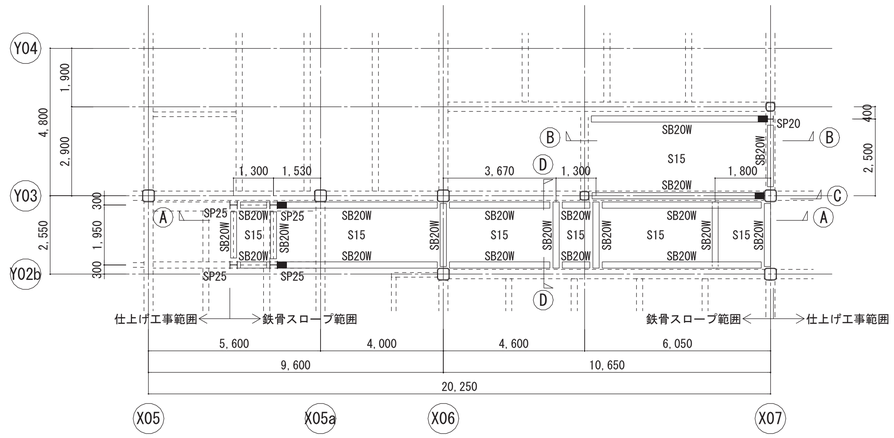
b 矢視図　S=1/10



B. PL-16×200×300
A. BOLT 2-M20(L=400)
ダブルナットフック付き
無収縮モルタル t=30

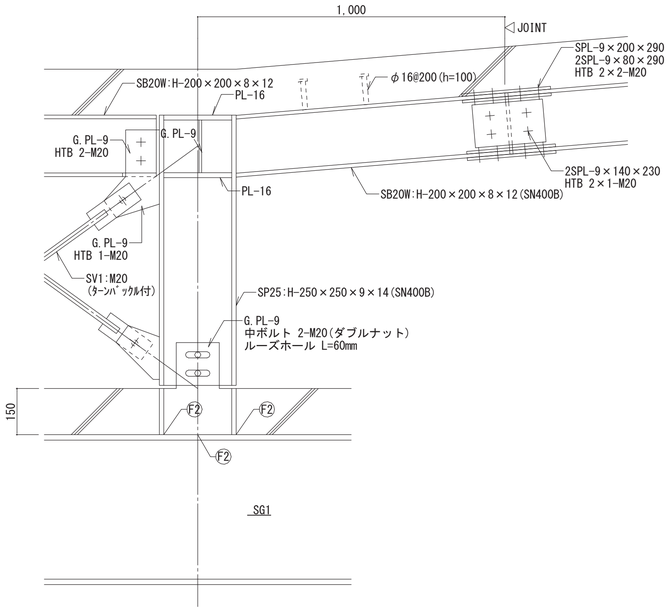
a 矢視図　S=1/10

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-051a
図面名称	階段詳細図（4）	縮尺(A1)	A1：1/10,20,50 A3：1/20,40,100
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号	08-01
	健康こども部 こども課		通し番号 209
	財務部 営繕課		全226葉



1.5FL～2.5FL伏図 S=1/100

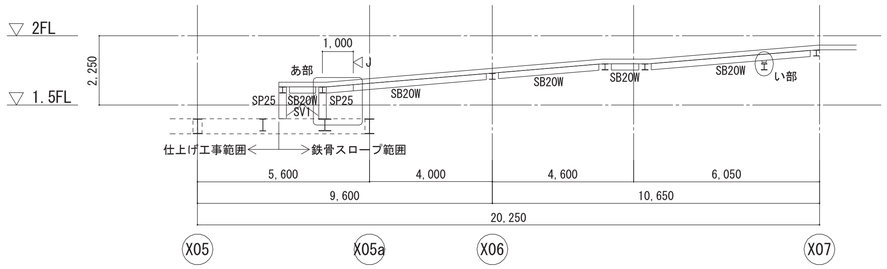
特記なき限り下記による
1. スラブ符号S15の配筋詳細は、S-043図、 スラブリスト 参照
2. ------ 印は鉛直ブレースSV1を示す
3. ■—— 印は剛接合を示す(突合せ溶接)
4. スロープレベル、勾配の詳細は意匠図による



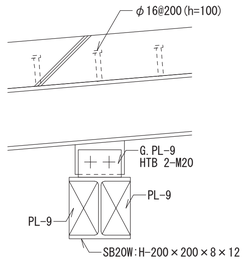
あ部 詳細図 S=1/10

鉄骨部材断面表	特記なき限り下記による 1. 鉄骨材質：SS400 2. ダイアフラム：SN400B 3. 高力ボルト：F10T、S10T 4. 中ボルト：強度区分4.6以上 5. SP20,25、SB20には耐火被覆を施すこと 6. 仕口部の溶接要領は、S-039 図による

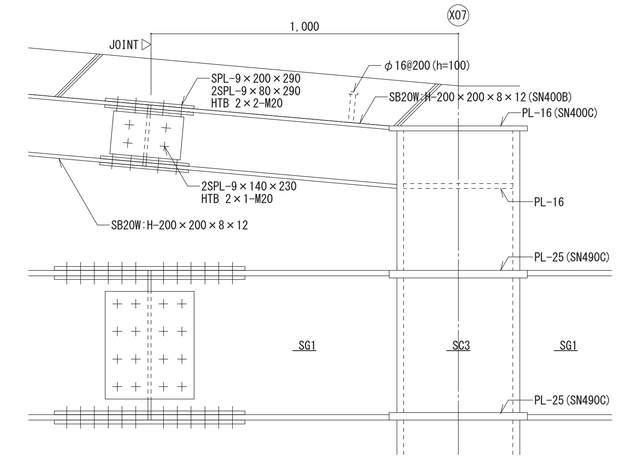
符 号	鉄 骨 部 材	H.T.B	G.PL	備 考
SP20	H-200×200×8×12	2-M20	PL-9	鉄骨材質：SN400B
SP25	H-250×250×9×14	－	PL-9	剛接合の箇所はSN400Bとする 1.5FL柱脚はルーズボール納まりとする
SB20W	H-200×200×8×12	2-M20	PL-9	剛接合の箇所はSN400Bとする
SV1	M20	1-M20	PL-9	ターンバックル付き



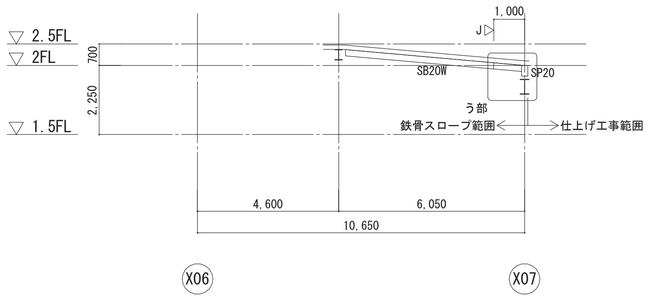
A-A 断面図 S=1/100



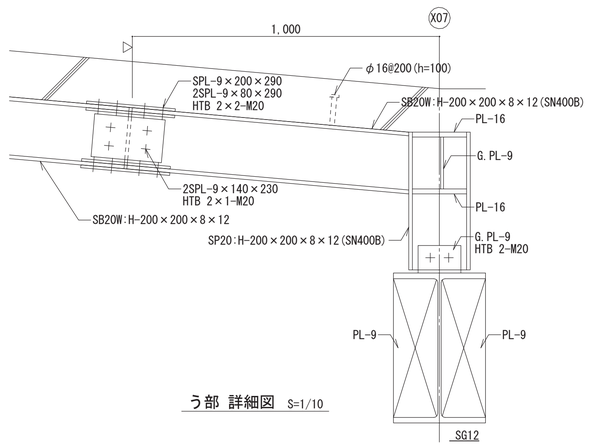
い部 詳細図 S=1/10



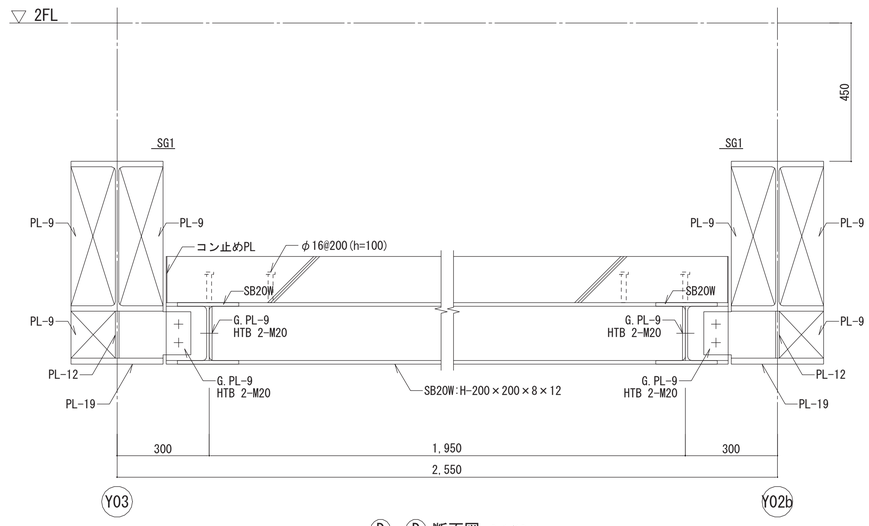
Ⓒ－Ⓒ 断面図 S=1/10



B-B 断面図 S=1/100

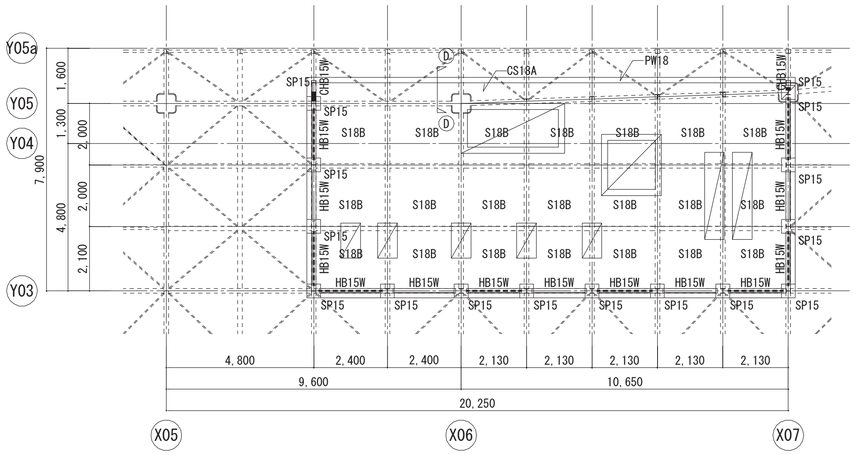


う部 詳細図 S=1/10



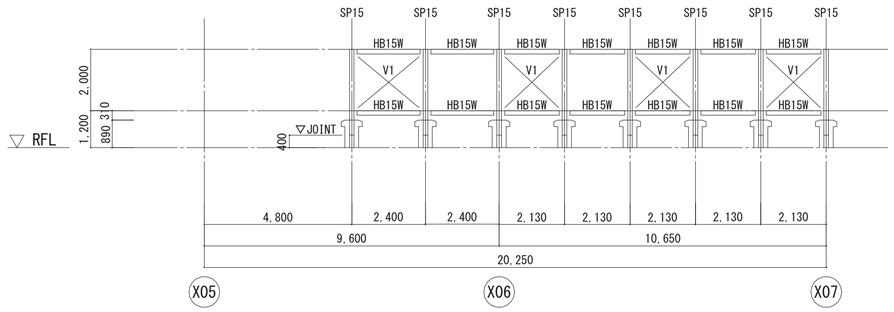
Ⓓ－Ⓓ 断面図 S=1/10

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-052
図面名称	スロープ鉄骨詳細図	縮尺(A1) A1：1/10, 1/100 A3：1/20, 1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 210
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉

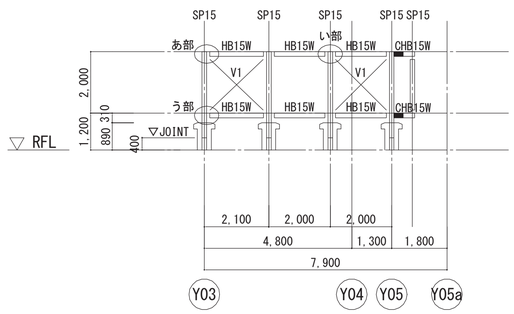


RFL+1200伏図　S=1/100

特記なき限り下記による
1. 梁天端はRFL+1,200とする
2. スラブ符号S18B,CS18Aの配筋詳細は、S-043図、 スラブリスト 参照
3. ----- 印は鉛直ブレースV1を示す
4. パラペット符号PW1の配筋詳細は、S-047図、 雑詳細図(1) 参照
5. ■—— 印は剛接合を示す(突合せ溶接)



Y3通り軸組図　S=1/100



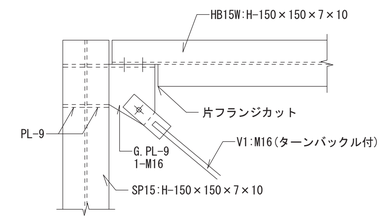
X7通り軸組図　S=1/100

特記なき限り下記による
1. ■—— 印は剛接合を示す(突合せ溶接)

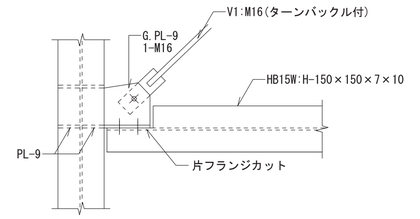
鉄骨部材断面表

特記なき限り下記による
1. 鉄骨材質: SS400
2. 溶融亜鉛メッキ高カボルト (F8T)
3. 屋外露出鉄骨は溶融亜鉛メッキとする
4. 雨水のたまる部分には、監理者に確認のうえで、20φの水抜き穴を@1500以内に設けること
5. GPL、SPLは取り付く部材と同強度以上とする

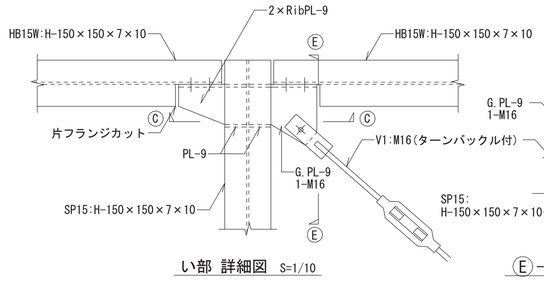
符 号	鉄 骨 部 材	H.T.B.	G.PL	備 考
SP15	H-150×150×7×10	—	—	剛接合仕様は下図による
HB15W	H-150×150×7×10	2-M20	PL-9	横使い
CHB15W	H-150×150×7×10	—	—	横使い
V1	M16	1-M16	PL-9	ターンバックル付き



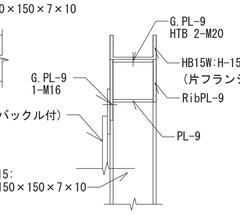
あ部 詳細図　S=1/10
V1,HB15W接合部はC-C断面図と同様とする



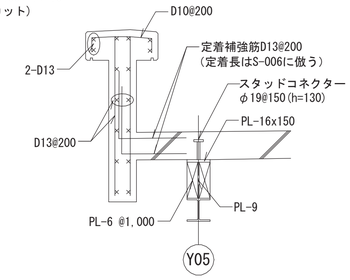
う部 詳細図　S=1/10
HB15W接合部はC-C断面図と同様とする



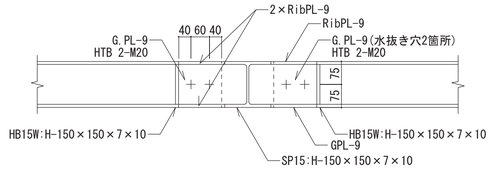
い部 詳細図　S=1/10



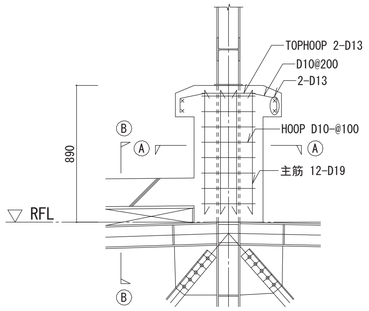
E－E 断面図　S=1/10

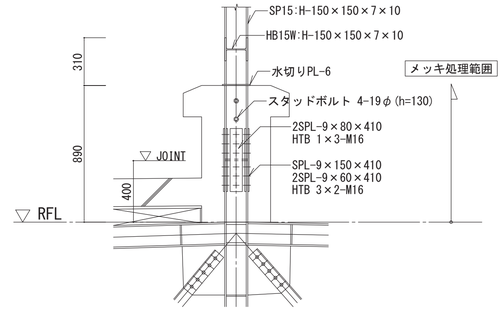


D－D 断面図　S=1/20

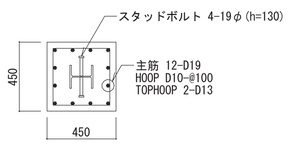


C－C 断面図　S=1/10

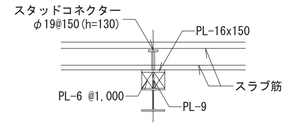




柱脚詳細図　S=1/20



A－A 断面図　S=1/20



B－B 断面図　S=1/20

工事名称	(仮称)子ども・子育て支援複合施設整備事業建築工事		図面番号 S-053
図面名称	屋上設備スペース (1) 鉄骨図	縮尺(A1) A1：1/10, 1/30, 1/100 A3：1/20, 1/60, 1/200	
担当課	生涯学習部 生涯学習課	工事番号 08-01	通し番号 211
	健康こども部 こども課		
	財務部 営繕課		全226葉